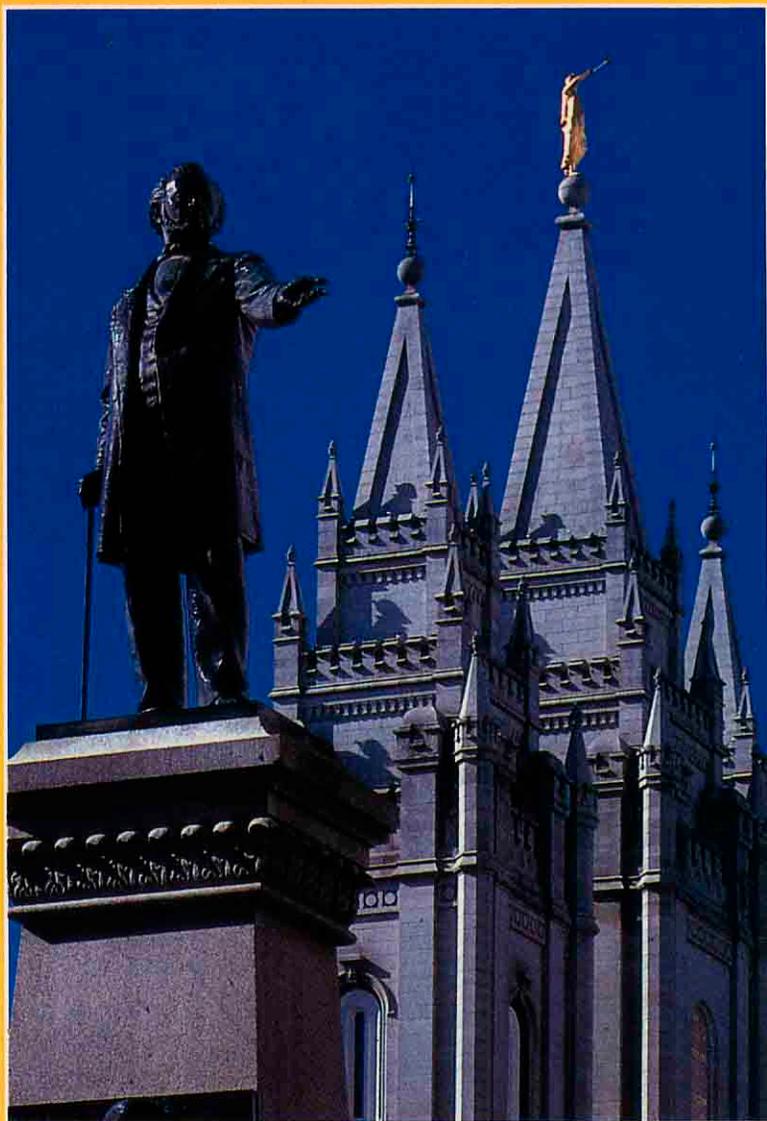
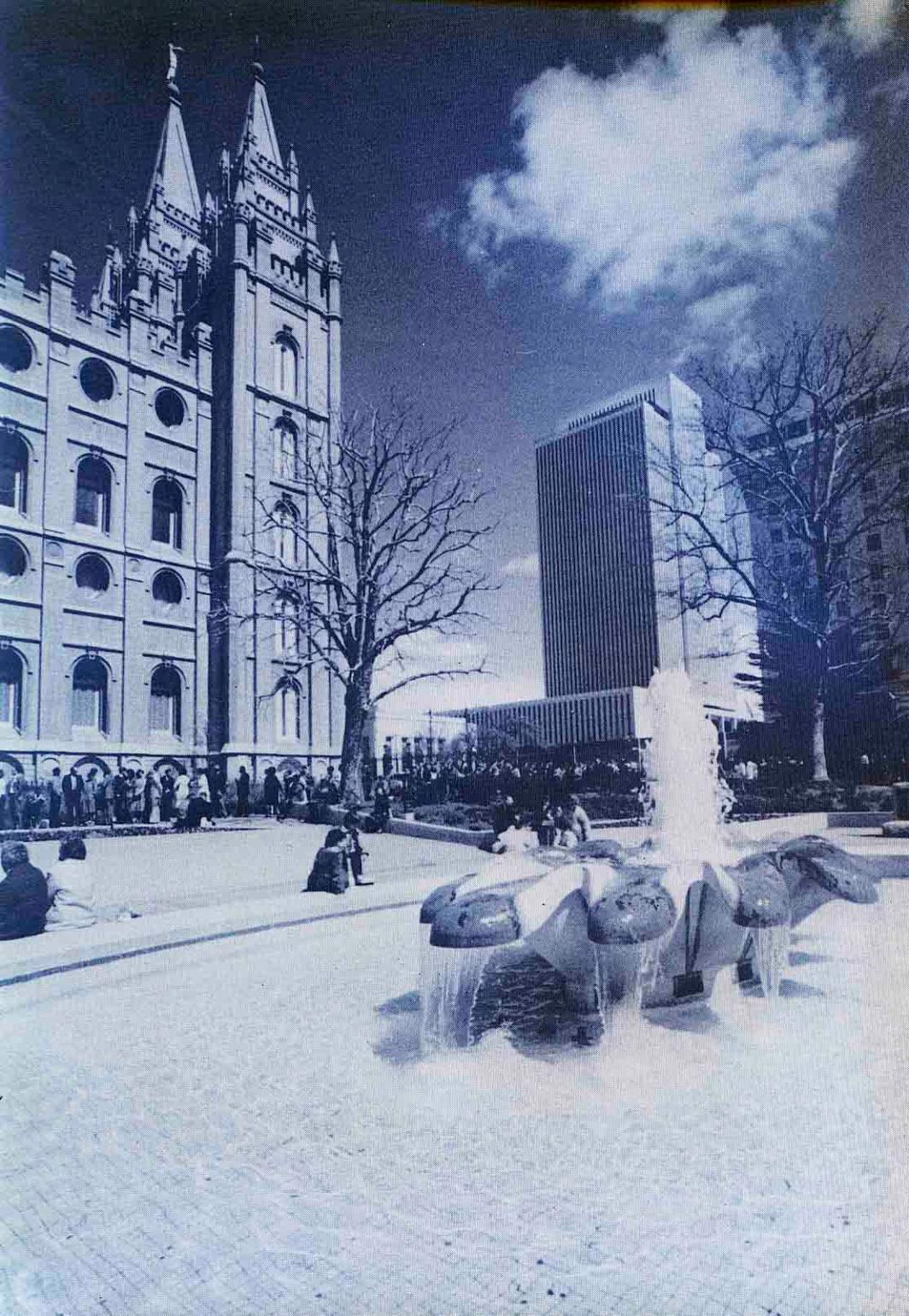


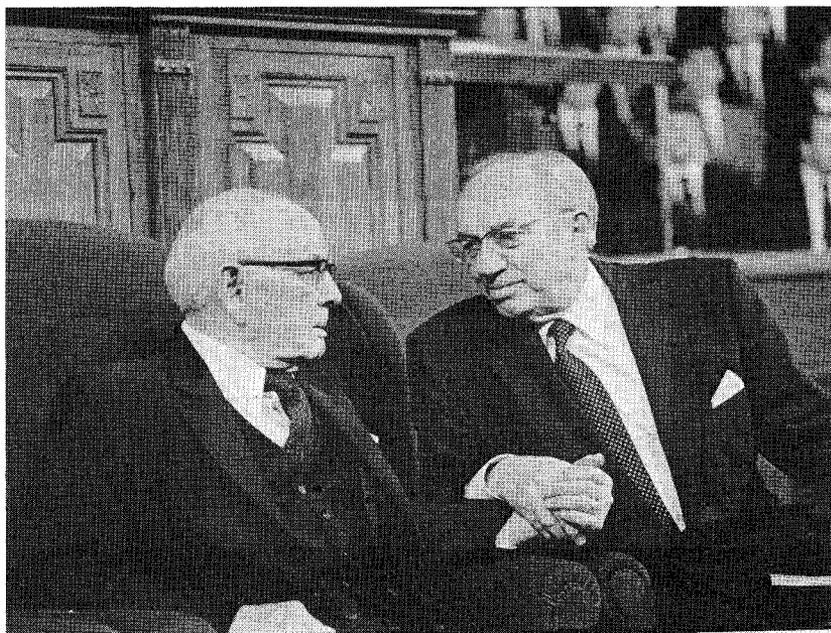
聖徒の道 7 1984



第154回年次総大会報告



末日聖徒イエス・キリスト教会 第154回年次総大会報告



1984年4月7, 8の両日, ユタ州ソルトレーク・シティー, テンプルスクウェアのタバナクルにおいて催された大会の説教とその模様

今年の4月の総大会に関連して行なわれた行事は、実に意義深いものだった。

まず最初に教会歴史美術博物館が、週末の大会に先がけて4月4日水曜日に新たに献堂された。5,715平方メートルのみかげ石でできた建物は、タバナクルの西側の通りに面している。

第2番目に、4月7日土曜日の朝、大会を前にして5つの神殿の建設が発表された。その内3つは合衆国内で、あとのふたつはそれぞれカナダと南アメリカである。ネバダ州ラスベガス、オレゴン州ポートランド、カリフォルニア州サンディエゴ、カナダのオンタリオ州トロント、コロンビアのボゴタの以上5つの神殿が建設されることにより、末日聖徒イエス・キリスト教会が所有する神殿の数は、合計47になる。

また土曜の午前的一般大会では、1983年に亡くなったリグランド・リチャーズ長老と、1984年に亡くなったマーク・E・ピーターセン長老により生じた十二使徒定員会の空席を埋めるために、ラッセル・M・ネ

ルソン長老とダリン・H・オークス長老が、十二使徒定員会会員として支持された。総大会で十二使徒定員会の会員がふたり同時に召されるのは、1943年10月大会で支持されたスペンサー・W・キンボール長老とエズラ・タフト・ベンソン長老以来である。

七十人第一定員会についても、重大な発表が行なわれた。ゴードン・B・ヒンクレー第二副管長は次のように語っている。「この教会には、責任を交替する原則が定められています。

七十人については、長い間一般に適応され、教会のほかの職の任命の際にも行なわれてきた慣習に従います。……この召しは永続的なもので、現在在職中の方々は、その召しは引き続いて行ないます。しかしみ業に関して言えば、どのくらいの期間その職に就いていたかは重要ではありません。……よく祈り、考慮した結果、私たちは七十人第一定員会の会員に、長年にわたる献身を通して成熟し試された6人の男性を召しました。この召しの任期は、……3年から5年の間と定め、任期終了後は栄誉と感

謝の解任をします。

任期にある間は、彼らは教会幹部であり、機能するために必要なすべての権利、力、権能が付与されます。またこの仕事に専念するよう期待されています。この方法によって常に新しい才能のある人を起用し、召しを果たすうえで有能で忠実な人々に、機会をより多く与えることができると感じています。」

新たに支持された七十人第一定員会会員は、カリフォルニア州ロサンゼルスジョン・K・カーマック長老、コロラド州デンバーのラッセル・C・テイラー長老、ユタ州ファーマントンのロバート・B・ハーバートソン長老、アイダホ州アイダホフォールズのデビア・ハリス長老、ユタ州ソルトレーク・シティーのスペンサー・H・オズボーン長老、ユタ州ソルトレーク・シティーのフィリップ・T・ソントッグ長老の6人である。

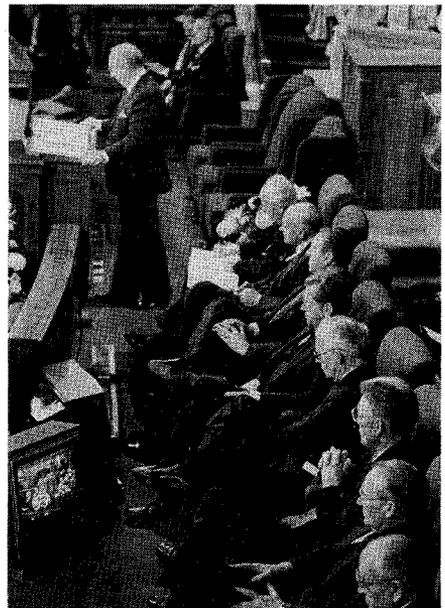
次に発表されたのは、中央扶助協会会長バーバラ・B・スミス姉妹と副会長および管理会会員、中央若い女性会長イレイン・A・キャンノン姉妹と副会長および管理会会員の栄誉の解任である。中央扶助協会会長にはバーバラ・ウッドヘッド・ウインダー姉妹が、中央若い女性会長にはアース・グリーン・カップ姉妹がそれぞれ支持されたが、副会長と管理会会員は追って召されることになる。

スペンサー・W・キンボール大管長は5つの部会のうち3つに出席した。ヒンクレー長老はこう述べている。「また大管長は主

が召したもうた僕ですから、このみ業にかかわる重要な決定で大管長の検討と指示を抜きにしてなされるものはありません。」キンボール大管長は現在数年で90歳だが、過去1年余りの内で一番お元気そうな様子だった。

今大会の司会はヒンクレー副管長と十二使徒定員会会長のエズラ・タフト・ベンソン長老が行なった。マリオン・G・ロムニー第一副管長は、病気と高齢のため出席しなかった。

大会に先がけて4月6日金曜日に、地区代表セミナーが行なわれた。夜は地区代表とステーキ部長のための指導者会が開かれた。





●——目 次

第154回年次総大会報告…………… 2

4月7日(土)午前の部会

教会役員の支持……………ゴードン・B・ヒンクレー…… 6
聖徒たちに与える勧告…エズラ・タフト・ベンソン…… 9
良い方を選ぶ……………マービン・J・アシュトン……15
結婚と離婚……………デビッド・B・ヘイト……………20
基督イエス—その言葉と意味…G・ホーマー・ダラム…24
永遠の家庭を築く……………トーマス・S・モンソン……27

4月7日(土)午後の部会

教会監査委員会報告…ウィルフォード・G・エドリング…31
1983年度統計報告……………フランシス・M・ギボンズ……32
「永遠の神が定めたもうた大計画」……………
ニール・A・マックスウェル…34
誓約、儀式、奉仕……………A・セオドア・タトル……………40
賢明な選択ができる世代を育てる……………
イレイン・A・キャンノン ……44
霧の中を通り抜ける……………W・グラント・バンガーター…47
彼らの人生の炎で暖めさせていただいた……………
バーバラ・B・スミス……………51
家庭を天国のように……………ジーン・R・クック……………53
祈りの方法……………ブルース・R・マッコンキー…57

4月7日(土)神権部会

伝道：あなたしか決められないこと……………
デビン・G・ダラント……………62
主のチームに誰が入るや…J・トーマス・ファイアズ…67

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スベンサー・W・キンボール
マリオン・G・ロムニー
ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
ハワード・W・ハンター
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・バックナー
マービン・J・アシントン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト
ニール・A・マックスウェル
ラッセル・M・ネルソン
ダリン・H・オークス

顧問

M・ラッセル・ハラード
ローレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ティディエ
ジョージ・P・リー

編集長

M・ラッセル・ハラード

国際機関誌

編集主幹：
ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：
デビッド・ミッチェル
子供の頁編集：
ボニー・ソーンダーズ
レイアウト・デザイン：
マイケル・カワサキ

1984年7月号 聖徒の道 第28巻第7号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
1部180円、大会号350円

International Magazine PBMA0471JA Printed in Tokyo, Japan.
© 1984 by the Corporation of the President of the Church of Jesus
Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

失われた羊を連れ戻す…ジョセフ・B・ワースリン…71
私の羊を養いなさい…ボイド・K・バックナー…75
福音を全世界に宣べ伝える使命…
エズラ・タフト・ベンソン…80
信仰がもたらす奇跡…ゴードン・B・ヒンクレー…85

4月8日(日)午前の部会

キリストの特別な証し人…ゴードン・B・ヒンクレー…90
聖なる使徒職への召し…ラッセル・M・ネルソン…96
「教会の姉妹たちを愛しています」…
バーバラ・W・ウインダー…99
簡潔な福音の真理…ロバート・L・シン普森…101
真理の実践…J・リチャード・クラーク…105
パリサイ人と取税人…ハワード・W・ハンター…109

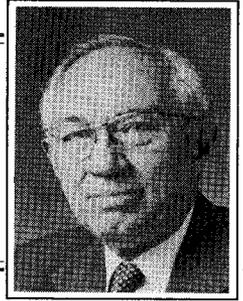
4月8日(日)午後の部会

パルマイラの近くでの壮大な示現…
ジェームズ・E・ファウスト…113
ラッパの確かな響き…アンゲル・アブレア…119
恵みを数えあげ…菊地良彦…123
会員の祈りに支えられて…ジョン・K・カーマック…127
貴い生得権を持った若人…アーデス・グリーン・カッパ…129
「それゆえに、あなたがたは行って、
すべての国民を教えよ」…L・トム・ペリー…131
小さな行ないが重大な結果を招く…
ゴードン・B・ヒンクレー…136

総大会で発表された主な変更事項…141
年次総大会スナップ…144
チャーチニュース/ローカルページ…146

教会役員の支持

第二副管長 ゴードン・B・ヒンクレー



主のみ業において同胞である愛する皆さん、この大会は、現在90数カ国で伝えられている回復された福音を有する、まさに世界大会です。この福音が広まり行く様子には驚嘆すべきものがあります。み業は推し進められています。そしてこれからも地上に広がり続けるでしょう。なぜならこれは、神の息子、娘に定められた全能者の目的が果たされるように、時満ちたる神権時代に回復された主のみ業だからです。

このみ業は、永遠にわたる主の偉大な計画の重要な部分を占めています。この教会はイエス・キリストの教会です。イエス・キリストのみ名を冠しているのです。主はこの教会のかしらとして立っておられます。私たちは主の僕にすぎないのです。私たちの望みは主のみむねを行なうことです。聖霊のささやきに注意して耳を傾け、そして主がどのようなことを命じられようと、忠実に行って行なうことなのです。主はこの世に予言者を立てられました。大管長は高齢であられますが、主の予言者であられ、主が望まれる限り私たちと共にいてくださるでしょう。また大管長は主が召したもうた僕ですから、このみ業にかかわる重要な決定で大管長の検討と指示を抜きにしてなされるものはありません。この大会を開会するにあたり、大管長が表明された意志と同意に従ってビジネスをいくつか行ない

いと思います。

この教会には、責任を交替する原則が定められています。召しには必ず解任があり、み業を成し遂げた後には解任を予期し、喜んで受け入れるのです。

みたまの導きにより、私たちは次の方々を榮譽をもって解任したいと思います。中央扶助協会会長バーバラ・B・スミス姉妹、これに伴い副会長マリアン・R・ボイヤー姉妹、アン・リース姉妹、また中央扶助協会管理会のすべての役員の方々、中央若い女性会長イレイン・A・キャンノン姉妹、これに伴いアーリーン・B・ダーガー姉妹、ノーマ・B・スミス姉妹、また若い女性管理会のすべての役員の方々です。以上の姉妹の皆さんは召しを受けておられた間、顕著な働きをしてくださいました。彼女たちは膨大な時間、物質的な物、必要な力を犠牲にしてくださいました。また個人的な都合を顧みず、すべて主のみ業のために世界各地に旅行してくださいました。彼女たちは今私たちの愛と祝福を受け退任されます。私たちは、主が彼女たちとご家族に、変わらぬ恵みを注いでくださるよう祈るものです。この愛する姉妹たちの、献身的で実り多い働きに感謝してくださる方は挙手によりその意を表わしてください。

ご存じのように、リグランド・リチャー

ズ長老とマーク・E・ピーターセン長老の逝去により、十二使徒定員会には現在ふたつの空席があります。私たちはこの空席を埋めるために、今朝措置を講じたいと思います。また七十人第一定員会についても追加があります。

七十人については、長い間一般に適應され、教会のほかの職の任命の際にも行われてきた慣習に従います。七十人第一定員会の会員は、召しや責任、力、権能の点においてれっきとした教会幹部です。この召しは永続的なもので、現在在職中の方々は、その召しは引き続いて行ないます。しかしみ業に関して言えば、どのくらいの期間その職に就いていたかは重要ではありません。監督、ステーキ部長、地区代表、伝道部長、神殿長、補助組織の会長には皆任期があります。召しを果した人は栄誉の解任を受け、ほかの人がその召しを受ける機会にあずかるのです。よく祈り、考慮した結果、私たちは七十人第一定員会の会員に、長年にわたる献身を通して成熟し試された6人



の男性を召しました。この召しの任期は、伝道部長あるいは神殿長と同じく3年から5年の間と定め、任期終了後は栄誉と感謝の解任をします。

任期にある間は、彼らは教会幹部であり、機能するために必要なすべての権利、力、権能が付与されます。またこの仕事に専念するよう期待されています。この方法は、常に新しい才能のある人を起用し、召しを果たすうえで有能で忠実な人々に、機会をより多く与えるためではないかと感じています。

ではこれより教会幹部および役員の方々の名前を提議いたしますので、皆様方の支持をいただきたいと思います。

私たちは、スパンサー・W・キンボール大管長を予言者、聖見者、啓示を受ける者として、また末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方があれば同じようにその意を表わしてください。

大管長会第一副管長としてマリオン・G・ロムニーを、大管長会第二副管長としてゴードン・B・ヒンクレーを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方があれば同じようにその意を表わしてください。

私たちは十二使徒定員会会長としてエズラ・タフト・ベンソン長老を支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方があれば同じようにその意を表わしてください。

十二使徒定員会会員として、エズラ・タフト・ベンソン、ハワード・W・ハンター、

トーマス・S・モンソン、ボイド・K・バッカー、マービン・J・アシュトン、ブルース・R・マッコンキー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックスを支持してくださるよう提議します。この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方があれば同じようにその意を表わしてください。

ダリン・H・オックス兄弟に関して、きょう彼を提議し支持をいただいてから任命されるまでの期間について触れたいと思います。オックス兄弟は、あと数週間判事としての職務が残っており、それを果たすまでは、使徒への聖任も十二使徒定員会会員への任命もなされません。また十二使徒としての召しを行なうこともできません。彼は現在ソルトレーク・シティを離れ、やむを得ずこの大会にも出席していません。このことについては承認がおりています。私たちは大管長会副管長、十二使徒を言者、聖見者、啓示を受ける者として支持してくださるよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わしてください。

七十人第一定員会会長としてJ・トーマス・ファイアンズ、カーロス・E・エイシー、M・ラッセル・バラード、ディーン・L・ラーセン、ロイデン・G・デリック、G・ホーマー・ダラム、リチャード・G・スコットを支持してくださるよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わしてください。先にお話ししました七十人第一定員会に新たに召される会

員として、ジョン・K・カーマック、ラッセル・C・テイラー、ロバート・B・ハーバートソン、デビア・ハリス、スペンサー・H・オズボーン、フィリップ・T・ソントッグを、またほかの七十人第一定員会会員のすべての方々、管理監督会、名誉教会幹部の方々を現状のままで支持してくださるよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わしてください。

中央扶助協会会長として、バーバラ・アン・ウッドヘッド・ウインダーを、中央若い女性会長としてアーデス・グリーン・カップを支持してくださるよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わしてください。このおふたりの召しはつい今し方、ほんの数時間前に行なわれたので、副会長や管理会を選ぶのにはもう少し時間を要することをお伝えしなければなりません。

そのほかの中央管理役員、中央管理会の方々を現状のままで支持してくださるよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わしてください。

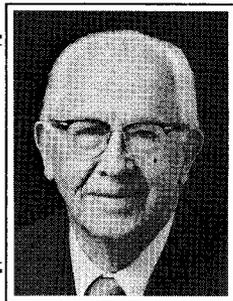
以上の教会幹部および管理役員に対して全会一致の支持が得られたようです。

もうひとつ発表させていただきます。今朝新たに、コロンビアのボゴタ、カリフォルニア州サンディエゴ、オレゴン州ポートランド、ネバダ州ラスベガス、カナダのオンタリオ州トロントの以上5カ所での神殿

表されました。私たちは今朝7時半に以上の地域のステーク部役員と面接しましたが、すべての方々からこの計画に対する熱烈な支持をいただきました。

聖徒たちに与える勧告

十二使徒定員会会長 エズラ・タフト・ベンソン



今から10年前、スペンサー・W・キンボール大管長はこの壇上にお立ちになり、全世界の聖徒たちから末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持を受けました。

それから10年間、教会はキンボール大管長の指導のもとに、歴史上かつてないほどの進歩と成長を見せてきました。

キンボール大管長は、大管長としての初めての説教の中で、教会のプログラムは次の通りであると宣言されました。「再確認をし、神のみ業を清く、まっすぐに、大胆に推し進めること、そして神を敬う生活を切に必要としている世に、この真理の福音を伝えること。」(『神のみ業を清く推し進める』「聖徒の道」1974年8月号、p.373)

きょう私は、教会としてまた個人として私たちが全世界に神のみ業をどのように推し進めていくことができるか、お話したいと思います。

まず初めに、家族を強めることについてお話したいと思います。

家族は文明の基であって、いかなる国家もその質において、国民が構成する家庭以上の存在になることは絶対にできません。家庭は教会の堅固な土台です。家族の長となる方々に家庭を強めるように呼びかけるのはそのためです。

私たちは、結婚は、ある賢明な永遠の目

的のために神によって制定されたと信じています。家庭は正しい生活を送るための土台です。父親、母親、子供という神が定めたもうたこの責任は、まさに時の初めに与えられました。

神は父親を家庭の管理者として定められたので、父親には家族を扶養し、愛し、教え、導く責任があります。

母親の責任もまた神が定めたもうたものです。母親は子供をもうけ、産み、育て、愛し、教育します。彼女たちは夫の助け手であり、相談相手となります。

神のご計画に男女間の不平等はありません。それは責任分担の問題です。

子供たちも同様に聖書の中で、両親に対する義務について教えられています。「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。『あなたの父と母とを敬え。』これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、『そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう。』(エペソ6:1-3)と使徒パウロは言っています。

両親が共に寄り添って愛を抱き、一致しながら天より与えられた責任を遂行し、子供たちがこれに愛と従順さをもって応えるときに、大いなる喜びがもたらされるのです。

最近、ある教会員から手紙を受け取りま

した。中にはその夫妻が子供を育てるうえで直面している問題やチャレンジについて書かれていました。

彼らは神殿結婚をしていましたが、その後いつの間にか不活発になってしまい、つい最近になって再び活発に教会の責任を果たすようになった人たちでした。子供たちに福音を忠実に守らせ、自分たちが経験した落とし穴やほかの家族が陥った過ちを避けさせるためにはどのようにしたらよいか、個人的な助言を求めてきました。

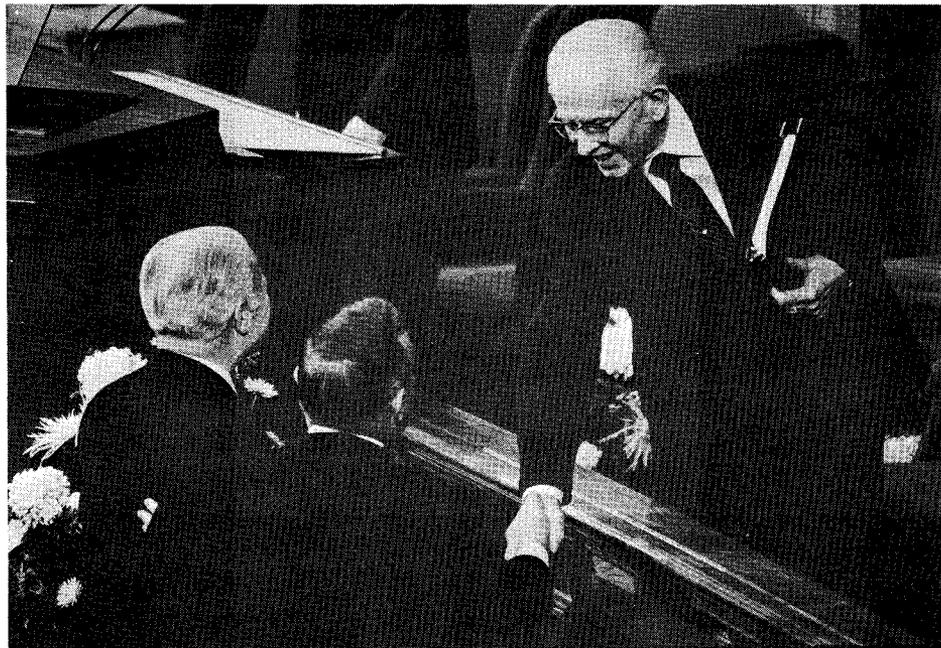
別の言い方をすれば、その人たちは「どのようにすれば家族を霊的に強めることができるでしょうか」と尋ねてきたわけです。

この大切な質問について、皆さん一人一人に、考えていただきたいと思います。さらに、この質問に対するひとつの答えとして、過去多くの幸せな家族によって試され、

実証されてきた解決方法について考えていただきたいと思います。この解決方法は、互いに愛と調和と誠実さを育むために、また福音の原則を理解するために利用されてきたものです。

幸せな家族は互いに愛と尊敬の気持ちを抱えています。そして家族のだれもが、愛され認められていることを自覚しています。また子供たちは両親に愛されていることを知っています。したがって、彼らは安心感と自信を持っています。

堅固な家庭では効果的なコミュニケーションという特質が養われます。彼らは自分たちの問題について話し合い、みんなで計画を立て、共通の目標達成に向けて協力し合います。家庭の夕べや家族評議会を実践し、この目標を達成するための有効な手段として利用します。



堅固な家庭の父親と母親は、子供たちと親密な関係を保っています。家庭では話し合いが行なわれます。父親によっては一人一人の子供と正式な面接をする人もあれば、形式にこだわらずに面接をしたり、定期的には子供たちと特別な時間を設ける人もいます。

どの家庭にも問題やチャレンジは必ずあります。しかし、幸せな家庭は、批判や口論を避け、問題解決に向けて共に努力しようとしています。互いのために祈り、話し合い、励まし合います。ときには、家族のひとりのために共に断食をします。

堅固な家庭では家族が互いに支え合います。

幸せな家庭は、計画、仕事、休暇、レクリエーション、親族会など、何事も一緒に行ないます。

幸せな両親は、悪に汚れた環境で子供たちを育てることが容易ではないことを知っています。それだけに、最も健全な影響を与える手段を入念に講じています。道徳的な原則を教え、良い書物をそろえて読んでいます。テレビ番組を選択し、人を高める良い音楽を取り入れています。しかし何よりも大切なことは、正しい考え方を育む方法として聖典を読み、聖典について話し合っているということです。

幸せな末日聖徒の家庭では、両親が子供たちに理解できるように、神に対する信仰、バプテスマ、聖霊の賜について教えています。(教義と聖約68:26参照)

このような家庭では、家族の祈りが確実に行なわれています。祈りは、祝福に対する感謝の気持ちを表わす手段であり、へりくだって全能の神に依存していることを認め、力と支持と必要なものを求めるための

手段なのです。

「共にひざまずく家族は、主のみ前に直ぐ立つ」という知恵と真実にあふれた言葉があります。

これこそ幸せな家庭を築くうえで、試され実証された公式なのです。私はこの解決方法に従うことを、皆さんにもお勧めします。

私と妻はシオンにおける両親としてまた祖父母として、家族が皆共に永遠に住み、ひとり残らず神のみ前にふさわしい者となるように望んでいます。

教会のすべての家族がそのようなことを私たちは切に願ひ、祈っています。

さて次に、教会員としての私たち一人一人について話してみたいと思います。

兄弟姉妹の皆さん、私たちにはこれまでにない、さらに大いなる霊性が求められています。さらに大いなる霊性を育むには、聖典に示されているように、キリストの言葉をよく味わうことです。

最近の教会歴史上、最も画期的な出来事のひとつとして、新しい脚注やそのほかの資料が載せられた新版の標準聖典(英文)の刊行があげられます。

聖徒たちがこれほど豊かに主のみ言葉や予言者たちの言葉に恵まれた時代は、どの神権時代にも例がなかったと言っても過言ではありません。

そこで私たちに課せられたチャレンジは、主が命じられたように「すでに人の子らの中に出でできたわが言を究め」(教義と聖約11:22)ることなのです。

今年度教会の成人クラスでは、モルモン経が読書課程に取りあげられています。この神聖な記録について、予言者ジョセフ・スミスは次のように述べました。「私は兄弟

たちにこう語った。モルモン経はこの地上における最も正確な書物であり、私たちの宗教のかなめ石であって、人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物である。」「(「予言者ジョセフ・スミスの教え」ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.194)

個人で、また家族で、モルモン経を研究するようにお勧めします。そのうえで「私たちの学問と利益になるように、すべての聖文を私たちのためと見立て」(I ニーフアイ19:23-24参照) るといふ予言者ニーフアイの教えに従ってください。

家族が全員で共に過ごし、礼拝する時間を取ることができるように、神権指導者の方々には安息日における管理集会を最小限にとどめるようお願いしました。皆さんがこうした集会をなくしたために空いた時間を利用して、クリスチャンとしての奉仕を行ない、親類の家を訪問し、家庭の夕べを開き、聖典を学んでくださるよう望んでいます。

皆さんが教会での召しを受け入れ、召された職を忠実に果たすように勧告します。互いに奉仕をし合ひましょう。全力を尽くして自分の召しを遂行しましょう。そうするとき、皆さんはほかの人々に祝福をもたらす器となり、自分の靈性を高めることになるのです。

神権を持つ兄弟たちや扶助協会の姉妹たちは特にそうですが、貧しい人、病気の人、困っている人に心を配ってくださるようお願いいたします。未亡人や母子家庭が援助を得られるようにするのは、キリスト教徒としての責任です。「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まず

に、身を清く保つことにほかならない。)(ヤコブ1:27)

神の戒めを守ってください。そうすることによって、罪の束縛から免れることができるからです。

「汝心を^{つく}尽し、勢力と思いと体力とを尽して主なる汝の神を愛すべし。また、イエス・キリストの名によりて神に仕うべし。」(教義と聖約59:5)

「すべての事の中に神の御手のあることを告白せ〔よ。〕」(同21節)

「苦しみを^く忍べ。」(教義と聖約24:8)

「心安かれ。」(教義と聖約61:36)

家庭や教会で神権者を支持する。(教義と聖約107:22参照)

十分の一を正直に納め、断食献金を惜しみなく支払う。(教義と聖約119:4; モーサヤ4:21参照)

「汝己れの如く汝の隣りを愛せよ。」(教義と聖約59:6)

子供たちを教える。彼らを光明と真理の中に導き来る。(教義と聖約93:40, 42-43参照)

「互いに欠点を探すを^{とど}めよ。」(教義と聖約88:124)

「互いに赦し合うべきなり。」(教義と聖約64:9)

正直で、善良な、賢い人々を公職に選ぶ。(教義と聖約98:10参照)

「この国の立憲的法律なるその法律」(教義と聖約98:6)を擁護し、従う。

儉約し、負債を避ける。(教義と聖約19:35参照)

むさぼってはならない。(教義と聖約88:123参照)

正しい取り引きをする。(教義と聖約51:9参照)



安息日を聖くする。(教義と聖約59：10，12-13参照)

酒やタバコや強く熱い飲料を慎む。(教義と聖約89：5-9参照)

「不潔なるを止めよ。」(教義と聖約88：124)そしてポルノグラフィを避ける。

最も善き書物から学問を求める。(教義と聖約88：118参照)悪を善とし、善を悪とするような文学や映画を避ける。

姦淫を犯さない。「また何事にもこれに類することを為すことなかれ。」(教義と聖約59：6)すなわちペッチング，私通，同性愛，そのほかあらゆる不道徳な行ないを指します。

「絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。」(教義と聖約121：45)

常に「徳と聖きを履み行ふべし。」(教義と聖約38：24)

「外とうの如く愛のきずなをもて身に纏うべし。」(教義と聖約88：125)

すべからく神の口より出ずるあらゆる言によりて生きる。(教義と聖約98：11参照)

イエスの証をなすに雄々しくある。(教義と聖約76：51，79参照)

交わした誓約を固く守る。(教義と聖約25：13参照)

「終りまで忍ぶ」(教義と聖約14：7)

すなわち、この世にあっても、この世のものとなつてはならないということです。そして教会の使命は、人の救いのために福音を宣言し、聖徒たちを完き者とし、死者を贖うことです。

この地上に神の王国を打ち建てるために、才能と手段の限りを尽くして努力していただきたいと思ひます。

常に最も神の王国のためになることを行ない、擁護し、支持してください。

最後に、賞賛と激励の言葉を述べて終わりたいと思ひます。

キンボール大管長と私は、今から40数年前に十二使徒定員会会員として召されました。私たちは数分の差を置くだけで、使徒に召されました。

私たちがその定員会に加わったときには、

146のステーキ部がありました。今日その数は1,460にのぼり、その内800以上が、キンボール大管長が予言者に召されてから設立されています。

1943年当時、会員総数は100万人以下でした。今日、その数は500万人を越えています。過去10年間だけでほぼ200万人の人が会員になりました。

今ほど教会が恵まれた状態を迎えたことはありません。献身的な会員がこれまでにないほど増え、伝道の業が全世界に教会の成長をもたらしました。系図や神殿の事業も著しく増加しました。指導力が向上し、若人はこれまでになく霊的な備えができるようになりました。

多くの兄弟姉妹が活発になったことをうれしく思います。神権指導者や補助組織の指導者の皆さんは、是非この偉大な働きを続けていただきたいと思います。

末日聖徒の皆さん、よくやりました。皆さんの信仰は立派なものです。これまでにないほど大いなる機会と祝福が私たちに与えられました。予言者ジョセフ・スミスの言葉を借りて言うと、「われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。進み行きて退くことなかれ。奮い起てよ、……進み進みて勝利に至れ。」(教義と聖約128:22)

教会やその指導者に対して品位を傷つけるようなことが言われたり、教会の教義や活動について誤った宣伝が行なわれていることから、会員の中には心を乱されている人々がいます。

この教会に反対はつきものです。過去においても反対があり、これからも反対がやむことはないでしょう。ほかの人々の言動に落胆してはなりません。まっすぐな狭い道にとどまっています。そのためには

鉄の棒、すなわち聖典に収められている神のみ言葉や、地上における生ける神の僕たちによって与えられる神のみ言葉に、しっかりとつかまることです。

十二使徒定員会の兄弟たちは、すでに私が引用したのをお聞きになったと思いますが、ここにモルモン経から引用した主のみ言葉があります。それは次のように言っています。

「『されど汝に反抗せんとして造る武器は一つも役に立たず。すべて汝を訴えて裁かんとする口は汝に言い破らる。こはすなわち主の僕らの受くる祝福なり。またわれより受くる義なり』と、主は宣う。」(IIIニューファイ22:17)

兄弟姉妹の皆さん、これは主のみ業です。これは地上における神の教会です。主はご自分の教会を謙遜な人々の手にゆだねられました。その人々には並々ならぬ責任が課せられています。私たちは、皆さんの信仰と、支持と、絶えることのない祈りを必要としています。

神が生きておられ、今日もそのみこころをご自分の僕に現わされることを証いたします。

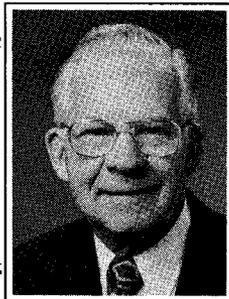
スペンサー・W・キンボール大管長は、今日この地上に選ばれた神の予言者です。この教会がイエス・キリストの教会であり、地上における神の王国であることを証いたします。

神のみ恵みと祝福が、皆さんやご家族の上に、また世界中の善良な男女の皆さんの上にありますように。なぜなら私たちは皆、天父というひとりの御方の子供だからです。

これらについて証し、皆さんの上に私の祝福を残します。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

良い方を選ぶ

十二使徒定員会会員 マービン・J・アシュトン



私は数週間前にステーキ部長会を新たに組織するためにアイダホへ行きました。そして何人かの立派な神権指導者と会い、その内の3人をステーキ部長会として任命しました。しかしそればかりでなく、特別な若い姉妹に会って、忘れがたい印象を受けたのです。新しく召されたステーキ部長会のひとり、監督を務めていました。そこで私は、彼に代わる監督として推薦されている兄弟と面接をするようにステーキ部長会から頼まれました。もし問題がなければ、大会の翌週の日曜日に召すことができるからです。私は面接を引き受け、あるオフィスできちんとした身なりの魅力的なご夫婦と会いました。

簡単な紹介を済ませると、私は奥さんに目を向けて言いました。「ご主人について話してください。」奥さんはしばらくためらってから、ようやく返事をしました。「アシュトン長老、私は主人のことをよく知りません。」あまりに普通ではない返答に、私はすぐさま尋ねました。「それはどういうことですか。」「3週間前に結婚したばかりなので。」

この夫婦は30代前半の若いカップルで、ご主人は弁護士、奥さんは学校の先生をしていました。まだ新婚で、見つけたばかりの深い愛でふたりが結ばれていることがよくわかりました。私は用件を告げました。

「ご主人が監督になることについて、おふたりにお話したいと思います。」すると、奥さんが言いました。「何日か前に、ランディーが監督になることを暗示する夢を見ました。でも、それがあまり早く来ないように、願っていました。私たちは結婚したばかりですが〔ふたりが30代になるまで結婚しなかったのは、お互いを見つけるまでに長い年月がかかったからだと思います〕、もしランディーを監督に召すべきだと感じておられるなら、彼は適任者です。私は喜んでランディーを助けます。」何と立派な態度でしょうか。何とすばらしい支持でしょうか。夫と教会に献身し、自分自身を捧げようという決意は、私が質問をするずっと以前にできていたのです。良い方を選ぶ決意をしたこの姉妹を見て、私は主がマリヤについて語られた重要な言葉を思い出しました。ルカ10章42節です。「無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。」

教会や世界各地の人々と深くかかわればかかわるほど、立派な女性に対する私の感謝と尊敬の念はますます強くなっていきます。きょう私は、こうした特別な女性たちに心からの賛辞と激励の言葉を贈りたいと

思います。私の考える立派な女性とは、正しい方向に向かって歩んでいるすべての女性のことです。その勇気と力と献身の決意に対し、私はへりくだって絶えず神に感謝を捧げています。立派な姉妹の皆さんがそれぞれの立場で示してくださる模範や励まし、品行、高潔さなどにより神のみ業は伸展し、その目的と業績も共に発展していくのです。

私が最近経験したことや目にしたこと、それに手紙などをいくつか取りあげて、特に教会の独身女性の皆さんに紹介したいと思います。ほとんどの独身女性は、それぞれの置かれている状況の中で立派に務めを果たしています。しかし、私たちからの愛や励まし、尊敬を本当に必要としているのです。独身女性もほかの人々と同様、現在の立場や責任に甘んじている必要はありません。永遠の進歩は、イエス・キリストの福音の基本です。私たちが前進し、良い方を選ぶならば、日常生活における幸福、感激、喜びは必ずや私たちのものとなるでしょう。イエス・キリストの福音の原則は決して変わりませんが、境遇や環境、制度、文化様式などは変わります。私たちに課せられたチャレンジは、献身と熱意をもって現在の王国の中で前進することです。そして、それぞれ与えられた境遇に対処していく中で、私たちは成長し人生から喜びを得るために自分の分を果たさなければならないのです。

あるフィリピン人宣教師の母親が、息子の伝道部長に最近次のような手紙を書きました。「いつも息子に霊的な援助と勧告を与えてくださり、心から感謝しています。……8年近く片親で育てて参りましたが、もし福音に忠実でなかったら、この年月はとてもつらいものになっていたことと思います。

神は生きておられ、私を愛してくださいっています。私の真心からの熱心な祈りを聞いて、それに^{こた}えてくださいます。私にはまだ伝道中の息子を含めて7人の子供がいます。私は主から才能をいただいたので、子供たちを養ってることができました。私は洋裁で生計を立てています。片親という責任を自信をもって元気に果たせるように励ましと助けを与えてくださった教会の家族(会員)に、本当に感謝しています。」

神を受け入れその教えに従うならば、神はその家族を、たとえ片親でもまた子供がいなくても祝福してくださることを、この姉妹は学んだのです。

良い方を選ぶ立派な女性は、何と偉大な力を持っていることでしょうか。

主は私たちがお招きさえすれば共にいてくださいます。しかし、選択する力、自由意志という賜を神の子供から取りあげることとは決してなさいません。(伴侶のあるなしにかかわらず)若い母親の皆さんは、この力を正しく用いることを学ぶ必要があります。目の前にとるべき行ないがふたつ以上あって、それぞれ正しく思えることがあるかもしれません。そのときは、生活の頃合いや関連する事柄を十分に考慮したうえで、賢明で慎重な決断を下さなければならないのです。

母親の中には、子供の洋服を作り、パンを焼き、ピアノを教え、扶助協会へ行き、日曜学校で教え、PTAの会合に出席するなど、何でもこなす才能と活力を具えた人もいます。また中には、そうした女性を模範とみなし、比較対照して自分の至らなさを感じ、落胆し、自分は母親失格だと考えている人もいます。

罠に陥ってこのような有害な劣等感を抱

いてはなりません。これはサタンの使う道具です。多くの人には「スーパーマン」や「スーパーウーマン」になろうとして、大変な重荷を負っているように見えます。

姉妹の皆さん、ほかの人が行なっているようなことを何でもかでも自分ができないからといって、無力感や挫折感に陥らないでください。それよりも、自分自身の立場や力、才能を評価してください。そして、家族がひとつになって互いに協力し助け合えるように、最善の道を選んでください。皆さんの必要や能力、願いは、天父と皆さんだけが知っています。この知識に基づいて進む道を計画し、選択をしなければなりません。

ひとりで子供を育てる勇気ある母親の例をもうひとつ紹介しましょう。この女性も自分の置かれた状況の中で良い方を選んで、有意義な生活を送っています。彼女は30代半ばですが、すでに多くの心痛を味わってきました。神殿結婚後間もなく、夫は教会に出席しなくなり、ほとんどの時間を気の合った仲間たちと過ごすようになりました。家族の幸福に関心を向けず、妻との間に有意義な関係を築こうともしませんでした。生活の中から教会の活動は姿を消し、彼はやがて墮落への道をたどっていきました。

このかわいらしい女性はやむを得ず、自分の力で子供たちを養っています。彼女の最大の目標は、子供たちが情緒的、経済的、霊的に守られていると感じることのできる幸せな家庭環境を築くことです。10年もの間、幸福に欠かせないこうした要素が彼女の家庭から奪われているのです。

この姉妹は、いつの日か再び結婚の機会に恵まれることを願ってはいますが、当面の関心は子供たちの必要であり、彼女は教

会とその教えを中心とした堅固な家族を築くために努力しています。

ひとりで子供を育てる彼女は、良い方を選んだのです。

傷ついて落胆したときは、他人が行なう事柄はつかの間であって、永続するものではないことを思い返せば、慰めになるかもしれません。私たちの永遠の進歩に影響を与えられるのは、自分だけなのです。

結婚していない姉妹の中には、もうあきらめるように、努力などやめるように、自分の持っているものでなく持っていないものについて考えるように誘惑される人がいます。しかし、決してあきらめずに今の生活を続けていくことが大切です。キャロル・クラーク姉妹は、美しい言葉を記しています。「個人に課せられたチャレンジは、ただ待つことではなく、豊かで楽しく満たされた人生を生きることです。そして目標



は、ふさわしい人を待つことでなく、ふさわしい人になることなのです。」(「独身生活：独身女性のための展望」p.9) 私は「生きる」という言葉を強調したいと思います。豊かで楽しく、満ちたりた人生を生きてください。進歩成長し可能性を伸ばす機会に、心を奮立たせてください。主が与えてくださった人生と様々な機会と特権に、胸を躍らせてください。

周囲の状況がどうあれ、自分の理想とする人物になれるよう決意してください。人生における第一の課題は、「私は何者なのか」を学び、それを受け入れ、自分のものにすることです。この質問について聖典と教会の教えを注意深く調べるならば、一人一人が、そしてすべての人が大切な存在であることが明らかになるでしょう。自己に対する良いイメージを持つことは、人生に立ち向かううえで最も大切で欠くことのできないステップです。私たちは、他人から吹き込まれた事だけで、自分はそういう人間だと思いついてしまうことがよくあります。教会の内にも外にも、神から愛されていない女性はいません。ひとりもないのです。

詩篇 8 篇 4, 5 節にこう記されています。「人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉とをこうむらせ……」

しかしサタンはいつも身の周りにいて、私たちの栄光を破壊し冠をはぎ取ろうとしています。サタンの最も強力な武器のひとつは、落胆させることです。独身の姉妹の皆さん、落胆してサタンを喜ばせてはなりません。

独身の人は、将来に影響を及ぼす方法を捜し求めるよりも、自分の殻に閉じこもってしまいがちです。何事も達成できると思っただけで始めてください。達成できることを理解してください。そして、達成できると信じてください。教会の補助組織や地域社会の組織に積極的に参加して、自分の存在を示してください。

思考力と行動力にあふれる今日の女性は、人類史上最も大いなる時代の中であって、歴史に足跡を残す重要な働きをしています。個々の献身が今の世を変えるだけでなく、そのすばらしい働きは未来にまで大きな影響を及ぼすのです。活動の輪が広がるにつれて、友人や知人の数も増えていくでしょう。そして立派な女性は、それらの人々にさらに大きな影響を与えることでしょう。

常に忘れないでいただきたいのですが、私たちを不幸にする原因は、境遇や問題ではなく、それらに正しく対処できないことにあります。

ある人はこう言いました。「幸福は蝶のようだ。追えば追うほど、逃げていく。でも注意をほかに向ければ、近づいてきてやさしく肩にとまる。」(「リーダーズ・ダイジェスト[英文]」1982年4月号, p.148)

教会において指導者は、問題解決に役立つ指針を与えようと心から願ひ、そのために多くの時間を使って思案し祈っています。大管長会は最近の手紙で独身ワード部の会員に関する指針を出しましたが、その手紙について強調したいと思います。現在独身ワード部に集まっている人々の生活に及ぼす影響を考慮せずに、既存のプログラムに突然の変更を加えてはなりません。この点についてよく考えてください。現在ステーク部長には、監督と協議し合意のうえで、一

一般的な指針に例外を設ける権限が与えられています。

だれに対してもユニットから出るように要請すべきではありません。独身ワード部に活発に集っている年長の独身者にとって、そのワード部に出席することに明確な利点があり、かつそのほかの状況が他と同じであれば、適当な結婚の機会に恵まれなかったからと言って、ほかのユニットに移して、必要とされていないと感じさせたりしてはなりません。十分な理由により、方針の中では一定の年齢制限が定められていますが、突然の変更によって、自分は排除されたとか、もう終わりだとか感じさせることがないようにしてください。

プログラムは教会員一人一人に対する愛と関心をもって計画され、実施されます。その目指すところは、すべての会員に成長し、進歩し、幸福になる機会を提供することです。年を追うごとに、伴侶なしに生活している姉妹の価値が、しだいに明らかになっています。このような姉妹の中から、強い指導者、有能な教師、献身的な母親が次々に出ています。彼女たちは勇気と創意工夫をもって生活し、奉仕しています。忍耐を通して、成功を見いだしているのです。幸せな結婚をした人、不幸せな結婚をした人、ひとりで子供を育てている人、未亡人、教会に不活発な夫を持った人、そのほかいかなる境遇にあらうと、生活をコントロールし成功するために、天父に近づくようにお勧めします。天父を愛してください。そして、天父が皆さんを愛しておられ、その機会さえ差しあげれば、導きと助けを与えてくださることを忘れないでください。決断をするときは、天父の導きを受けてくだ

さい。自分の価値を評価するときも、天父の導きを受けてください。「現世は、人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。」(アルマ34:32)

目標を定めてください。ただし自分の進歩を計れないような目標は避けましょう。目に見える成果があがらないからといって、挫折感に陥ってはなりません。達成することよりも努力することの方が大切だということに心に留めてください。卓越した自分を目指して努める人、すなわち現実的な目標を達成するために、時間と労力を賢明に使いながら最善を尽くして日々努力する人は、成功者なのです。

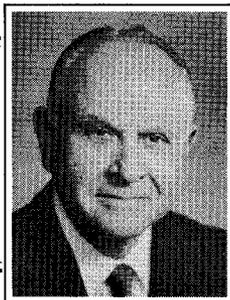
だれよりも皆さんを知っておられる天父と、毎日言葉を交わしてください。天父は皆さんの才能や長所、短所をご存じです。今この地上にいるのは、これらの特質を伸ばし洗練するためです。私は、天父が皆さんを助けてくださることを約束します。天父は皆さんが必要とすることや、まだ答えを受けていない祈りに心を配っておられます。

神が勇気ある姉妹たちを祝福されますように。皆さんは神の目にも私たちの目にも素晴らしい女性です。天父の助けとみずからの努力によって幸福を得ることができまうように。もしも良い方を選ぶならば、現在の環境や境遇がどうあらうとも、必ずやその生活は最も実りあるものになるでしょう。

神の助けがあってこれらのことを達成できますように、私たちの友であり贖い主であるイエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン。

結婚と離婚

十二使徒定員会会員 デビッド・B・ヘイト



聖 きみたまの導きがあって、私の申しあげる事柄が真理と調和するよう、また同じ天からの力によって皆様に受け入れられ、理解されるようにと祈っています。

四半世紀以上もの間、私たちは幾世紀にもわたって受け継がれてきた家庭というものに、絶えることなく攻撃が加えられるのをこの目で見てきました。人間の美德や礼儀になかったふるまい、永遠の父なる神への愛と畏敬といった神聖な価値基準が挑戦を受けてきたのです。

自己中心的な新しい世代は、家庭を絶えず冷やかしの対象にしてきました。結婚は軽んじられ、避けられ、親になることは退けられ、拒まれています。これらがほかの不穏な影響力と一緒にあって、いわゆるつかの間の満足を求める多くの悪い誘惑を生み、結婚や、妻あるいは母としての神聖な役割につける品位の低下を招いたのです。不幸にして、世の中には善良な人物でありながら、神の永遠の計画からかけ離れた生き方をしようとしている人々がたくさんいます。彼らは、神の子らに対する永遠の計画を知らないのです。私たちは聖典から、結婚が永遠の結びつきであり、永遠に続く家族の絆とともに存在するという神のみこころを学んで知っています。

聖典には、地が創造されたあと、神はご自身にかたどって人を造られ、人に地を治めさせられたとあります。男アダムの傍ら

に女イヴが立ち、ほかのすべての被造物の統治者として神から付与された誉れと威厳を分かち合ったのです。神は言われました。「人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。」(創世2:18)

「神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」(創世1:27)

主はさらにこう教えられました。「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:24)これによって合法的な結婚による男女の結びつきが認められました。これが天上で立てられた、肉体の創造に関する計画です。

アダムとイヴに与えられた戒めの中で、記録に登場する最初のもは、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」(創世1:28)でした。

私たちは子供を神から授かった賜と考え、私たちの保護の下に愛し、育て、注意の行き届いた訓練を与えるのです。

主はこのようにも言われました。「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教えざるべからず。」(教義と聖約68:28)

子供たちを不当に扱ったり、虐待したりしてはなりません。彼らはその両親と共に永遠の関係を築く可能性を持った家族の一員だからです。

スペンサー・W・キンボール大管長は、次のように説明しています。

「主は初めに、すべての計画を立てられた時、子をもうけ、養い、愛し、指示を与える者として父親を、子を宿し、産み、育て、食物を与え、訓育する者として母親を定められた。主は別の方法を探ることもできなかった。しかし、主は、子供たちが互いに切磋琢磨し、互いを愛し、敬い、認めるようになる単位を設けられた。それには責任が伴うと同時に目的を持った交わりがある。家族とは、天父が考え、組織された偉大な生命の計画である。」(「大会報告1973-75」p.58)

結婚は、本来夫と妻の間の、愛と調和のある強い結びつきを持った関係として定められたものであり、またそうなり得るものです。

「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらしすなり。」(モーセ1:39) 主がモーセに宣言されたこの言葉を深く考えるとき、離婚によって引き裂かれた家庭や家族の深刻な現状を悲しい思いで見つめざるを得ません。

離婚の裏に秘められた大きな原因は、結婚や家族が神の定めたもうたものであり、神がくださったものであるということへの理解の欠如にあるようです。この意味を十分に理解していたなら、離婚と、それに伴う不幸は少なくなるでしょう。男女は神の教えに基づいた、幸福な結婚関係を計画していただきたいと思います。もしふたりがお互いに愛を抱き始めたときから、その結婚関係が永遠にわたる約束と条件の下に祝福を受け得るものであることを理解していれば、問題が生じて、その解決の手段として離婚を考えることはないでしょう。結婚がうまくいかなければ離婚すればいいという現代の考え方は、結婚を始めから妨害しているのです。

離婚件数が倍加の一途をたどっている事実は、不幸な結婚や期待はずれの結婚の解決策として離婚が広く取り入れられてきているよい証拠です。

しかしたとえ離婚がどんなに容認され、容易にできるようになっても、離婚の悲惨さ痛みしさはその直後だけではなく、その後何年にもわたって続きます。

離婚によって本当の終止符を打つことは決してできません。父親や母親が自分の血肉を分けた子供から、そしてまさに自分の一部となった、共に過ごした日々の思い出から、どうして離れられるでしょう。

離婚が成立するとほとんど必ずと言ってよいほど心理的、社会的、経済的に大きな動揺がもたらされます。しかしながら、ほとんどの人が離婚した夫婦の間あるいはその子供たち、友人、親戚の間に起こる疎外感、苦痛、分裂、挫折感を軽く考えています。離婚によって生じた心の痛手からまったく立ち直れない人もいます。

あらゆることの中で最も悲惨なことは、離婚の60パーセント以上が、18歳以下の子供を巻き添えにしていることでしょう。離婚した夫婦の子供は非行に走りやすく、自信に欠け、成り行き任せのところがあり、彼ら自身の結婚もまた不幸なものになることが多いのです。

結婚の重要性を考えると、私たちが幸福な結婚生活を送るための備えを十分にしていないというのはむしろ驚くべきことです。若いふたりは大抵数カ月、あるいは1、2年デートをしながらロマンスを楽しみ、互いをよく知り、結婚します。結婚するやふたりは、ロマンスに信仰や姻戚関係、やりくり、それに社会道徳や子供、家庭管理についての真剣な話し合いといったものを加えていかなければならないことを悟るのです。

この気高い責任に対して粗末な備えしかしていない人があまりにも多すぎます。

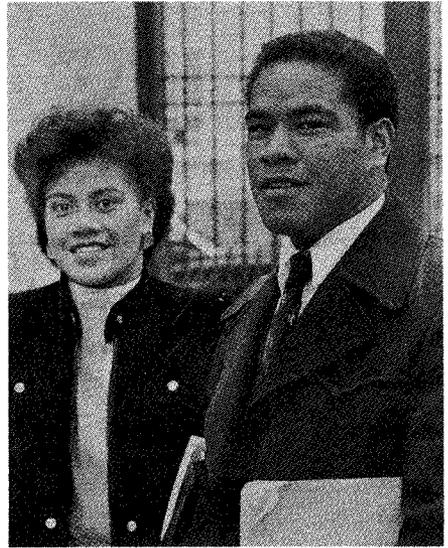
「仕事は結婚ほど重要でも報いを約束するものでもないが、……それでも……人は仕事の備えをするために何年も大学に行く。」(ローウェル・S・ベニオン『ユタの家庭協議会』『ソルトレーク・トリビューン』新聞、1980年4月6日、p.F-9参照)

時折監督室で重大な過ちや傷ついた人生が打ち明けられますが、どの告白からも明らかなのは、夫婦関係が今よりはるかに深い関心、祈りを伴った関心を受けるに値するものであるということです。もし夫婦が誠意ある監督のもとを訪れ、監督から問題を乗り切る方法を学び、自己修養や自制を上手に使うことによって利己的でない愛を育むよう励ましを受けることができれば、暗礁に乗り上げる結婚の数は減り、幸福な夫婦がさらに増えることでしょう。

数年前のことですが、ハロルド・B・リ一大管長は結婚しているある婦人から次のような手紙をもらいました。

「もう終わりだ、離婚以外に方法はないとふたりで考えたとき、監督に相談しなさいと言われていたのでそうしようと思いましたが、監督はまだ若いため初めは気が進みませんでした。私たちより年がお若いのです。でもとにかく監督ですから、ふたりで彼のところへ行きました。そして一部始終、心の中を若い監督に打ち明けました。彼はじっと座って黙って聞いていましたが、私たちの話の途切れたときにただひと言、

『そうですか。私たち夫婦にも同じような問題が起きたことがあります。どうしたら解決できるか、そのときわかりました』と、たったそれだけおっしゃったのです。若い監督のその言葉が心に残って、私たちは部屋を出てから、『彼らに解決できたとおっしゃるんだ。私たちはどうなんだろう』と話



し合いました。」(「大会報告1973-75」p.121)

ある著名なプロデューサーが最近こう言いました。

「映画やテレビでは……喜劇や昼のメロドラマは別として……結婚を取りあげてことをあまり好みません。どちらかと言うと性的な事柄を強調し……子供のおとぎ話にあるような、一生幸せに暮らしました、といった内容はなおざりにされています。」

(カール・E・マイヤー)

私たちの心配は、単にプロデューサーや劇作家が幸せな実りある結婚生活を描いていないことではなく、結婚した多くのカップルが結婚を真剣に受け止めていないところにあります。結婚生活のために努力し、これを守り、養い育て、昨日よりもきょう、きょうよりも明日と、より幸せな結婚を目指し、さらにそれを永遠にまで至らせようという真剣な姿勢が見られないのです。

中年層の離婚は特に悲惨です。これは社会を支える成熟した人たちが、自分たちの

結婚を守るべく十分な努力を払っていないことを表わしています。45歳過ぎの離婚が目立って増えてきました。中年層の人々、中にはすでに子育ての終わっている人、あるいは初孫まで授かろうという人もいるかもしれませんが、そのような人々が離婚を考え、別々の道を歩もうと決意するときには悟らなければならないことは、離婚はどれを取っても夫婦どちらか、あるいは双方の自分本位な考え方の結果であるということです。

マラキ書にはこう記されています。

「これは主があなたと、あなたの若い時の妻との間の、契約の証人だったからである。彼女は、あなたの連れ合い、契約によるあなたの妻であるのに、あなたは彼女を裏切った。

……あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切ってはならない。」(マラキ2：14-15)

結婚は誓約です。十戒のうちのふたつは、結婚の神聖さの維持に直接かかわるものです。「あなたは姦淫かんいんしてはならない。あなたは……隣人の妻……をむさぼってはならない。」(出エジプト20：14, 17)

イエスは貞操の律法の深い意味を説明してこう言われました。「しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」(マタイ5：28)

理想的な結婚には互いに対する誠実さがあります。その誠実さは、相手を伴侶として選んだときから始まります。箴言にはこう記されています。「あなたの泉に祝福を受けさせ、あなたの若い時の妻を楽しめ。」(箴言5：18) いつも彼女の愛をもって満足し、彼女への愛をもって常に喜ぶのです。(箴言5：19参照)

若いときの妻と共に暮らし、しわや白髪

を気にせずに深い愛と一致、それに今も永遠にわたっても分かち合える知恵を得て黄金の晩年を共に送ることは、特権以外の何ものでもありません。

結婚は、それが神によって定められたことに対する信仰と知識によって支えられ、愛の力によって日々維持されています。ある学者はこう説明しています。「相手の満足や身の安全が、自分の満足であり身の安全であると感じられるようになったとき、そこに初めて、愛が存在する。」(ハリー・スタック・サリヴァン「現代精神医学」p.42)

結婚関係には永遠にわたる何か貴いものが存在するという強い確信をふたりが抱くときに、悪に対抗できる信仰が築かれます。結婚は美しく満足のいくもの、私たちの最大の夢以上に喜びのあるものでなければなりません。なぜなら「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」(Iコリント11：11)からです。

末日聖徒は離婚するには及びません。結婚問題に対する解決策があるからです。もし夫婦の間に何か重大な誤解があるなら、あるいはまた、結婚生活を築くうえで、ふたりの間に何か重苦しいものや緊張を感じるときには、謙遜な気持ちで天父の前に共にひざまずき、ふたりをおおう暗闇を取り除いていただけるよう誠心誠意祈ることです。そうすれば必要な光が与えられて、自分の欠点がよく見え、悪い点を悔い改めて互いに赦し合い、結婚した頃の初心を取りもどすことができるでしょう。神が生きてましまし、皆さんの謙遜な祈りに応えてくださると心よりへりくだり申しあげます。主は「イエスの名によりて何事にまれ欲するところを願え、さらば皆与えられん」(教義と聖約50：29)と言っておられるのです。

イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

基督イエス—その言葉と意味

七十人第一定員会会長 G・ホーマー・ダラム



つい最近、高速道路で車を走らせていたときのことです。1台の車が傍らを追いついてきました。バンパーに目をやると一風変わったステッカーが張りつけてあり、「人類を救え」と書かれていました。近頃いろいろな種類のバンパーステッカーを見かけますが、これを見たとき、私はふと根本的なもの、「救い」という言葉について考えさせられました。私は救いの計画について考えました。次に学問の世界に思いを巡らせ、歴史の中にはいわゆる「救世主」が数多く見られるという、アーノルド・トインビー博士の指摘について考えました。私たちは、真の救いをもたらすお方はただひとり、主イエス・キリストであることを知っています。この教会はイエス・キリストの教会であり、私たちはイエス・キリストのみ名を引き受けています。

普通、イエスがキリストであると証するとき、それはどのような意味なのでしょう。もちろん、大切なのはみたまの証です。しかし「イエス」および「キリスト」という言葉には、一体どのような意味があるのでしょうか。

このふたつの言葉の意味を簡単に調べておくことは、特に最近の若い人々にとって役に立つと思います。

「オックスフォード英語辞典」によると、英語の「イエス」という言葉は中期英語か

ら登場し、その源をたどるとラテン語の「イエズス」を経て、ギリシャ語の「イエソウス」に至り、さらにヘブル語またはアラム語の「エシュア」や「ホシュア」にまでさかのぼり、その語源は「ヨシュア」にあるとしています。同辞典によれば、「ヨシュア」という言葉は「ヤハウェ」の「ヤハ」に由来し、「エホバは救い」の意味であるとされています。このように「イエス」という言葉は、「救い主」という言葉と同じ意味を持っていることがわかります。エルサレムにあるヘブライ大学のデビッド・フルッサー博士は、簡潔にこう述べています。「『イエス』はヘブル名『ヨシュア』がギリシャ語に一般化したものである。」(「ユダヤ百科事典」1971年、10:10)

「ウェブスター20世紀新英大辞典」には比較定義があり、ヘブル語の「ヨシュア」に語源を持つラテン語-ギリシャ語の派生語は、文字通り「エホバの助け」という意味であると説明されています。しかしさらに同辞典では、この言葉は「主なる神」すなわち助け救うことのできる御方という意味のヘブル語からも来ているとあります。この意味からすると、「イエス」という言葉は単に「神は助け」ということになります。では、どのようにすればあのバンパーステッカーが言うように「人類を救え」るので

しょうか。辞書と福音がその答えを与えてくれます。

「キリスト」という言葉はどうでしょうか。これもまた、中期英語から使用されるようになり、ラテン語の「クリスタス」を経て、ギリシャ語の「クリストス」にさかのぼります。この「クリストス」は、「油を注ぐ」という動詞の過去分詞形が名詞化したもので、「油注がれた者」の意味です。

ウェブスターの辞典によりますと、「キリスト」という言葉は元来イエスの称号だったとあります。したがって英語においては、ジェームズ・E・タルメージ長老がその著書の題名に用いたように、「基督イエス」とするのが正しい使い方でしょう。言葉の慣用法と啓示により、このふたつの言葉が結合してひとつの神聖な貴い名前となったのです。

タルメージ長老はこのふたつの言葉を、次のように定義しています。『「イエス」

(Jesus)は救い主の個人名であって、この発音はギリシャ語に由来している。……原語では、この名が『エホバの助け』または『救い主』の意味であることがよく理解されていた。』

タルメージ長老は次のように強調しています。『「キリスト」とは神聖な称号であって、決して普通の……、ありふれた名前ではない。キリストという称号は元来ギリシャ語から出た言葉で、ヘブライ語のメシヤに相当し、『油注がれたもの』という意味である。』(「基督イエス」pp.40-41)

現在入手できる資料で、「イエス・キリスト」という聖なる名前が最初に出てくるのはどこでしょうか。かつてケンブリッジ大学特別名誉教授であったジョセフ・アーミティッジ・ロビンソン博士は、「テサロニケ

人への第一の手紙」の最初の節であろうと言っています。(『イエス』「ブリタニカ百科事典」第11版、第15巻) 十字架上におけるキリストの死から約20年後、今日私たちの目に触れるこの手紙を、テサロニケ人たちが受け取ったときの衝撃を想像してみてください。「パウロとシルワノとテモテから、父なる神と主イエス・キリストとにあるテサロニケ人たちの教会へ。」(Iテサロニケ 1:1)

「父なる神」という言葉と「主イエス・キリスト」という言葉が、「と」という接続詞で分けられていることに注意してください。これは当時の人々が、予言者ジョセフ・スミスによって回復されたように、天父と御子が別々のお方であると信じていたことを示すものです。

マルコによる福音書の最初の節も、深い意味を持つ歴史的記述として力強く迫ってきます。

「神の子イエス・キリストの福音のはじめ」とあります。

愛弟子ヨハネによる福音書は、さらに雄弁に物語っています。ヨハネは先駆者バプテスマのヨハネによる証を、次のように記録しました。「その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」(ヨハネ 1:29)

「人類を救え」ですか？ それなら「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と言ったバプテスマのヨハネの証を思い出してください。

人類の救い主は、どのようにしてこの世の名前を得られたのでしょうか。啓示によってです。ナザレのヨセフに、主の使いが夢の中で現われ、こう言いました。

「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」(マタイ 1:20-21)

マタイによる次の記録から、辞書にあるイエスの名前の意味が確認されます。「その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」(マタイ 1:21)

マリヤも幼な子の名前についてみ使いからお告げを受けたことが、ルカ伝に記されています。

「すると御使が言った、『恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。』(ルカ 1:30-31)

ルカ伝にはさらに、この幼な子の正式な命名は生後 8 日目に行なわれたことが記されています。

「受胎のまえに御使が告げたとおり、幼な子をイエスと名づけた。」(ルカ 2:21)

このようにして「神は助け」「油注がれた者」「約束されたメシヤ」という意味を持つこの名が、世にもたらされたのです。

今から30数年前、アーノルド・トインビー博士はかつて見られなかったほど広範囲にわたる歴史研究をまとめました。彼は、人類が「様々な救世主」を求めるのは「逃避」のためであるとし、この救世主を4つに分類しました。第1は「創造の天才」としての救世主、第2は「剣を持った救世主」、第3は「タイムマシンを持った救世主」つまり理想郷や実在したことの無い古

代社会を夢見る救世主のことであり、第4は「王の仮面をかぶった哲学者」としての救世主です。しかし、これらの救世主がすべて不適格であったことは、歴史が証明しました。そして最後にトインビー博士は、「受肉した神」として主イエス・キリストをあげ、次のように言っています。

「……実際、救い主について概観した最終的な結論は次のようになります。私たちがこの調査を開始したときは、おびたしい数の群衆の中にいました。しかし、先へ進むにつれて、共に行進する人々は一団ずつ姿を消していきました。最初に姿を消したのは剣をとる人々です。その次は過去や未来の時代に理想を追う人々、次は哲学者でした。こうしてついに、残ったのは神々だけとなりました。……そして今、私たちがふと立ち止まり、行く手の岸にじっと目を注ぐと、大きな流れの中からただひとりのお方だけが丘に上り、^{また}瞬く間に私たちの眼前に立ちだかっただけです。あそこにおられる方こそ誠の救世主……。」(「歴史の研究」第1巻-第5巻縮約版、D・C・サマヴェル編、p.547)

私たちは、この救世主こそ、主イエス・キリストであることを知っています。私はこれまで受けた数多くの経験から、主がまさに「助け」であり、真の救い主であることを心から証できます。御子が命じられたように、祈りの中で天父に近づくならば、門は開かれて助けが与えられ、私たちは恐れることなくこの人生を進んで行くことができるのです。あらゆる人々が、創世の以前に選ばれたお方、基督イエスの重要性を知ることができます。これが私の信仰であり証です。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

永遠の家庭を築く

十二使徒定員会会員 トーマス・S・モンソン



イ エスは今日私たちが聖地と呼んでいる町や村のほこりだらけの道を歩まれ、美しいガリラヤのそばで弟子たちに教えを説かれましたが、そのとき主は、人々にわかりやすい言葉でよくたとえを使って話されました。そして聞いている人々の生活に言及して、家庭を築くことについてたびたび語られました。

イエスは言われました。「内部で分れ争う……家は立ち行かない。」(マタイ12：25)

「見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家にあらず。」(教義と聖約132：8)

1832年12月27日、オハイオ州カートランドで予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主は次のように言われました。「汝ら組織して必要な物をことごとく調べよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし。」(教義と聖約88：119)

人が永遠に至るまで住む家庭を上手に、しかも正しく建てるうえで、これほど適切な青写真がほかにあるでしょうか。

そのような家はマタイ伝に与えられている建築規定にかなう、岩の上に建てられた家で(マタイ7：24参照)、チャレンジの多いこの世のいたる所に見られる逆境の雨や、敵対感情の大洪水や、疑惑の嵐にも耐えることのできる家です。

「しかしあの啓示は神殿を建てるときの

ものです。今でも通用するのでしょうか」と言う人がいるかもしれませんが。

それに対して使徒パウロは「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか」(Iコリント3：16)と答えています。

ここでこれらの建築規定をひとつずつ考察してみれば、主なる家造り、この世の造り主、主なる救い主、すなわちイエス・キリストから与えられた教えをもっとよく認識することができると思います。

この青写真は、私たちの家がまず祈りの家でなければならぬと言っています。主は言われました。「また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして……祈ることを好む。……あなたは祈る時、……隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。……(また)……くどくどと祈るな。……あなたがたはこう祈りなさい。天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるください。わたしたちを試みに会わせしないで、悪しき者からお救いください。」(マタイ6：5-7, 9-13)

この部分の青写真は、幼いときから子供

たちに教えることができます。私たちの長男が3歳ぐらいのときのことで。私たちと一緒にひざまずいて夕べの祈りを捧げていました。当時、私はワード部の監督をしていましたが、ワード部のマーガレット・リスター姉妹が癌が^{がん}危険な状態にありました。私たちは毎晩リスター姉妹のために祈っていたのですが、ある晩、長男の番になりました。ところが彼は、祈り言葉と童話の物語を混同してこう言ったのです。「天のお父様、リスター姉妹とヘンリー・ペニーちゃんと、にわたりのなめどりちゃんとほかのお友達をみんな祝福してください。」その晩、笑うことは控えました。ところがあとで姉妹が完全に快復され、私たちは謙遜な気持ちにさせられました。子供の祈りを軽んじてはなりません。なぜなら子供たちは、つい最近まで天父のみもとにいたからです。

私たちの家を祈りの家にしましょう。

私たちの家は、断食の家でなければなりません。この部分の青写真は、イザヤ書に「まことの断食」と題してよく表わされています。

「わたしが選ぶところの断食は……

飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。

そうすれば、あなたの光が^{あかつき}暁のようであられ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。

また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。もし、……

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のよ

うになる。

主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、……あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。」(イザヤ58：6-11)

私たちの家を断食の家にしましょう。

私たちの家は信仰の家でなければなりません。ヤコブは言いました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑われないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブ1：5-6)

断固とした信仰を実際の生活に応用した例は、ニーファイの態度とその人の心に奮い立たせるような言葉の中に見られます。彼は言いました。「私は主が命じたもうたことを行って行く。」(I ニーファイ3：7) 彼はためらうことなく信じました。今日でも、これにあてはまるケースがあるのではないのでしょうか。

前のことですが、ヒュー・B・ブラウン副管長に同行してサモア伝道部に行ったときのことで。アメリカ領サモアの会員や宣教師たちが、厳しい干ばつでこれ以上日照りが続けば給水が止まり、礼拝堂や学校を閉鎖しなければならなくなると教えてくれました。そして、そのために共に祈りを捧げるよう頼まれました。

パゴパゴの飛行場からマブサガの学校までの道から、干ばつの爪跡がよく見てとれました。太陽は容赦なく照りつけ、まっ青な空には雲ひとつありませんでした。集会が始まることを会員たちはとても喜んでいました。開会の祈りを捧げた人は、私たちが期待される雨をもたらすのを知っていたかのように、私たちが無事に到着したこと

を天父に感謝しました。そして、ブラウン副
管長が話すころになると、太陽が雲でおお
われていきました。雷鳴が聞こえ、いな
ずまが見えたかと思うと、天が開き、雨が降
り出しました。干ばつは終わったのです。

後日、飛行場で西サモアに向かう準備を
していたときですが、小さな飛行機のパイ
ロットが、地上整備員に向かってこう言
うのが聞こえました。「これは今までにない異
常天候だ。マプサガにあるモルモン教会の
学校の上空以外は雲ひとつない。不思議な
ことだ」と。

「教会について教えるよいチャンスです
ね」と副管長が言われたので、私はさっそ
くそういたしました。

確かに私たちの家は信仰の家です。

私たちの家を学問の家にしませう。主
は言われました。「汝ら最も善き書より智恵
ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信
仰によりて学問を求むべし。」(教義と聖
約88：118) またこう勧告しておられます。

「わたしに学びなさい。そうすれば、あな
たがたの魂に休みが与えられるであろう。」
(マタイ11：29) 学問の探求でこれほど深
遠な報いを約束しているものはほかにあり
ません。

私たちの家を学問の家にしませう。

私たちの家は栄光の家となるべきです。
そうするために私たちは神に対して正直で
あり、ほかの人々に対して公平であり、ま
た自分に正直でなければなりません。行な
いと心はひとつでなければならぬのです。
マーク・トウェインとして知られるサムエ
ル・クレメンスは、ハックルベリーフィン
を通して大切なことを教えています。

「身震いした。これまでのような自分
になるのをやめて、良くなることができな
いかなと思って祈ってみようと思ったのさ。
ひざまずいたまではよかったが、言葉が出



てこない。どうしたかって？神様に隠し事
をしようとしたってむだなことさ。どうし
て言葉が出てこないのか自分にはちゃあんと
わかっていたのさ。それは自分に二心が
あったからさ。もう罪を犯さないようなふ
りして、心の奥底では一番罪深いこと
をしていたのさ。口先では正しくきれいな
事をすると言いながら、自分の奥深くでは、
それが嘘だということがわかっていたのさ。
神様もそれを知っていたんだ。嘘を折った
ってだめなことがわかったのさ。」

ある人の言葉にこうありました。「節操、
それは宝だ。節度をもって常に良き物を求
めることにより、私たちは栄光の家を確実
なものとすることができます。

私たちの家は秩序の家でなければなりま
せん。「天が下のすべての事には季節があ
り、すべてのわざには時がある」(伝道3：
1)と伝道者は言っています。これは真実
です。家族の時、働く時、学ぶ時、奉仕の
時、憩いの時、自分の時、そして何もの
にも増して、キリストのための時を設けま
しょう。

そうしたならば、私たちの家は秩序の家
になります。

最後に、私たちの家を神の家にしまし
ょう。清い心、高貴な目的、何でも進んでし
ようとする心、人のために助けとなろうと

いう気持ちなどはすべて、神の家の一部をなすものです。神は私たちをひとりで苦勞させられません。私たちを助けようと、いつも備えておられるのです。

だいぶ前のことですが、私は伝道部長として召され、400人を越える宣教師と親しく交わる特権を与えられました。ひとり、ひどい病気にかかった宣教師がいました。数週間の病院生活の後に、複雑な手術を手がける段になり、医師が、彼の両親を呼び寄せるようにと言いました。助からない可能性があるからということでした。

両親が来ました。ある晩遅く父親と私はカナダのトロントのある病院の一室で、この若い宣教師の頭に手を置き、祝福を授けました。それから起こった出来事は私にとって強い証となりました。

その宣教師の病室は6人用の部屋でした。ほかのベッドには異なった病気の人がいました。手術が行なわれる朝、その宣教師のベッドは空になっていました。看護婦が朝食を運んできました。最初のベッドにいる人の所に行って、「けさは、卵を少し余分に持ってきましたよ」と言いました。

第一のベッドの人は、芝刈り機でけがをした人でした。つま先をけがしたほかは健康な人でした。「今朝は食べません」とその人が言いました。

「いいわ、その分2番目のベッドのお友達に差しあげるから。」看護婦はそう答えました。

すると2番目の病人が言いました。「今朝は食べないでおこうと思う。」

5人とも朝食を拒みました。とうとう看護婦が音をあげました。「いつもたくさん食べる人たちが、きょうは全然食べたがらないなんて、一体どうしたことでしょう。」

6番目のベッドの人が答えました。「3番目のベッドが空いているでしょう。今手術

をしてるんですよ。彼には助けが必要なんです。彼は教会の宣教師で、この病室にいる間に教会の原則について話してくれました。祈りの原則や信仰の原則、断食の原則、それらによって主に祝福を求めることができることをね。モルモン教会のことについてはあまりよくわからないけれど、あの人についてはよく知っています。彼のためいきょうは断食しているんです。」

手術は成功しました。治療費を支払う段になって、医師はこう言いました。「受け取ったら私は不正をしていることになりました。自分の手が自分以外の力で導かれているような思いをしながら手術をしたのはこれが初めてです。どなたか高い所におられる方が文字通り助けてくださったんですね。そんな手術に対してお金はいただけませんよ。」

それこそ神の家です。

これこそ私たちの建築計画です。私たちは永遠の家、神の宮の建築士なのです。(Iコリント3:16参照)

「汝ら組織して必要な物をことごとく調べよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし。」(教義と聖約88:119)

そして主は、かつてソロモンに現われて言われたように、建築検査官としてこう言われることでしょう。「わたしはあなたが建てたこの宮を聖別して、わたしの名を永久にそこに置く。わたしの目と、わたしの心は常にそこにあるであろう。」(列王上9:3)

私たちがこの神聖な青写真に従うことができますように。そして永遠の家を建てる有能な建築士となることができますように。イエス・キリストのみ名を通して申しあげます。アーメン。

1983年度統計報告

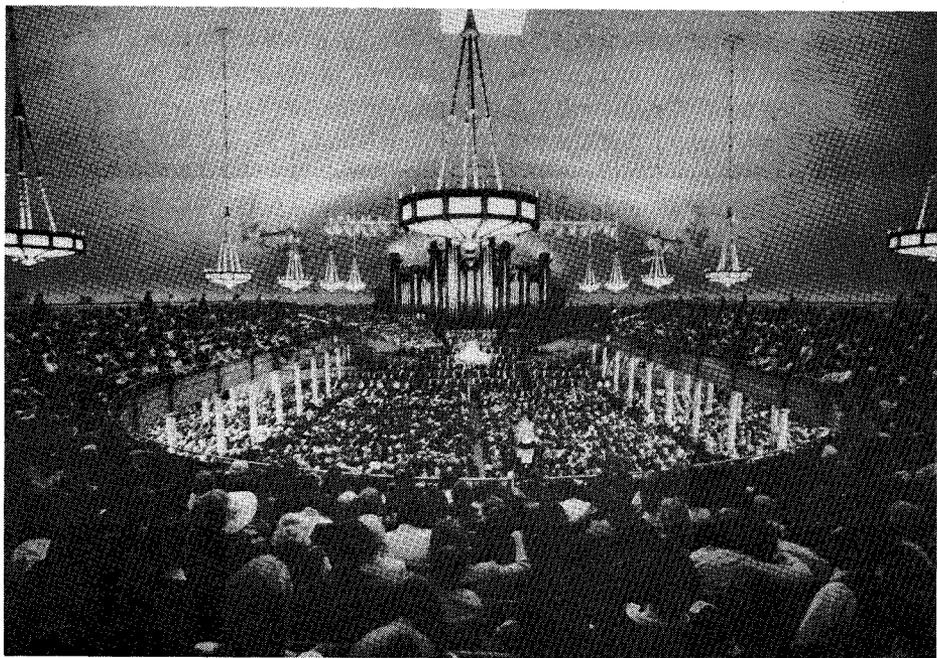
大管長会秘書

フランシス・M・ギボンズ

大 管長会は、1983年12月31日現在の教会の発展と状況に関する統計記録を以下のように発表しました。(会員数は大会までに提出された1983年度報告書による概算)

教会ユニット

ステーク部数	1,458
地方部数	343
伝道部数	178
ワード部数	9,329
ステーク部内の支部数	2,641



伝道部内の支部数 ……………2,024
 (1983年度内に、66のステーキ部と378のワ
 ード部および支部が増加したことになる)
 ワード部または支部の
 組織されている国……………90
 ワード部または支部の組織されている
 準州、植民地、属領……………17

教会員数

教会員総数 ……………5,400,000
 (1983年度末現在)

1983年度内の会員数の増加

子供の記録の増加 ……………112,000
 子供のバプテスマの数……………69,000
 改宗者のバプテスマの数 ……………189,419

一般統計

出生率(1,000人当たり) ……………24.5
 結婚率(1,000人当たり) ……………11.1
 死亡率(1,000人当たり)……………4.0

神権者

執事 ……………229,000
 教師 ……………169,000
 祭司 ……………335,000
 長老 ……………444,000
 七十人……………32,000
 大祭司 ……………190,000

宣教師

専任宣教師……………26,565

系 図

1983年度内に神殿エンダウメントのために
 処理した名前数 ……………4,288,303

神 殿

1983年度内に執行されたエンダウメント数
 生者 ……………5,116
 死者 ……………4,364,928
 儀式を行なっている神殿……………25
 建築中、または計画中の神殿……………17
 年度内に閉鎖した神殿……………1

1983年度内に6つの神殿が献堂され、
 1984年度中にも6つの神殿が献堂される予
 定です。(問題が生じた場合、献堂が1985年
 に延期される神殿も出てきます)

教会教育制度

1982-83年の在席者数
 セミナリー、インスティテュート
 (特別プログラムを含む) ……………389,258
 教会経営の学校、大学、生涯教育……………68,707

福祉活動

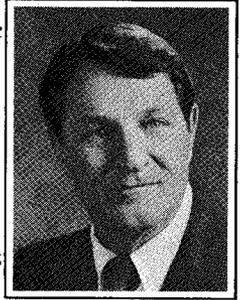
社会福祉課の援助を受けた人 ……118,672
 有給の職業に就いた人……………25,460
 労働奉仕日数累計 ……………339,375
 倉庫からの監督の注文 ……………305,891

昨年4月以降に死亡した著名な会員

十二使徒評議員会会員マーク・E・ピー
 ターセン長老、十二使徒評議員会会員ハワ
 ード・W・ハンター長老夫人クララ・メイ・
 ジェフス・ハンター、元管理監督会副監督
 故カール・W・ビューナー夫人ルシール・
 サーマン・ビューナー、元管理監督会副監
 督故ジョン・ウェルズ夫人マーガレット・
 アン・ニューマン・ウェルズ、前中央扶助
 協会書記フランシュ・ブラック・ストダー
 ド、前中央日曜学校会計係ポール・ベンジ
 ヤミン・タナー。

「永遠の神が定めたもうた大計画」

十二使徒定員会会員 ニール・A・マックスウェル



高邁な末日の啓示を源とする偉大な祝福の中に、驚嘆すべき救いの計画という重要な福音の計画があります。これは幸福を与える計画、憐みの計画とも呼ばれます。(アルマ42：5，8，15参照)表現はどうあれ、これはアミュレクが述べている「永遠の神が定めたもうた大計画」(アルマ34：9)であり、これなくして人類はことごとく滅びてしまうのです。

この計画は、イエス・キリストの福音の全貌を見事に表わした驚くべき例と言えます。さらに、主イエス・キリストに対する完き信仰に至るには、御父の救いの計画への完き信仰が必要とされます。

ブリガム・ヤング大管長はこう語りました。

「……救いの計画を知り、神のみ前に通じる道をそれずに進むためには、啓示のみたまが一人一人になければならない。」(ブリガム・ヤング説教集 9：279)

この計画は、非常に重要であり、その内にとどまるか否かによって人は見通しを失い、悲惨な状況に陥ることにもなります。事実、人類の悲劇のほとんどは、救いの計画に対する無知もしくは不従順の結果なのです。この世におけるそうした悲劇は、この計画に従おうとしない限り決してやむことはないでしょう。この大切な知識を私たちに惜しみなくお授けくださっている主が

この計画の基について「自由に」(モーセ6：58)教えるようにと言われたのはそのためです。

御父のこの計画の中心におられるのは、人類の贖い主であられるイエス・キリストです。しかし予言されているように、多くの人たちがイエスを「つまらぬ者」(I ニーファイ19：9)と判断し、また「あたりまえの人間と思」(モーサヤ3：9)っています。たとえほかの人々がイエスを否定し、見下そうと、私たちにあってイエスは主であり救い主です。兄弟姉妹の皆さん、比較の点から言えば、人が私たちのことをどう考えるかはあまり問題ではありませんが、私たちが主をどのように考えるかは大変に重要なことです。また人が私たちのことをいかなる人物かと言うかも問題ではなく、大切なのは私たちがイエスをどんなお方と見るかなのです。(マタイ16：13-17参照)

たとえば、私たちは単にイエス・キリストの偉大な神性のみならず、その息をのむほどの行動力と羊飼いとしての管理の範囲の広さを認め、高く評価しています。復活されたイエスは、メシヤとして生きた中東の地を再び訪れ、続いてアメリカ大陸の人々のもとへ(III ニーファイ11参照)、さらにほかの失われた羊のもとへも行かれました。(III ニーファイ17：4参照)

主はこの思いやりある計画の中で、人の子らのためになることでなければ何事もなされません。(II ニーファイ26：24参照)主はモーセやエレミヤが述べたように、私たちが「つねにさいわいで」あるように、絶えず愛をもって働いてくださいます。(申命6：24。エレミヤ32：38-40も参照) 主の偉大な計画の中にあつて、主の「業」と「栄光」とは、「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらず」(モーセ1：39)ことです。このように、たとえ私たちが心から神を愛するようになって、最初に愛して下さったのは神なのだということを謙虚に肝に銘じなければなりません。(I ヨハネ4：19参照)

さて、シェークスピアの「この世はすべて舞台である」との言葉(「お気に召すまま」第2幕第7場)は大体当を得ていると思いますが、舞台は舞台でも劇を演じるための舞台ではありません。

この計画という言葉は、父としての神の目的の成就、すなわちこの世の舞台の上で混乱し絶望した人々が切望しているものを実現することを確約するものです。

「幸福を与える計画」は、私たち一人一人に不死不滅の体を約束するのみならず、さらに良い人格を持った人間へと生まれ変わることも保証してくれます。「おお私たちの神の計画の偉大なことよ」(II ニーファイ9：13)と述べた予言者の言葉は言い得て妙です。エノクは、目の前に展開する歴史と人類の不必要な悲劇を見て涙を禁じ得ませんでした。(モーセ7：41参照)しかし、彼は神の計画の勝利も見たのです。別の予言者がこう叫んでいます。

「……神は、われらが亡びないように……これらのことを示し……われら自身も愛し

たもうから……また憐みの心が深いので神の使たちをわれらにつかわして……われらにも救いの計画を示したもう。」(アルマ24：14)

天使の訪れは近代にも見られました。それは、神の救いの計画を再び教え、この世での生活が最終的な墓場となるのではなく、死をもって人類が消滅しないことを私たちに確信させるためでした。

アルマは「霊も肉体も一しよにみな消えてなくなってしま」(アルマ36：15)うかのような恐ろしい苦しみの瞬間を経験しました。そのとき、「神の子であるイエス・キリストと言うお方が、世の人の罪を贖うためにこの世へ来りたもう」(アルマ36：17)という父の予言を思い出します。そしてこの非常に謙虚な状態になったときに、アルマは心の中でこう嘆願します。「神の御子イエスよ、……私を憐みたまえ。」(アルマ36：18)

こうして目的が苦痛にとって代わり、みくらにまします神を見た思いがしたときに喜びは失意を飲みつくし、アルマは神と一緒にいたいと思ったのです。(アルマ36：22参照)

この天の家への希求は、この世での生活がどう意図されたかを考えたときに特に現実味をおびてきます。兄弟姉妹、結局私たちは美しい景色や偉大な絵画、音楽に接したときに喜びを覚えますが、それは、過去に別の場所で獲得した本能のひらめきにすぎないのです。

しかしながら人生は、機会と選択、そして祝福の略奪を含む、綿密に組み立てられた試しと訓練の場ということも事実です。さらに言えば、避けて通ることのできない、必ず通過しなければならぬ道なのです。

「通過」するとは何と大変なことでしょう。

しかし過ちを犯しやすい私たち人間のために、この憐みの計画には過ちを認めて修正し、中断された進歩を回復する機会も与えられています。

失ったものを取り返し、精練する場は備えられています。勇敢なペテロは、ちゅうちょしたために渦巻く波間に沈みかけましたが、どなたを目指して生きるべきかを知っていて、「主よ、お助けください」（マタイ14：30）と叫びました。温厚なモーセは、イスラエルの民の悪と指導者としての重圧と闘っていました。（民数11：11,14,29参照）またニネベに行かずにタルシシに行こうとしたヨナはやはりニネベに行くことになりましたが、そのことで思いやりに関して偉大な教訓を得ました。過ちを犯したオリヴァ・カウドリ、マーテン・ハリス、そ

れにトーマス・B・マーシュは、靈性を回復し、西部に渡って再び教会に加わり、救しを得、救いの計画とそれを宣言した末日の予言者たちを支持して、みずからの悔い改めを証明しました。

兄弟姉妹、このように神に最も忠実で洗練された人生最高の期間は、往々にして最も暗い時期のさ中、あるいはすぐあとに来るものなのです。

したがって、まさに主の訓練の段階にある人が主に対して不平を言うのは、何と皮肉なことでしょうか。この死すべき世を信仰によって歩かねばならないという現実には怒りを覚える人も同じです。しかし、実利的でしかも靈的であったブリガム・ヤング大管長はこう言いました。「事実を認識するだけでは救いに通じる信仰は得られない。」（「ブリガム・ヤング説教集」p.154）



また、あまりにも短いこの世での生活ですから、通過するための決まったルートがいくつかあるはずで、楽なルートや大変なルート、また短いルートや長いルートもあります。したがって、たとえ信仰をもってしても、私たちは大胆にもこれらすべてのルートを、常にすべての人に対してふさぐことはできません。また完全な、永遠にわたるビジョンがあれば、決してそうはしないでしょう。

記憶のある部分を制限されている私たちは、世の初めから終わりまでを見ることはできません。しかし神にはそれがおできになります。一方私たちは今、右も左もわからない状態と言えましょう。しかしそのような中であって、たとえ自分の身边で起こっていること一つ一つについて説明できなくとも、神が私たち一人一人を完全な状態で愛してくださっていることはよくわかります。(I ニーファイ11:17参照)

このまゆのようなこの世の教室の中で、私たちの視野はさえぎられています。唯一、「永遠の神が定めたもうた大計画」に対する信仰と知識が与えられているだけなのです。

したがって、救いの計画に関するキリストの教義は、まさしく私たちの行く手を照らす導きの聖典と言えましょう。主の福音のガードレールはまっすぐで狭い道にそって伸びており、道をそれようとする私たちを押し戻し、守り、ときには揺さぶりをかけて私たちの霊の目を開かせてくれます。

この偉大な計画は、抽象的な神学よりむしろ、日常生活に目を向けさせます。その真理は、私たちが自分自身やほかの人々、人生、主、そして宇宙に対する見方を決めるきわめて重大なものです。また、赤子、死、

世の誉れや賞賛に対する考え方にも同じように影響を及ぼします。救いの計画は事物の意味を知る源として主要なものであり、どのような試練にあっても私たちを守り、育ててくれるのです。

この計画の真理と、それに従った結果を考えるとき、私たちは偉大な書物とつまらない広告、復讐と正義、怒りと義憤、快樂と幸福の違いを知ることができます。

このように、神の救いの計画を理解すれば、人生における喜びや努力、苦しみと訓練、そして忍耐の経験は、私たちを、救い主が「われと同じ人物」(III ニーファイ27:27)と言って招いておられる状態にまで高めるために、それなりの役目を果たしていることがわかります。もし望むなら、私たちはそのような人物になれるのです。

この個人の進歩には、ときとしてシオンの陣営の行軍や行く手をはばむ断崖、そして北メキシコの移住地での試練といった特別クラスが必要となります。しかし、こうした特別な試練の機会を経てこそ、特別な人物が送り出されるのです。しかしそうしたエピソードについて、起こった場所は問題ではありません。問題は、それらがすべて第二の位であるこの試しの世で起こっているということです。

したがって、この計画を知り、それにおとなしく従うとき、自分で条件をつけられるならば喜んで降伏すると神に向かって言うことはできません。無条件降伏に条件はないからです。

救いの計画そのものがすべてにわたって完全なものであっても、その計画の示す標準から大きくそれた生活をしている人に真の幸福はもたらされません。また欺かれるのではないかと思っただけで悩む人も幸福は得ら



れませんし、この世的な会堂での地位を失うことを思い悩む人にも誉れを得る場は与えられないのです。(ヨハネ12：42-43参照)

この計画によれば私たちには心配してくださる御父と救い主が与えられていますが、これを信する者たちが世俗のとどまることを知らない心配事から自動的に免れることができるわけではありません。

この計画は、現代人の選択の自由を見事に強調しています。(II ニーファイ 2：27参照) しかし、今私たちが置かれている状況のある部分は、かつて自由意志に基づいてなされた、今は忘れられている契約の結果です。

救いの計画は常に進むべき道を示してくれますが、その道をならしてはくれません。個人の進歩にとって、「必ずその反対のもの」(II ニーファイ 2：11)がなければならぬからです。

主は主の計画について、私たちに必要な知的、霊的な確認を与えてくださいますが、それはあくまでも主が定めたもうた条件と方法に従うことによって得られるのです。

「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教

が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7：17)

確かに、死すべき人間が犯すあらゆる過ちの中で、神の救いの計画を誤りであるとする過ちは決して犯してはならないものでしょう。その過ちほど後々にわたって重大な結果を招く過ちはないからです。

またこの教会とその民が、費用と労力を惜しまずこの計画を教える完全な福音を宣べ伝えるのは、以上のことを考えれば当然のことです。

また主がこの計画を簡潔に、繰り返し教えるよう望んでおられることもうなずけます。

当然のことです。この計画は神の計画であり、私たちの計画ではないのです。人間の計画がこの世の問題の解決に辟易しているときに、何と喜ばしいことでしょうか。さらにこのことについて、ヤコブは私たちが代弁してこう書いています。「キリストの身代りの贖罪のことを話して……何のさしつかえがあろうか。」(モルモン経ヤコブ 4：12) 兄弟姉妹の皆さん、キリストの贖罪は、神と救い主キリストが幸福を得るためのこの大計画をもって進まれるとき、人

類のあらゆる歴史の橋渡しをすることになるでしょう。この計画の中で、神は私たちが幸福になることを望んでおられますが、それにはまず選択の自由を得なければなりません。

この死すべき世における選択の自由という賜について考えると、神の祝福に満ちた、人に進歩を得させる目的についてすばらしい事柄がわかってきます。しかし、その自由の乱用は恐るべき結果を私たちの身に招くのです。

しかしながら、私たちはこの世の舞台上、憐みの偉大なひととき、慈愛の靈感あふれる瞬間、そして感動的な無私^{みづかみ}の精神や人知れず絶え間なく示される勇氣ある行為を、信条や皮膚の色を問わずあらゆる民の間に見ることができます。

これは驚くにはあたりません。私たちがどなたの霊の子供なのか考えてみてください。(ヘブル12：9参照)

したがって、当然のことながらこの地上の学校は、いくつかの輝かしい勝利を生み出しこそすれ、歴史は個々が犯す過ちで満ちているのです。しかし学校やカリキュラムのせいにすべきではありません。まして校長のせいにするなどとてもないことです。また生徒の立場にある私たちは、御父に向かって説教をすべきではありません。さて、兄弟姉妹、末日において主の弟子になることは公園でピクニックをするようなものだとはだれも言いませんでした。

過去の苦難の時代が私たちに導きを与えてくれます。古代においてイエスの来臨が間近に迫ったとき、たくさんのしるしがありました。「疑い」(IIIニーフай8：4)を抱く者もまだいました。しかし忠実な者たちは勝ち、その正しさが立証されたのです。

当時、信じる人たちを公然とあざける者たちがいました。信じる人たちの信仰をあざけって「騒ぎ」を起こし、キリストに従う者たちの信仰が水泡に帰すだろうとほくそ笑んでさえいました。(IIIニーフай1：5-7参照)しかしそうはなりませんでした。信者たちは信仰を守り、信仰は信者たちを守ったのです。

しかし、現代にあってみたまとの調和を得ている人々にとって、安寧^{みんねい}の基は、かのエリシャの召使の若者と同じところにあります。敵の大軍に囲まれているのを見た若者は、いみじくも予言者であり聖見者であるエリシャに導きを求めました。答えはこうでした。「恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。」(列王下6：16)しかしこの若者の目にはどうしても予言者の言うようには見えませんでした。そこで予言者が彼のために祈ると、目が開けて、「火の馬と火の戦車が山に満ちて」(列王下6：17)いるのが見えました。

これからも、昔同様主の誓約を守る人々には次の主の約束がごだましてくるからです。

「そして彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。わたしは彼らに一つの心と一つの道を与えて常にわたしを恐れさせる。これは彼らが彼ら自身とその後の子孫^{こいご}の幸を得るためである。わたしは彼らと永遠の契約を立てて、彼らを見捨てずに恵みを施すことを誓い……」(エレミヤ32：38-40)

私はこれらのことを、使徒の権能とイエス・キリストのみ名によりお約束いたします。アーメン。

誓約、儀式、奉仕

七十人第一定員会会員 A・セオドア・タトル



一 この数年の間、私は伝道部長ならびに
二 神殿長として働いてきました。そして、若者たちが南米に伝道に来たり、エンダウメントや結び固めを受けに神殿にやって来るのを見てきました。

このような祝福を授かるのによく準備のできた若者もいれば、それほど準備のできていない若者もありました。しかし、何よりも心配だったのは、準備のできていなかった若者たち、つまり伝道や神殿にまったく来なかった人々です。私はなぜなのか不思議に思いました。

そのような若者の中には、少数ながら、伝道の召しや神殿の祝福を受けられるようにあらゆる努力を払ってきた家庭の子供もいました。しかしほとんどは、資格を身につけさせ、また奉仕の望みを起こさせるのに必要なことを教えなかった家庭の子供たちでした。

青少年に伝道に出、神殿の祝福を受ける備えをさせるためには、親は学校教育や職業への備えもさることながら、それ以上に考えておかなければならない大切なことがあります。宣教師になりさえすればよい、つまり伝道に出さえすればよいという考えだけでは、確かに十分ではないのです。

誓約、儀式、奉仕という3つの言葉を私たちは心に留めておかなければなりません。

誓約、儀式、奉仕について教えるのは家庭においてです。親が何にもまざってこの

3つのことを心に留めているならば、子供たちは備えを受け、将来の職業のために必要な訓練を受けそこなうこともありません。

新しいチャレンジ

父親も母親も、親としての義務を果たすために神から教えを授けられています。これまで私たちが行ってきた事柄だけでは、この危険な時代にある子供たちを守るにはもはや十分とは言えません。この業が神の業であるとの自分自身の証を持たなければ、だれも耐えられないときが来るということは前々からこの教会で教えられてきましたが、ついにそのときが来たのです。私たちは、証のない人が真理に背を向け、罪の犠牲になっていくのを目にしています。彼らを失って私たちがも嘆いています。また正しい原則を教えなかったり、信仰の弱い者に疑いを起こさせたり、あるいは誤った考えを公然と教えて彼らを背教へと押しやったりした人々も、悲しむことになるでしょう。誓約と儀式を受け、奉仕をしない若者があまりにも多すぎます。私たちの家庭に対する悪の攻撃は、これまでになく狡猾で、しかも大胆になっています。その犠牲になっている家庭もあります。こうした悪の影響から逃れるのは容易なことではありません。

しかし、もっと賢明に行動すれば難を逃れることができます。聖典には、「……もし

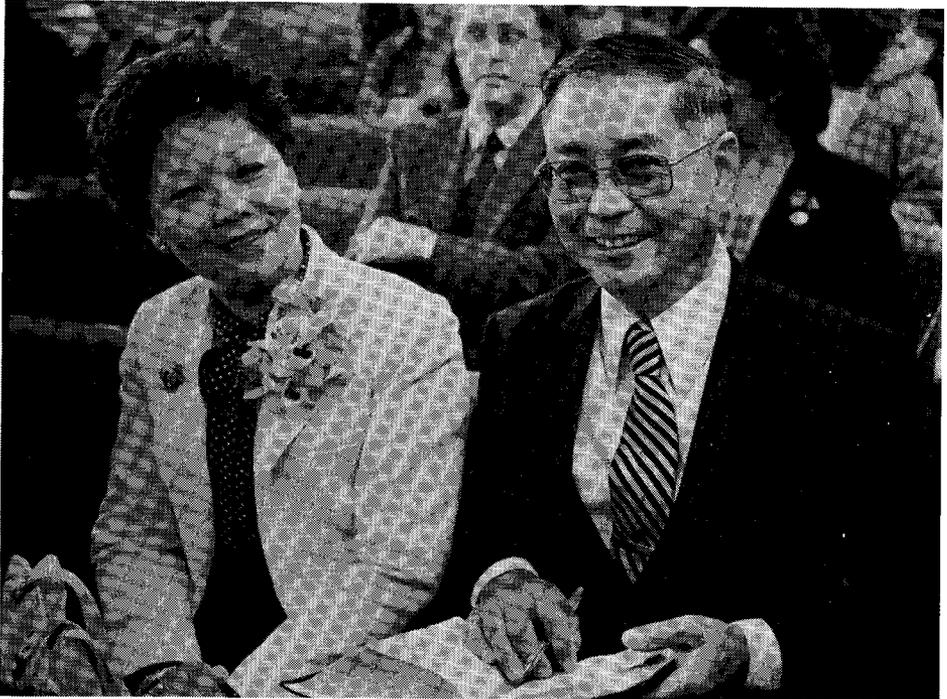
汝らに備えあらば怖るることなからん」(教義と聖約38:30)とあります。解決方法は簡単です。しかもその結果は確実です。子供の教育について教会がその責任の大部分を果たしてくれるものと思っはなりません。親に第一の責任があるのです。子供に福音の原則と儀式を教え、奉仕に励むようにしつけることについて、親は主から完全にその責任を問われるでしょう。もちろん、教会はホームティーチャーや訪問教師、レッスン、カウンセリングなどを通して両親を援助します。したがって、主から授かったこの義務を果たすにあたって、教会ではどの親もひとり取り残されたと思っはなりません。

教会の最近の調査で、私たちの目的を実現するうえで親にできるいくつかの事柄が明らかになりました。ディーン・ラーセン

長老はその結果を次のように報告しています。

「若い人々の個人的、宗教的な生活や望ましい結果を達成するうえで何よりも大きな影響を及ぼすのは、家庭における宗教上の習慣である。定期的な家族の祈りがあり、福音や聖典の勉強が定期的に行なわれ、基本的な価値観が一致している家庭で若い人々が育ったなら、彼らが伝道に出、神殿結婚する確率はぐっと高くなる。家庭や家族から受けるこの影響は、友達の影響や、教会のプログラムや活動に参加して受ける影響よりもはるかに重大である。事実、家庭の影響は、よかれあしかれ圧倒的に大きい。」(地区代表セミナー、1983年4月1日)

お気づきかと思いますが、3つの重要な事柄があげられています。定期的に家族で祈ること、定期的に家族で聖典から福音を



学ぶこと、そして親子の間に基本的な価値観の一致があること、この3つです。誓約、儀式、奉仕を正しく理解するのにこれほど大切なことはありません。

家族の祈り

両親の皆さん、ひざまずいて行なう家族の祈りで毎日を始めてください。子供たちは祈り、自分で聖霊からの知識を得る必要があります。ニーファイはこのように述べています。「あなたたちがもし祈らねばならぬことを教える『みたま』の言葉に聞き従うならば、あなたたちは祈らなくてはならないことを覚^{さと}るであろう。悪魔は祈れと人に教えず……」(II ニーファイ32：8)

聖典の勉強

集会統合化プログラムになってから、家族で聖典を学ぶ機会が多くなりました。安息日の良い点は、個人でも、家族と一緒にの場合でも、聖典の勉強をするにはまさにうってつけの日だということです。

聖典の勉強ほど霊的な成長の糧となるものはあまりありません。救い主は、「聖文を持っている者はよくそれを研究して、……調べ……よ」(III ニーファイ10：14)とされました。聖典をよく調べるなら、すばらしい霊的な真理を悟り、キリストを私たちの偉大な模範として信頼することができるようになる、と主は約束しておられます。主と誓約を交わし、儀式を受け、奉仕したいという望みが強められるのです。アルマはヒラマンに大切な原則を教えました。こう言っています。「わが子よ。……神の命に従って生きよ。」(アルマ37：47)

父親、母親の皆さん、子供を本当に教えたいと思ったら、何をしますか。救い主のように教えたいとは思いませんか。救い主は質問を使い、聖典を引用し、たとえ話や

物語を用い、証をされました。また、日常の経験の中からあらゆる機会をとらえて霊的な真理をお教えになりました。さらには、学ぶのにふさわしい状況を作り出し、ただ説教するのではなく、聞く人々に考えさせるようにされたのです。

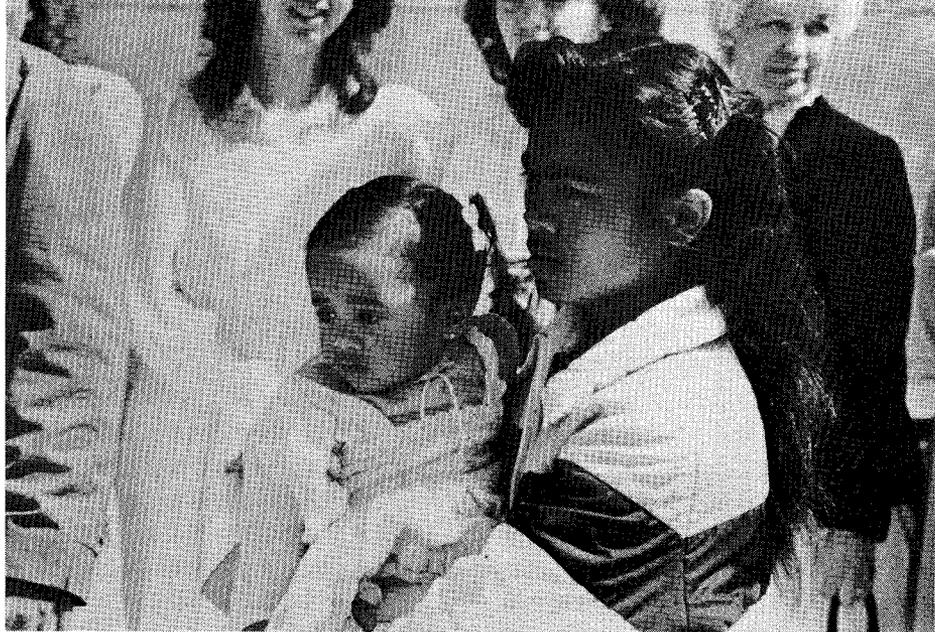
私の知人は、食事どきを利用して子供たちを教えています。福音に関する質問を2、3するのが習慣になっているのです。彼いわく、十代の子供を必ず引きつける方法があるそうです。それは、「当たったら1ドルあげよう」と言うのだそうです。

基本的な価値観の一致

私たちはみたまによって教えようとするとき、誓約、儀式、奉仕の大切さを最優先して考えます。

誓約とは、強制力のある約束を互いに行き交わすことです。「汝^{なんじ}らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82：10)福音の誓約は神と人との間で交わされるものです。その条件は主がお定めになります。福音の誓約は啓示によって与えられました。主はこうした誓約と儀式を私たちに与えてくださったのです。それらは私たちが主のみもとに帰るために不可欠なものです。

罪の赦しを受けるために水に沈められるバプテスマは、どうしても主と交わさなければならない誓約です。そして、この儀式を受けるに先だって求められるのが信仰と悔い改めです。確認と聖霊の賜を授かるための按手礼は、バプテスマの後に行なわれます。この第一原則と儀式を受け入れることにより、私たちは罪の赦しを受け、救いを約束されるのです。私たちは、聖餐の儀式にあずかることによってこの誓約やそのほかの誓約を定期的に新たにし、また交わ



した誓約を守ることによって主のみたまを授かります。

同様に、聖なる神権も誓約によって授かるものです。神権は奉仕する力です。ほかに、神殿でエンダウメントや結び固めを受けるときに主と誓約を交わします。これらの誓約は昇栄を約束するものです。子供たちに次のことを教えてください。これまで述べたような儀式を受け、また誓約を交わさない限り、決して昇栄し、天父のようになることはできません。信仰を持って終わりまで耐え忍び、人々を愛し、人々に仕えるときに、私たちは必要な徳や人格を高め、主と共に住むにふさわしい者となることができるのです。

したがって、奉仕は最も重要な徳のひとつになります。救い主は利己心を捨てた奉仕の模範です。奉仕は神から命じられた務めなのです。ベンジャミン王は、人々のために働くのは神のために働くのと同じことである、と教えています。(モーサヤ2：17参照)

皆さんが自分たちは子供に誓約を交わし、

儀式を受け、奉仕をするための備えをさせているのだということを忘れなければ、今とは違った教え方ができるでしょう。優先順位も異なってくるでしょう。また、もっとはっきりしたビジョンを持ち、実のある努力をもって教えることもできるでしょう。そうすれば、伝道に出、神殿に参入する若人が急増するだけでなく、こうした祝福を受けるための資格をさらに身につけ、また早いうちから奉仕に励むようになるでしょう。

皆さんの子供たちがこれらのことを行なうならば、彼らは終わりの日に高く上げられるでしょう。そしてよみがえって、永遠の生命に導いてくれた皆さんをほめたたえることでしょ。

親の私たちが心から子供に福音を教えたいと望むときに、主は子供たちの心を開いてくださいます。その瞬間が訪れたときに、私たちには彼らを教える神聖な義務があることを理解できますように。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

賢明な選択ができる世代を育てる

前中央若い女性会長 イレイン・A・キャノン



キンボール大管長、きょうこの場に大管長をお迎えできることは私たちにとってこのうえない祝福です。ヒンクレイ副管長、ベンソン会長そして教会幹部の皆さん、私は今話されたタトル長老に特別に敬意を表したいと思います。長老は長い間若い女性のアドバイザーを務めてくださいました。心から敬愛申しあげています。

これまで大会のたびに幾度も足を運んできたこのタバナクルで、今こうして説教壇に立ちながら私の胸は感激で一杯です。このような時期に私は誕生日を迎えますが、私は9歳の誕生日にこのタバナクルですばらしい説教を聞きながら過ごしたことを今でもはっきりと覚えています。そしてきょう、その説教の役目を授かったことを心からうれしく思います。

私たちは今ここに主のみ名によって集まっています。私たちは真理のみ業に携わっているのです。皆さんと同じように、私もこの教会の会員であることを心から感謝しています。昨日、私は興味ある経験をしました。最近ある会合で、女性に神権が授けられたらどうなるかという内容の話が出たのですが、神権を持つこと (holding the priesthood) についてどう思うかと私に尋ねた方がいました。私ははっきりとこう言いました。「神権者 (訳注: the priesthood, ここでは夫のこと) が夕食に戻ったら、一番に抱きしめたい (holding) と思っていま

すわ。」ありふれた冗談ですが、それが私の答えでした。今こうしてすばらしい、しかし重い責任から解任されて、私は自分の愛する夫が帰宅するときに、そしてかけがえない家族が集まるときに、その場にいたいという気持ちで一杯です。

きょうここで話したいと思っていることは、深い感謝の気持ちと大きな関心の念から湧きあがってくることばかりです。最初に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。私は、ダーガー姉妹、スミス姉妹、そして若い女性中央会長会の幹部書記を務めてくださったパーマー姉妹と共にすばらしい若い女性のための奉仕の業を心から愛し、絶えず愛を注いで参りました。そして今共に助け合い携わってきたこのみ業に、私たちは大きな喜びを感じています。

私たちは平安と信頼の中で働いて参りました。また主の助けを求め、常に大きな支えを感じることができました。このようにして導かれてきたことに心から感謝しています。私たちは奉仕に喜びを感じている者です。きょうここで解任された、若い女性中央管理会の魅力あるすばらしい忠実な方々に心から感謝申しあげます。

ほかの組織や補助組織の指導者の皆さんと共に働けたことに、またいろいろな部門の方々に、またこうした組織を運営する教会の偉大な機構に感謝しています。私たちはそれらのすべてに感謝しています。

そうした親しいつながりから離れ去ることは少々寂しい気持ちがありますが、しかし私たちは新たに召された方々を見て心に慰めを覚えています。私たちはアーデス・カップ姉妹を心から愛しています。カップ姉妹は極めて有能な方で、彼女がきょうこの大切な責任を引き受けてくださったことを誇らしく思います。前にも言いましたように、私たちは何年にもわたり立派な神権指導者から特別な導きをいただいて参りました。その指導者の方々を私たちは深く敬愛しております。また心から感謝しております。

私の心からの愛は、今キンポール大管長に向けられています。約6年前に私の頭にキンポール大管長の手が置かれ、私はこの責任に召されました。そしてみ業に働くための特別な祝福を受けたのです。愛にあふれたこの偉大な愛すべき神の僕は、まさしく予言者です。立派な紳士であられる大管長は、以前「実行」ということを言われました。大きな喜びを持って、私も今このタバナクルでそう申しあげたいと思うのです

が、そうおっしゃった大管長が私たちと教会の若人について話し合っているとき、このようにおっしゃったのです。「若者たちに伝えてください。悪いことは決して実行に移してはならないと。」

先日、新しくできた教会歴史美術博物館の献堂の祈りの中で、ヒンクレー副管長は、忠実な聖徒たちの什分の一の献金によってその建物が完成したことを私たち全員に思い起こさせてくださいました。さらに、什分の一を守っている人々を心にかけ、天の窓を開いてひときわ勝った祝福を注いでくださるようにと天父に願ってくださいました。

あのとき、私は自分の心の中で様々な思いをめぐらせていました。というのも、若い女性のために行なわれたあらゆる事柄について、新たな観点から見つめられるようになっていたからです。たとえば、善良な人々が納めた什分の一によってテキストや手引き類が発行され、個人の進歩のためのさまざまな機会や指導などが可能になりました。皆さんの什分の一や献金に、そして皆さんの奉仕に私たちはどう感謝したらよいかわかりません。

兄弟姉妹の皆さん、この教会には善良で才能豊かな人々がいます。これが私の学んだもうひとつの大きな教訓であり、そのことに私は深く感謝しています。この責任にある間、私は行く先々で有能な女性指導者や頼もしい神権指導者に会い、幾度となく驚異の目をみはって参りました。彼らは皆、教会が設立された地から遠く離れた所で成長された方々です。飛行機を降りると、無数の見知らぬ人々の中に光輝く顔があるのです。そしてお互いがキリストの弟子であること、この教会の会員であることがわかるのです。実にすばらしいことです。天父はこれまで何度も、教会の若者たちを信



頼の置ける忠実な人々に育てるための助け手として、立派な人々を養成してこられました。

これまで受けてきたすばらしい機会をあとにする今、私の思いは自然と私がかこれまで抱いてきた関心事に向けられています。私たちはいつでも賢明な選択ができるような世代、辛抱強く耐え忍べる世代を育てていかなければなりません。神と誓約を交わすことを心から望み、それらを守る人、また神のみ言葉を学びそれを宣べ伝えていく人々を育てていかなければなりません。会長会にある私たちはいつもこのことを念頭に行動して参りました。また私たちは長い歴史を持つ MIA のすばらしい伝統を復活させてきました。実際ここにお集まりの多くの方々はそうした伝統の中で過ごしてこられたはずです。若い女性たちには毎年違ったテーマ聖句が与えられており、少女たちはそれを覚えて毎週暗唱しています。そしてその聖句について話をしたり、聖句を参考にして目標を決めたりしています。彼女たちの生活も聖句にそったものになってほしいと願っています。

今年度の聖句は、約束をテーマとしたニーフай第一書 3 章 7 節です。「私は主が命じたもうたことを行って行く。」「行って行く」、この言葉を何度も繰り返すのです。

きょうこのタバナクルにお集まりの皆さんや、放送をお聴きの皆さんには、教会の指導者として果たす責任以上に大切な両親としての責任があります。私は教会幹部の方々が話された事柄にまったく同感です。このニーフай第一書 3 章 7 節の暗唱聖句は、次代を担う若者たちが生活の中で体得していかなければならないことなのです。数年前にキンポール大管長が言われたように、彼らは、主の再降臨の前に道を備える誓約の民として、準備をしなければなりません。

せん。

この歴史的なタバナクルにお集まりの皆さん、また放送で大会をお聴きの皆さんは、本国語に翻訳されたメッセージをお聴きのことと思います。皆さんが神のみ言葉をよく理解できるように、このような方法がとられているのです。私たちが着席しているこのタバナクルの会場の下では、各ブースの中に大勢の通訳者たちが働いています。彼らの姿を目にする人々は心温まる思いがすることでしょう。彼らの中には若人も大勢働いています。主はご自分の子供たちに、本国語で福音を聞くようになると約束してくださりました。この教会はそれを実現させつつあるのです。私は、家族はお互いに天父なる神のみ言葉で福音を教え合わなければならないと思っています。家庭にあって導きが必要になったとき、問題や誤解が生じたとき、若者たちを傍らに呼びよせて聖典をひもとき、「祝福の基づく変わらざる律法」を私たちが見いだすことができるように願っています。神のみ言葉を通して神のみこころを学ぶとき、敬虔さや証や決意が生まれてきます。そしてどのような国に住んでいようとどのような政治体制のもとにいようと、私たちはだれもがより清らかな生活を送れるようになるのです。

私は福音を愛し、主を愛しています。またここにいらっしゃる教会幹部の方々が、特別な主の僕であるということに少しの疑いも抱いていません。このことに感謝しています。これまで奉仕の業に携わってこれたことを心からうれしく思っています。これまで私たちが抱いてきた同じ関心を心に抱き、貴いこれらの若者たちに備えをさせてくださる皆さんのような方々がおられることに、心から感謝申しあげます。これらをイエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

霧の中を通り抜ける

七十人第一定員会会員 W・グラント・バンガーター



キンボール大管長、この場集っておられる皆さんの気持ちをそのままお伝えします。大管長がよく私たちに言われたように、「私たちは大管長を愛しています」と申しあげます。

きょうの私の話のテーマは、これまでたくさんの方が取りあげておられるところを見ると、良いテーマだと思います。これから私は、霧の中を通り抜けることについてお話ししたいと思います。

この責任を果たすに当たって、私はいつも、かつてJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長が述べたいくつかの基本原則を思い出します。クラーク副管長はこのように述べています。

「教会として、また教会員の一人一人として、見落とししたり、忘れたり、隠したり、捨てたりしてはならないふたつの基本的なことがある。

第1に、イエス・キリストが……神の御子であること。

第2に、御父と御子が、実際に、……出現で予言者ジョセフに姿を現わされたこと。……原始教会の背教によって失われていた福音と聖なる神権がこの地上に回復されたこと。」(「教会の教育方針」ユタ州アスパングローブでの講演、1938年8月8日、p.3)

私はこの原則が真実なものであり、確かな神のみたまによってこの知識を啓示されたことを証します。

聖典に「^{よこしま}邪曲と^{むくい}応報」(モーセ7:60)に満ちたと述べられている時代にあつて、大管長会はステーキ部大会を通じて教会員に特別なメッセージを送りました。「誓約を守ることによって、まっすぐな狭い道を歩む」というものです。

神より召された予言者の指導を求める私たちは、今こそ注意を払わなければなりません。戒めを無視している人は、何よりもまずこの警告に耳を傾ける必要があるでしょう。「滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいつて行く者が多い。」(マタイ7:13)

警告は不義なこと、つまり罪や邪悪な行ないに対して向けられるものです。ペテロはその罪悪を明確にしています。まるで現代のことを話しているかのように、「主を否定」することや、食欲のために「利をむさぼる」こと、ソドムとゴモラの罪悪の例、「非道^{いんこう}の者どもの放縦な行い」に触れ、「その目は淫行を追い、罪を犯して飽くことを知らない」と述べています。(IIペテロ2:1, 3, 6, 7, 14)

テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアや広告における表現、麻薬やアルコールなどを使用させようとする誘惑についてちょっと考えてみてください。金もうけのためには人の魂も売り物にし、売買しようという企てがあることが容易にわかります。

新聞記事や衆目に触れる表現には、「非道

の者どもの放縦な行い」(IIペテロ2:7)がしばしば伝えられています。私たちはこのような時代を、いわゆる「邪悪で不義な時代」(マタイ16:4)と呼んでいます。

確かに、私たちは絶えず邪悪な表現を浴びせられています。ちらりと現われては消え、現われては消えていくのです。時には、避けられないような形で現われることもあります。

私たちの社会には、依然として、^{かんいん}姦淫やポルノグラフィ、裸体、放縦の類を描いたものを青少年の目に触れさせるべきではないという考え方があります。それはもちろんそうあるべきですが、年齢制限をすること自体がそもそも偽善なのです。成人の既婚者に対しては、より重大な堕落を起こすものが提供されているからです。姦淫を犯すのは彼らです。家庭を壊し、その神聖な義務に背くのは彼らです。結婚している

人々が離婚し、誓約を破り、配偶者を欺いて、みずからの約束に誠実でなくなるのです。

また当然のことながら、そのような邪悪な行為をすることについても、そんなに悪いことではないと言います。世の中の実に多くの人々が容認しているのに、受け入れなかったり公然と反対したりすれば物笑いの種になるといいます。そして、紳士淑女ぶっている、頭が古い、いやに厳格で独善的な人間だと、まるで自分が罪人にでもなったかのように呼ばれ、人間のからだの「美しさや本性」を認めないのは悪意に解釈しているからだと言われかねないということです。

もう何年も前になりますが、ある夕方の聖餐会で、スミス兄弟という人が、世の中のことに對する教会員の姿勢について印象深い例を話してくれました。それは、スミ



ス兄弟が州の刑務所で犯罪者を更生する仕事をしていたときの経験でした。スミス兄弟はある母親から、拘留中の息子に手を差し伸べてくれるように頼まれていたのです。

その若者は最初、「ほっといてくれ」と言って、スミス兄弟をまったく受けつけませんでした。しかし、スミス兄弟はある日、刑務所内にどちらかというところのざんげいな絵が描かれているのを見つけました。調べてみると、その若者が描いたものだということがわかりました。そこで今度は別の方法で近づきました。

「君があんな絵を描いたのかい？」

「ああ、そうだよ。」

「なかなかいい絵だね。私にも何か描いてくれないかなあ。」

「さあ、どうかな。どんな絵がいいのかい？」

「それがまだ一度も見たことがないのだが。読んだだけで」と、スミス兄弟は言いました。

「どこにあるんだい。」

「この本の中にあるのだよ。モルモン経の第1ニーフアイ8章。そこを読んで、絵になるかどうか考えてみてくれないか？」

後でスミス兄弟は、若者にそこを読んだかどうか尋ねました。

「ああ、読んだよ。」

「絵になりそうかい？」

「ああ、絵になるよ。」

「じゃ、描いてくれるかい？」

「どうしようかな。」

そこでスミス兄弟は必要な画材を買って、その若者に贈りました。すると若者は初めて打ち解けて応じ、いい道具が使えると言って感謝しました。そして絵を描いたので、スミス兄弟はその絵を聖餐会に持って来ていましたので、私も見えています。それはもちろんリーハイの夢を描いたものです。

ところで、皆さんもその絵を想像してみてください。ニーフアイ第一書8章を読んだことのある人なら、だれしもその場面を思い浮かべることができるでしょう。まだ読んだことのない人は、ぜひ読んでその絵の印象や光景をとらえるようにしていただきたいと思います。

リーハイの夢はこのように説明されています。まずリーハイは荒野をさまよひ、それから大きな広い畑にたどり着きます。そこには幸福になるためにどんな木の実よりも好ましい実のなった木、神の愛があります。リーハイはその実を家族にも食べさせたいと思います。しかし、ふたりの息子は食べようとしません。その実を取ろうとして多くの人々が押し進んでいると、暗黒の霧が起こって道がよく見えなくなりました。道に沿って、滅亡を意味する川が流れています。道をそれないように鉄の棒が延びています。川の向こう側には大きな広々とした建物があり、軽べつ的な態度の人々で一杯でした。また道を進んで来ても世の人々のあざけりや高慢に負けてしまいやすい人々や、せっかく生命の木の実を食べても禁制の道に迷ってしまう人々もいました。

みずから末日聖徒と称する人々のこの世の影響力に対する姿勢を、この偉大な示現ほどはつきりと描き出しているものはありません。これは現実なのです。偉大な予言であり、現実的な警告です。

さて、先程の入獄している若者の話に戻りますが、スミス兄弟は汚れた川の上にひとりの天使が描かれているのが目に留まりました。そこで若者に尋ねました。「この天使のことはどこで知ったの？ 私は天使のことを読んだ覚えはないのだが。」

すると若者はこう答えました。「そうなんです。だけど僕がそこに置いたのです。これは僕の天使なんです。絵を描いているう

ちに、僕を悪の道から救い出して安全な道に連れ戻せるように、神様が僕の行く手に天使を置かれたのだということがわかってきたのです。」言うまでもなく、この経験がきっかけとなって若者は更生しました。

確かに、世間の声や誘惑は、善を悪、悪を善であるように見せかけます。神が存在しないかのように不道德な行為をしたり、家庭用のビデオでいかがわしいテープを見たり、際限なく快楽を求めたりするように仕向ける偽りの誘惑は、実は恐ろしい鎖で私たちを縛ろうとしているサタンが仕かけた、地獄のわななのです。

ずっと昔のことになりますが、飛行機の操縦の仕方を習ったことがあります。教官はまっすぐ水平飛行をしていました。やがて地平線に山並が見えてきました。そのときです。教官がこのようなことをしました。
〔訳注：ここでバンガーター長老は実際に動作をして見せています〕私は山々が迫っ



て来るのを見て、ぞっとしました。と思うと、飛行機は宙返りをしてまた元の正常飛行に戻りました。次に飛行機はきりもみ降下の体勢に入りました。くるくる回転しながら降下していきます。私には地球全体がまるで回転する巨大な車輪のように見えました。視界がすばらしくよかったこともあって、非常によく見えたのです。以来、急横転やきりもみ降下のような演習は何度も経験しましたが、もしきょうそれをする事になっても、山が引っくり返ったとか地球が回るとかいうふうには考えないでしょう。なぜかと言えば、それは経験によって現実というものを知っているからです。ですから、もうだまされはしません。

教会員にとって現実とは何でしょうか。それは、「イエス・キリストが神の御子であること。御父と御子が実際に予言者ジョセフ・スミスに姿を現わされたこと。福音がこの地上に回復されたこと」です。

私たちには正しい道から離れる理由がありません。鉄の棒をしっかりとつかんでいる限り、欺かれることはないのです。

讃美歌の中に、昔の聖見者ニーフアイを歌ったものがあります。ニーフアイもまた父リーハイの示現を見ました。

昔の予言者 ニーフアイの示現
みことばに鉄の 棒しめさる

この世の旅路の 誘惑のもと
闇を行くときに 危険の中に

誘惑近づき 道曇れば
その棒をたより み助け乞わん
強く正しき棒 とりてたよれ
そは神のみことば 導きまさん
〔「讃美歌」165番〕

イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

彼らの人生の炎で暖め させていただいた

前中央扶助協会会長 バーバラ・B・スミス



キンボール大管長、ヒンクレー副管長を初めとする教会幹部の方々、また愛する兄弟姉妹の皆さん。私は今、95歳の誕生日を迎えたある元最高裁判所長官のような気持ちです。彼はその日がいつもの誕生日と何ら変わらないものと思っていました。ところが、挨拶に立った自分の口からあふれ出たのは、人生を愛し、仕事や同僚を愛する言葉でした。

彼は言いました。

「私は人生の燃える炎の前で両手を暖めてきました。思い出という宝は私のものです。また、きょうある貴いものも私のものです。しかし、最良の人生は常にもっと先にあります。人生の真の魅力は、時という丘を越えた私たちの目の届かないところにあるのです。」

この方のように私も人生を愛しています。これまで9年半携わってきた扶助協会のこの仕事を、私は心から愛しています。大変で、骨の折れることもありましたが、とても素晴らしい仕事でした。そのあまりのすばらしさに過ぎ去った時間がほんの一瞬のように思えます。

今この転換期を迎えるにあたり、様々な思い出がよみがえってきます。私を助け、辛抱強く私の帰宅を待ってくれた夫。忙しい中を私のスケジュールに合わせてくれた子供たちや娘婿、嫁たち。よく私の模範になってくれたひ孫たち。共に働いた姉妹た

ち。彼らの姿や経験や印象の入り混じった万華鏡が今よみがえってきます。

献身的で才能があり、忠実に働いてくださった副会長のマリアン・R・ボイヤー姉妹や、ジャナス・キャノン姉妹、シャーリー・W・トーマス姉妹、アン・S・リース姉妹、また書記兼会計係のマヨラ・R・ミルテンバーガー姉妹の姿が見えます。私は彼女たちを心から愛しています。中央扶助協会でも働いてこられたすばらしい才能豊かな管理会員の皆さんの姿も見えます。また私個人の秘書や扶助協会ビルの接待主任、広報部の代表を務めてくださったモナ・B・ベネット姉妹などすばらしい姉妹たちの姿も見えます。

そのほか世界各地のステーキ部やワード部でも働いておられる誠実な扶助協会の指導者の方々や、この組織を構成している数多くの姉妹たちのお顔も見えます。そのような方々に私は心から感謝しています。

ここで私はキンボール大管長の言葉を繰り返すのみです。「主がこのすばらしい女性を祝福したまわんことを。」

確かに、私はこの方々の人生の炎で両手を暖めさせていただきました。私は彼女たちが、個人的な悩みや落胆、悲しみを克服してすばらしく成長していくのを見てきました。またこの方々が、家庭や隣人に愛と奉仕の業を施すのを見て参りました。

そして彼女たちの創造性を味わわせてい

ただ、成果を共に喜び合ってきました。日曜日の扶助協会の集会や、女性のための地域大会、ノーヴーで行なわれたような歴史的な行事などに参加し、姉妹たちの力の偉大さを感じてきました。ノーヴーはこの愛する組織の発祥の地であり、そこには女性を記念した美しい庭園があります。

私は、このタバナクルに大勢の姉妹が集い、扶助協会の創立50周年を祝ったときのことを読んでみました。会長のジーナ・D・H・ヤング姉妹はこう言っています。

「私の言葉がこのタバナクルにおられる兄弟姉妹の皆さんだけでなく、すべての人々に聞いていただけたらと思います。この大陸だけでなく、アジアやアフリカ、ヨーロッパ、そして海の島々に住むすべての人々に聞いていただき、理解していただけたらと思います。」

これはかつての偉大な指導者が単にもの悲しげに訴えているのではなく、もっと深い意味があると思います。それは、ちょうど今のような時代のために行なった主への嘆願だったのだと思います。

私は幼い頃、このタバナクルで行なわれたあるプログラムに参加したことがあります。そのとき、決して忘れることのできないある感情にかられました。そのときはそれが何なのか理解できませんでした。私の胸に、いつかこの建物の中で大勢の教会員の方々の前に立つことがあるかもしれないという気持ちが湧きあがったのです。

子供のときに受けたこの示現は、1974年に扶助協会の大会で、中央扶助協会の会長に支持されたことにより実現したかのように思いました。しかし、今確信を持って申しあげますが、私が見たのはきょうのこの日のことだったのです。そしてジーナ・ヤング会長のような祈りがあったればこそ、福音の真理を宣言する私たちの声が世界中

に届くようになりました。その真理は耳を傾けて理解しようとする人々の心にしみ通るものです。

私は、予言者や十二使徒が神から召された方々であることを誇りを持って証いたします。彼らは、神の導きと聖霊の力によって教会を正しく導いています。

教会の女性には大切な仕事があります。その仕事には、人格の力とイエス・キリストに対する信仰、世の光となる純粋な心、この世を争いと悪で包む暗闇と戦う正義の城壁が必要です。

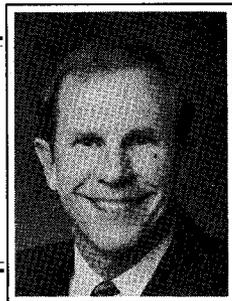
私は皆さんを愛しています。新しく召され支持された扶助協会の会長を深く愛しております。扶助協会が立派な方の手にあることを知っています。この組織はこれからも成長前進し、いろいろな面で神の娘たちの生活に恵みをもたらしてくれるでしょう。それは真実です。神が生きておられ、イエスがキリストであり、私たちの救い主、贖い主であられることと同様、それが真実であると全身で感じております。

人生の一刻一刻を大切にし、時という丘のかなたのどこかで天父や救い主と再びまみえることができますように。イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申しあげます。アーメン。



家庭を天国のように

七十人第一定員会会員 ジーン・R・クック



スミス姉妹、教会のすべての姉妹、そして兄弟を代表し、お礼を申しあげたいと思います。スミス姉妹、キャンノン姉妹のお働きに心から感謝しています。

数年前、ある家族の家が真夜中の火事で全焼してしまいました。近所の人が偉大な原則を教えられることになるとも知らず、家を失った7歳の子供を慰めながら言いました。「ジョニー、家が丸焼けになって本当に大変だね。」ジョニーはちょっと考えてから言いました。「ブラウンさん、そうでもないよ。焼けたのは家で、ぼくらの家庭じゃないもの。ぼくたちの家庭はちゃんと残っているよ。ただ、今その場所がないだけなんだよ。」

子供から何と偉大な原則を教えられたことでしょうか。家庭という言葉はあなたの心に何を思い起こさせるでしょうか。ある人にとっては城であり、食事をする所であり、眠りにつく所です。またこの世で必要なものを保管する所でもあるのです。

しかし、ある人にとってはもっと霊的な意味があります。それは家族のいる所であり、自分の心が宿る神聖な所、邪悪なこの世を離れた憩いの場なのです。

しかし静かな細い声は私の心にもっと深い意味をささやきます。家庭は天国であると。この地上での我々は皆他人同士です。私の本当の家庭はこの世ではなく、天にあ

ります。私が後にしてきた天にある家庭と同じような家庭をどのようにしてこの地上に築くかということが、私に与えられた課題なのです。主は私たちが「生まれる以前から霊界において基本的な教えを受け、主の定められたときに出て行って人の救いのためにぶどう園で働く準備をしていた」と言われました。(ジョセフ・F・スミスー死者の贖いに関する示現56参照)

このように私たちはぶどう園で一生懸命働くよう教わったのです。ぶどう園での働きの大部分は、(それが一番大切なことなのですが)家庭でどのような働きをしたらよいかを知るということです。そのために私たちは最も偉大な教師であられる主より教えを受けているのです。ですからこの世で私たちが自由意志を使って再び教わるということは、骨肉の体で実際に教育を経験し再認識するということなのです。

以前教わったことをどのように思い出し再認識できるのでしょうか。主は次のように答えておられます。「祈りなさい、そうすれば人々の信仰と清い行ないに応じて創世の前から備えてある贖いの計画を示すであろう。」(アルマ12:30参照)主は「またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう。」(ヨハネ14:26)「また国民の記憶の力が強くなるである

う」(アルマ37：8参照)と言われました。

家庭や家族という言葉に口をすると、独身や未亡人の方あるいは離婚された方、ひとり住まいのお年寄りの方は、自分たちには関係のないことと思われるかもしれませんが、しかし思い出していただきたいのは、私たちをそれぞれの成長のためにこの世にお送りになったとき、私たちが霊的にもこの世的にも家族を通して成長できるよう計画されたということです。主は全世界をそのように組織されたのです。永遠の生命を受けるには、それ以外に方法はありません。

それでもある人は「私には家族がありません。ひとりぼっちです」と言うかもしれません。忘れないでください。あなたは今まででもそうであったように、永遠に神の家族の一員なのです。あなたは神の息子、娘なのです。

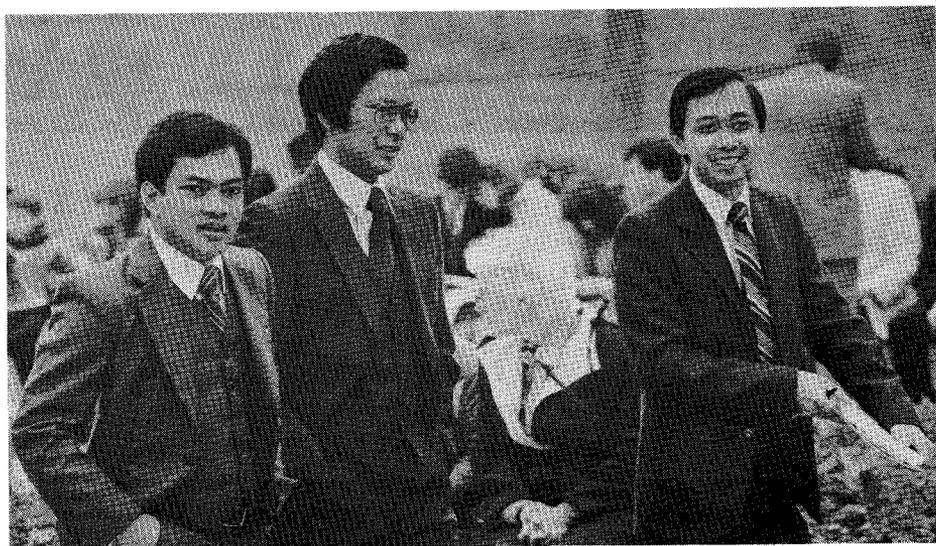
あなたの両親や伴侶、兄弟、姉妹が教会員であるかどうか、生きているかどうかは一切関係ありません。彼らはあくまであなたの家族なのです。あなたが最後まで正しく忠実に歩むなら、現在の状態がどうであろうと何らかの家族の絆に結ばれるのです。ですから私たちは、親であろうと兄弟、姉妹であろうと、あるいは祖父、祖母、おじ、おば、子供であろうと、または結婚しているといまいと、昇栄の準備として家族生活の原則をできる限り学び実践しなければならないのです。これが主の方法であり、主から見た家族という言葉の定義なのです。

「ゆえに、地上にあるすべての家族、その大小を問わず、また地上に生けるすべての魂よ、主の言葉に耳を傾けよ。そうすれば主は家族という天の組織がいかに神聖なものかお教えになるであろう。」

兄弟姉妹の皆さん、少しの間皆さんが前

世で天上の大会議、そう、神様の大家族会議に出席していると考えてください。神は私たちに次のようなことを言われなかったでしょうか。

1. 「地上における結婚は、神の人に定められるところなり。」(教義と聖約49：15-16；131：1-4参照)
2. 「神聖なおきてにより、お前たちは神の協力者として地上に子らをもうけるなり。」(創世1：22, 28；IIニーフアイ2：22-23；教義と聖約132：63参照)
3. 「家族という単位は個々の霊的、肉体的成長の最小かつ基本的単位なり。」(モーサヤ4：14-15；教義と聖約68：25, 28参照)
4. 「心をつくして主なる神を愛することを子らに教えよ。」(申命6：5-7参照)
5. 「互いに愛し互いに助けよ。」(モーサヤ4：15参照)
6. 「朝も昼も夜も家族と共に折れ。そうすれば、これらの教えをすみやかに憶えさせよう。」(IIIニーフアイ18：21；アルマ34：21, 27；教義と聖約68：28参照)
7. 「悔い改めの原則、生ける神の子キリストへの信仰、バプテスマ、聖霊の賜、神権の誓約、神殿の儀式などを子らに教えよ。」(教義と聖約68：25, 27；132：19参照)
祖父、祖母、おじ、おばである皆さんは大きな力になれるはずです。
8. 「家族の財産を聖別し、惜しまず主に捧げよ。」(教義と聖約42：30-31；ヤコブ2：17；教義と聖約119：1-7参照)
9. 「子供をおこらせてはならない。」(エペソ6：4参照)



10. 「また悪魔に仕え互いに争ってはならない。争いの種をまかないように。」(モーサヤ4:14参照)

神は次のようにも言われたと思います。

11. 「父たる者よ、汝らは真の靈的指導者とは何かを世の中ではなく、家庭にあって学ぶであろう。

母たちよ、汝らは他の全と異なる神聖な召しがある。小さな子供たちを私のようにするために育てなければならない。

幼な子のようにならなければだれも私のもとにもどることはできない。」

12. 「生ける予言者と聖典からあなたの義務を学べ。」

13. 「最後に、親というこの神聖な職の故に、私は聖霊を通して最も大切なことを汝に教えん。すなわち、私に近くあり、へりくだって助けを求めよ。」

おそらく天父はこうもつけ加えられたはずです。すなわち、「わが子らよ、世の強い

影響力に負けぬよう多くの警告を与えん。」

1. 「世の人々は家族をなるべく小さくするよう勧めるであろうがだまされてはならない。『子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである』(詩篇127:4-5)という言葉覚えよ。」

2. 「この世にあっては、家族のことをまず第一にしなければならない。家族への教えや活動を準備するとき、きまってそれを侵害しようとする者があるであろう。しかし忘れてはならない。あなた方がその責任を持つ第一人者であり、その成功は常にその神聖な関係にどれほど注意を傾けたかによって計られるのである。」(教義と聖約88:119参照)

3. 「家族とできるだけ一緒になるように努めなさい。家族を離ればなれにするような活動や人々を避けるがよい。その愛の深さのため人をうれいさせ、悲しませ、くじけさせることもあろう。」(II

ニーファイ1：14，21参照)

4. 「子供たちは父や母の教えに心しなければならぬ。主なる我が両親を与えたことを覚え、両親を敬え。」(出エジプト20：12参照)

5. 「世に出て行くにあたり、子供たちよ、次のことを忘れてはならない。すなわち、私のように祖父母や曾祖父母、あるいは親でも、ひとたび親になったら永遠に親であるということ。家族を司る責任は代々続き、子の心を父に向けるというみ業の助けをするのである。家族との交わりを避け、自分の好きなことだけをするという誘惑を断ち切れ。祖父母として、その知恵と経験から家族を親密にさせることができるはずである。まことに家族は主なる我が汝らに与えたものである。」(モーサヤ2：5参照)

兄弟姉妹の皆さん、神は最後に次のように言って話を終えられたと思われます。

6. 「わが子らよ、これらのことをすべて覚える必要はない。それらを教わるときが来れば、すでに知っているようななつかしさがこみあげてくるに違いない。それはあなた方すべてが天の家で聞いたことだからである。(I ニーファイ15：8，11参照)

汝らは子供を育てていくときに、この私が汝らに対して経験したと同じ苦しみを味わうであろう。(教義と聖約133：52-53参照)しかし恐れてはならない。『われは天の衆群とわが天の使たちに汝らをあずけたり。』彼らは『天より来れば汝らを囲みて、懐きささえん。』(教義と聖約84：42，88参照)これは汝らにとり我々の教えを経験する

すばらしい機会である。みたまの勧めに従え。我々は汝らを深く愛している。」

兄弟姉妹の皆さん、終わりにあたり次のことを言わせていただきます。

親である皆さん、何があろうとも家に帰ってください。

子供の皆さん、皆さんはどこにあっても、またどのような失敗や問題、罪を抱えていても常に家族から愛されているのです。家に帰りなさい。

祖父母の皆さん、そして兄弟、姉妹、おじ、おばの皆さん、家族をひとつにまとめてください。家庭にもどってください。家庭という概念を誉れ高いものに保ってください。主は初めからそのように定めておられるのです。

私も自分の祖父母、そして妻子を誇りに思っています。家庭を世界中で一番すばらしい所としてください。私にとってこの地上で家庭以上に居心地の良い所はありません。

最後に、私たちがこのすばらしい家庭をたたえて次のように歌う日が来ることを祈ってやみません。

高きに栄えて 住めるわが父
いつ、かえり行きて み顔を見るや

み親は一人か 深く思えば
永遠の真理は告ぐ 天に母ありと
この身を横たえ 世を去るときに
父母と高きにて われは会えるや
仰せのみわざみな 成しとげしとき
受け入れみそばに 住まわせたまえ
(「高きに栄えて」讃美歌140番)

イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

祈りの方法

十二使徒定員会会員 ブルース・R・マッコッキー



— のたびラッセル・M・ネルソン、ダ
— リン・H・オックス両兄弟が、主イエス・キリストの特別な証し人として立つよう召されたことをうれしく思っています。おふたりは靈感のみたまにより主から召されました。そして、これから永遠に主の家にあって、義の柱としてしっかりと立っていかれることでしょう。

私は、深い感謝の念で圧倒されんばかりです。また、主が私に示してくださった恵みに心が躍る思いです。

主はこの私に、苦しみ^{しみ}を味わい、いろいろと思ひ悩み、主の癒^いしの力を味わうことを許してくださいました。多くの方々の信仰と祈りに心の底から感謝いたします。また私のために捧げてくださった皆さんの心からの願いが恵みのみ座にまで達したことをうれしく思います。

私たちは神の子です。その神が喜んでくださるのは、私たちが断食と祈りを通して主の祝福を求めるとき、心から熱望することを全身全霊を込めて願ひ求めるとき、そしてパウロが述べていたように、「あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこう」(ヘブル4:16)とするときです。

祈りは、私たちが創造主と交わり、助言を求める手段として創造主が授けてくださ

ったものであり、純粹で完全な礼拝の「隅のかしら石」となるものです。

祈りの中で私たちは主に語り、主は私たちに語りかけてくださいます。私たちの声をいと高き所で聞いていただけること、またみたまによって運ばれた主の答えを耳にすることができるということは、私たちに与えられた特権です。

祈りは、私たちの生活を変えます。祈りによって私たちは主に近づき、そして主は私たちが同じ状態に踏みとどまることがないように、その指を私たちに触れてくださるのです。

祈りは力の偉大な塔、尽きることのない義の柱、山をも動かし人を救う強力な力です。祈りを通して、病人は癒され、死人はよみがえり、聖きみたまは忠実な人々に限りなく注がれるのです。

祈りの中で私たちは、生涯主を愛し、主に仕えるという厳肅な誓約を交わします。そして、いと高きお方に身を捧げ、聖式を捧げるのです。

さて、緑の牧場に伏し、憩^いのみぎわに伴う人々のために捧げられる特別にとっておかれた祈りがあります。これは罪の荒野に住む人のためには捧げられない祈りです。

以上のことを心に抱きながら、私の胸の内にある祈りを紹介させていただきたいと

思います。これは皆さんの心にある同じような思いとひとつになり、賛美と嘆願、称賛と感謝の力強い合唱となって高きに昇り、いと高きみくらで主に聞いていただけることでしょう。

私たちの捧げる祈りは、暗記した祈りや形式的な祈り、同じ言葉の繰り返しではありません。祈りはみたまの導きを求めるものであり、その時々が必要にあったものであるはずで、次々に起こるいろいろなことに同じ言葉で祈るなどということは考えられないことです。しかしながら、以下のような思いを伝える言葉を私たちの祈りの中で用いるのは妥当なことだと思われま

す。お父様、イエス・キリストのみ名により願い求めます。私たちの口より出る言葉に耳を傾けてください。あなたのすべてを見通す目で私たちの心にある思いを見分け、私たちの正しい望みをかなえてください。

私たちは、あなたのみ前に参り、王座の前で身をかがめ、あなたを父と呼べることを大いなる特権であると感じています。そして、あなたが私たちの叫び声を聞いてくださることを知っています。どうぞ私たちが聖霊の力によって語ることができるよう

に。それから、この死すべき世における祝福や、不死不滅の永遠の生命にあずかる機会があることを主に感謝するときには、次のようなことを述べるとよいでしょう。

お父様、私たちに命を与えてくださったことを感謝しています。なぜなら私たちが天の家から遠く離れて巡り歩くこの試しの世は、ほかの方法では決して得られない経験を得るためにあるからです。

私たちは、あなたが偉大にして永遠なる救いの計画を定め、打ち立ててくださった

ことを感謝します。そのおかげで、あなたの子供である私たちは、すべての事柄に忠実かつ誠実であることを条件に、進歩成長してあなたと似た者になる力を与えられました。

また、あなたの聖なる御子イエスを救い主、贖い主としてお送りくださったことを感謝いたします。それによってあなたの偉大にして永遠なる救いの計画の条件がすべて完全に機能し、私たちは死や地獄、悪魔、そして尽きることのない苦しみから救われることとなりました。

ああ、主と主の祝福されたみ名は何と美しいことでしょう。肉体と霊の両方の死から贖ってくださったことに私たちは限りなく喜びを覚えます。私たちとあなたとのとりなしをしてくださるお方、私たちに罪を着せず、かえってご自分の身を打たれるに任せて私たちを癒してくださったお方に誇りを覚えるのです。

父よ、その独り子をお与えくださったことを感謝します。御子を信じることによって私たちが滅びずして永遠の生命を受けられるようにしていただきました。またゲツセマネでの血と苦しみ、カルバリでの血と苦痛を通して、私たちが悔い改めることを条件に私たちの罪をその身に負っていただきました。

ああ、キリストと呼ばれる主イエスを私たちは何と愛していることでしょう。イエスは聖なるメシヤであり、私たちの主、神王、そして神会を構成する偉大なお方として私たちの礼拝の対象となっているお方です。また、かの大いなる日に主の前に答なくして立つことができるよう私たちは衣をその血で清めるのです。

この時代における栄えある福音の回復に



ついでに祈りは、次のような言葉で述べるとよいでしょう。

私たちの先祖たちの神よ、あなたがこの時代に私たちのためになさってくださいましたことに感謝し、喜んでいきます。

私たちは心から、福音を回復していただいたことに感謝しています。神のみ声が再び聞かれ、それまで閉ざされていた天が開かれ、神権とその鍵、光明と真理とを携えた聖なる天使たちが訪れて、私たちに導きと恵みを与えてくださいました。

1820年の春にあなたとあなたの愛する御子がジョセフ・スミスのもとを訪れて、時満ちたる神権時代の訪れを告げてくださったことを思うとき、私たちの心は畏敬の念で満ちあふれます。

あなたがモロナイを送ってモルモン経を

世に現わし、モーセを遣わして世の「エジプト」から神のシオンにイスラエルを集める力を私たちに授け、またエライジャを送って、地上でつなぐ力と、この世での行ないを天において永遠に結び固める力をお授けくださったことに驚きを禁じ得ません。

私たちはエライヤスがアブラハムの福音を回復してくれたことをどんなに感謝していることでしょう。このことによって誓約の子である私たちは、家族という単位を永遠に持ち続けることができるようになりました。

御子の贖罪を通して、私たちと御父との和解が可能となったことについては、以下のように祈るのがふさわしいと思われま。

お父様、あなたは私たちにあなたと心をひとつにすることをお教えになり、私たち

に啓示や示現をお授けくださいました。私たちはあなたの民であり、与えられた召しと選びにふさわしくありたいと願っています。

あなたはこれまで私たちの中で奇跡を行なわれ、私たちに聖典をお授けくださり、特にこの時代にあなたの言葉を現わしてくださいました。また、あらゆる真理に導かれ、身も霊も清められるように、聖霊の賜を授けてくださいました。

これらのことについて、私たちの感謝の気持ちはとどまるどころを知りません。またこうした事柄のために、私たちはあなたの聖なるみ名を永遠にあげめることでしよう。

私たちはあなたの前に罪を告白し、赦しを求めます。私たちとあなたとの間に何者をも置かず、あなたのみたまを絶え間なく受けられるようにするためです。

地上に神の王国を確立することについては、私たちの必要としていることを次のように述べるとよいでしょう。

どうぞ地上の王国であるあなたの教会を祝福してください。あなたのみ手の力ある器として古代のシオンの再建、はたまた来たるべき新エルサレムの建設のために働くことができますように。

またあなたの古代の予言者が予言したように、イスラエルの失われた羊をすべての国のシオンのステーキ部に集めることができますように。

あなたの回復された福音をすべての国民、血族、国語の民、世の人々に宣べ伝える力をお与えください。あらゆる国々の扉を開いてください。

あなたの御子の来臨のために人々を備えるというあなたからの使命を完^まうさせてく

ださい。また私たちがそれぞれの先祖を見いだし、あなたの聖なるみ名に捧げられた宮居において彼らの救いと昇栄の儀式を行なうことができますように。

ああ、私たちにあわれみがありますように。私たちの弱さに耐えてくださいますように。私たちはあなたに信頼を寄せています。あなたは私たちの神であり、ほかに神として仰ぐ方はいません。私たちが礼拝と賛美と感謝を捧げるのはあなたに対してなのです。

私たちのこの世におけるいろいろな問題については、私は何のためらいもなくこう話します。

私たちは、家畜の群れのために、野にある果実のために、また、つるや木が伸びるように願い求めます。また風や雨を静め、災害から私たちを守り、私たちのかごや倉が一杯になるよう願い求めます。

私たちには食物と衣服と住居が必要です。また栄養と仕事が必要です。また仕事や事業には知恵が必要です。

どうぞ私たちの必要に応じてこれらのものをお与えください。貧しくも余るほどもなく、私たちにほどよい食物をお恵みください。

私たちの救いの備えとなる個人的な祝福については、次のような言葉で心にある思いを述べるとよいでしょう。

家庭にあって夫と妻が共に愛し合い、互いに結び合えるように祝福してください。また光明と真理により、子供を育てることができるよう。そして、主の薫陶と訓戒^{くんかい}によって育てられた子供たちが、義なる父たちにならって父母を敬う者となるように祝福してください。

おお、父よ。私たちの中には、永遠の伴

侶を得たいと望んでいる人々、また得るにふさわしい人々が大量にいます。彼らの前に道を備えて、彼らがその心に義なる望みを抱くことができるように祝福してください。

私たちの中には病気の者、悩める者がいます。病に苦しむ者、まだ死の命を受けない者がいます。ああ、偉大な医師であられる神よ、あなたの聖徒たちに癒しの力を注いでください。

おお、神よ。私たちの信仰を強くし、今よりも多くの病人が癒され、死人がよみがえりますように。

しかしそれにもましてお願いいたします。癒しの神よ、癒しの翼を持って来た者たちが私たちの霊をも癒してくれるようにしてください。

また私たちが清くあり、聖なる民となれますように。私たちは何よりもまず聖きみたまを伴侶としたいと思っています。古代の人々が祈ったように、私たちも聖霊が受けられるようにと祈ります。

おお、父よ。私たちはみたまの賜を受けて喜び、またさらに多く与えられんことを願います。私たちの中に証と啓示と示現と奇跡とが何倍にもなって増し加えられますように。私たちに永遠の奥義、すなわち目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心にまだ入り込まない事柄についてお教えください。

そして、結びの言葉、誓約、嘆願としては、以下の事柄を表わす言葉を選んで用いるとよいでしょう。

そして最後にお父様、御子があなたとひとつであられるように、私たちも御子とひとつになれるようお導きください。私たちは救いを求めています。永遠の生命を望んでいます。あなたのみもとに帰り、アブラ

ハム、イサク、ヤコブのほか、この世に出た一切の聖い予言者と共に席を得て再び天の王国を去ることがないように、願い求めます。

死すべき人間としてこの地上にある間に、あなたの御子のみ顔を拝させてください。そして主がこう言われるのを聞くことができますように。「私の父に祝福された人たちよ。来なさい。あなた方はあなた方の主の喜びに入るであろう。あなた方の召しと選びは確かなものとなった。あなた方は私と共同の相続人であって、父の持てるすべてを受け、所有し、受け継ぐであろう。」

私たちの永遠のエロヒムであられる神よ、これまで述べたすべての感謝の言葉と祝福の嘆願につけるあなたのみこころを承知している私たちは、あなたの前に誓約します。私たちはあなたがくださった戒めを守り、生涯あなたを愛し、あなたに仕えます。

私たちはこう誓約します。これより後私たちは、咎なく、忠実に、従順に、また信頼にすべて応え、互いに対する愛の心を持ち、あなたの民、牧場の羊、選ばれた民であることを言葉と行ないで示しながら、あなたがお示しくださった道を歩みます。

以上述べた言葉は私たちの気持ちや望みを表現するものとして、祈りの中で主に申しあげるにふさわしいものです。

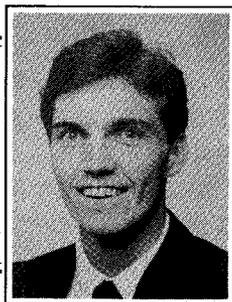
こうした賛美と嘆願、称賛と感謝の合唱に加わり、祈りの言葉にそった生活をしようとする人々は、この世においては平安を、来たるべき世にあつては永遠の生命を得ることができると私は信じています。以上が私自身の、私の家族のそして全イスラエルの祈りです。

主イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

伝道：あなたしか決められないこと

ブリガム・ヤング大学第6
ステーキ部第1ワード部

デビン・G・ダラント



兄 弟の皆さん、このように皆さんの前に立つことができ、光栄に思います。初めに、教会でよく取りあげられるテーマ、審判についてお話したいと思います。

ブリガム・ヤング大学ではバスケットの試合の前に、審判が両チームのキャプテンをセンターサークルに呼んで、儀式ばった無意味な言葉を繰り返します。実際に大切なことは何ひとつありません。ところが、ノートルダムと試合をしたときのことで、審判を務める私の友達が、このミーティングで深く考えさせることを言いました。「今晚私たち審判は一生懸命にやる。多少のミスはあるだろうが、君たちもベストを尽くしてくれ。」

私はその言葉を胸に、試合に臨みました。あと数分で試合終了というとき、ノートルダムの大きな選手が、リバウンドしたボールに飛びつこうとした私を突き倒しました。私は床に倒れたまま、審判を見上げました。なんと審判は私を指差し、私の反則をとったのです。その判定に驚きながら、私は立ちあがり、審判に笑いかけながら言いました。「試合前に言ったことは正しかったよ。」彼はきょとんとしていました。「多少のミスはあるって言ったけど、今のは大きかったね。」私たちは互いに顔を見合わせて大笑いし、試合を続けました。

私は、多くのむずかしい判定を大観衆の

前で即座に下す審判を、心から尊敬しています。しかし人生には、審判の下す判定よりもはるかに重要な決定があります。それは時間をかけてじっくりと考え、祈り、自分自身で下すものです。そのひとつが、伝道に出るか出ないかの決定です。私は小さい頃からずっと伝道に出たいと思っていましたが、いざ書類を送る段階になって、躊躇ちゆうちゆうしました。考えなければならない様々なことが、心に重くのしかかってきたのです。伝道に出るのは、1年を終えてからがよいのか、2年を終えてからか、あるいは大学を卒業してからがよいのか、わかりませんでした。いろいろな考えや思いが浮かんできて、どうにも決心がつきませんでした。それに伝道に出て、私にとっては貴重なメッセージでも、それを人に伝えるだけの知識が自分にあるか疑問でした。私はたくさんの人に相談しました。多くの方は快く意見を聞かせてくれました。すぐに出るべきだと言う人、待った方がいいと言う人、中には、行くべきじゃないと言う人もいました。今行くか、待つか、やめるか、もしこの質問を皆さんにしたとしたら、皆さんはどのように答えてくださったのでしょうか。

おそらく、私が話しに行った立派な神権指導者のように答えてくださったことでしょう。私は彼のところへ行き、自分の置か

れている状況について説明しました。その指導者は、私の話を忍耐強くまた関心を持って聞いてくれました。そして、伝道後にバスケットを続けられる可能性について私が自分の気持ちを述べると、心にしみる次のような助言を与えてくれました。「デビン、もし君が伝道に出て忠実に働いたら、帰ったとき、今よりすばらしいバスケットボール選手になれるだろう。」

私はその人を心から信頼していたので、彼がみたまに導かれて語っているのだと感じました。また、この言葉は伝道に出るすべての運動選手にではなく、私個人に与えられたのだと感じました。人によって状況は異なるからです。彼は、私に助言することはできました。両親も友人たちもできました。しかし、だれも私の代わりに伝道に出ることはできませんでした。伝道に行くのは私であり、私以外のだれも私の伝道について決定を下すことはできません。自分で決めなければならなかったのです。

私が伝道に出たいと思ったひとつの理由は、伝道が父と母に与えた影響を見てきたからです。家庭の夕べで、父はよく伝道時代のことに触れました。父の伝道の召しについて話してくれました。父は伝道に出たいと思っていましたが、それを祖父に話すと、思いとどまるように言われました。父の家は、ユタ州のアメリカンフォークで養鶏場を営んでいました。祖父は健康状態がすぐれなかったので、自分ひとりでは養鶏場をやっていけないし、伝道資金を出すこともできないだろうと感じたのです。

メルビン・グラント監督がやってきて、その問題について家族と話し合いました。祖父が監督に、息子を伝道にやることはできないと言うと、祖母は椅子から立ちあが

ってこう言いました。「ニワトリの世話は私が出します。息子のジョージは伝道に行きますよ。」

こうして父はイギリスに行きました。伝道に出てから数カ月後に届いた祖母の手紙には、こう書いてあったそうです。「ニワトリはおまえがどこにいるかを知っているのでしょう。今までこんなに卵を産んだことなんてなかったのですから。」

1980年の春、私は宣教師訓練センターに入り、スペインのマドリードでの伝道に備えてスペイン語を習い始めました。訓練センターにいるとき、私は正しいことをしていると確信しました。心の中には、伝道から帰ってバスケットボールをしたいという願望がありました。しかし同時に、たとえ二度とバスケットボールができなくなったとしても、自分の決めたことを後悔すまいと決意しました。

私はスペインで、「ダラント長老」と書かれた小さな名札を胸につける特権にあずかりました。「長老」という肩書きは、これまで目にしたどんな称号よりも、栄えあるものでした。私は宣教師として、たくさんの経験をしました。人々が福音を受け入れてくれたときには、言葉に表わせない喜びを味わい、福音のメッセージを拒む人に出会ったときには、深い悲しみを感じました。

最もすばらしい思い出のひとつは、1981年の夏に始まります。私たちは午前中いっぱい、街頭伝道をしてビジネスマンに教会について話しました。昼になる頃には暑くなり、疲れてきたので、そろそろ休憩しようと思いました。私たちは近くの公園を通り抜けることにしました。道を歩いていくと、若い人のグループが目に入りました。そこで、私たちはメッセージを聞く気持ち



があるかどうか確かめることにしました。

近づいていくと、うさんくさそうな目でこちらを見ました。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であることを告げると、ちょっと笑い声が起こり、あざけるような言葉が返ってきました。聞きたくないことは明らかなようです。しかし、その中にひとり真剣なまなざしで私たちを見ている少年がいました。そこで私たちはギターを持ったその少年に的を絞って、話しかけました。「なにか弾いてくれませんか。」彼はにっこり笑うと、ギターをかかえて弾き始めました。

弾き終わったところで、私たちはもう少し自分たちのことについて話し、メッセージを伝えました。少年の名前はホセ・マニユエルと言いました。それから少し話をし

て、別れぎわに「また別の日に教会についてお話できませんか」と尋ねると、少年は言いました。「喜んで。僕はほとんど毎日公園に来て、犬を散歩させるかギターを弾いていますから。」

私たちは立ち去るとき、この少年がバプテスマを受けるとは夢にも思いませんでした。数日後に同じ場所に行くと、うれしいことに彼がいました。尋ねてみると、話を聞くと言うので、公園のベンチをふたつ持ってきて、私と同僚がひとつのベンチに、彼がもうひとつのベンチに座りました。私たちはホセ・マニユエルの目を見つめ、イエス・キリストについて話しました。終わりの方で、モルモン経を紹介し、イエス・キリストが復活後にアメリカ大陸を訪問されたことを説明しました。そして、このす

ばらしい出来事について読むようにチャレンジしました。彼がそうすると言うので、モルモン経を渡しましたが、本を開くことさえしてくれるか疑問でした。

数日たち、モルモン経を読んだかどうか確かめに行くことにしました。驚いたことに、ホセは言われたところを読んだと言いました。しかも、その内容を友達に話すと、読んでみたいと言うので、あげてしまったとのことでした。もう1冊手に入りませんかと尋ねられ、私たちは何とかかなと思いませんと答えました。

その後も私たちは福音を教えていきました。彼の外見と心が変わっていくのがわかりました。ホセはバプテスマを望んでいました。

スペインのマドリードでホセ・マニエルと会ってから、3年近くになります。ホセは今では教会員です。そして数カ月前に、皆さんや私と同じように、ある決断を下さなければなりません。伝道に行くか、それとも行かないかです。行けない理由はすべてそろっていました。まだ日の浅い改宗者ですし、福音の知識も多くはありません。数年前にお父さんが亡くなっていたので、お母さんは彼に行かないでほしいとっていました。家族のだれもがそうでした。ホセには、18カ月の間伝道するだけの資金がありませんでした。さらには、伝道以前の問題として、兵役を全うする必要がありました。本当に八方ふさがりでした。

私たちは皆、伝道について考えるとき、行くべきでない理由をたくさん見つけることができます。しかし、こうした理由に惑わされず、その向こうにあるものを見すえる必要があります。大切なことは、行くべき理由を捜すことです。ホセ・マニエル

にはそれがありません。イエス・キリストは神の御子で世の救い主です。ジョセフ・スミスは示現を受けました。教会は真実であり、その教会によって彼自身の生活が変わりました。そしてホセは、出て行ってこれらの証を世の人々に宣べ伝えたいと願っていました。

ホセは伝道に出たいと思いました。そして、その召しを受けました。主の助けにより、すべてがうまくいきました。こうしたことは、いつも起こっているようです。彼は様々な障害を克服し、今スペインのパルセロナで伝道しています。

だれでも大きな障害に直面して、伝道に出るのは無理だと考えることがあります。私の父の場合、祖父が病気でした。ホセ・マニエルの家族は伝道に反対しました。私は、バスケットボールの選手として自分の将来を心配しました。私たちの直面する多くの障害は、私たちの心の中にあります。そこで少しの間、次のように考えている皆さんに、特にお話したいと思います。「ガールフレンドがいるから」「いい仕事に就いたし、車も買ったから」「学校の成績が悪くて、聖句やレッスンプランを暗記できないから」「知らない人と話すのは苦手だから」「伝道部の規則を守れそうもないから」「教会が真実であるという強い証を持っていないのに、それを人に伝えるなんてできやしないから」

こうした考えを持っている皆さんに申しあげます。今は十分な証がなくても、伝道中に得ることがができます。ガールフレンドのことは心配いりません。聖句やレッスンプランは、十分に学ぶことができ、うまく活用できるようになります。見知らぬ人に話しかける勇気も得られます。従順になれ

ます。皆さんはできるのです。

皆さんの中には、これまでの生活に照らして、自分の能力にとっても自信の持てない人がいるかもしれません。学力や社会性の面で卓越していないかもしれません。確かに、社交上のたしなみ、高い教養、経験豊かな指導力、話し上手などは、伝道に役立つ才能です。しかし、宣教師に真の力を与える源は、こうしたものをはるかに越えたところにあるのです。

私は最近、同僚として伝道しているふたりの宣教師について聞きました。一方の宣教師は多くの才能に恵まれていましたが、他方はそうではありませんでした。ふたりは、何度かレッスンを教えてきた家族から手紙を受け取りました。その手紙には、これ以上レッスンを受けないことにしたので、モルモン経を取りに来てほしいと書いてありました。

しかし一見才能豊かな長老は、自分の社交性と学識を駆使すれば、ご主人の気持ちを変えられると自信満々でした。その長老は家庭集会で、自分の持つ才能と技術をすべて使って家族を説得しました。もうひとりの長老は黙って聞いていました。そしてついにご主人は、レッスンを続けることに同意しました。

後にその家族のバプテスマ会で、有能な長老はあの晩のことを思い出して、いくらか得意になっていました。バプテスマ会が終わるとご主人が彼にこう言いました。「あの晩、私は気持ちを変えて、レッスンを続けて受けようと決心しました。私の生涯で最も大切な晩でした。あのとき、あなたの話を聞いても、私はもうこれきりにしようと堅く心に決めていたので、私にレッスンを続ける気持ちを起こさせようとして、何

を言うてくださってもむだだったのです。ところがふとあなたの同僚を見ると、彼の目がじっと私に注がれていました。その顔からは、これまで感じたことのないような愛が伝わってきました。私はみたまを感じ、その無言のメッセージを拒むことはできませんでした。そのとき、教会がこのような愛の源であるなら、私も会員になりたいと思ったのです。」

社交や教養に関して人並以上の賜があれば、伝道の助けになります。しかし、もっと必要とされるのは、愛、信仰、証といった内なる賜です。これらの賜において、すべての人は平等なのです。

健康であるならば、宣教師としてふさわしく自分自身を備えてください。障害をわきへ押しやり、伝道に出てください。

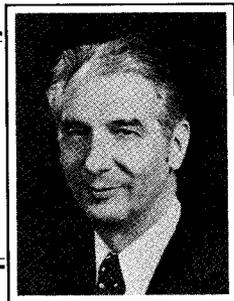
伝道、結婚、人格、奉獻、道徳など、あらゆる事柄について決断をするときに、主の祝福があるように祈っています。

私はスペインでダラント長老として働く特権に恵まれたことを、感謝しています。イエス・キリストは生きておられます。主はこの地上におられる間に、私たちの生きるべき道を教えてくださいました。主は私たち神権者に、主から受けたものを携えて出て行き、それを人々と分かち合うよう求めておられます。このみ業を進めるならば、主は私たちが接する人々の生活だけでなく、私たちをも祝福してください。主が与えてくださった福音は真実です。私の人生においてこの福音が非常に大切なものであったからこそ、私は伝道に出たいと思ったのです。

これらのことをイエス・キリストのみ名により証します。アーメン。

主のチームに誰が入るや

七十人第一定員会会長会 J・トーマス・ファイアンス

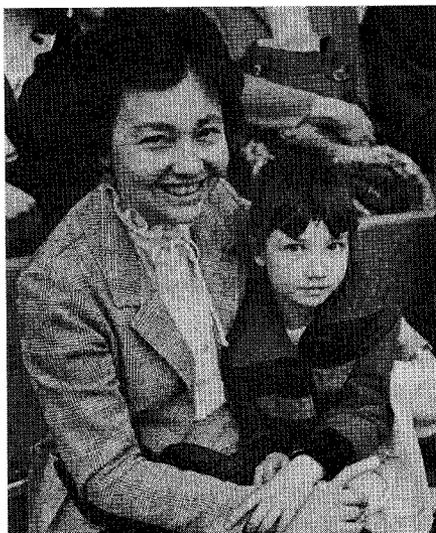


大リーグではスカウトを雇って、優秀な若い選手を絶えず捜させています。スカウトはその訓練された目で、優れた成績を着実にあげる選手を見つけます。こうした若い選手が選出されるのは、偶然によるものではありません。優秀な選手になるには、たくさんの準備が必要なのです。選手は長い年月を訓練に費やし、プレーのすべての部分にわたり完璧さを目指して努力します。長時間練習します。筋力をつけるために栄養のある食物を取るように心がけます。摂取する物がスタミナに影響することを知っているからです。十分な休息を取り、健康管理の原則に従います。生活の中で体調を最高の状態に保つことを、最も大切なこととしています。日ごと、週ごと、

年ごとに目標を設定し、ひたむきに努力します。コーチの助言に注意深く耳を傾けます。コーチは常に選手を見守り、そのプレーについて選手以上によく知っているからです。選手はコーチと一緒にビデオを見て自分のプレーを研究し、コンピューターの描き出すグラフをもとに、様々な能力について詳しく分析します。新しい方法や原理があればそれを取り入れられるように、いつも気を配っています。夜休むときには、自分のプレーをもう一度振り返り、プロスポーツ界を構成する強豪チームの一員として迎えられる日のことを思い描くのです。私たちは讚美歌「主の方には誰が立つや」を歌いますが、「主の方」とはどういう意味でしょうか。この「方」(side)には、ゲームやスポーツで相争う団体の片方、選手団の片方、つまりチームという意味がありません。

この定義に基づけば、「主の方には誰が立つや」という質問は「主のチームに誰が入るや」と言い換えることができるでしょう。そこで、神権者にあてはまると思われる歌詞を紹介しましょう。

主のチームに 誰が入るや
恐れず聞かん 時はいたる
.....
生ける神に 仕えまつり



少なくとも 力示さん
恐れず行き われら勝たん
主の軍勢 われらにあり
主のチームに 誰が入るや
恐れず聞かん 時はいたる
〔讚美歌〕160番参照)

主のチームで働くのは、偶然ではありません。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように語っています。「これは私たちが受け継ぐものです。私たちはそのように生まれついています。そして、私たちが行なう必要のあることは、受け継ぎを得るにふさわしい者となって、この祝福にあずかることです。」(「神権」p.2)

アルマ書13章1節には、「主なる神は……人を選んで按手札によって神の聖なる神権の祭司らに任命をなしたもうた」とあります。

さらに3節と4節には次のように記されています。「祭司たちが聖任された仕方は次のようである。かれらはそのすぐれて堅固な信仰と善い行いとがあるために、神の先見の明によって創世の前からすでに選んで備えておかれた。かれらはまず善を選ぶのも悪を選ぶのも心のままに許しておかれたが、すでに善を選んでその信仰がすぐれて堅固であったから、聖い召を受けてこの職に召された。……」

かれらがこの聖い職に任ぜられたのはその信仰に由ったのであって、ほかの人々はそのころがかたくなでその精神が暗いために神の『みたま』をたびたび拒んだのであった。もしもこう言うことがなかったならば、その兄弟たちと同様に大きな特権を受けたであらう。」

アルマ書13章9節には、「このように永遠に……大祭司となり」と記されています。

皆さんがバスケットボールの選手になっ

ても、演劇に出演しても、カルテットで歌っても、あるいはスカウトに入隊しても、その期間は普通わずか数カ月、長くても数年というところですよ。こうした活動への参加には、始めがあるように、終わりがあるので。しかし、アルマが教えているように、私たちは永遠に大祭司です。神権は永遠なのです。

さて若人の皆さん、ここで予言者の生涯の中からいくつか模範を取りあげて、予言者たちが神権に対する霊的備えをどのように行なったか考えてみましょう。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、自分の気持ちを次のように述べています。「私がまだ小さな少年で、神権を受ける年齢になっていなかったとき、父は私の手にモルモン経を置いて、この本を読むように言いました。私はこのニーフアイの記録を感謝して受け取り、自分に与えられた割り当てをこつこつと果たしていきました。私の心に刻み込まれた聖句がいくつかあります。私はそれらの聖句を忘れたことはありません。」スミス大管長は10歳になるまでに、モルモン経を読み終えました。それも1度ではなく、2度です。兄弟たちの記憶によれば、自分の仕事をできるだけ早く片づけ、ときには野球から早く帰って、干し草置場に閉じこもるか木陰に座って、モルモン経を読んでいたとのことですよ。(ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア、ジョン・J・スチュワート「ジョセフ・フィールディング・スミスの生涯」p.57)

デビッド・O・マッケイ大管長は、このように述べています。「私は執事のとき、未亡人の方々のために土曜日に薪割りをしたのを覚えています。9人の少年が集まって短いミーティングを開き、それから斧を持



って未亡人の家を回り、その週に必要なだけの薪を割りました。」

マッケイ大管長はさらに続けています。「祭司として聖餐の儀式を執行したことや、初めて聖餐の祈りを捧げたときに失敗したことを覚えています。その当時は、今日よく見かけるような祈りの言葉を書いたカードは、置いてありませんでした。暗記することになっていたのです。聖餐台は説教壇の真下にありました。私の父は監督でしたので、いつもパンと水の祝福をする人のすぐ上にいました。私は祈りの言葉を覚えたと思っていました。しかし、ひとりで暗唱していたので、ひざまずいて目の前の会衆を見ると、うろたえてしまいました。」(クレア・ミドルミス編「懐しい経験」p.190) 若人の皆さん、マッケイ大管長はこうしたチャレンジに遭っても落胆しませんでした。さらに準備を重ねて、自分自身を卓越した

段階まで引き上げたのです。

キンボール大管長は、少年のときに立てた目標について次のように語っています。「私がほんの子供の頃に立てた目標のひとつについてお話ししよう。それはソルトレーク・シティから来た教会の指導者が大会で、私たちは聖典を読むべきである、と言ったのを聞いたときのことである。私はそれまで一度も聖書を読んだことがなかったのを認めた。その夜その説教を聞いたあと、1ブロックほど離れた家に戻り、家の一番上のところにある狭い屋根裏の私の部屋へのぼり、小さな机の上にある小さな灯油ランプに火をつけた。それから、創世記の最初の数章を読んだ。1年後、私はその大きなすばらしい本のすべての章を読み終えて、聖書を閉じた。

私は読み続けていた聖書が66の書から成ることを知った。それから、聖書は1,189章

に分かれ、(英文で) 1,519頁もあることを知ったときには、読むのをやめようかとさえ思った。私の手に負えそうもなかった。しかし、他人にできることなら、自分にもできることを私は知っていた。

14歳の少年には理解しにくい箇所が数々あることを知った。また、特に興味のない頁もかなりあった。しかし、66の書を1,189章、1,519頁にわたって読み終えたとき、私はひとつの目標を定めてそれを達成できたという、言い知れぬ満足感を味わったのであった。」

大管長は続けています。「私は今自慢をするためにこの話をしているのではない。私が灯油の明かりでそれをやれたのだから、皆さんは電気の明かりでそれをすることができる。ただそれを言いたいがために例としてこの話を使ったに過ぎない。私は1頁も残さずに聖書を読み通したことを今でも喜んでいる。」(「豊かで満ち足りた人生を計画する」「大会報告1973-75」p.202)

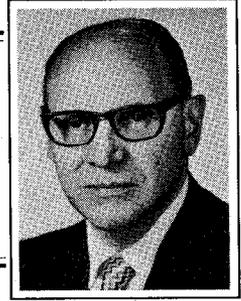
私はほとんど毎週、世界のどこかのステークホルダー大会に出席しているので、私のワード部の福音の教義クラスに出席することができません。今年度、このクラスではモルモン経について教えられています。イエスがキリストであることを証するもうひとつの神聖な書物から靈感を受け、その重要性を理解する特権にあずかれないのは、まことに残念なことです。そこで、妻と私は家庭でモルモン経を研究するという目標を立てました。1984年度の福音の教義クラスのテキストをこの総大会までに終えようと決心したのです。1月から始めて、3月12日の月曜日に46課あるモルモン経コースの最後の課を勉強しました。この目標を達成できて本当に満足しています。

全世界の選ばれた若人の皆さん、皆さんは主のチームの一員となるために備えているのです。皆さんは大きな期待を担っています。皆さんの頭に手が置かれ、イエス・キリストのみ名によって神の神権が授けられました。皆さんは主に代わって、人の子らに聖なる儀式を施すことができます。このことについて少し考えてみてください。共に神権を持つ兄弟の皆さん、私は皆さんを心から愛しています。すべての教会幹部が皆さんを愛しています。毎日、霊的な運動をするようにお勧めします。この運動は、皆さんが自分で選んだレベルで行なうことができます。たとえば、毎日モルモン経を数節ずつ、1章ずつ、15分ずつ、または30分ずつ読みます。皆さんは自分にどの程度の霊性を得る必要があるかわかりになるでしょう。このチャレンジを受けることができますね。

皆さんは優れた献身的な行ないゆえに、主のチームの一員として迎えられました。何とすばらしい特権を手にしたことでしょう。皆さんは奉仕と愛をもって自己を鍛えます。人生のチャレンジに祈りをもって立ち向かうときに持久力を養います。そして、聖典を読んで深く考えるときに栄養豊かな霊的食物を取り、^{はやく}霊的なスタミナと筋力を育み維持するのです。プロスポーツ選手の不断努力が生活に浸透し、心身ともに最高のコンディションになるよう、神権のこうした健康管理を最優先させましょう。そうすれば夜寝るときに皆さんの心と思いと祈りは自動的に再び、大きな望みとともに、主の偉大な神権のチームでのプレーを完璧なものにすることに向けられるでしょう。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

失われた羊を連れ戻す

七十人第一委員会会員 ジョセフ・B・ワースリン



愛する兄弟の皆さん、私はネルソン兄弟を補佐する責任を2度務めた者として、ラッセル・M・ネルソン長老の召しに感謝します。そして、彼が高貴な人格を具え、王国において偉大な業を行なう人であると断言します。同じく、オークス長老もすばらしい人格を具えた方です。

これからある若者の話をしたいと思えます。その若者は、深い見識で広く知られている賢者のもとを訪ねました。そして、現在取り組んでいる分野で、自分の立てた高い目標を達成するにはどうしたらよいか、助言を求めました。

「私について来なさい。」賢者はそう言うと、若者を近くの川に連れて行き、全身を水の中に沈めて、上から手で押さえつけました。そして、若者が苦しくなってもがき始め、今にも溺れそうになったところで、ようやく手を放しました。水から顔を出した若者は、あえぎながら言いました。「息が、息が、できません。」

すると、賢者はこう言いました。「これが第一の教えだ。今おまえが息をしたかったその気持ちで成功を求めるなら、目標は必ず達成できる。成功することができるのだ。」

願望、それも燃えるような願望は、人並み以上の何かを達成する際の基本をなすものです。

最初にこの話をしたのは、関係している

すべての人がこの願望を持つことが、今晚私がお話するテーマ「教会に来ていない会員が活発になれるように助ける」を実践する最初のステップになるからです。

しかし、話の内容が聞き手の求めるもの、達成したいと熱望するものと一致していなければ、私の話すことは何の役にもたないでしょう。いかなる場合も、立派な業績を残す人々は、自分の行なっていることを楽しんでます。またよく知られているように、私たちが正しいことを行なうには、まず一人一人の態度や思いが正しくなければなりません。

ディーン・L・ラーセン長老は、こうした考えを次のように鮮やかにまとめています。「善悪の区別ができるということは、選択をする際に自由意志が使えるということです。またそうする時に、私たちは自分が選択したことに対して責任を負わなければなりません。選択の必然的な結果から逃れることはできないからです。善悪を判断する上での自由意志の行使は、進歩と成長に大きな期待をかけている人々の中にあっては欠かせない大切なものです。」(『自己の責任と人間の進歩』「聖徒の道」1980年9月号、p. 117)

イエスは根本的な原則を教えることを第一に考えておられました。そして、それらの原則は、個人の霊性や心の状態と深くかわるものでした。救い主は、心の状態が

正しければ、そのほかのほとんどのことも正しいことを知っておられたのです。しかし、もし心の状態が悪ければ、人生において何ひとつ業績を残すことはできません。ですから、ニーファイがその民に次のように訓戒したことも、うなずけます。「私はキリストの言葉をよく味わえとあなたたちに勧めた。それはキリストの言葉は、あなたたちのしなくてはならないことをみな教えるからである。」(II ニーファイ32：3)

イエスはこう言われました。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけがはいるのである。」(マタイ7：21)

「狭い門からはいれ。」(マタイ7：13) マリオン・G・ロムニー副管長は、この聖句の意味を次のように明確にしています。「最善を尽くすだけでは十分ではありません。できることをすべて行なわない限り、なすべきことをしたとは言えないのです。必要なことを行なう際に、私たちは成功しなければなりません。与えられた仕事を完遂するまでは、十分でないのです。」

私は大学時代にスポーツをやっていた関係で、今でもスポーツに関心があり、冬季オリンピックの記事にも目を通します。あるスポーツ記者は、ドイツ民主共和国として知られる小さな国、東ドイツが、目覚ましい活躍していると報じていました。その記事によると、東ドイツの選手はほかの国の選手よりも激しい訓練を受けたわけではないが、精神や意志を鍛える時間を多く取っているのです、精神的な備えにおいて勝っているそうです。昔から言い古された「健全で積極的な心構え」というものが、この国の選手を際立たせているのです。(リー・ベンソン「デゼレト・ニュース」1984年2月16日付参照)

教会に来ていない会員を強めようとするとき、私たちは以下の人々に心を向けます。

1. 教会員の家庭に育ちながら教会に活発に集った経験のない会員。そのため、子供も教会に来ていないことが多い。
2. 改宗後2、3年の間が普通であるが、霊的に弱くなって教会を離れる改宗者。
3. 罪に陥ったり、そのほかの問題があって教会を離れる活発会員。多くの場合、この問題は、福音に対する証や知識の欠如、ふさわしくない行ないや罪悪感から来る心の痛みであり、教会で責任を受けることに対する恐れの場合もあります。
4. 世の中の考えや行ないに引かれて、教会から迷い出た青少年。この中には、つかの間の浮薄な楽しみを追い求める世の風潮に押し流された青少年や、現実には迫られるまで何ひとつ真剣に受け止めようとしない同年代のグループに影響された青少年がいます。

この失われた羊を連れ戻すという仕事は、イエスが明言されたように、ステーキ部、ワード部、支部、定員会の指導者が最優先しなければならないことです。教会に来ていない会員は、これまでの働きかけにどう応えたかにかかわらず、すべて活発化の対象として考えるべきです。

私たちは思いやりと忍耐、寛容、愛、誠実、不断の努力をもって働きかける必要があります。私たちが心から愛と関心を寄せていることをわかってもらわなければなりません。

教会に完全に活発になるには、霊的な意味での改宗を徐々に経験し、ほかの会員たちから受け入れられる必要があります。私たちは力を尽くしてそのような会員に福音を教え、温かく迎え入れてフェロウシップを行なう必要があるのです。

最近出席したステーキ部大会で、会員の活発化について心に残る話を聞きました。そのステーキ部のある監督は、教会に来ていない兄弟を活発化することに深い関心を抱いていました。彼はまた、活発化の第一段階はコミュニケーションを図ることにあり、教会に来ていない兄弟一人一人をみずから訪問する必要があることを知っていました。

そこで、電話をかけることから始めました。ある兄弟に電話をすると、奥さんが出てこう言いました。「監督さん、お電話をくださって、本当にありがとうございます。あいにく主人は外出していますが、帰りましたら、電話するように伝えます。」ご主人は監督から電話があったことを聞くと、予想通りの反応を示しました。電話をしようと思わずに、こう言ったのです。「監督に言ってくれ、おれは眠ってるよね。」そしてユーモラスにつけ加えました。「死んでるってことさ。」

この言葉は、本人が意識している以上に真理を突いています。その通りなのです。彼は眠っていました。悲しいことに、霊的な生活において死んでいたのです。

しかし、賢い妻は夫の生活にすばらしい影響を与えるものです。この兄弟の奥さんは穏やかな調子で、電話をするように勧めました。

電話を受けた監督は、親しみの込められた声で提案しました。「今晚、監督室で少しの間お会いできたら、本当にうれしいのですが。」その兄弟は、誠実で思いやりのある誘いを断わりきれず、監督に会いに行きました。

そして監督の証と真心からの関心に動かされて、間もなく始まることになっていた神殿準備セミナーに出席することを約束しました。

そのセミナーで毎回、真理についての豊



かな知識と靈感あふれる証を持った有能な教師から教えを受けて、彼は心を動かされました。そして、自分の家族を強め、神殿で永遠の結び固めを受けようと決心したのです。

この善良な兄弟は、まだ眠っているかもしれないかもしれません。しかし、以前とはずいぶん違っています。自分の手で家族一人一人の生活に、言葉では表わせない喜びと幸せをもたらしたのです。

別のワード部では、監督が最も優秀な2名のホームティーチャーに、教会に来ていない家族の中から特に1家族を選んで割り当てました。その家族の家長であり父親である兄弟は、メルケゼデク神権の長老の職に聖任されていましたが、何年もの間教会に来ていませんでした。ホームティーチャーはその兄弟と連絡をとり、毎週特別な教師が訪問して福音を教えてもよいかどうか尋ねました。家族の了解が得られると、その家族が必要としていることや求めていることに合わせて、福音のレッスンを教えていきました。

監督も2、3週おきに面接をして、ホームティーチャーを助けました。その兄弟は日曜日にいつもゴルフに行くので、初めは

自分の生活を変えるつもりはまったくありませんでした。あるとき、その兄弟と面接をしていた監督がこう言いました。「靈性を高めるためにもっと努力をしないと、すばらしいご家族を失うこととなりますよ。」教会から離れていた兄弟はこの言葉を聞いて、大切な事柄について深く考えさせられました。そして、それから数週間以内に行なわれた次の面接で、監督にこう言ったのです。「これからは自分の一を納めます。私たち夫婦は、神殿で結び固めを受けることを目標にしたいと思います。」

この家族は教会に活発に集うようになり、福音に対する態度が完全に変わりました。喜んで福音の原則を受け入れ、進んで生活を変えているようでした。

もうひとつ事例を紹介しましょう。その家族には、近所に住んでいるホームティーチャーが特別に割り当てられました。ホームティーチャーはまず真心からの友情と、隣人としての関心を示して、まじめな態度で話し合えるようになるのを待ちました。ある日、その家族と座って話をしているとき、毎週訪問して福音を教えるもよいかどうか尋ねてみました。そして、いかなる強要もしないことと、その訪問では救い主の福音を教えて家族の質問に答えるだけであることを、約束しました。それから数週間もしない内に、その家族はホームティーチャーに伴われて教会に出席し、やがて自分たちだけで来るようになりました。監督は夫婦と面接をして、メルケゼデク神権を受けることと、神殿で結び固めを受けることを目標とするように働きかけました。

監督は、この夫婦が5人の子供とこの世から永遠にわたって結び固められるのを見て、胸が一杯になったと述べています。神殿の結び固めの部屋には、ワード部の会員や友人がたくさん詰めかけていたそうです。

この家族は現在、福音が真実であることに対して強い証を持っています。ワード部の多くの会員は、これほど人が変わるのを見たことがないと言います。この兄弟は今、長老定員会の会長会で働いています。

私はブラジルのすばらしい人々や教会員を心から愛していますが、そのブラジルの傑出したステーキ部のある長老定員会の会長が、目覚ましい成果を報告してくれました。昨年1年間に、教会に来ていなかった15人の長老が活発になったということです。私は「どのような方法を使ったのですか」と尋ねてみました。するとその会長はこう答えました。「私たち会長会とホームティーチャーが、彼らの家を何度も訪問しました。そして、心から関心を抱いていることを知ってもらったのです。」この長老たちは証を強め、今では家族と共に活発に教会に集っています。

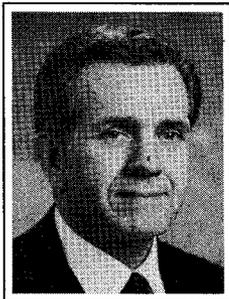
主は、兄弟や姉妹を力づけるために働く人々に、大いなる報いを約束されました。近代の啓示の中で、次のように述べておられます。「^{しか}して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、^{ただ}唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの^{よろこば}喜び如何ばかりぞや。」(教義と聖約18:15)

私がかつてのこと、感じていることを、皆さんの心に刻むことができたと思います。私の揺るぎない証を述べたいと思います。天父とその御子イエス・キリストは、万物を治め支配しておられます。私たちは福音が永遠のものであることを理解しなければなりません。福音は永遠であって、すべての人に適用されます。私たち一人一人が福音に対して責任があるのです。

この大切なみ業に携わる私たちに主の祝福がありますように、イエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン。

私の羊を養いなさい

十二使徒定員会会員 ボイド・K・パッカー



私の友である、アロン神権者の皆さんにお話したいと思います。まずたとえ話を紹介し、次にテストをします。

仮に、あなたと私が監督から、ワード部全会員のためのピクニックの計画を頼まれたとしましょう。ワード部始まって以来最もすばらしいパーティーにしたいとのこと。お金はいくら使ってもかまいません。

まず町から離れた美しいピクニックグラウンドを予約します。そして、ほかの人がだれもじゃまをしないようにします。

手配はすべてうまくいき、当日は天気も上々です。準備は完璧に整いました。テーブルは一列に長く並べ、テーブルクロスや食器まであります。今まで見たこともないような食事でした。扶助協会と若い女性の姉妹たちが全部自分たちで用意してくれたのです。メロン、スイカ、トウモロコシ、フライドチキン、ハンバーガー、ケーキ、パイなどおいしいような料理がテーブル一杯に並んでいます。皆さんは想像することができますか。

皆席に着いて、監督は祝福師の兄弟に食物の祝福を頼みました。お腹をすかせた小さい子供たちはおいしいような食べ物の前にして、祈りが短ければいいなと思いました。

ちょうどそのとき、思いがけないことが起こりました。おんぼろの車がガーガー音をたてながらピクニックグラウンドに突っ込

んできて私たちのそばに止まったのです。私たちは腹を立てました。「予約済」という看板が見えないのでしょうか。

車から出た男の人が首をかしげながらボンネットを開けると、スチームがもうもうと上がりました。車の整備をしているひとりの兄弟がそれを見て、「あれは、ちゃんとした修理をしないともう動かないよ」と言います。

車から子供が何人か出てきました。うす汚れたよれよれの服を着て、大声で騒いでいます。それから母親が待ち切れなさそうに、私たちの近くの空いたテーブルに箱を置きました。食事をするようです。子供たちはお腹をすかしています。母親は残り物の食事をテーブルに広げました。そしてそれを注意深く並べて、お腹をすかした子供たちの食事に見えるようにしていました。でも十分ではありません。

私たちはいらいらしながら、静かになるのを待っています。お祈りをして早く食べたかったからです。

すると小さな女の子が私たちのテーブルをのぞき込みました。そして鼻をたらした弟の手を引っ張ってあなたと私の間から首を突っ込みました。首を出した子供たちがあまりにも汚いものですから、私たちは思わず体をそらせました。女の子は言いまし

た。「ねえ、見て。うーん、どんな味がするのかな。」

みんなが待っています。なんで彼らはよりによってこんなときに来たんでしょう。なぜこんなよそ者のために楽しいパーティーを中断しなければならなのでしょう。なぜどこかほかのところに車を止められなかったのでしょうか。彼らは仲間ではありません。それに汚く、私たちのようではありません。私たちとは違うのです。

私たちは監督からパーティーを任されたのですから、このようなことも処理しなければなりません。どうしたらいいでしょう。もちろんこれはたとえ話です。さてテストです。もしこれが本当の話だったらあなたはどうしますか。

答えを3つ出しましょう。

第一は、祝福の祈りの間静かにしてくれ

るように言います。その後は無視します。何といても、その場所は自分たちが予約したのですから。

でも皆さんはそうはしないでしょ。お腹をすかした子供を見ながら食べ物がのどを通りますか。私たちはそんな冷たい人間ではありません。これは答えではないですね。

次はこれです。テーブルがひとつ余っていましたね。そして料理の中には余分なものもあります。少しずつ分けてそのテーブルに運び、子供たちをそちらのテーブルに戻らうながすことができます。そうすれば私たちはじゃまされずに食事を楽しめます。結局私たちは、自分たちの力で食物を得たのです。モルモン経にあるように、自分たちの働きによって食物を得たのですから。(アルマ4：6参照)



でも、そうはしないことを願っています。もっといい答えがあります。もうわかりますね。

その家族のところに行って、仲間に加わるように招くのです。少しずつ席をつめて、私たちの間にその女の子を座らせることができます。こうして全員がどこかに座ります。それから車を修理して、これからも続けて旅ができるようにいろいろなものをあげるのです。

お腹をすかした子供に食べ物をあげられることほど純粋な喜びがあるでしょうか。パーティーを中断して整備士の兄弟に車を直してもらうことほど満足できることがほかにあるでしょうか。

皆さんはこのようにしますか。そうです。そうしなければなりません。でもあえて言いますが、必ずしもそうしないような気がします。説明しましょう。

教会員である私たちは、完全な福音を持っています。霊的な栄養として考えられるものはすべて与えられています。霊的なメニューはすべてそろっています。霊的な力は限りなく与えられています。あのやもめの油のびんのように、私たちが使った分だけ補充されて、なくなることがないのです。

(列王上17：8-16参照)

でも世界中に、そして私たちの周り、近所の人々や友達、あるいは家族の中にも、霊的な栄養不足の人がいるのです。餓死寸前の人もいます。

もし私たちがこの霊の栄養を自分たちだけで使っていると、お腹をすかしている人を前にしてごちそうを食べていることと何ら変わらなくなります。

その人たちのところに行って、一緒に食べるように招待する必要があります。私た

ちは宣教師なのです。

そのために学校を中断しても、就職や結婚やバスケットボールが遅れても問題ではありません。大きな健康上の問題がない限り、すべての末日聖徒の若人は伝道への召しに応えるべきです。

過ちや罪に対してさえ道を妨げさせてはなりません。皆さんは、召しを受けるにふさわしく自分自身を備えなければなりません。

古代の使徒たちは初めの内は福音が異邦人、つまりすべての人のためにあることを知りませんでした。

そしてペテロは夢をみました。いろいろな生き物の入った器があって、ペテロはそれを殺して食べるように言われました。ペテロは汚れたものだからと言って断わりました。するとその声は「神がきよめたものを、清くないなどと言ってはならない」(使徒10：9-16参照)と言ったのです。その夢と直後の経験を通して、使徒たちは自分たちの義務が何かを悟りました。こうして全キリスト教徒による偉大な伝道の業が始まったのです。

ほとんどすべての帰還宣教師はこう尋ねるでしょう。「霊的に飢えているのなら、なぜ福音を受け入れないのですか。なぜ『結構です』と言ってドアを閉めるのですか。」

オーストラリアで伝道していた私の息子は、福音を拒んだ男の人にポーチから投げ飛ばされました。

息子は体も大きく強かったので、仕返しもできたでしょうし、またそんな暴力を振るわせないようにすることもできたと思います。

最初勧めたときに断わられたとしても忍耐しましょう。霊的に飢えた人すべてが福

音を受け入れるとは限らないことを覚えておいてください。皆さんにも覚えがあると思いますが、初めての食べ物に対してははたれでも食わず嫌いということがあります。お母さんから食べなさいと言われてようやく口をつけるのではないのでしょうか。

栄養失調の子には少しずつ気をつけて食べ物を与えますが、霊的に飢えている子に対してはそれは同じです。欺きや罪で弱っている子にすごいごちそうを持って行っても、彼らは拒むでしょう。少しずつ、上手に食べさせなければならぬのです。

またある人は、霊的に餓死寸前にあって、フェローシップというスープをスプーンであげなければならぬでしょう。つまり活動やプログラムで栄養を与えるのです。聖典にも書かれているように、肉の前にミルクをあげなければなりません。(I コリント

3:2; 教義と聖約19:22参照)でも、私たちが与える栄養がそのスープだけで終わってしまわないように気をつける必要があります。

必要な物は与えなければなりません。私たちはあらゆる国民、民族、国語の民、人人に福音を宣べ伝えるように命じられています。これは聖典の中で80回以上も繰り返されているのです。

私はニューイングランドでの伝道部長の召しを受けるまで宣教師として働いた経験がありません。私が皆さんと同じように、宣教師となるべき年齢の頃には、若人は伝道に召されませんでした。第2次世界大戦の最中で、私は4年間軍務に服していたのです。でも私は伝道をしました。福音を伝えたのです。私は日本で伝道部が閉鎖されて22年後に初めて再び日本人にバプテスマを行なう特権に恵まれました。そのときにバプテスマを受けたのはふたりでした。エリオット・リチャーズ兄弟が佐藤龍猪兄弟に、私が奥様のチオ姉妹にバプテスマを施し、日本での伝道が再開されたのです。バプテスマは空襲で廃墟と化したある大学のプールで行なわれました。

それから程なくして、私は大阪で横浜行きの汽車に乗り込みました。横浜から船で帰国するためです。佐藤兄弟姉妹が駅まで見送りに来てくださいました。別れのあいさつを交わしながら、涙がとめどなく流れました。

底冷えのする夜でした。ぼつんと残った駅舎には冷気がただよい、飢えた子供たちがすみっこで寝ていました。それは当時の日本ではあたり前の光景でした。古新聞やポロを体にかけて寒さをしのげる子供はそれこそ幸運でした。



その汽車で、私はなかなか寝つけませんでした。座席が狭かったこともあります。やがて夜が白々と明けた寒気の中、汽車はとある駅に止まりました。するとだれかが窓をトントンとたたいています。ブラインドを上げるとそこには小さな男の子がいて、ブリキのかんで窓をたたいているのです。みなし子が物乞いをしているのです。ブリキのかんは彼らの苦しみの象徴でした。ときどきスプーンを持っていることもありました。「お腹がすいた。何か食べさせて」と言っているかのようです。

6歳か7歳ぐらいだったでしょうか。小さな体は飢えのためにやせこけていました。

着ているものと言えば、薄いボロボロの着物だけです。頭はかさぶただらけで、あごは虫歯のためかはれていました。そのはれあがったあごには汚れた布切れが巻かれており、頭の上で結ばれていました。自分なりの手当てをしているつもりなのでしょう。

私が起きているのを見ると、彼はかんでを振りまわした。物乞いをしていたのです。哀れになった私は、何かできることはないか考えました。思いついたことがありました。日本円を持っていたのです。洋服をつかみ、ポケットをさぐると、日本円の紙幣が何枚かありました。窓を開けようとしたのですが開きません。私は急いでズボンをはくと、車両の端の方に走って行きました。彼は外で待ち切れなさそうに立っていました。なかなか開かないドアを一生懸命開けようとしていたとき、汽車は動き出してしまいました。うす汚れた窓からは、はれたあごにボロを巻きつけたその子が、さびたブリキのかんで差し出しているのが見えました。

そこに立っていた私は占領軍の将校でし

た。家族の待つアメリカへ、そう、未来へ向けて出発しようとしていました。ズボンだけをはいて、お金を握りしめながら。そのお金を彼は見ました。でも彼に渡すことができなかったのです。彼を助けたかった。でもできませんでした。たったひとつの慰めは、自分がとにかく助けようとしたという事実でした。

もう38年も前のことです。でも、まるで昨日のこのようにその男の子の顔が浮かんできます。

これは私の心に残ったひとつの傷かもしれません。もしそうなら、それは戦争の傷跡、何ら恥じることのない価値ある傷です。でも、この経験から私は自分に課せられたひとつの義務を思い起こすのです。

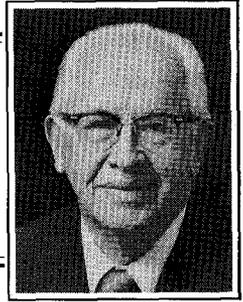
若い兄弟の皆さん。私には、私たち一人一人に呼びかける主の声が聞こえます。ちょうどベテロに語られたと同じ声が、「わたしの小羊を養いなさい……わたしの羊を飼いなさい……わたしの羊を養いなさい。」
(ヨハネ21:15-17参照)

若い兄弟の皆さん、私は皆さんを心から信頼しています。皆さんは、回復の業を進める若き兵士です。この霊の戦争において、皆さんは霊的に飢えている羊を救い、養わなければなりません。そしてそれは皆さんの義務なのです。

私たちには永遠の完全な福音が与えられていますが、同時に、まだそれを知らない人々に分かち合う責任も与えられています。願わくば、私たちが主より与えられたその使命を尊び、自分自身を備えて召しにこたへることができるよう。へりくだり、イエス・キリストのみ名によって祈るものです。アーメン。

福音を全世界に宣べ伝える使命

十二使徒定員会会長 エズラ・タフト・ベンソン



親 愛なる兄弟の皆さん、今晚このようにして皆さんに挨拶できることは、私の喜びであり、名誉でもあります。このプログラムを心ゆくまで楽しませていただきます。ダラント兄弟、あなたのような人々に感謝したいと思います。私もバスケットボールが好きです。それほど上手ではありませんでしたが、ユタ州立大学のチームのメンバーでした。7人の子供がいた私の父は、フランクリン郡の全家族に対抗試合を申し込んだことがあります。十分な人数がそろったチームがあれば、父は必ず試合を申し込みました。相手をする家族がいなかったことは、今思えば私たちにとって幸運だったと思います。しかし、いずれにしても、あなたのお話はすばらしいものでした。

今晚私は教会の偉大な伝道活動について少し話してみたいと思います。教会が今日ほど宣教師を必要としているときはありません。私たちは、イエス・キリストの福音をあらゆる国民に宣べ伝えるように求められています。主は、1831年にこうお命じになりました。「わが教会の長老たちを遙かに離れたる諸々の国民に遣わし、また海の島島に至らしめ、また外国に遣わして万国の民を訪わしめ、まず異邦人を訪い次にユダヤ人に至らしめよ。」(教義と聖約133:8)
すべての民族、血族、国語の民、国民に

福音を伝えるというこの使命は、救い主の地上への来臨に近いことを信じる者に知らせるしるしです。この主の再臨のしるしについて、イエスは次のように予言されました。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ24:14)

この業を達成するには、現在全世界で伝道の業に携わっている宣教師よりももっともっと多くの宣教師が必要です。

今この話をお聞きの若人の中には、教会のために宣教師として奉仕しようと決心している方が大勢おられることでしょう。その準備と得た資格は見上げたものです。皆さんは伝道中のみならず、伝道後の生活においても計り知れない祝福をお受けになることでしょう。

また、伝道に出ることを決めかねている人もいることでしょう。私はそうした方々と、また奥様と一緒に伝道に出る可能性を持っておられる年輩の方々に話したいと思います。

皆さんは今、かつてないほどに求められています。「収穫は多いが、働き人が少ない。」(ルカ10:2)

この召しを忠実に遂行した人々は、信仰を深め、より献身的になり、また指導性を

高めて帰還しています。また犠牲を通して、自分で直接人のために献身的に奉仕することによってしか学ぶことができないものがあることを知るのです。

たとえば宣教師は、神がみ業を行なうのに自分を器としてお使いになることを学びます。モルモン経の宣教師アンモンのようにこう言うことができるのです。「私たちが神の御手に使われてこの大きな事業を為し遂げたのは、本当に神の賜うた祝福である。」(アルマ26:3)

また宣教師は、へりくだって主に頼らなければならないことを学びます。自分だけでなく人のためにも心から熱心に祈り、みたまに導かれなければならないことを知るのです。

私が常に主に頼ることの必要性を知った

のは、私の最初の伝道のときでした。

1922年、若い宣教師だった私は、北イングランドにいました。教会への敵対感情が強く、伝道部長が街頭伝道をすべて中止し、ある地域では戸別訪問も中止せざるを得ない状況でした。ほかの教会の聖職者たちの間に反対の気運が大きく広がり始め、やがてそれは非常に険しいものとなりました。彼らは私たちについて何も知りませんでした。ある日戸別訪問をしていたときのことです。ひとりの美しい婦人が戸口に出てきて、私たちは彼女と気持ちよく話をしていました。ところが同僚がモルモンという名を口にすると、海軍の制服に身を包んだ彼女の夫が出てきて、こう言いました。「あのモルモンの連中のことなど一切口にすな。私はイギリス海軍に20年勤めているが、ソ



ルトレーク港へ入港したときのことだ。連中は私たちを上陸させようとさえしなかった。」当時彼らが私たちについて知っていることといえば大体その程度のことでした。

同僚と私は北西海岸にあるサウスシールズに行き、聖餐会で話をするよう招待を受けていました。

招待状には、その会に多数の出席者がいることが約束されていました。そして次のようにも書かれていました。「私たちの友人の多くは、教会について書かれたでたらめな記事など信じておりません。」

私たちは心から断食して祈り、その聖餐会に出かけて行きました。会場は一杯でした。同僚は福音の第一原則について話すように計画し、私の方は、背教について話そうと思って一生懸命準備をしていました。集会はみたまに満ちたものでした。同僚の最初の話はすぐれた霊的な話で、続いて話した私も、今だかつてないほど自由に、思っていることを話すことができました。ところが、席に戻ってから背教について話していなかったことに気がつきました。予言者ジョセフ・スミスのことについて話し、彼の使命とモルモン経の真実性について話ただけだったのです。しかし、私は込みあげる涙を抑えることができませんでした。

集会が終わると、たくさんの人が前に出てきました。教会員でない人も何人かいてこう言いました。「今晚私たちはモルモニズムの真実性について証を得ました。バプテスマを受けたいと思います。」

これは祈りへの答えでした。求道者の心に触れることだけを話せるようにと祈っていたからです。

そうです。宣教師はほかの人々を教会に導くことに、たとえようもない喜びを見い

だすのです。

聖典に記録されている宣教師の物語の中で最たるものに数えられるのが、モーサヤ王の4人の息子と息子アルマの、レーマン人への14年間の伝道です。聖典には彼らが何千人もの人々を教会に導いたと書かれています。そのひとりアンモンはこう叫んでいます。「ごらん、私は喜びが満ち充ちて心に溢れるばかりである。」(アルマ26:21)

兄弟の皆さん、福音の光を人に伝えることに匹敵する喜びはほかにありません。主は次のように約束しておられます。

「^{しか}して汝らもし生涯今の世の人々に向けて悔改めを叫ぶことに力を^{つく}尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの喜び如何^もばかりぞや。

さて、わが御父の国にわれの許に導きたる唯一人の人につきて汝らの喜び大いならば、汝らもし多くの人を導き来らばその喜びは果して如何^もばかりぞや。」(教義と聖約18:15-16)

宣教師は、自分に授けられた神権が神の権威であることを知るようになります。バプテスマや確認、病人への癒しの儀式などを通して、神権を行使する機会が得られるのです。そして宣教師たちは、ほとんど例外なく、神が奇跡の神であることを証しています。(モルモン9:15参照)

宣教師は、天父なる神が祈りにお答えになることができ、実際にそうなることを学びます。聖きみたまの導きを得、それに従うことを学ぶのです。宣教師はへりくだって聖霊の導きをよく受けられるように祈りますが、それは自分のためだけではなく、自分が働きかけている人のためでもあります。こうして祈りと実際の働きを通して、心から主を愛し、なおさら十分に同胞を愛

するようになるのです。

次のことがよく問われます。若い男性はすべて伝道に出るべきですか。答えは主ご自身が与えておられます。「然り」です。若人はすべて伝道に出るべきです。

しかし、若人がすべて伝道に出るべきことは確かですが、肉体的、情緒的、また道徳的な準備ができていない人がいることも事実です。その結果、宣教師となる機会を失ってしまう人がいるかもしれません。しかし、全員が備えをし、主に仕える資格を得なければなりません。主は言われました。

「人ごとごとくその手に正義を取り腰に忠信を纏いて、世に住める人々に警め（いまし）の声を挙げ、言葉と逃げ走ることと両つながらによりて悪人の上に荒廃のおそい来るを宣べんことを欲す。」（教義と聖約63：37）

ある若い男性は、罪のために、宣教師になることには興味がないと言います。もちろん本当の理由は、資格がないと感じている点にあります。そのような人は、監督のもとに行って問題を打ち明け、心から悔い改めれば、立派に伝道の召しを果たすことができるのです。

私たちは教会幹部として、備えをするよう心から呼びかけるものです。主に仕えるよう今、備えをしてください。肉体的、道徳的、霊的、情緒的にみずからを備えてください。

監督と話をしてください。自分の気持ち話をしてください。問題を打ち明け、助言を求めてください。そして、人生におけるこの重要な決定について天父に祈るのです。

この教会の偉大な宣教師のひとりであったリグランド・リチャーズ長老はこう言いました。「多くの人が、教会での一番の経験は何でしたかと聞きます。私は躊躇なく、

最初の伝道です、と言います。主と主の教会を心から愛し、主の王国の建設のために働こうという望みを抱いたのがそのときだったからです。」

今晚この話を聞いておられる若人の皆さん一人一人が預金口座を作り、伝道への備えをするよう希望します。

私は最近テキサス州のダラスで、200人ほどの宣教師に話をする機会に恵まれました。その中に若い姉妹たちもいました。この宣教師たちに話をしながら、私は彼らが邪悪な世に生きているにもかかわらず世の罪に染まらない若人の良き模範であることを感じました。

私は教会の若人に対して喜びを覚えます。彼らを誇りに思い、彼らに感謝し、主が彼らを祝福し力づけてくださっていることを感じています。どの伝道本部に行ってもこうした若人に会えることは大いなる喜びです。彼らは選び抜かれた若人です。

では年配の兄弟たちに少しお話ししましょう。今、私たちは選り抜きの夫婦の宣教師を必要としています。

私の父は、伝道に召されたときに7人の子供を母の手に残したまま家を離れました。そして彼が伝道地に到着して4カ月後に8番目の子供が生まれました。こうして育まれた我が家の伝道のスピリットは決してなくなることはありませんでした。心から感謝しています。

お孫さんをお持ちの方、皆さんはほかの何よりも伝道地からの手紙を通してお孫さんに影響を与えることができます。

家の仕事を終えた後で台所のテーブルを囲み、母が父からの手紙を読んでくれたのをよく覚えています。母の口から聞いた父の伝道地は地球の反対側のような印象を受

けましたが、それはアイオワ州のシーダーラピドス、イリノイ州のシカゴとスプリングフィールド、それに中世部のほかのいくつかの町でした。

ふたりの妹は未亡人で、それぞれ子供が10人と8人いましたが、子供を全員伝道に出したあとで、自分も伝道に出たいと監督に申し出ました。

彼女たちが私に電話してきたときのことを思い出します。「何だと思う？ 私たち宣教師に召されたのよ。」

「何の宣教師？」

「何も知らないの？」

「何も聞いていないよ。」

「お兄さんが伝道したイギリスにふたりとも召されたのよ。」

伝道部長はふたりを同僚にし、20カ月間、転任なしでした。多分今までにないことでしょう。

後に我が家の子供は11人に増えました。そして、その全員が伝道の召しを果たす喜びを味わいました。最後のひとりが最近伝道を終えて、夫と共にサンディエゴから戻りました。

若人の皆さん、そして年配の方々、もう一度強調します。今皆さんは主の業にあって、伝道の働きをするように求められているのです。

私はこの話を聞いておられるすべての兄弟の皆さんに証します。この教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会は、「全地の面に於ける唯一の真にして生命ある（る）教会」（教義と聖約1：30）です。私たちはバプテスマの誓約と確認の儀式を通して主の教会の会員となる特権を得ました。世の人々が永遠の生命を受ける機会を得るには、この教会の会員を仲立ちとするしかありま

せん。私たちは真理を知っています。この真理と、福音を知らない人に福音を伝える特権とを是非皆さんにも得ていただきたいと思えます。

特にモルモン経に親しむようにお勧めしたいと思えます。子供たちとのことでひとつの思い出があります。ある日私は子供たちから彼らの部屋へ来てほしいと頼まれました。行ってみると彼らのベッドの上には本が何冊か置いてあり、ひとりがこう尋ねてきました。「ぼくたち今年の夏はおじさんの所で七面鳥の番をすることになってるんだけど、父さん前に七面鳥は農場で一番静かな動物だって言ったよね。そうすると暇な時間も出てくると思うんだ。」それから私にどの本を推薦するか選んでほしいと頼んできました。

私は軍人用の小さなモルモン経を選び、「これならズボンのポケットにも入る」と言いました。

「これ1冊だけなの。」

「そうさ、今にモルモン経が好きになって、伝道も好きになるよ。」そして実際彼らはその通りになりました。

そうです。これは主のみ業です。それは、私が今生きていると同じように真実です。

神が私たちすべてに、主のみもとに人々を連れ来たるスピリットと望みを与えてくださいますように。それは私たちの義務なのです。

神の祝福が皆さんの上にあり、また、皆さんがこのすばらしい呼びかけに応えられますように。主は私たちが伝道活動においてさらに大きな働きをするように望んでおられます。私はこれらが真実であることを知っています。へりくだり、イエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。

信仰がもたらす奇跡

第二副管長 ゴードン・B・ヒンクレー



まず、場所を問わず、この神権会に集っておられる兄弟の皆さんに感謝の言葉を述べさせていただきます。特に、かなり早くからこのタバナクルに入場して、今まで3時間もの間席に着いておられた若い男性の皆さんに感謝します。少し疲れておられるかもしれませんが、この会ももう少しの時間で終わりです。

通例、組織の役員は年に一度株主に対して報告をすることになっています。神権者の皆さんをこの偉大な主のみ業すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会の株主であるとみなして、報告をさせていただきたいと思えます。

私はこれを誇り高ぶった気持ちではなく、謙遜な思いでしたいと思えます。私が話すことに主の導きがあるようにと祈っています。と申しますのは、教会をひそかに傷つけ、その信頼を失わせようとする狡猾なくらみが、教会員の中にさえあるからです。

私は教会が健全な状況にあることをうれしく思います。きょうの昼、大管長会秘書のフランシス・ギボンズ兄弟からの統計報告を聞かれた方も多いいと思います。その中から少し引用して簡単に所見を述べたいと思えます。

昨年12月31日現在、教会員総数は540万人です。昨年1年間に23万9千人の増加をみました。成長し拡大する組織の一員となる

ことは何とすばらしいことでしょうか。私たちに敵対する人々は過去1年間に教会を離れた人の数を出すように迫ります。確信をもって申しあげますが、その数は比較的少なくなっています。敵対する人々からそうした要求を受けるたびに残念に思い、彼らが別の立場から事実を認識できたらと心から思うのです。しかし、私たちは彼らに立ち向かうことはしません。励まし、彼らがとどまるように勧めます。彼らは自分の選びによって、教会の会員に与えられる多くのすばらしい祝福を失うこともできます。わずかですが教会を去る人がいます。その中のある人々は新しい教義を味わいますが、しばらくしてそれが口に合わないことがわかり、教会に戻りたいと言ってきます。そのような人を心から歓迎します。

昨年中の宣教師による改宗者のバプテスマが少し落ちたことに関心を持たれた方もいると思えます。これは宣教師の在任期間を24カ月から18カ月に減らしたときに、十分に予期していたことでした。これは伝道している青年たちの時間が25パーセント減少されたことを示します。それに比較して改宗者のバプテスマの減少の比率がそれほど大したものではないことをお知らせしておきます。これは彼らの伝道期間が短くはなりましたが、これまで以上に熱心に効果

的に働いていることを示しています。

昨年末現在で、伝道中の宣教師の数は26,565人でした。主の忠実で献身的な僕たちが救いのこの偉大な業の推進のために時間と資力を用いています。何とすばらしい人々でしょう。

しかしこれまでも語られてきたことです。もっと多くの人が必要とされています。畑は白く、刈り入れを待っています。そして働き人はまだ少ないからです。この業に出で行くすべての男女は教えるすべての人人に祝福を与えます。さらに無私の働きにより、自分の生活をも豊かにするのです。主の業に働いた宣教師が驚くような成長を遂げている奇跡を目のあたりにしたことのない人がいるでしょうか。

神権指導者や父親、母親は、子供がまだ小さいうちから宣教師になるよう導く必要があります。また聖餐会を帰還宣教師の熱烈な証で活気づけなければなりません。

それに加えて、自分の身の周りの人々に福音を分かち合うことを心に留めていただきたいと思います。「分かち合う」という言葉を強調したいと思います。私はこの言葉が好きです。しかし彼らにとってプレッシャーになるような言葉は使わないようにしてほしいと思います。また、そのようにする必要もないと思います。隣人としてイエス・キリストの福音の模範を示すこと、そして穏やかに、やさしく教会に導くことです。そうすれば大いなる成果が得られ、助けようとしている人から拒否されることも少なくなり、さらに感謝されるようになるでしょう。

次に財政的な事柄について報告をしたいと思います。

教会の財政は健全な状態にあります。世

界各地における教会の急激な発展に伴い、什分の一基金の必要は大きくなってきています。現在建設中の建物は896あります。すばらしい発展です。考えてください。900近くの建物が新築されるのです。このようなことはほかには見られません。神の戒めに従順に従う聖徒たちの献身によりこれは可能となるのです。ご存じのように私たちは地元負担率を変更しました。最近まで70対30の割合でしたが、それが96対4に変わりました。

したがって、教会の建物の建築はほとんどが什分の一でまかなわれています。この変更ができたことは喜ばしいことです。

啓示により定められ、大管長会、十二使徒会、管理監督会によって構成されている什分の一支出承認委員会は、教会の支出がこれより後教会の収入を上回らないことを確認いたしました。

1983年に6つの神殿が献堂されました。1984年にはさらに6神殿、85年にはさらに6神殿の献堂を予定しています。今朝私たちはさらに5つの神殿の建設を発表しました。それらはコロンビアのボゴタ、カナダのトロント、オレゴン州ポートランド、カリフォルニア州サンディエゴ、ネバダ州ラスベガスに建設が予定されています。

これは極めて重要なことです。教会幹部の皆さんすべてそうですが、ふさわしい忠実な末日聖徒とジョージア州アトランタ、トンガ、サモア、タヒチ、チリのサンチャゴ、メキシコシティの新しい神殿でお会いできるのは何とすばらしいことでしょう。この気持ちは経験した人でなければわかりません。皆遠くから、あるいは近くから、服装を整え、身だしなみを整えて、顔を輝かせてやって来ます。その心には聖なる官

居の本質と目的に対する生き生きとした確信があるのです。

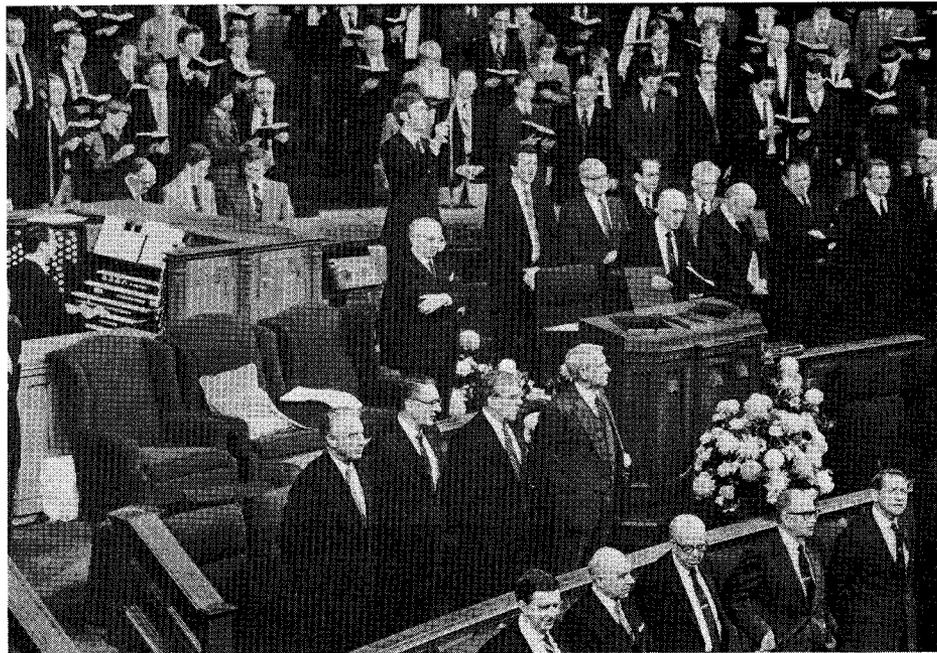
私は彼らの顔を拝見してきました。立派な男女が、主の家の祝福に対して、神への愛と感謝の涙を流しているのです。彼らは、そして何十万の人々は、この世を超えて永遠の生命を得るための結び固めは、神殿において聖なる神権の権能に基づいてでなければ不可能であることを知っています。この聖なる宮居の儀式を通してでなければ、すでに世を去った人々に天の御父がその子のためにとっておかれた永遠の福音のすべての祝福を与えるための扉が開かないことを知っています。

教会が達成していることを見ると、奇跡としか思えません。この奇跡は、主が王国の財政維持のためにご自身で確立された計画に対する信仰によって可能になっています。

什分の一は実に簡潔で明確です。私たちに与えられている原則は、教義と聖約119章に記されています。この第4節は英語でわずか35語です。政府が定めた課税のための複雑な法律条文と比較してください。この主の短い声明の中では、什分の一は個人が信仰に基づいて行なうことになっています。しかし税法の方は、人が作り上げ、法律が強制するものでクモの巣のようにからみ合っています。

教会はその財力の範囲内で進みます。皆さんもそう考えておられるでしょう。また、この神聖な基金が教会の偉大な使命にかなう事柄に正しく使われるようあらゆる努力が払われることも確信しておられると思います。

教会基金の保全と、同時に自発的な奉仕の機会の拡大として、私たちは定年退職し



た方々が神殿や教会の様々な部門で働くプログラムを続けています。興味がおありになることと思いますが、そのようにして働いてくださる方が5,000人おり、それは、フルタイムで働く人の500人分に相当します。このようにして、教会の基金が何千万ドルも節約されているのです。このすばらしい献身的な人々は、み業を進めるために愛をもって専門家としての働きをしてきています。

教会の財政について申しあげると同時に、私たちは個人的な証として、予言者マラキを通して主が古代にお与えになった約束を繰り返したいと思います。主はその約束の中で、什分の一と捧げ物を正直に納める人々には、天の窓を開き、あふれる恵みを注ぐと言われました。この約束が守られることを、什分の一を正直に納めるすべての人が証できるのです。

偉大な教会教育プログラムは進展を続けています。セミナー・インスティテュートプログラムを通じての生徒の訓練の業は絶えず拡大しています。昨年未現在で389,258人がセミナー・インスティテュートに登録しています。このプログラムを受けておられる方々は、この大いなる価値の経験者です。私たちは、すべての人がこのプログラムを活用されるように勧めるものです。私たちは、何らためらうことなく、皆さんの福音の知識が増し加えられ、信仰が強められていくと約束いたします。そして共に学ぶ仲間とすばらしい友情を築くことができるでしょう。

私はときどき、モルモン経が翻訳され、その初版が出版されたときのことを考えます。1830年3月にパルマイラで印刷された初版は、5,000部でした。最近では、67カ国

で年に何百万部も出版され、また再版されているのです。

聖典には次のように書かれています。

「ああ私が天使になって私の心の願いを達することができたら善いものを。私の願いとは出て行って神のラッパのように地を震わせる声で話し、万民に悔改めをすすめることである。」(アルマ29:1)

私たちはそこまでは至っていませんが、大きな進歩を遂げていることは確かです。こよい、世界中から数千人の兄弟たちが映像と音声を通して、衛星中継という驚くべき方法で共に集っています。こうした設備を通して、私たちはアメリカ全域、アラスカ、ハワイまで神の言葉を宣べ伝えることができるのです。私たちはこの驚くべき技術を通して、声の届く範囲を拡大しようとしています。

話は変わりますが、私は教会が組織されてから115年目の1945年に設立された150番目のステーキ部を管理する特権に恵まれたことがあります。40年弱が経過した現在、約10倍に及ぶ1,458のステーキ部がシオンに確立されているのです。また新しいワード部、支部が1983年内に378組織され、全体として約14,000となりました。私たちが末日聖徒の礼拝と教えの場として多くの建物を必要としていることに何も不思議はないのです。

以上はすべて統計的な事柄です。そしてほとんどが一時的なものです。しかし、私たちが心にかけているもっと大切なことがあります。それは私たちの民の生活の霊的な質がどうかということです。私たちは聖餐会の出席が増えていることを知っています。聖餐会で私たちは主との誓約を新たにし、キリストのみ名を新たに身に受けます。

家庭の夕べを開いている家族や、家族として共に安息日を過ごしたり主の道について学んでいる家族が増えています。家族の祈りを定期的実践している家族が増えていることも確かなようです。聖典を読み、そこから靈感を得ている人々が増えていると確信しています。

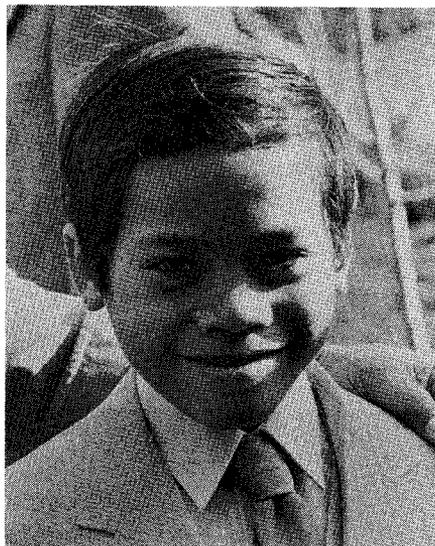
最近数カ月の間、私は63人の兄弟たちと話をし、彼らを伝道部長として召す機会がありました。こうした、伝道部長として召される人々の心の中には必ず深い信仰を見いだすことができます。召しを受けた夫、妻、そして子供たちは、快適な家庭や友人との交わり、そして愛する人々や仕事をあとにし、イエス・キリストの福音を宣べ伝えるために出で行くのです。

兄弟の皆さん、主のみ業は今までになく伸展しており、しかもその伸展は速度を増しています。私たちは個人としてそこまで達していないかもしれませんが、私たちに不足があると、み業が水泡に帰することのないように、主は私たちに代わって別の人を召されることでしょう。

私たちはこのみ業が水泡に帰すといった話をよく耳にします。モルモン経が出版されたときも、浅薄な批判者たちはそのような物はすぐに忘れ去られるだろうと言いました。カートランドで様々な問題が起こったときもそうでした。敵対者たちは、このみ業は頓挫するであろうと言ったのです。聖徒たちがミズーリ州を追われたときも、彼らを追い出した人々は、教会は間もなく消滅するだろうと言いました。予言者とハイラムがカーセージで殉教したときも、ふたりを殺した人々は、教会は終わりだと言いました。1846年2月に幌馬車の列が川を渡り、冬のアイオワへと向かったときも、

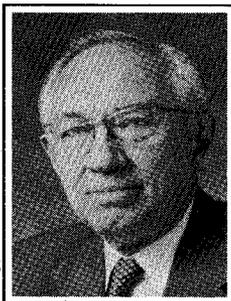
教会の敵対者たちは、これで教会は立ち行かなくなると言いました。この荒涼とした峡谷でコロロギに作物を食い荒されたときには、聖徒たちの中にさえ、これですべてが終わったと思った人々もいたのです。

しかし、このみ業は前進し続けてきました。1830年に組織されて以来、教会は一度も後退したことがありません。今後もそのようなことは決してないでしょう。これは主のみ業であり、神の教会です。この末の日に確立された主のみ業なのです。これはまた、人手によらずに山から切り出された小さな石であり、転がり出て、全地に満ちるようになります。(ダニエル2：44-45参照) 神は、偉大な前進を続けていくこの教会を祝福しておられます。この業を押し進めるにあたって、皆さん一人一人が信仰深く忠実であり、その責任を果たされるようへりくだり祈るとともに、この業が神のまことのみ業であることをイエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。



キリストの特別な証し人

第二副管長 ゴードン・B・ヒンクレー



すばらしい光景です。4月は、北半球では春で、自然界において新たな生命が動き始めるときです。間もなく、キリスト教世界では、神の御子の、死からの復活を祝う復活祭がやってきます。

末日聖徒イエス・キリスト教会のこの偉大な総大会に集っている私たちは、次のことについて世界中に証いたします。イエスが救い主であり、生ける神の生ける御子であること、イエスが神の御子として時の絶頂にこの地上に来られたこと、イエスがパレスチナの道を歩み、永遠の福音についての真理を宣言し、病人を癒し、死人をよみがえらせ、盲人の目を開き、聞く耳のあるすべての者にメシヤにかかわる人知を越えた希望のメッセージをもたらされたこと、イエスが悪人に捕らえられ、非難され、カルバリの丘で十字架にかけられたこと、3日の後によみがえり、眠れる者たちの初穂、死の征服者、永遠の生命の主となられたこと、「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされる」(Iコリント15:22)こと、イエスとその御父すなわち偉大なるエロヒムが1820年の春、少年ジョセフ・ミスに現われ、時満ちたる神権時代の到来が告げられたこと、イエスとその名を冠するこの教会の頭として立っておられること、イザヤの予言の成就として、神の王国の「ま

つりごとはその(イエスの)肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる」(イザヤ9:6)こと。

私はイエスについて、またイエスが永遠の父なる神の永遠の救いの計画の中で唯一無二の地位を占めておられることを厳粛に証いたします。これらのことを、私に授けられている聖なる使徒職の権威と権能により証いたします。

みたまの導きを得て、今朝、私はこの神権の職、すなわち、使徒としての職についていくらかのお話ができばと思っています。

昨日私たちはこの神聖な召しにふたりの兄弟を支持いたしましたので、彼らが聖任された後、十二使徒評議員会の席が満たされることとなります。このおふたりが、予言と啓示のみたまによって選ばれ、召されたことを証したいと思います。この問題については多くの祈りが捧げられました。私たちは、今日の主の予言者スペンサー・W・キンボール大管長と話し合い、大管長から明確な声明をいただきました。なぜなら、この件については大管長が特権を持っておられるからです。

この最も重要にして神聖な責任にだれが選ばれるべきかについて、私ははっきりと

した明瞭な印象を、つまり私がみたまのささやきと呼ぶものを受けました。新しく召された方々は社会でも教会でも経験豊かな方々です。また彼らはそれぞれの分野で学識と実績のある方々で、同僚を初め、内外の多くの人々から賞賛の榮譽を受けてこられました。

彼らのこれまでの教会における働きも、注目に値します。少年のときから、おふたりとも信仰が強く活発でした。おふたりともステーク部長会で働き、地区代表も務めました。また、教会の様々な責任に携わり、その都度立派な働きをしてこられました。しかし、彼らが召されたのは、そのためではありません。

彼らが召されたのは、主の神性の証し人としてこの職につくよう主が望まれたためです。この方々は主が生きておられることを高らかに証してこられました。また、これからも証していかれることでしょう。

おふたりとも信仰の人です。聖なる使徒職に聖任され、十二使徒評議員会会員として任命された後、彼らは主として導きと恵みを施す業にみずからを捧げるよう期待されるでしょう。彼らは世界にあってキリストのみ名の特別な証し人として立つ責任を、ご自分の生活の中で第一に考慮すべきそのほかのあらゆる事柄の上に置かれることでしょう。

現在の地位でとても立派にやっておられるときに、どうして教会はあのような有能な方々を公の仕事から引き抜いたのか、と言う人がいるかもしれません。私にはわかりません。教会がそうしたのではありません。そうではなく、この方々こそ主の証し人となるべき人であることを、主が明らかにされたのです。彼らがこれまでにしてこ

られたようなことを行なうことができ、彼らと同等の資格を持ち、十分な訓練を受けた人はほかにもいます。しかし、今彼らは、その特別なすばらしい召しを受けられたのです。主は人の及ばぬ知恵をもって彼らをお招きになりました。

私たちと同じように、彼らも人間です。長所もあれば弱点もあります。しかしこれからの残りの生涯のあいだ、忠実である限り、その最大の関心事はこの地上における神の業の伸展になるに違いありません。また、彼らは、教会の内外を問わず、天父の子供たちの福祉に携わるに違いありません。また、悲しんでいる人を慰め、弱い人々に力を与え、たじろいでいる人を励まし、友のない人の友になり、生活に困っている人を養い、病人を祝福し、神の御子であり、友であり主であるお方（おふたりはその僕なのですが）に対して単なる信仰からではなく確かな知識をもって証を述べるために、



ご自分にできるすべてのことをなさるに違いありません。

主は、導きと恵みを施す業を助け、主の死後そのみ業を広める十二使徒を選ばれました。また、使徒パウロは教会は「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」(エペソ2:20)と宣言しています。にもかかわらず、使徒という職も十二使徒評議員会も私が知る限りほかのいずれのキリスト教会にもありません。私は今までずっと、このことを注目すべきことであると考えてきました。

同様に七十人の職もありません。この大会で何人かの人がこの職に召されました。この職にも同様に、使徒と同じように、キリストのみ名を証する責任があります。

使徒 (apostle) という言葉はもともとと字

義的には、「遣わされた人」という意味です。この定義がもし「ある権能と責任をもって遣わされた人」を表わしているのだとしたら、主がこの地上を歩まれたときに与えられた召し、そして私たちの時代に与えられている召しを的確に表わしていることになります。

ルカは主について次のように記録しています。「イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。」(ルカ6:12-13)

主がこのことについて夜を徹して祈られた後、ご自分と共に歩くべき人を選ばれたことは、私にとって重大なことです。

「そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、



あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。……

イエスはこの十二人をつかわすに当り、彼らに命じて言われた、……

行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。……

病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。……

語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあつて語る父の霊である。』（マタイ10：1，5，7，8，20）

この神権時代にキリストの教会が再建されたとき、これと同じ使徒の職が地上に回復されました。教会の組織について1830年の4月に与えられた啓示の中で、ジョセフ・スミスは、「神に召されイエス・キリストの使徒の聖職に按手任命せられて、当教会第一の長老」と言われました。また次に、「この神命は神によりイエス・キリストの使徒に召されて当教会第二の長老となり、しかもジョセフにより聖職に按手任命せられたオリヴァ・カウドリにも下りたり」（教義と聖約20：2-3）とあります。

ブリガム・ヤングは、この神権時代における最初の十二使徒定員会設立の際の状況について、興味深いことを述べています。1834年、指導的な立場にあつたオハイオ州の兄弟たちは、同僚たちを助けるためにミズーリ州まで行って、また戻ってきました。それは長く困難な、ほとんどが徒歩での旅でした。厳しい試練のときでした。ブリガム・ヤングは次のように言っています。

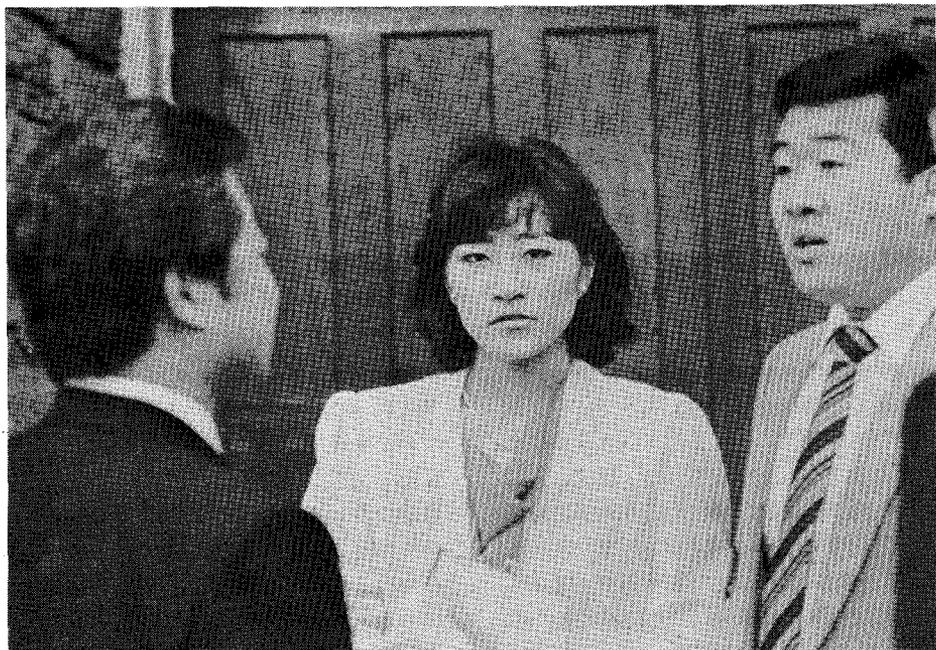
「ミズーリから戻ってから、兄ジョセフ・ヤングと私は、ある集会で説教をした後、歌を歌っていた。集会が閉会すると、ジョセフ・スミス兄弟は、『一緒に私の家へ行く

う』と言った。私たちは行って、長いこと歌ってから、彼と話をした。そうしてから、私が思うに初めて彼は十二使徒と七十人のことについて話し出した。

彼は言った。『兄弟の皆さん、私はこれから十二使徒を召そうと思います。皆さんと共に集い、十二使徒を選びます。そしてシオンへ旅してきた人々の中から七十人定員会を選びます』と。……1835年の1月の終わりが2月、あるいはその頃、私たちは連日のように集会を開き、ジョセフ兄弟は、その折に十二使徒を召した。私たちが彼のために歌を歌っていたとき、彼は啓示を受けたのである。彼をよく知る人々は、彼に啓示のみたまが降るときを知っていた。というのも、彼がその力を受けているときは、独特の表情を示すからであつた。彼は啓示のみたまによって教えを説き、同じみたまによって評議会の人々に教えた。したがって、彼をよく知っている人は、ただちにそれと知ることができた。そのようなとき、彼の顔は、独特な透き通るような明るさを呈するからであつた。』（「説教集」9：89）

モルモン経の三人の見証者、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマー、マーテン・ハリスは、この神権時代における最初の十二使徒を推薦する責任を与えられました。候補にあげられた人々は、1835年2月27日、カートランドで開かれた集会に召集されました。この会で書記を務めたオリヴァ・カウドリは議事録にこう記していません。

「スミス大管長は次の問題を提起した。教会の他の召しや職と異なるこの十二使徒の召しには、どのような重要性があるのか。討議の後、……パッテン、ヤング、ムレリンとジョセフ・スミス・ジュニア大管長は



以下の決定を下した。

彼ら十二使徒は巡回高等評議員の職に召されており、異邦人の教会を管理する。異邦人の間には管理体が確立されていない。彼らは主がユダヤ人のもとに行くよう命じられるまで、旅をして異邦人に福音を宣べ伝える。彼らはこの導きと恵みの業の鍵を有し、あらゆる国民に対して天の王国の扉を開き、すべての被造物に福音を宣べ伝える。これは権威、権能であり、彼らの使徒職に具わる力である。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」カートランド、1835年2月27日)

後の啓示に述べられているように、彼らは大管長会の管理のもとに働き、「全世界に於けるキリストの御名の特別の証人」(教義と聖約107:23)として出ていくのです。また、彼らがこの召しを果たすうえで援助

が必要となきときに七十人を召し、また状況によってはほかの役員を召します。

この神権時代における主のみ業の開始以来、84人が十二使徒評議員会会員として召されてきました。ラッセル・M・ネルソン長老とダリン・H・オークス長老は、そのようにして選ばれ、聖任され、任命された85番目と86番目の人です。彼らの職は偉大で神聖です。20年間この代わるもののない崇高な定員会の一員として働いてきた者として、私はそこに見られる兄弟愛と、献身と、信仰と、努力と、神の王国を推進するための驚くばかりの奉仕を目のあたりにしてきました。

今少し個人的な気持ちを述べさせていただけると、皆さんの前で彼らに感謝の意を表したいと思います。キンボール大管長より教会の大管長会副管長として働くよう

召されて以来、ほぼ3年の歳月が流れました。この間の多くの年月を、私はへりくだり、この壮大で畏るべき責任を果たすべく努めて参りました。孤独と恐れと、深い懸念を覚えることたびたびでした。私は指示と力と導きを求めて熱心に祈りました。私は愛する十二使徒評議員会の兄弟たちに助けを求めました。彼らは、支持と援助と靈感に満ちた勧告を喜んで惜しみなく与えてくださいました。

教会の大管長会には一致があります。大管長会と十二使徒会の間には一致、完全な一致があります。七十人第一定員会と管理監督会の間にも一致があります。私はこの教会の歴史をある程度理解しておりますが、ためらうことなく申しあげられることは、今日ほどこれら指導的立場にある評議会の中に、また各々の評議会の中に強い一致が見られたことはないということです。

私は幹部の兄弟たちを愛しています。彼らはひとりの人に対して忠誠と支持を示しています。彼らはためらうことなく自分の都合を二の次にして、あらゆる召しに応えます。彼らはイエス・キリストの真の弟子です。今、またふたりの方が聖任され任命されて使徒が12名になりました。定員会は完全です。私たちは、リブランド・リチャーズ長老とマーク・E・ピーターセン長老の逝去により、ふたりの傑出した偉大な人物を失いましたが、その空席を埋めるために、ふたりの傑出した偉大な人物が召されました。彼らは主の支持のもとに召され、教会員の信仰により支持されました。

み業は威厳と権威をもって進みます。王国は堅固に着々と成長します。証は全世界の教会員の心の中で、そして生活の中で強

まっています。ここにこそこの王国の偉大な力があります。それは堅固で真実で個人的な確信であり、世界の津々浦々で異なった言語を話す何百万の末日聖徒たちの心に見いだされます。そして一人一人が信仰深い人々の群れの一員です。忠実な教会員一人一人は永遠の父なる神が生きておられることを知っています。またイエスがキリストであり、人類の贖い主、救い主であることを知っています。彼らがこのはつきりとした真理を知っているのは一人一人に証をする聖霊の力によります。

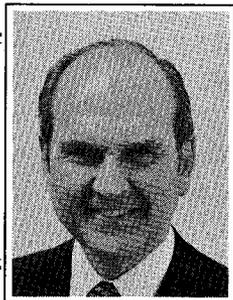
奇しきみ業と、そのみ業を動かし進める不可思議でしかも確かな方法を神に感謝します。

私は教会幹部の兄弟たちのみならず、国の内外を問わず全世界の末日聖徒の方々の支持に、心から深く感謝申しあげます。私は皆さんの祈りの力を感じてまいりました。皆さんの支持の拳手と心を私は知っています。皆さんの働きに心から感謝いたします。皆さんは自分を捨て、偉大な、人を動かす信仰をもって主の業を推進し、主の息子、娘に対する御父の永遠の目的を達成するのを援助しておられます。

世界のいたる所におられる皆さんを神が祝福したまいますように。義にかんがって働くときに信仰が強められますように。永遠の真理の泉から飲むときに証が絶えず強まりますように。主の偉大な王国を支持し、主に対して正直に歩むときに、皆さんのかごと倉がいっぱいになりますように。皆さんの心に、そして家庭にキリストの平安がありますように。主の聖なるみ名、主イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈ります。アーメン。

聖なる使徒職への召し

十二使徒定員会会員 ラッセル・M・ネルソン



19 84年4月の総大会の土曜日は、何年も前からカレンダーに丸印がつけられていました。その日は、我が家のひとり息子が成長して、私と一緒に初めて神権部会に出席できるようになる日だったからです。昨晚、待ちに待ったその目標が実現しました。兄弟姉妹の皆さん、その同じ日に十二使徒定員会の一員として私の名前が提示されようとは思ってもみませんでした。私たち夫婦がまったく知らなかったことですから、子供たちが知るはずありません。結婚した娘たちが大会の合間に電話をしてきました。出産を間近に控えた娘はこう言いました。「お父さん、発表のショックで陣痛が始まりそうだわ。」そして、言った通りになりました。ですから大管長会のこの発表は、出産の助けをしたという点で賞賛されて当然ではないでしょうか。こうして22番目の孫が、昨晚無事生まれました。

私の人生を変えるこの召しについて聞いてから、様々な思いが心に浮かびました。まず最初に感じたのは、自分が至らない人間であるということです。この気持ちは、リグランド・リチャーズ長老とマーク・E・ピーターセン長老の比類ない力について考えたとき、さらに強くなりました。おふたりを失って、私たちは本当にさびしい思いをしています。このおふたりは、人々から尊敬される指導者であると同時に、私にと

って良き友人でもありました。私よりも資格のある、そして才能に恵まれた方々の力を見るにつけ、私はこの召しに対する自分の至らなさを感じるばかりです。

幸いにも、こうした思いは信仰が取り去ってくれます。なぜなら、ニーファイの次の言葉は真実であるからです。「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」

(I ニーファイ 3 : 7) 私は、主とその予言者に絶対的な信頼を寄せています。主の定められた神権政体の系統を通して召しを与えられた場合、私はその召しに疑問符ではなく、感嘆符をつけるように教えられました。

今からおよそ20年前、十二使徒定員会のふたりの方が、新しいステーク部長を選ぶために、私たちの住んでいるボネビルステーク部に派遣されてきました。そのふたりとは、スペンサー・W・キンボール長老とリグランド・リチャーズ長老でした。そしてステーク部長の召しは私に与えられました。私は今、亡くなられたリグランド・リチャーズ長老の空席を埋めるために、スペンサー・W・キンボール大管長の按手によ

り使徒に聖任されようとしています。

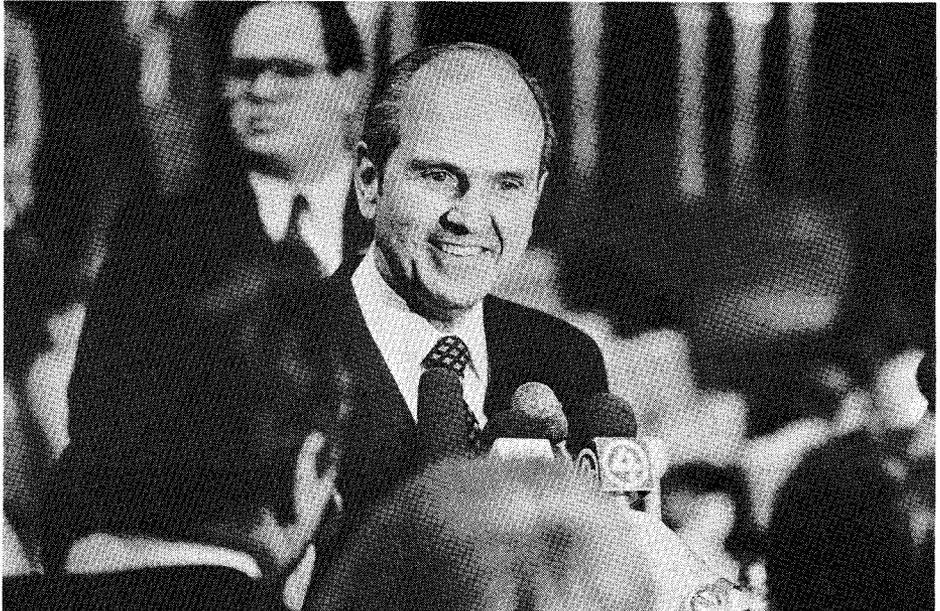
すべてを捧げて働こうという気持ちが、心の底から湧きあがってきます。愛する妻ダンツェルと私は、38年前に主の宮居で、主に仕えるために生涯を捧げるという誓約を交わしました。私はきょう、その約束を新たにします。すなわち、この地上に神の王国を築くために、私の持つすべてのものを捧げると約束します。この召しに伴って、様々なチャレンジや責任や鍵が授けられ、苦難も与えられるでしょう。私はこの召しを受け入れるに際し、全力を尽くし、すべてを捧げる覚悟でいます。

私の素晴らしい両親と開拓者であった8人の曾祖父母のことを思うと、感謝の気持ちに満たされます。ヨーロッパの人口稠密な国で改宗し、8人全員がユタの小さな町エフライムに移民しました。曾祖父母たちはこの大会の模様を、天の窓からながめて

いることと思います。

愛する妻ダンツェルに、永遠の愛と尽きせぬ感謝を捧げます。ダンツェルは家庭を豊かな愛で潤してくれる泉です。10人のすばらしい子供をこの世にもたらし、教え、訓練し、その一方では、教会の責任や仕事について一言も不平を言わずに私を支持してくれました。そのために彼女の払った犠牲は、不朽のものです。私たちは8人の娘婿もわが子のように愛しています。私たち親子を永遠に結んでくれる神殿結婚の完全な絆に感謝しています。また、すでにこの地上にやってきた愛らしい孫たちと、これから生まれてくる孫たちにも感謝しています。

私は名目上は、外科学およびその母体である医学の出身者ですが、実際には、厳格な法のもとで訓練を受けて鍛えられた者です。しかし私の言う法とは、司法関係の兄



弟たちが修得した人間の法律ではなく、創造主の永遠かつ不変の律法のことです。外科医はいちはやく、神の律法には議論の余地がないことを学びます。すなわち、望みや願いはときとして力のない単なるごまかしにすぎなくなり、求める祝福は神の律法に従わない限り決して与えられないと悟るのです。ですから私は、こうした律法を学ぶことを中心にきょうまで生きてきました。律法について学び、それに従うときのみ、望んでいる祝福が得られます。この点では、これまでも使徒として召されたこれからも、私の行ないに何ら変わるところはありません。主の永遠の律法は、教義として使徒によって明らかにされているのです。

私は共に医療に携わってきた同僚たちに感謝します。彼らのおかげで、私は患者の治療に加わることができました。これからは彼らが引き続き治療を行なってくれるでしょう。同僚たちの無私の働きは、神と隣人を愛するというふたつの偉大な戒めを満足させるものです。最大の奉仕をする人が最大の愛を抱いているということ、体得しているのです。

イザヤやエゼキエルから、ジョセフ・スミス、スペンサー・W・キンボールに至るまで、私は主の僕をすべて支持します。そして主の僕が私を信頼してくださることに、深く感謝しています。私は主の僕と彼らが仕える全人類とを心から愛しています。

聖なる使徒職への召しとは、主なる基督イエスの神性を世に証する者になることであると、私は理解しています。救いの中心はイエスにあるのです。天使はベンジャミン王に言いました。「救いは身代りの贖罪をなしたもう全能の主なるキリストの血に由って与えられる。」(モーサヤ3:18)

ジョセフ・スミスは「あなたの宗教の根本的な原則は何ですか」と聞かれたとき、こう答えました。「私たちの宗教の根本原則は、イエス・キリストが亡くなって葬られ、3日目によみがえって天に昇られたことについて、使徒と予言者の立てる証です。私たちの宗教のその他のことはすべて、この証に付随するものに過ぎません。」(「教会歴史」3:30)

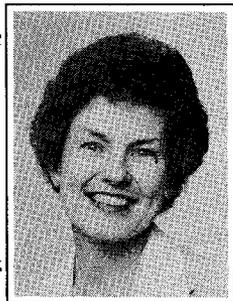
地球とそこにある万物の創造、人類を生ずるために必要な墮落、そして主の贖い、これらは神の永遠の計画を構成する3つの根本要素です。贖いの犠牲がなければ、不死不滅も永遠の生命もなかったでしょう。

主の教えは、イエス・キリストの回復された福音であり、そのみ名を冠する教会によって管理されています。主は、世のすべての人々に主の教義を宣言する予言者を通して、神権の力と啓示により、教会の諸事を導いておられます。

私の述べる証は、1820年の春以来、十二使徒の召しを受けた84人の方々によって繰り返し語られてきたものです。父なる神とその御子が現われて、永遠の真理を伴うこの最後の大いなる神権時代の到来をお告げになりました。私たちはイスラエルの家に属し、特にヨセフの血統を受け、長子の特権を担う者として、救い主の再臨に世の人々を備えさせるという、最後の責任を与えられていることを証します。この責任を果たすならば、遂にはあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民の中から数えきれないほどの人々が私たちに加わって、イエスが救い主であり、生ける神の御子であると宣言するようになるでしょう。これらの証をイエス・キリストのみ名により申しあげます、アーメン。

「教会の姉妹たちを愛しています」

中央扶助協会会長 バーバラ・W・ウインダー



私は畏敬の念にかられています。教会の総大会に来て、タバナクルに集えるのはいつでも偉大な誉れであり、特権だと思います。しかし、予言者と同席できること、健康上の都合で常にそうしていただけないのに、特に予言者ときょうこうしてご同席させていただくことに感謝しておりますし、偉大な指導者の方々の言葉を伺い、感動しております。私は皆様方に本当に感謝しております。きょうのヒンクレイ副管長の証とお話は、何とすばらしかったことでしょう。

私の夫リチャード・ウインダー伝道部長と私をここに送ってくれたのが単なる飛行機だけではないことを私は知っています。私の夫は、あの偉大なカリフォルニア・サンディエゴ伝道部の伝道部長を務めています。そして、今週末、こっそりとそこから抜け出さなければなりません。私は主が与えてくださる啓示と霊性について証を持っています。私は至らない人間であるとは思いますが、主が助けたまい、その業を前進させたもうことを知っています。

サンディエゴの長老や姉妹宣教師の皆さん、私は、数日前にあなた方と共にいた同じウインダー姉妹です。そうです、シャツにアイロンをかけたり、ボタンをつけたり、聖典を携帯することなど、お母さんから教えられたことができるようお手伝いをして

いたあのウインダー姉妹です。例の白い手引きもここに持っています。そうです。あのウインダー姉妹です。そして、その2年前には、昨日皆さんがお聞きになったあの偉大な姉妹たちと共に評議員会に座って管理役員や補佐の方々と共に学び教を受けていたあのウインダー姉妹です。この姉妹たちの多くは私の友人であり教師です。私はこの方々に感謝するとともに、共に働く機会を持ち教えてくださったすばらしい兄弟の方々にも非常に感謝しております。

私たち女性は神権者の指導の下にあります。その働きに従った人々から私が教えられたことがあります。それは、今日のように混乱の時世にある女性が思いやりのある妻、母親となり、主の王国の忠実な会員として自分たちの地域社会に貢献できるような人になるのを助けることです。そのような人になることは末日聖徒の女性に与えられた力です。

私は、私の両親および夫の両親が正しい原則を教え、またふさわしい模範を示してくれたことに感謝します。2年振りに私たちを乗せてソルトレークに到着した飛行機がそのまま飛び続けてくれたらと思えました。着陸したところは堅い、堅いアスファルトの道でした。でも、4人の子供とその結婚相手、かわいらしい孫たちが私たちを

迎え、ここに我が家があることを教えてくれました。彼らの支持に感謝しています。私は夫に感謝します。ソルトレーク神殿でハロルド・B・リー大管長によって結び固められ、30年間結婚の絆で結ばれて共に働いてきました。目的をひとつにして、団結し、お互いに助け合いながら、数々の教会の召しや責任を務めてきました。教会の人々に目的をひとつにして団結して働くようにと勧め、全体が良くなるようにほかのあらゆる部分も機能を果たさなければならぬことを教えたパウロのことを考えざるを得ません。それと同様に、結婚生活や家族でも一人一人が共に働くようにならなければなりません。昨日すばらしい教えを受けました。私は教会の姉妹たちを愛しています。神権について唱えたあのすばらしい教義と聖約の第84章には、「体はあらゆる他

の部分に要するなり。かくしてすべて互いに強め養いて、その系統完全に保たるるなり」と書かれています。パウロの言葉と同様、主の教会の会員はお互いに思いやりを持つようにと教えています。

私も教会の姉妹に対してこの愛を感じておりますし、一人一人の持つ価値について感じています。私は、皆が一致団結し、神権者と協力し、今日ここに神の王国を建設するために働き、福音を必要としている人人にその喜びを伝えることができるよう切に望んでおります。これは主の王国です。それを分かち合うという大きな責任が私たちにあります。神様が生きたもうこと、私たちが愛しておられることを私は知っています。これは私の証であり、皆さんのために務めることをお約束します。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。



簡潔な福音の真理

七十人第一定員会会員 ロバート・L・シンプソン



昨日の朝、ダラム長老は、車のバンパーステッカーの言葉を引いて話のテーマを紹介されましたが、ロサンゼルスのある壁にはこのような言葉が書かれています。「スコッティ、今すぐ僕に光線を。この地上には知的生活がまったく見られない。」

(後注参照)

ところで、兄弟姉妹の皆さん、知的生活があるという疑いのない証拠があります。ありがたいことに、天父は「神の栄光は英智なり。すなわち、光明と真理なり」(教義と聖約93:36)と述べておられます。純然たる福音の光と真理を受け入れ、それに従って生活する人は、まさしく知的生活を送っていることとなります。

今朝私が皆さんにお話したいのは、その純然たる光明と真理についてです。これは、主の使徒となったマシュー・カウリー伝道部長のもとで宣教師として働いていたときに強く注意を引かれたことです。カウリー長老は「イエス・キリストの福音は簡潔で美しい」とよく教えられました。

その言葉が真実なことは、今年の初めに、家族や友人と、かつてイエスが歩まれた所を歩むことにより一層確かなものとなりました。いにしえのエルサレムの町にも驚嘆しました。ベツレヘムの近くでは、羊飼いたちが今もなお羊の世話をしています。私たちはオリブ山の同じ道に沿って歩きました。それから北に向かい、静かなガリラヤ

を眺めました。途中、関連のある聖句を読み直し、改めて考えてみると、2千年前に起こったことが急に、新たな深い意義をもって迫ってきました。

ヤコブの井戸でイエスがサマリヤの女に話されたあの「生ける水」が、現実性をもってきました。(ヨハネ4:10参照)ゲツセマネに立って、「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」(ルカ22:42)という不滅の言葉について考えていると、涙が出てきました。また、カルバリでの簡潔ながら深遠な教えがあります。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

美しいガリラヤでは、ユニークかつ深い意味を持ったあの誘いの言葉の簡潔さに驚嘆しました。主はこう言われました。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ4:19)引用したこうした言葉は、主なるキリストの典型的な言葉です。純粹かつ簡明な真理を教えられたイエスは、謙遜に、また非常にわかりやすく話されました。

イスラエル滞在中に、救い主の優れた教えに改めて目覚めたことが、何よりの自信を与えてくれました。主が残された教えは何とわかりやすく純粹なことでしょう。実

際、パウロは、コリントの聖徒への手紙で同じ見方をしています。「神は無秩序の神ではなく、平和の神である。」(Iコリント14:33) ヤコブは別の言い方でそのことを述べています。「しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみ……に満ち」(ヤコブ3:17)

確かにカウリー長老が「イエス・キリストの福音は簡潔で美しい」と言われたことは本当でした。初等協会に集う子供でも、8歳の誕生日を迎えてバプテスマを受ける頃には、福音の基本的なことならよく理解できるほどわかりやすいのです。

救い主の最も重要な教えのいくつかは、子供たちの信仰が中心になっています。マタイ伝の中で、弟子たちが次のように尋ねたときのことを覚えておられるでしょう。「『いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか。』すると、イエスは幼な子呼び寄せ、(子供を優しく抱きかかえ、ひざの上のにせた主のお姿が目に見えます) ……」



言われた、『よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。』(マタイ18:1-4)

確かに救い主は弟子たちにお答えになったとき、幼な子の持つ絶対的な信仰と誠実さについて考えておられたはずですよ。

子供たちが祈るとき、私たちは皆注意して聞く必要があるのではないのでしょうか。

昨日のモンソン長老のお話で思い出したのですが、娘のクリスティーンがまだ幼かった頃、家族で祈るとき、彼女にも祈りを頼むことがありました。私たち家族はいつも健康を願って祈りました。娘にとって発音のむずかしい言葉がありました。娘は「健康」(healthy)と言えず、いつも「お金持ち」(wealthy)になるように祝福してください」となるのでした。私はそれで結構だと思ひ、そのままにしておきましたが、天父は娘の言おうとしたことをご存じで、富は私たちを避けていきました。

賢明で気高い予言者、教師であったベンジャミン王は、肉欲に従うことを捨てて、主キリストの贖いによって聖徒となることを人々に教え、さらに「幼児のように従順で柔和で謙遜で忍耐で愛情に富み、幼児がその父に従うように」(モーサヤ3:19)ならなければならないと言っています。

私たちは、イエス・キリストの福音はあらゆる真理を含んでいると教えられています。キリストの福音には科学上の真理も含まれます。私は、化学や物理の分野の基本的な真理の簡明さにいつも興味を引かれます。

たとえば、水の化学記号は H_2O として簡単に表わされます。また不思議なのは、アインシュタインが $E=MC^2$ という簡単な方程式で思考の枠を拡大した相対性理論を表わしていることです。根本的な真理に

近づけば近づくほど、真理はもっと簡単に表わせるように思われます。

このことに関して宗教的な真理の一番良い例は、高価なる真珠のモーセの書にあって、よく読まれる聖句ではないでしょうか。そこには、永遠についての総合的な目的がひとつの文章で表わされています。「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1：39) 永遠の進歩と救いに関するすべての計画がこの短い言葉に要約されているのです。私はこの言葉が好きです。真実だからです。この言葉は根本的なことであり、まったく道理にかなっています。むだがなく、従えばだれもが成功を取めることのできる目的を定めています。天父の子供たちは皆昇栄を得る候補者となります。そして、昇栄への過程にあって私たちが成功を取めることが、神をたたえることになるのです。

永遠の真理の多くは非常にわかりやすく述べられており、誤解されるようなことはありません。しかしヤコブの時代の人々のように、「はっきりした言葉^{わか}を侮り、予言者たちを殺し、解りにくいことをたずね求め」(ヤコブ4：14) るような人もいます。

ここで、わかりやすい福音の真理について考えてください。時間の都合で短く言い替えます。

什分の一や献金を取めることは天の窓を開く。(マラキ3：10参照)

知恵の言葉に従うことは、健康、知恵、幸福を保証する。(教義と聖約89参照)

犯した罪を進んで神権指導者に告白し再び繰り返さないならば、完全な悔い改めがもたらされる。(教義と聖約58：43参照)

「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招く……がよい。」(ヤコブ5：14)

悔い改め、バプテスマを受け、信仰を持ち続ける者はすべて日の光栄を授かる。(教義と聖約18：22参照)

パウロは非常にはっきりと、しかも簡潔に言っています。「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。」(エペソ4：5) 何者もこの簡潔な真理を変えることはできません。

最後に、私の好きな聖句です。「そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ8：32) 人はだれも自由になること、罪や利己心や悪癖から自由になることを望んでいます。そうです、政治的な自由でさえ簡潔な真理という神の計画により可能になります。

もちろん、簡潔さや明白さの大切なことについてこれまで述べたことも、結果的には天父の子供たちが喜びと達成感を得なければ意味がありません。バプテスマを受けて新しく教会の会員となった人が、意欲に燃えて福音の計画に応え、簡潔な教えを守ることにより約束された祝福を得るようになっていくのを見ると胸が躍ります。

これは、いわゆる開発途上にある地域で特に見られます。インドのコインバートルに皆さんをお連れして、非常に粗末な環境の中で生活している100人余りの教会員に会っていただくことができました。彼らはこの世的な物質はほとんど持っていません。ときには食物さえ十分にありません。大部分の人がほとんど、あるいはまったく教育を受けておりませんが、彼らの人生は回復されたイエス・キリストの福音を通して短期間に好転しました。

一般的な健康のレベルが向上し、学校に行く人も多くなりました。彼らはシオンの歌を心をこめて歌い、前以上に笑みをたえています。彼らは希望を見いだしました。恵まれた人はいませんが、救い主について

簡潔な真理を教えられました。福音は複雑なものではありません。彼らは福音を理解し、それに応えています。小さな一部屋の集会所（清潔な土間）に最近集ったときでした。彼らは教えを受けるのを待ち望んでいるように見えました。集会所が進行する一方、物見高い隣人たちはそばにやってきたい衝動を抑えられず、開いた窓や入口から眺めていました。中にいる人とのぞいている人との間に著しい違いがあるのに驚きました。福音の教えが、霊性はもとより、個人の健康管理、身なり、態度、顔つきなどを感化し、人々が「簡潔で美しい」何かを新しく見いだしたことを表わしていました。

教会の姉妹宣教師たちがタイやフィリピンの難民収容所で、クリスチャンとして真の奉仕をしていることを知っている人はわずかです。基本的に、この姉妹たちは英語と西洋文化を教えますが、純粋な愛と優しい態度を通して祖国を追われたこの人々に深い教えを施しています。

カンボジアからの若い難民でカリフォルニアに配置された人の話があります。彼は自分で教会の集会所を見つけました。表の看板にある教会の名前が、収容所で教えてくれたすばらしい姉妹宣教師の名札のそれと一致していたからです。彼はその名札を毎日見ていたのでした。人は誠実な親切はいつまでも忘れないものです。純粋な愛はすべての違いを乗り越えます。

みたまがこの教会に光を与えているのです。英国のある最近の改宗者のことが頭に浮かびます。私が尋ねたところ、改宗について話してくれました。ある土曜日の朝、花壇のところにひざまずいて春の植え付け用に土の整備をしていたら、突然、後ろから声が出て、簡単な質問をしたそうです。

「あなたは主を愛していますか。」

天使が立っているのだろうかとすっかり期

待して振り返ると、そこにはふたりの天使、モルモンの宣教師がふたりいたそうです。彼は「もちろん愛していますよ。それについて話すのなら、中に入りましょう」と答えたそうです。それはとても簡潔で、純粋でした。救い主が用いられたのもこの方法だったのかもしれませんが。

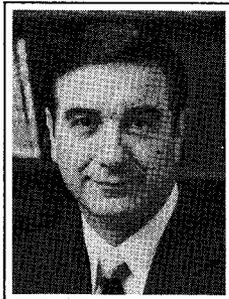
最近のことですが、台湾に住んでいたある若いアメリカ女性がタクシーに乗ったのですが、彼女は、運転手が高い料金を取ろうとして遠回りをしていると思ったそうです。そこで、はっきりと自分の思っていることを言おうとしていたら、その若い運転手が彼女の態度に明らかに心を傷つけられた様子で、車を止め、エンジンを止め、振り向いてただこう言ったそうです。「そんなことはしませんよ。私はモルモンです。」その言葉に、平静さを取り戻した彼女はモルモンとは何か尋ねました。彼女が3週間後に教会に入ったところを見るとモルモンが何かわかったようです。心の正直な人がかかわるとこうすることが非常に簡単に起こります。

使徒ヨハネのこの世での働きを予言したニーファイは、ヨハネの教えは「はっきりしていて純粋であり、また非常に貴くすべての人に解り易いものであった」(I ニーファイ14:23)と言っています。真理について私たちの理解するところが簡潔で美しいものでありますよう、救い主、贖い主であるイエス・キリストのみ名により心からお祈り申しあげます。アーメン。

(注) これはテレビ番組「スタートレック」をもとにしたジョーク。「スタートレック」では、ある光線を浴びると瞬く間に場所を移動できることになっている。

真理の実践

管理監督会第二副監督 J・リチャード・クラーク



ヨ ハネ伝にピラトとナザレのイエスの有名な言葉のやり取りがあります。ピラトにとって救い主は謎の人物でした。彼は言いました。「あなたは王なのだな。」イエスは答えて言われました。「わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。」(ヨハネ18:37)

それに対してピラトは話をそらし、いつの時代にも絶えることのなかったひとつの質問をします。「真理とは何か。」(ヨハネ18:38) ピラトは答えを待ちませんでした。答えがあるとも思っていなかったのでしょうか。彼は、何世紀にもわたってローマやギリシャの哲学者の間で、真理が好んで討論のテーマにされ、常に探求の対象であったことを知っていたのです。

きょうここで真理について抽象的な説明をすることは私の目的ではありません。私は、真理を実践することについて、すなわちその原則と応用について話したいと思います。

ウィリアム・ジョージ・ジョーダン(米国の著作家、1864-1928)は言っています。「真理とは、正しいと思うことに忠実であり、理想にそった生活をする勇氣であり、力である。真理は完全に定義しがたく、電気と同じで、現象をもってしか説明することができない。真理はたましいの道しるべ

であり、良心の守り手であり、何が正しいか最終的な標準となるものである。真理は理想の現われであり、同時に、理想を実現するための靈感となり、励ましとなるものである。」(「真理の力」p.3)

末日聖徒として、私たちは真理の原則に身をゆだねています。私たちは真理を求め、真理を信じ、真理が自由を得させてくれることを知っています。(ヨハネ8:32参照) 真の弟子となるには、信じていると公言する原則と実践する真理が一致していなければなりません。

アンモンの民のように「神と万民とに対する熱心と善徳とに於て著しく、何ごとにも全く正しく正直であって終りまでも固くキリストを信じ」(アルマ27:27)る人々にならなければなりません。

外側は美しく見えても、内側は良いものがなにもない空洞のような白い墓になってはなりません。(マタイ23:27参照)神が息子や娘として私たちに期待しておられる姿を装うのではなく、実際にそうならなければなりません。

真理の実践、すなわち私たちの決意のほどを計る言葉は、正直、誠実、実直、廉潔などいろいろあります。私は廉潔(probity)という言葉が好きです。これはラテン語の probus (プロブス) すなわち「善」という

言葉と probare (プロバレ)「証明する」という言葉からきたもので、試験済みの誠実さという意味を持っています。

この廉潔さが自分の本質の一部になるまで、訓練を通してそれを身につけた人は、どのような場合でも自動的に北を指し示す道德の磁石のようなものです。このような人は、正しいことを損得を考えずに行なう人であり、考えなくとも正直な行ないができるように努力する人です。

ジョーダンは言っています。「真実をスローガンとする人は、言葉に注意する。控え目すぎたり誇張したりすることなく、正確な話を心がける。その人の言う言葉は誠実な響きを持ち、純金の折り紙つきである。その人の約束は頼りになり、印の入った契約書を受け取るようなものである。自分の言葉を行動で実証し実現するためにどれほど犠牲を払おうとも、それを行なうことで知られている人である。」(「真理の力」p.5)

N・エルドン・タナー副管長の経験談を覚えておられるかと思います。ある青年がやって来て言ったそうです。「ある人に毎年支払いをするという約束をしました。今、生活が大変で、支払いができません。支払ったら、家を取られてしまいます。どうしたらいいでしょう。」

タナー副管長はその青年を見て「約束を守りなさい」と言いました。

「家がなくなってもですか」と青年が聞き返しました。

タナー副管長は言いました。「あなたの家のことについては言いません。あなたの約束について話しているのです。あなたの奥さんも、家はあっても誓いや誓約を守らない夫と住むよりは、借家でも、約束を守り、責任を果たし、誓いや誓約を守る夫

を望んでいると思いますよ。」

数年前の総大会に出席したときおもしろい経験をしました。ZCMIで買物をし小切手を現金にしようと思いました。私はユタ州の住民ではなかったので、出納課に回され、そこで身分証明書を求められました。財布の中からクレジットカードを取り出しました。その拍子に神殿推薦状が出てきました。その出納係は「それでもいいですよ」と言いました。「どれですか」と私が言うと、「その神殿推薦状はまだ有効でしょう?」と彼女が言いました。「はい」と言うと、「それで結構です」と彼女は言いました。

家路につきながらずっとそのことについて考えました。モルモンのクレジットカードができて、そのカードを持ったモルモンが約束を守り、雇用者に対して正直であり、契約通りに支払いを行ない、同様に、モル



モンの知識人や商人、ビジネスマンが利益のために妥協して誠実さを失ったりすることなく、誇りを持って自分の仕事を行なうなど、一人一人があらゆる面で傑出するように努めたらどんなにすばらしいことでしょうか。正直さと優れた仕事をもって知られる特別な民となることができたらどんなにすばらしいことでしょうか。誠実についてのモルモンの標準は世界で最も高くなるべきものです。なぜなら、私たちは神の誓約の民だからです。主は文化や人種や国籍の相違によって譲歩はされず、すべての聖徒が福音の標準に従って生活することを望んでおられます。

真実のおきてを守るたびに、影響は倍加します。私たちは互いに支え合った組織の集合として、上手に組み立てられた橋にたとえられます。トラスや柱、大ばりの一本一本が構造の強弱に関係しています。

誠実な人とは、自分の持つ徳の一つ一つを統合させて堅固な構造を形造っている人のことを言います。それに対して、時と場所に応じてときどき正直であろうとする人は、釣り合いがとれません。

アメリカ海兵隊の前総司令官、デビッド・シュープ将官は、道徳的に生きるのにむらがあってはならないと強調しています。妻に不実な海兵隊員について次のように言いました。

「ここで私は姦淫かんいんそのものを心配しているのではない。それは、単なる副産物である。結婚の誓約を交わす際に神と人の前で立てた誓いを破ったことを正当化しようとする人は、自分の欲望やほかからの圧力に負けて、アメリカ海兵隊の士官になったときに立てた誓いを破ってもそれを正当化できるようになるであろう。自分の肉欲のため

に自分の妻や子供を裏切る人は、自分の目的のために自国を裏切ることをしかなない。」

兄弟姉妹の皆さん、私たちは理想にかなった生活ができないことがよくあります。しかし誠実さにおいてもっと高い段階に昇ろうとするならば、高い目標を掲げなければなりません。改めたい習慣もあれば身につけたい習慣もあるでしょう。性格を完全なものにするには時間がかかり、この世でそれを成し遂げることはできないかもしれません。しかし、成功のほどは、自分の目標に達するまでわずかでも進歩し、努力したことで測られるのです。

ノーマン・カズンズは言いました。「誠実とは、信心深い者だけの贅沢品ぜいたくではない。それは真の人間、すなわち、長生きを求めるのではなく、人間の本質を求めて生きる人の人生の糧である。」

真理を愛し、実践することは、家庭で一番よく教えられることです。主は両親に責任を託されました。「その子供たちに……主の前に正しく歩むこと……を教えざるべからず」(教義と聖約68:28)、「われは汝らの小兒たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり。光明と真理はかの悪魔を棄つ。」(教義と聖約93:40, 37)

子供は両親が真理にそった生活をすることで、真理を愛するようになり、貴い生活を模倣しようと努めます。子供たちは説教だけでなく模範も求めています。親が子供に教えるひとつの大切な教えは、誠実さと誉れは犠牲なしには実践できないということです。それには普通、犠牲や不便さ、ときには恥をかくことも求められるのです。

ジェフリー・ホランド学長とお嬢さんのメアリーさんの許可を得て、数年前に彼ら

が経験したことを話させていただきます。これは私がきょう言わんとしていること、すなわち、理論ではなく実践に移される真理に関する一例です。

ホランド兄弟はこう語っています。

「ある晩、だいぶ遅く仕事から帰った。9歳になる娘のメアリーは明らかに悩んでいる様子であった。『大丈夫かい』と尋ねると、彼女はうなずきはしたが、私は問題があると感じた。彼女が寝る支度をするまで待ってみた。思った通り、娘は居間に戻って来て、『パパ、お話があるの』と言った。娘の手を取り、彼女の寝室に歩いていくと、彼女は泣き始めた。

『きょう、グランド・セントラル（スーパーマーケット）でお母さんが気に入りそうなコンパクトを見つけたの。高いことはわかっていたけど、よく見ようとしてそれを手に取ったの。』涙があふれ、娘の言葉はとぎれとぎれだった。『そのコンパクトを床に落としたちゃったの。急いでひろったんだけど、パパ、鏡は割れていたの。どうしていいのかわからなかった。お金もなかったし、だれもいなかったから、そのまま棚に戻してお店を出たの。パパ、私、正直ではなかったわ。』娘は泣きじゃくった。

私は娘を抱きかかえながら、9歳の体が罪のために震えるのを感じていた。

『眠れないし、何も食べたくない。お祈りすることもできないの。どうしたらいいのかしら。絶対に忘れることができないわ。』

母親も一緒になって、だいぶ長い間話し合った。私たちは、娘の正直さを誇りに思っていることや、もし彼女が平静を保ったまま、食べたり、寝たりしたとしたら、もつとがっかりしたであろう事などを話した。また、そのコンパクトはそれほど高くはな

いだろうから、一緒に店に行って、店の人に事情を説明し、ふたりでそれを半分ずつ払うことや、もしコンパクトがまだそこにあるようだったら、お母さんのために買うことも考えられることなどを話した。この割れた鏡を持っている限り、母親は娘があくまでも正直であり、霊的にも繊細な子供であったことを思い出すであろう。

涙も止まり、小さな体から緊張が解けると、メアリーは言った。『お祈りができそうだよ。』

私たちは子供たちに真理を实践することがいかに大切かを教えてきました。その大切な原則を学んだならば、ほかのことは自然にできてくるのです。

ナザレのイエスが真理の象徴であられたように、私たちもその証し人にならなければなりません。私たちは、自分の信ずる宗教について話したり、奇しき示現や啓示された賜、力について話すこともできるでしょう。また、^{こうしよう}高尚な理想や貴い価値観を持っていると公言することもできます。しかし、その決意のほどは毎日の生活の行ないに証拠として表われてくるのです。

窮地にあつてさえ誓約を守ったヨブのようになりましょう。「わたしは死ぬまで、潔白を主張してやめない。わたしは堅くわが義を保って捨てない。わたしは今まで一日も心に責められた事がない。」（ヨブ27：5-6）

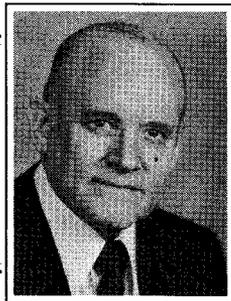
詩篇の作者は「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか」（詩篇15：1）と問いかけています。

その答えは「直く歩み、義を行い、心から真実を語る者」（詩篇15：2）です。

イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

パリサイ人と取税人

十二使徒定員会会員 ハワード・W・ハンター



ルカ伝に書かれている救い主が語られたひとつのたとえ話についてお話ししたいと思います。それは次のように始まっています。

「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとはパリサイ人であり、もうひとは取税人であった。」(ルカ18:10)

主は、この世で恵みと導きの業をされた3年の間に多くの話をされましたが、これはある話の書き出しの部分です。キリストのたとえ話に勝る文学はほかにありません。キリストの教えは、今日主のみ言葉を読む人々と同様、当時その言葉を聞いた人々の心を打ちました。主の言葉は非常に簡潔で子供にも理解できるほどですが、博学な人や哲学者にも深遠な意味を持っています。主の用いられたたとえは、種まき、失われた羊、パンを焼く女、いちじくの木、よきサマリヤ人、放蕩息子ほうとうなど人々の生活やありふれた出来事の中から取られたもので、だれにもわかりやすいものでした。

救い主が語られたたとえ話は、いずれも昇栄の資格を得るに必要な特質について原則を教えているか、または勧告しているようです。それは、信仰、悔い改め、バプテスマ、才能を伸ばすこと、赦し、善を行なう不屈の努力、役に立つ僕、慈愛、慈悲、従順などです。このようなたとえ話は普通、すでに霊的に高められた人、特に弟子たち

の知識を増すために与えられたものですが、ときにはそれ以外の聞き手に向けて語られたものもありました。

先程、たとえ話の最初の一節を読みましたが、あのたとえは弟子たちだけに向けられたものではありませんでした。またその主題はパリサイ人と取税人ですが、パリサイ人あるいは取税人だけのことを述べているのではなく、独善的な人、すなわち謙遜さに欠け、自分勝手に正しいと思いついでいることで昇栄できるのだと主張するような人々のことも述べています。このたとえ話で救い主が語られた言葉はわずかですが、教えははっきりしています。ルカ伝には物語の全容が次のように記録されています。

「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとはパリサイ人であり、もうひとは取税人であった。」

パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、めんいん 姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。』

わたしは一週に二度断食をしており、全収入の十分の一をささげています。』

ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆる

してください』と。

あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(ルカ18:10-14)

これは明らかにエルサレムの神殿でのことです。その日、このふたりは個人の祈りを捧げるために神殿に行きました。主が物語の登場人物として、パリサイ人と取税人というユダヤ社会の中でも宗教的に両極端のふたりの人を選ばれたことは、興味深いことです。

キリストの時代においてパリサイ派は、ユダヤ教の3つの派の中でも最も大きく最も有力でした。ユダヤ国家におけるパリサイ派の運動はギリシャ支配下の時代に一般の律法学者の間に起こり、宗教的また政治的に有力な一派になっていきました。パリ



サイ派の主な特徴は、律法主義と律法主義的な不可変性にありました。彼らは律法の厳正な解釈と、詳細に至るまで律法に従った生活に堅く固執することで知られていました。これが、彼らがユダヤ教教派の中でも伝統を維持することにおいて最も厳しい人々として知られるようになった理由です。彼らは非パリサイ派を汚らわしい者として避け、そうすることにより、普通の人と見なしていた人たちと自分たちとを分けていました。

パウロはパリサイ人の息子として生まれたパリサイ人でした。また彼はパリサイ人のガマリエルから教育を受けました。彼は別々の折に3度自分がこの派の一員であることを宣言しています。最初は裁判にかけられたとき、次はアグリッパの前で弁明をしたとき、そして次はピリピ人への手紙の中です。パリサイ人として受けた訓練によって、彼はユダヤ教の律法に自己を捧げる過激派となりました。このことから、ダマスコへの道での経験以前、彼がなぜキリスト教徒にあのようなひどい迫害を加えたかがわかります。

取税人とは税を取り立てる人たちのことで、軽蔑^{けいべつ}の目で見られていました。地税のような普通の税はローマ人の役人が徴収していましたが、物質を運ぶための通行税はローマ人との協定により通例ユダヤ人が徴収していました。このような徴税人あるいは取税人はこの取り引きから利益を得ていました。彼らの国の人々は彼らを泥棒や強盗同様に見なしていました。取り引きには収賄や強奪がつきものとなり、取税人といえば税金の一部を着服するものということになっていました。

ユダヤ人たちはローマ人による占領と支

配に憤慨しており、納税はカイザルへのみつき物であると考えていました。ローマ人のためにそのような税の徴収を行なうユダヤ人は国賊として見なされ、自分の働きを他国の征服者に売る卑しむべき人々と見なされていました。取税人およびその家族の者は非常に軽蔑され、公の役職を持つことやユダヤ人の法廷で証言することも許されませんでした。マタイが弟子として召されるまでは取税人すなわち税の徴収人であったことは、ご承知のことと思います。彼もまたこの職業にあったほかの人々と同様にユダヤ人から軽蔑されていました。

ユダヤ人社会の中でも両極端の出のふたりの背景を知ることは、主が語られたパリサイ人と取税人のたとえ話を理解し、ふたりが神殿であるような祈りをした理由を知るうえで助けになります。

ふたりは神殿に入りました。パリサイ人は税の徴収人とは別にひとり立ち、自分は「ほかの人たちのよう」に律法の戒めに背いた「貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもない」(ルカ18:11)と言って神に感謝しました。彼は形式的には神に感謝していましたが、その自己中心的な思いは彼の独善的な考えから出たものでした。それを正当化するために彼は言いました。「わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています。」(ルカ18:12)彼の祈りは感謝の祈りではなく、自慢の祈りでした。このパリサイ人による自慢の根性と思いがかりは、タルムードに出てくるユダヤ教指導者シメオン・ベン・ヨカイのそれと同じです。彼は言いました、「この世界に30人しか義人がいないとしたら、私と息子はその中のふたりです。もし20人しかい

ないとしたら、私と息子はその数の中に入ります。もし10人しかいないとしたら、私と息子はその数に入ります。5人しかいないとしたら、私と息子はその5人の中に入ります。もしふたりしかいないとしたら、私と息子がそのふたりです。たったひとりしかいないとしたら、私こそそのひとりです。」(ベレシス・ラバ、第34巻第35章)

それに対してこの税の徴収人は遠くに立って、自分の悪事が重く心へのしかかるのを感じていました。また自分の罪を自覚し、神のみ前に立つにふさわしくないと感じながら目を伏せ、「目を天にむけようともしないで」(ルカ18:13)祈りました。苦痛の中に彼は胸を打ちながら願いました。「神様、罪人のわたしをおゆるしてください。」(ルカ18:13)

このふたりの人の祈りほど著しい相違がほかにあるでしょうか。パリサイ人が離れて立ったのは、彼が普通の人と見なしているほかの人々よりも自分の方が優れていると思ったからでした。取税人も離れて立ちましたが、それは自分がふさわしくないと考えたからでした。パリサイ人は自分のことしか考えず、ほかの人は皆罪人と考えていました。一方、取税人は罪人である自分に比べてほかの人は皆、義人であると考えていました。取税人は神に向かって自分の罪に赦しと憐みをくださるよう懇願しました。

物語は続きます。それからイエスはこのように言われました。「あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。」(ルカ18:14)言い換えれば、この取税人は罪なしとされ、赦され、義とされたと言っておられるのです。



主のこのみ言葉は救い主がほかの機会に話されたことに意味を与えています。

「あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、決して天国に、はいることはできない。」(マタイ5：20)

主は次の言葉でたとえ話を終えておられます。「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(ルカ18：14) このみ言葉は主がパリサイ人のかしらの家で語られた言葉とほとんど同じです。(ルカ14：11参照)

謙遜さは神の属性であり、真の聖徒が持つものです。思いあがった人がくじける理由は容易に理解できます。そのような人は自分だけに依存することに満足を得ています。このようなことは社会的な地位を求め、企業や政府、教育、スポーツまたほかの分野で地位を獲得するためにほかの人を押しつけるような人々の間で見られます。私たちは、真心からほかの人の成功を願うようであればなりません。思いあがった人は

神から自分を切り離してしまいます。そのようにするとき、その人はもはや光の中に生きてはいないのです。使徒ペテロは次のように言いました。

「みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」(Iペテロ5：5-6) 時の初めからいつも、思いあがった人々とへりくだって神からの勧告に従った人々がいました。自分を高くする者が低くされ、自分を低くする者が高められることは歴史が実証しています。人の行き交うどんな通りにもパリサイ人と取税人は必ずいます。私たちがそのひとりかもしれません。

私たちが主の教えを理解してそれに従おうとするとときに、主の祝福がありますように、主の聖きみ名によりお祈りいたします。アーメン。

パルマイラの近くでの壮大な示現

十二使徒定員会会員 ジェームズ・E・ファウスト



新しく召された幹部の方々を歓迎したいと思います。私は、オークス長老とネルソン長老が十二使徒評議員会に召されたことを、心からうれしく思います。ネルソン兄弟は、だれよりも私の心(心臓)に深く触れてくださいました。彼はその手に私の心臓を取り、8本のバイパスを挿入する手術をしてくださいました。彼と主は、文字通り私に新しい心臓(心)をくださったのです。その心は、彼とオークス兄弟とすべての皆様への愛で一杯です。

ニューヨーク州パルマイラの近くの、木木の茂る見事な自然美に囲まれた所を訪れたのは、だいぶ前のことになります。そこは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員たちに「聖なる森」として知られている所です。その日は、蜂が野生の花から花へ飛びかい、そよ風に大きな木々の葉がサラサラと音を立てていました。そこは本当に平安で静かな所です。その場所で天が開き、すばらしい示現があったことを信じるのは容易でした。

きょう、私は1820年の春、ジョセフ・スミスが天父と御子イエス・キリストにまみえたときの驚くべき経験についてお話しします。ジョセフ・スミスの物語で、この示現ほど栄光に満ち、論議の的となり、また重要な出来事はありません。おそらく主の復活以後、地上で起こった最も驚くべき出来

事ではないでしょうか。それが起こったことを信じない人々は、言い抜けることのむずかしさに気づくでしょう。それが起こったことを頭から否定するには、以来あまりにも多くのことが起こりすぎています。数年後、まだその出来事の衝撃からさめやらぬジョセフ・スミスはこう語っています。

「もし自ら経験したのでなければ、自分でも認めはしなかつただろう。」(「ミレニアル・スター」1844年11月号, p.93)

1820年の春、家族と共にニューヨーク州パルマイラ付近に住んでいた当時14歳の若きジョセフ・スミスは、多くの人と同様、宗教騒動に巻き込まれていました。自分で真理を知ろうと願い、ヤコブの手紙に励まされた彼は、家からそれほど遠くない所にある美しい森の中でひとりひざまずき、熱心に祈りました。彼は初め、「目に見えぬ世界から来た何ともわからぬ生き者」(ジョセフ・スミス2:16)の力に激しく捕らえられました。彼はその力から逃れようと、全力を振りしぼって神を呼び求め、このすさまじい悪の力から我が身を解放して下さるようにと願いました。このときのことを彼はこう語っています。

「この非常に驚きの瞬間である、私は自分の真上に太陽にも増して輝く一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りて

きて、光はついに私の上にふり注いだ。

その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛った敵から救い出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまひ、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。(ジョセフ・スミス 2：16-17)

ジョセフが天父と御子から告げられたことは、完全な真理がこの地上にはないこと、当時のどの教派にも加わってはならないということでした。また記録にはありませんが、ほかに人知を越えた大切な事柄を告げられました。

ジョセフは、次のように述べています。「他に多くの事を真実私に告げたもうたが、この度はそれを誌すことができない。」(ジョセフ・スミス 2：20) 明らかに、ジョセフはそのときの出来事や与えられた指示に圧倒されていました。

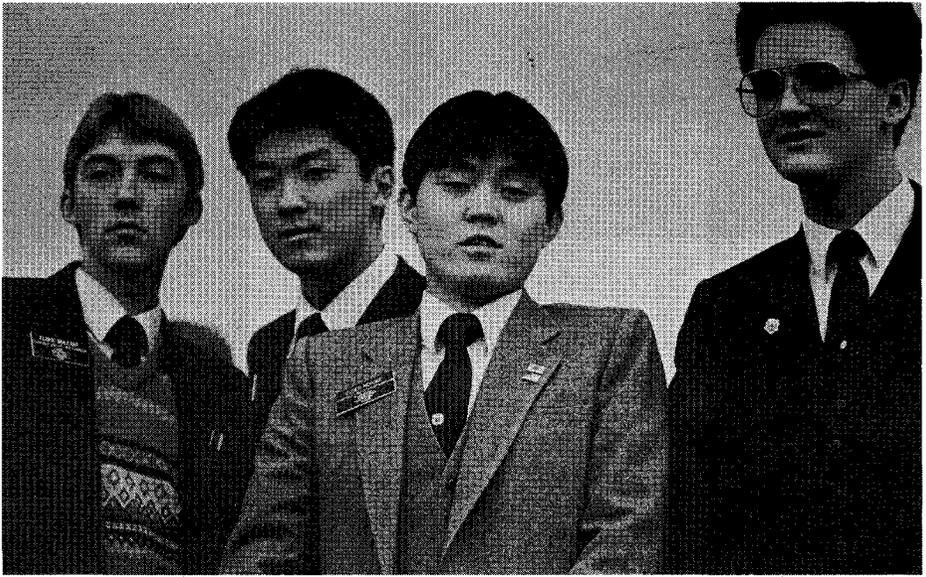
ジョセフは間もなく、家族以外の人にこの驚くべき経験話をしました。その結果、彼は非常にあざけられ、軽蔑され、憎まれました。彼の母ルーシー・マック・スミスは、最初の示現の後のことを次のように述べています。「このときから1823年の9月29日に至るまで、ジョセフはいつものように父親と共に働きましたが、この間、とり立てて重要なことは起こりませんでした。しかし、様々の教派の信奉者からありとあらゆる反対や迫害を受けました。」(「母親ルーシー・マック・スミスが語るジョセフ・スミスの生涯」p.74) 偏見や憎悪は、彼が殉教するまで続きました。

この経験についてジョセフは言っています。

「私は実際に光を見た。その光の唯中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれまた迫害せられても、なおそれは真実である。そして私がこのように言うために、人々が私を迫害し罵り偽ってあらゆる悪口をあびせている間に、私は自分の胸の中で語るようになった『何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ、……私は……それが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。私は少くとも、本当にあったことを打ち消すならば神の怒りを受けて罪の宣告を受けることを知っている』と。」(ジョセフ・スミス 2：25)

パルマイラ付近でのすばらしい示現についての記述はこのほかにも、生前、予言者が様々な折に最初の示現について語るのを聞いた、予言者の仲間や友人が記したものがいくつもあります。それらの記述はジョセフ・スミス自身が書いた最初の示現を裏づけるものです。

予言者とその母ルーシー・マック・スミスの記述の中には、二次的な資料によって正確なものであることが裏づけられている無視できない歴史的背景もあります。一例として、予言者は最初の示現についての出版された記事の中で、当時スミス家族が住んでいた地域における宗教熱について述べています。中でも、後にブリガム・ヤングは次のように確言しています。「ジョセフが幼かった頃、この国でバプテスタやメソジ



スト、長老派教会など様々なキリスト教流派の間に起こった改革運動を私はよく覚えている。」(「ブリガム・ヤング説教集」12：67)

パルマイラ付近における示現から3年して、天使モロナイが訪れました。後にジョセフは金版を受け取り、それからモルモン経を翻訳しました。続いて、神の聖なる神権の鍵と権能とを授かり、末日聖徒イエス・キリスト教会を設立しました。

ジョセフ・スミスは、彼が自分の生涯について語る目的は、「世上人心の疑惑をはらし、また、……ありのままの事実を……あらゆる事件の真相を知ろうとする者に知らせることである」(ジョセフ・スミス2：1)と言っています。

「最初の示現」からどんなことが学べたでしょうか。それは、

1. 父なる神がひとりのお方として存在しておられること。そのことを通して、

人が神の姿にかたどって造られたことがわかる。

2. イエスが天父とは別のお方であること。
3. イエス・キリストは天父から神の御子であると宣言されていること。
4. 聖書に教えられているようにイエスが啓示を伝えるお方であること。
5. 神に知恵を求めよというヤコブの約束が成就されたこと。
6. ジョセフ・スミスを滅ぼそうとした、目に見えない世界から来た生き者が実在すること。
7. イエス・キリストによって建てられた教会から背教が起こり、どの教派も人の教えを教えていたので、ジョセフはいずれの教派にも加わってはならないと命じられたこと。
8. ジョセフ・スミスが神と御子イエス・キリストの証し人になったこと。

「最初の示現」は、お三方の別個の神がお

られるという事実を裏づけるものです。そのお三方とは、父なる神エロヒム（すなわち私たちが祈りを捧げるお方）、基督イエスすなわちエホバ、聖霊すなわち慰め主（この方のみたまを通して私たちはすべての真理を知ることができる）です。

この深甚な神の顕現の話の中で、イエスから指示が与えられました。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、次のように述べています。

「予言者ジョセフ・スミスの最初の示現の中のひとつのささいなことに注意していただきたい。それは非常に大切なことだが、ジョセフ・スミスでも気がつかなかったことである。もし彼がでまかせを言っていたのであったら、こんなことは考えなかっただろう。皆さんは天父と御子が現われ、天父が御子を紹介して予言者に彼に聞けと言われたことを思い出されることだろう。

予言者が森から戻り、『天父と御子が現われて、ジョセフよ、何が欲しいのかと言われたので、何が欲しいかを告げた。すると天父が答えてくださった』と言ったとしよう。そうすれば予言者の話は真実のはずがないことがわかるだろう。

すべての示現はイエス・キリストを通して与えられる。聖典を調べて、それについての聖句を捜す時間は今ないが、それは事実である」（『福音の質疑応答』全5巻、1：16）

「最初の示現」は予言されていた時満ちたる神権時代の幕開けとなりましたが、結果として何がもたらされたのでしょうか。

1. キリストに対するもうひとつの証、すなわちモルモン経が与えられた。
2. 神権すなわち救いの儀式を行なう権能が回復された。これには神権の結び固

めの権能も含まれる。

3. イエス・キリストの教会が再びこの地上に組織された。
4. 地上における神の王国の設立について予言者ジョセフ・スミスに啓示が与えられ、人類の救いについて宣言された。
5. 福音を宣べ伝える、聖徒たちを完き者とする、生者と死者の贖いのために神殿と儀式を備えるという教会の大きな使命を遂行するために、鍵と原則と権能が回復された。

神と交わったこのジョセフ・スミスという人はどのような人なのでしょう。世間の評判はどうなのでしょう。パルマイラ近郊での出来事が彼に影響を与えたのだとすれば、どのような影響を与えたのでしょうか。天使モロナイの約束のように、以来彼はよくもあしくも語られてきました。1843年の夏の終わりの「ニューヨーク・サン」紙には、次のように書かれています。

「モルモン教会の創立者ジョー・スミスは非常な才能の持ち主。物事を深く考える思想家、雄弁家、有能な文筆家で、偉大な知力の持ち主である。彼を知る人なら、だれもそれを疑うことができない。彼に従う人はだまされているのだと我々は思っている。

あのような行ないをし、あのような明らかな奇跡を行なった者は今の時代にはほとんどいない。人に新しい啓示を与え、新しい宗教を興し、新しい礼拝の形式を定め、新しい法律や施設、建築計画をもって町を作り、宗教的、民事的、また軍事的な権限を確立し、大学を設立し、宣教師を派遣し、東西両半球で伝道を行なうとは大したことである。しかしこれがすべて、ありとあらゆる反対と嘲弄と迫害に抗してジョー・スミスによって行なわれたのである。」「（教会



歴史」6：3)

非教会員のリード氏はジョセフ・スミスについて次のように述べています。「私が初めてスミス将軍を知ったのは1823年のことだった。そのとき、彼は18歳くらいだったのだろうか。近所に移ってきて、それから2年そこに住んでいた。その間に、私は彼を深く知るようになった。私はよく知っているのだが、彼の性格には非の打ちどころがなく、誠実と高潔をもってよく知られていた。また彼は地域でも一流の人々と付き合い、知的で、品行方正、最高の学識を持った強い感受性の持ち主としてよく話題になった。」(「タイムズ・アンド・シーズズ」1844年6月1日号、p.549)

ボストン市長ジョサイア・クインシーは、彼について次のように語っています。「その非凡な人とすれちがう人々がとっさに思うことは、立派な風采ふうさいの男だということである。」(「逝きし人々の横顔」p.381)

厳格な人たちは予言者ジョセフが少年たちとボール遊びをするのを好ましく思わなかった、とジョセフに従った人のひとりウィリアム・M・オールレッドは述べています。予言者についてオールレッドは次のように語っています。「彼はある予言者の話をした。その予言者は木陰に座って何となく暇をつぶしていた。そこへ弓矢を持った狩人がやって来て、予言者をいさめた。するとその予言者は狩人に向かって、いつも弓の弦はびんと張っているのかどうか尋ねた。狩人はそうではないと答えた。予言者がその理由を聞くと、そうしていると弾力がなくなるからだと答えた。予言者はそこで、自分の心もそれと同じでいつも張りつめてはいたくないのだと言った。」(「ジューピニル・インストラクター」1892年8月1日、p.472)

ジョン・テイラー大管長の兄弟のウィリアム・テイラーは、ジョセフ・スミスの人

柄を次のように述べています。「彼の温和さや、魅力については多くのことが語られている。老若を問わず、人々が本能的に彼を愛し、彼に信頼を置くのを私は見た。」彼はこう説明しています。「予言者に対する私の献身は、彼の影響を受けた人々が感じたそれと同様である。」(「ヤング・ウーマンズ・ジャーナル」1906年12月、p.548)

ジョセフの個人的な魅力は、彼の死後、妻エマから息子のひとりにあてられた手紙の中でも確認されています。「私は、お前のお父さんが庭で働いた以上にお前が働くことができるとは思いません。私はお父さんに庭に出て働いてほしいと思ったことは一度もありません。だって、もしお父さんが出ていったら15分とたたない内に3、4人、ときには6、7人の人がお父さんを取り巻いて、お父さんが耕すよりも早く地面を踏み固めてしまうのですもの。」(「エマ・スミス書簡集」1868年または69年8月1日、p.4、ミズーリ州インデペンデンス復元末日聖徒イエス・キリスト教会図書館所有)

実践の哲人ブリガム・ヤングは、ジョセフの名を口にしながら亡くなりました。彼はかつて次のように言いました。「私はジョセフ・スミスという名を敬い、あがめる。その名を聞くと喜びがわく。私はその名を愛する。私は彼の教義を愛する。……私は、主が立てたもうた予言者ジョセフ・スミスを知っていたのだということを思い起こすたびに、ハレルヤと叫びたい心境になる。……私は声を大にしてこう言う。イエス・キリストを除いて、彼ほど立派な人物はかつて存在しなかったし、今も存在しない。私は彼の証人である。」(「ブリガム・ヤング説教集」ジョン・A・ウイツォー編、pp.

458-59)

私も、私と共に働く兄弟たちもまた証人です。私たちはこの業の世界的な成果を目のあたりにしています。キリストの回復された福音に従う人々は、世界100カ国以上にあります。概してその人々は、節度があり、まじめで、慎みがあり、正直で、法に従い、家族を愛し、自分の住む国を愛する人たちです。

「木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともない。」(ルカ6:44)

キリストの福音を教え確立するというこの偉大な業のまさに中心に、1820年にニューヨーク州のパルマイラ付近で少年ジョセフが経験した、あの「最初の示現」があるのです。この壮大な示現をささいな出来事とするには、あまりにも多くのことが起こりすぎています。

この偉大な示現が起こったときに、ジョセフと共にいた人はいませんでした。したがって、その真実性についての証は、ジョセフ・スミス自身が述べていることを真実として信じること、あるいは聖霊の証を受けること、それともその両方を受け入れることによってのみもたらされます。私は強い確信を抱いています。それは私の心の底深く存在する揺るがぬ確信です。少年ジョセフ・スミスに天父と共に現われ、指示を与えたもうたあのキリストの特別な証し人として、私はパルマイラ付近での壮大な「最初の示現」が真実であることを証いたします。これらのことを厳粛に、主イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

ラツパの確かな響き



七十人第一定員会会員 アンゲル・アブレア

数年前、木々におおわれ記念碑で飾られた小さな市立公園、アルゼンチン全土に多く見られる典型的な広場に行ったときのことでした。私はハンマーや、のみを使って仕事の仕上げをしている彫刻家をながめていました。母親が腕に子供を抱いているところを表現した作品です。

彼は母親の手の部分の仕上げをしているところでした。完成のあかつきには、彼独特の手法の現われたすげれた彫刻になるだろうと思われました。

私がそれに魅了されて立ち尽くし、その芸術家の技術を知ろうとやっきになっていると、靴磨きの男の子が通りかかり、私のそばに立ち止まりました。数分間、仕上げをるところを見ていたその働き者の少年は、私の方を向いて驚いたように、「おじさん教えて、どうしてあの人はいれをこわしているの？」と尋ねました。

少年のあどけない思いもよらない質問に、私は、私たちが絶えず示している模範や行動や行状と与える印象について深く考えさせられました。そして、私たちの模範がいかに大切であるかに気づかされました。というのも、私たちは、自分の持つ長所や短所を通して毎日の生活の中で、それぞれの信条や確信していることを伝えているからです。

パウロの言葉が心に浮かんできました。「もしラツパがはっきりした音を出さない

なら、だれが戦闘の準備をするだろうか」(Iコリント14:8)という言葉です。

私たちはひとり残らずそれぞれの活動範囲に応じて、または責任の範囲内で、何人かの神の息子や娘たちに影響を与えています。私たちの態度や行動、言葉は、よかれあしかれ人に何らかの影響を及ぼすメッセージを伝えます。

私たちの行動は知識の有無を表わすものであり、また信仰を持っていないことや、逆に持っている証がどの程度かをも表わします。人は自分自身や、自分が心に抱いていることから逃れることはできません。自分が追い求める人物になっていくのです。私たちの示す模範や私たちの送る生活は自分の本当の姿を反映します。

アルマは息子のコリアントンに与えた助言の中で、心に抱く悪い気持ちが悪い模範を示す行動につながり、その結果として人に不幸な影響を及ぼすことを説明しています。

「空しくて愚^{おろか}なことには何事であっても惑^{むな}わされてはならない。悪魔に再びお前の心を欺かれ……ないように慎め。……かれらはお前の悪い行いを見て私の言うことを信じなかった。」(アルマ39:11)

一方ニーファイは、証の力について、非常に意義深い模範を示してくれています。証の力は、確信のある態度を生み出します。そのため父リーハイから頼みを受けたとき

も、疑いを差しはさむ余地はありませんでした。

ニーファイは答えました。「私は主が命じたもうことを行って行く。」(I ニーファイ 3 : 7)

彼は、「行って何が起こるか見てみよう」とか「行って、どんな状況か見てみよう」というような、混乱やためらいを招くようなことは言いませんでした。むしろ、彼の態度は疑うということのない人、命じられた通りに行なう人の態度でした。ニーファイが、従順に父の求めを遂行する決断と決意を示したことはもとより、なぜそのように行動するのかを説明していることは興味深いことです。彼はこう言っています。「私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前^{もつ}に^{もつ}ある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(I ニーファイ 3 : 7)

別の折に、ニーファイは主から次のような任務を与えられました。「われが汝の民にこの大海を渡らすため、これより示す方法に従い一隻の船をつくれ。」(I ニーファイ 17 : 8)

この命令を受けたときのニーファイの反応は、多くの人が考えるようなありふれたものでもなく、次のような論理的な返答でもありませんでした。「さて、主よ、私はこれまで一度も船を造ったことはありません。造り方もわかりません。あなたが命じられたことは、私の力以上のことです。それに、私の兄弟たちは必ずやこのことに反対するでしょうし、そうすればこの仕事はさらにむずかしくなります。この仕事を成し遂げる方法がほかにあるのではないのでしょうか。」

決心をしたニーファイにとって、このようなことは思いも及ばないことでした。彼の答えは、「主よ今示したもうた方法に従

い、船をつくる道具をこしらえるためには、どこへ行って熔^とすべきあらがねを見つけたらよろしいか」(I ニーファイ 17 : 9)という簡単なものでした。

この言葉に見られる、主から求められることを行なうというニーファイの固い決意と決断は、主が命じたもうた使命を遂行するという行為に表われています。そして、彼の兄弟が彼に向かって文句を言い始め、船を造ることに反対したとき、ニーファイは証の強い力をもって彼らに向かい、こう言いました。「もしも神が私にするように命じたもうならば私はあらゆることをすることができる。もし、神が私にこの水よ土になれと言え、と命じたもうならば、水は土になるから、私^{わたし}がもしそう言えばその通りになる。

さてもし、主がこのように偉い力をもちたもうて、かほどに多くの奇蹟を世の人々の中で行いたもうているならば、どうして私に一隻の船を造ることをお教えになれないであろうか。」(I ニーファイ 17 : 50-51)

強い証が生み出す態度や行動は、他の人を導く模範となります。もし自分の信念や大切にしていることが燃えるような証の結果であり、啓示を通して与えられたものだとしたら、それは命よりも大切なものです。そうした確信は勇氣となり、どのような境遇にあろうとも、また多くの人がそのような確信に無知であったり、試しが厳しかったりしても、天父が常に私たちの行ないを認めてくださると心に強く感じながら、人生の難問に立ち向かうことができるようにしてくれるのです。

今日の世の中には、できそうなことならいつでもすると言う人が大勢います。しかし報いは、不可能なように見えることを行なう人のものです。当然できることであれば、その人の能力と技術でそれを成し遂げ



ことができます。しかし、普通ではできないはずのないことであれば、信仰と証が頼りです。

私たちは神の息子、娘として、神のみもとに帰るための道を示す戒めを受けてきました。しかしそれは、できれば従うとか、事情が許せば従うとかいった条件つきのものではありません。

従順であること、すなわち、主が求められることを行なうことは、主が予言者として召された人々の人生における、昔も今も将来も変わることはない原則です。その一例として、予言者ジョセフ・スミスはあるとき、「主が命じたもうたことは必ず行なう。これは私の習慣になった」(「教会歴史」2:170)と言っています。

疑いもなく、ジョセフ・スミスは粘り強く物事を成し遂げる強い精神を持った予言者でした。あるとき、彼はいとこのジョージ・A・スミスに言いました。「がっかりしてはいけない。自分हतとエノバスコシアの一番深い穴に落ち、そこへロッキー山脈がかぶさってきたとしても、あきらめず、信仰を行使し、勇気を持ち、その頂上にはい出す。」(ジョン・ヘンリー・エバンズ「ア

メリカの予言者ジョセフ・スミス」p.9)

私の証するこの予言者の人生は、そのように宣言したことを裏づけるものであり、彼の確信と証を常にはっきりと伝えるものでした。

ある人々が考えているように、このような固い決意や模範的な人生は、ごくわずかな人にだけ約束されているわけではなく、むしろそれは、「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう」(黙示2:10)という約束された祝福を得るために、主の勧告に従いたいと望む人々の変わらざる態度なのです。

聖典の中には、どのようにして親が自分の行動により子供たちを暗闇の道に陥れる「メッセージ」を送るのか、またその逆に、どうしたら救いへと導く事柄をはっきりと教える「メッセージ」を送ることができるかが述べられています。

ヤコブはニーファイ人に向かって言いました。「それであるから、あなたたちはよろしく自分の子供たちのことを考えて、自分が子供たちに悪い手本をのこしたから、どれほど子供たちの心を苦しめたかを考えよ。また自身が汚いからして子供たちも亡ぼし

たならば、終おわりの日に子供らの罪が自分たち
にふりかかるかも知れないことをおぼえて
おけ。」(ヤコブ3:10)親の模範が子供たち
にいかにか大きな影響を及ぼすかが、以上の
言葉の中にはっきりと示されています。

子供たちが家庭で見聞きする悪い模範、
すなわち「ラッパの不確かな響き」は、と
きとして教会幹部の批判という形で表われ
たり、あるいは家の外では親切な言葉を遣
い、思いやりを示していても、家庭の中
では荒々しく、そっけない言い方をすると
いった形で表われたりします。親が都合のい
いときだけ、什分の一を納めたり、信仰が
弱くなって支払いが滞っているときに、そ
れを正当化する言葉を親の口から聞いたり
すると、子供たちにとってラッパの響きは
確かではありません。安息日を守ることに
ついて、その日に予定されているスポー
ツや、お天気の都合次第というのでしたら、
ラッパの音は澄んだ音ではありません。

このような行動をする人は、ヒュー・B・
ブラウン副管長が次のように述べた人にた
とえられます。「教えを知りながら、それに
従わない人は、暗闇でろうそくに灯をとも
して、目を閉じる人に似ている。」

ここでヨシュアの例を引き、問題のもう
一方の面、すなわち「ラッパの確かな響き」
について考えてみましょう。ヨシュアは、
民が固い決意をし、はっきりとした立場を
とる必要が出てきたとき、最後の話の中で
次のように言いました。「もしあなたがたが
主に仕えることを、こころよしとしないの
ならば、……あなたがたの仕える者を、き
ょう、選びなさい。ただし、わたしとわた
しの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア
24:15)

親が皆ヨシュアと同じ態度をとり、同じ
決意をしたときの影響を想像してみてください。
そのメッセージが子供たちに届くと

き、その音はどれほどはっきりまた大きく
鳴り響くことでしょう。

永遠の家族を築くには、もっと多くの模
範が必要であり、もっと多くの導きの光が
必要です。しかも、口実を作る人や暗闇を
弁護する人が必ずや少なくならなければな
りません。

福音について口にするのと、それに従
った生活をするのととはまったく別のこと
です。また、キリストについて説くことと、
キリストの歩みに従うことも別のことです。

福音が私たち一人一人の人生に取り入れ
られたとき、それは私たちの決断に影響を
及ぼし、行動を決定します。私たちは福音
の原則に従った生活をして初めて、永遠の
生命に至る道を歩むことを教える模範やお
手本になることができます。

人を救うという偉大な使命を担う私たち
が、主の勧告に従えますように。

「誠にわれ汝らすべてに告ぐ、汝ら起ちて
己が光を輝かせ。これ汝らの光よろずの国
民のはたじるしとならんため(なり)」(教
義と聖約115:5)

この義務を怠ることはできません。なぜ
なら、救い主イエス・キリストが模範を示
してくださったからです。「見よ、われは光
なり。われは汝らのためにすでに模範を示
しぬ。」(IIIニーフアイ18:16)

私たちは目的を知っています。私たちに
は模範があります。さあ、努力をし、その
道に従う決意をしようではありませんか。

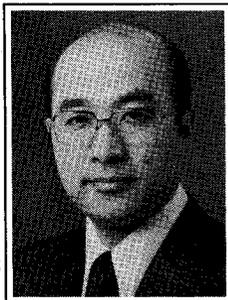
「さて私の愛する兄弟たちよ、私はこれに
よって、人がもしも生ける神の御子が示し
たもうた模範に従って終りまで忍ばないな
らば決して救われないことを知っている。」

(IIニーフアイ31:16)

贖い主、イエス・キリストのみ名により
申しあげます。アーメン。

恵みを数えあげ

七十人第一委員会会員 菊地良彦



どうして若い母親が死ぬのでしょうか

友 人のミルトンには6人の子供がいます。すてきな奥さんは交通事故でかわいらしい6人の子供を残して亡くなりました。ある日、6歳の娘が泣きながら彼のベッドのそばにやってきました。兄弟げんかでもしたのかと思ったら、こう言ったそうです。「そうじゃないの、さびしいの。お母さんはどこにいるの。お母さんに会いたい。」父親は娘を抱きしめて言いました。「今お母さんは天のお父様と一緒にいる。いつかまた会えるよ」と。

また、4歳の娘がおばあさんのところへ行って、「お母さんはいつかおうちに帰ってくるの？」と聞いたのだそうです。おばあさんは孫娘を抱きしめ、キスをしてこう言いました。「お母さんは天のお父さまと一緒にいるのよ。」

私は激しく泣いた

少年が11歳のとき、母親が非常に重い病気にかかりました。少年の父親は、母親をアリゾナからソルトレークへ連れていきました。数日後、この少年は次のような手紙を書いています。

「そのうちお母さんが戻ってきたら、もっとよく世話をしようと考えています。……お母さんがいないのでとても寂しいです。……僕たちはとても忙しくやっていま

す。電報受け取りました。お母さんがもう大丈夫とわかってとてもうれしかったです。……寝る時間なのでこれでやめます。アレン姉妹が宗教のクラスで、十分睡眠時間がとれるよう8時には寝るようにとおっしゃいました。もう少しで8時半です。さようなら。あなたの息子スペンサーより。」(「スペンサー・W・キンボール」p.45)

この手紙を送った次の日に、彼の母は亡くなりました。翌日、監督が電報を受け取り、キンボール家の子供たちは皆学校から呼び戻されました。走って家に帰ると、監督が言いました。「お母さんが亡くなったよ。」そのときのことをキンボール大管長は、後日次のように書いています。

「母の死はまさに寝耳に水の出来事だった。私はひとりになるために裏庭に走って行った。涙がとめどなくあふれた。だれにも見えない所、だれにも聞こえない所、だれもいない所で、私は激しく泣いた。『お母さん』という言葉の口にするたびに、涙がどつとあふれ、涙がかれるまで泣いた。お母さんが……死んだ。そんなことがあるものか。皆、もうこれ以上生きてはいけな。……11歳の私の心は張り裂けるようだった。」

なぜ死が？ なぜ病気が？ なぜ悲劇が？ なぜ、つらい思いをしたり、失望し

も、疑いを差しはさむ余地はありませんでした。

ニーファイは答えました。「私は主が命じたもうことを行って行く。」(I ニーファイ 3 : 7)

彼は、「行って何が起こるか見てみよう」とか「行って、どんな状況か見てみよう」というような、混乱やためらいを招くようなことは言いませんでした。むしろ、彼の態度は疑うということのない人、命じられた通りに行なう人の態度でした。ニーファイが、従順に父の求めを遂行する決断と決意を示したことはもとより、なぜそのように行動するのかを説明していることは興味深いことです。彼はこう言っています。「私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前^{もつ}に^{もつ}ある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(I ニーファイ 3 : 7)

別の折に、ニーファイは主から次のような任務を与えられました。「われが汝の民にこの大海を渡らすため、これより示す方法に従い一隻の船をつくれ。」(I ニーファイ 17 : 8)

この命令を受けたときのニーファイの反応は、多くの人が考えるようなありふれたものでもなく、次のような論理的な返答でもありませんでした。「さて、主よ、私はこれまで一度も船を造ったことはありません。造り方もわかりません。あなたが命じられたことは、私の力以上のことです。それに、私の兄弟たちは必ずやこのことに反対するでしょうし、そうすればこの仕事はさらにむずかしくなります。この仕事を成し遂げる方法がほかにあるのではないのでしょうか。」

決心をしたニーファイにとって、このようなことは思いも及ばないことでした。彼の答えは、「主よ今示したもうた方法に従

い、船をつくる道具をこしらえるためには、どこへ行って熔^とすべきあらがねを見つけたらよろしいか」(I ニーファイ 17 : 9)という簡単なものでした。

この言葉に見られる、主から求められることを行なうというニーファイの固い決意と決断は、主が命じたもうた使命を遂行するという行為に表われています。そして、彼の兄弟が彼に向かって文句を言い始め、船を造ることに反対したとき、ニーファイは証の強い力をもって彼らに向かい、こう言いました。「もしも神が私にするように命じたもうならば私はあらゆることをすることができる。もし、神が私にこの水よ土になれと言え、と命じたもうならば、水は土になるから、私^{わたし}がもしそう言えばその通りになる。

さてもし、主がこのように偉い力をもちたもうて、かほどに多くの奇蹟を世の人々の中で行いたもうているならば、どうして私に一隻の船を造ることをお教えになれないであろうか。」(I ニーファイ 17 : 50-51)

強い証が生み出す態度や行動は、他の人を導く模範となります。もし自分の信念や大切にしていることが燃えるような証の結果であり、啓示を通して与えられたものだとしたら、それは命よりも大切なものです。そうした確信は勇氣となり、どのような境遇にあろうとも、また多くの人がそのような確信に無知であったり、試しが厳しかったりしても、天父が常に私たちの行ないを認めてくださると心に強く感じながら、人生の難問に立ち向かうことができるようにしてくれるのです。

今日の世の中には、できそうなことならいつでもすると言う人が大勢います。しかし報いは、不可能なように見えることを行なう人のものです。当然できることであれば、その人の能力と技術でそれを成し遂げ



ことができます。しかし、普通ではできないはずのないことであれば、信仰と証が頼りです。

私たちは神の息子、娘として、神のみもとに帰るための道を示す戒めを受けてきました。しかしそれは、できれば従うとか、事情が許せば従うとかいった条件つきのものではありません。

従順であること、すなわち、主が求められることを行なうことは、主が予言者として召された人々の人生における、昔も今も将来も変わることはない原則です。その一例として、予言者ジョセフ・スミスはあるとき、「主が命じたもうたことは必ず行なう。これは私の習慣になった」(「教会歴史」2:170)と言っています。

疑いもなく、ジョセフ・スミスは粘り強く物事を成し遂げる強い精神を持った予言者でした。あるとき、彼はいとこのジョージ・A・スミスに言いました。「がっかりしてはいけない。自分हतとエノバスコシアの一番深い穴に落ち、そこへロッキー山脈がかぶさってきたとしても、あきらめず、信仰を行使し、勇気を持ち、その頂上にはい出す。」(ジョン・ヘンリー・エバンズ「ア

メリカの予言者ジョセフ・スミス」p.9)

私の証するこの予言者の人生は、そのように宣言したことを裏づけるものであり、彼の確信と証を常にはっきりと伝えるものでした。

ある人々が考えているように、このような固い決意や模範的な人生は、ごくわずかな人にだけ約束されているわけではなく、むしろそれは、「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう」(黙示2:10)という約束された祝福を得るために、主の勧告に従いたいと望む人々の変わらざる態度なのです。

聖典の中には、どのようにして親が自分の行動により子供たちを暗闇の道に陥れる「メッセージ」を送るのか、またその逆に、どうしたら救いへと導く事柄をはっきりと教える「メッセージ」を送ることができるかが述べられています。

ヤコブはニーファイ人に向かって言いました。「それであるから、あなたたちはよろしく自分の子供たちのことを考えて、自分が子供たちに悪い手本をのこしたから、どれほど子供たちの心を苦しめたかを考えよ。また自身が汚いからして子供たちも亡ぼし

愛する力
考える力
信仰を持つ力
祈る力
創造の力
見る力
感じる力
触れる力
話す力
思いやる力
気にかける力
分かち合う力
与える力

感謝する力 (菊地良彦「祝福」1978)

特に愛する力、愛は最も偉大な神の賜です。兄弟姉妹の皆さん、皆さんも私もこの力、愛する力があれば、たとえ「荒海」の中でも主のみたまとともに歩むことができます。

恵みを数えあげましょう。

この世のあらしに揉まれ
希望の失せしときには
かつて受けし主の恵み
数えて見なば驚かん

み恵み 数えあげ
主のわざ 数え見よ
み恵み 数えあげ
主のみわざほめたえよ

苦しみの荷を背負うか
十字架汝なれに重きか
恵み数え見て日々を
疑うたがはらしてうたわん

如何いかなる苦とたたかうとも
たわむなかれ神い在ます
み恵み数えよ天使は

汝なが旅を守りたまわん

(『この世のあらしに』「讃美歌」46番)

少しばかりの知恵で主の偉大な知恵を裁かないようにしましょう。

救い主は愛の手を差し伸べておられます

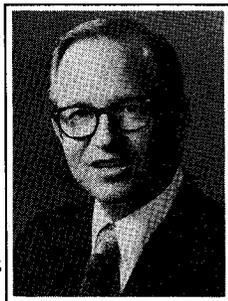
あなたは愛されていませんか。不幸ですか。心身に障害を負っていますか。離婚しましたか。私の友人のように体が麻痺していますか。怒っていますか。だれかを憎んでいますか。だれかに対して苦々しい思いを抱いていますか。ご主人に出ていかれ、ひとりで子供を育てていますか。ご主人に先立たれて寂しい思いをしていますか。主は言われました。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:28-30)

イエスがキリストであり、生ける神の御子であることを証します。ニーファイ人に姿を現わされたとき、イエスのご自身の大いなる神聖な使命についてみずからこう証されました。「汝らわが助あばらにその手をさし入れ、わが手足にある釘あとに触れて、われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ。」(IIIニーファイ11:14) イエスは生きておられ、私たちを愛してくださっています。主イエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。

会員の祈りに支えられて

七十人第一定員会会員 ジョン・K・カーマック



ここで今私がお話できるのは、思うに皆さんがすばらしい友であるからです。教会の管理について主が与えられた特別な啓示には、大管長会は「教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ」(教義と聖約107:22)とあります。召されたばかりの6人を代表し、私は大管長会に信任と信仰と祈りを呈したいと思います。私たちは大管長会を愛しており、大管長会が私たちに信頼を置いておられることに感謝しております。また、私たちに信頼の意を表してくださった皆様方にも感謝したいと思います。私たちは、皆様の信任を受けて初めてこの業を行なうことができるのです。私たちは皆様方のあふれるような愛を感じました。これはすばらしい経験でした。

教会中の聖徒の皆さんの愛を感じることができたことも知っていただきたいと思えます。また私個人については、ここに数多く出席しておられる私の友であるカリフォルニアの聖徒の皆さん、またアイダホのすばらしい聖徒の皆さんの愛を感じています。個人的なことになりますが、私はアイダホ州ボイシ伝道部のすばらしい宣教師の方々の愛を感じています。私は彼らの持つ力を感じます。もちろん、その愛を支えるかなめ石は家族です。この偉大な教会の一員であることはすばらしいことです。

さて、この召し、この恐ろしいほどの召

しについてですが、七十人は福音を宣べ伝えるために、異邦人と世界中の人々に対して特別な証し人になるために召されます。いろいろ考えてみましたが、考えつく資格はただひとつ——ほかの兄弟たちも同様に考えておられると思いますが——この業について特別に強い証を持っていることではないかと思えます。

私はふたつ証いたします。ひとつは本当に救い主イエスがおられること、イエスが私たち一人一人のことを気にかけておられること、ふたつ目は、イエスを求めるならば、計り知れない安らぎがもたらされることです。

去年の10月、伝道部を訪問したときのことです。私は、アイダホ州のフェアフィールドという小さな町の近くで聖典に目を通していました。それは、宣教師たちに暗記するようにと言っている「最初の示現」の物語で、高価なる真珠に書かれているものでした。あの美しい物語を思い起こしているときに、私は不思議な経験をしました。

高価なる真珠にジョセフ・スミスが書いたことは確かに起こったのだという、とても特別な証を受けたのです。あたかも、私自身が最初の示現を経験したかのようでした。聖霊の力を通して私はその証人、個人的な証人になりました。天父と御子が本当

に予言者ジョセフ・スミスに現われたもうたことを証いたします。私の経験は皆様方の多くがお持ちになったものと非常に似ているのではないかと思います。

ヒンクレー副管長が木曜日の午後、お電話をくださったとき、(私たちの人生に何らかの変化が起こることをうすうす感じたのはこのときでしたが)「ジョン兄弟、姉妹と一緒に面接をしたいのですが明日の朝の便で飛んで私の事務所においでください」と言われました。それから「あまり心配しないように」と言われました。その言葉はとても大きな助けでした。

しかしそんな薬は何の役にも立たず、心配は募りましたが、翌朝早く、救い主の聖いみたまがやどり、慰めを受けました。私たちは安らぎを感じ、よく休むことができました。教会の方々、特に若人の皆さん、世界中におられる宣教師の方々に申しあげます。天父に向かって朝早くお祈りすることを怠ってはいけません。祈りを通して天父に近づき、それを通して安らぎを得ることができるのです。「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないうなかつたではない。罪は犯されなかつたが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。」(ヘブル 4:15)

C・S・ルイスだっただと思いますが、確かジョージ・マクドナルドの言葉を引用して、私たちは家のようなものであると言っています。「キリストが入ってこられるとき、家はひどくいたんでいる。」ルイスは言っています。「屋根やといを修理しなければならないことはわかっていたのだが、して

いなかつた。ところが主はにわか^{ひん}に二階をつけ、棟を建て増しされる。建て増しの前に修繕しなければならぬ箇所があるにもかかわらずこのようなことをなさるとは、何ということであろうか。」「(純粋なキリスト教」p.174)

そうです。キリストの愛にはときとして信じられない面もあります。キリストは私たちをどうしようとしておられるのでしょうか。「あまり人の歩まない道」と題したベストセラーの中で、M・スコット・ベック博士は次のように書いています。「たとえどれほど煮えきらない態度でいようと、『神の愛は私たちをどこへ導いているのだろうか』と尋ねる人はだれしも、ぞつとするようなたったひとつの結論に到達する。すなわち、神は私たちに御自身と似た者となるよう望んでおられるということである。』私たちは神のようになるために備えられています。その過程でひどく傷つくことがあっても、そこには安らぎがあります。

あの早朝に、ラルフ・ロジャースによる劇「ニーファイ第三書」の中の言葉が思い出されました。

「あたりに覚ゆ、救い主の愛、……

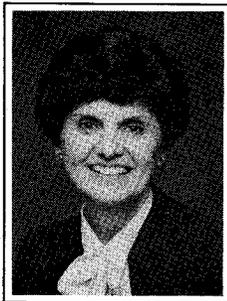
主は知りたもう、我、主に従い命捧ぐを……

我覚ゆ、救い主の愛、惜しみなく与う救い主の愛……」(『我覚ゆ、救い主の愛』「合唱曲集」pp.36-37)

共に召された兄弟たちを代表し、思いもよらなかつたこの召しに対してヘリくだり、従順に、私の持てる力と愛と祈りと信仰を捧げることをお約束します。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

貴い生得権を持った若人

中央若い女性会長 アーデス・グリーン・カップ



兄 弟姉妹の皆さん、きょう私の心は喜びで満たされています。また、今日の若人のために基を据えようと多くのことをなして下さったすばらしい指導者の方々に賛辞を呈します。私の心にはこれまで働いて下さった方々が残された伝統がこだましています。そして今、きょうという出発点に立ち、私の心は「わが(若人の)受けし権利よ続け、励め、進めよ」(『山の如く強く』[「讚美歌」65番])と歌います。

喜びにつけ、悲しみにつけ、また悪戦苦闘するときも、落胆のときも、夫ヒーバーと私は主を知り、私たちの家庭や生活の中で主のみたまを感じるようになりました。失望したとき、あるいは大きな祝福に恵まれたときに受ける「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」(ピリビ4:7)も知りました。我が家で、夫が最も頻繁に口にする言葉は多分「主のみこころを知ってそれを行ないたい」です。私もその言葉を繰り返し、夫が模範によって教えてくれたことを実行する決意でいます。

きょう私は、古い先祖にあたるジョン・P・グリーンのことを考えてみたいと思います。彼は予言者ジョセフ・スミスの弟サミュエル・スミスからモルモン経を受け取りました。ジョンはそれを自分の妻ロダ・

ヤングに与え、ロダはそれを自分の弟、ファイネス・ヤングとブリガム・ヤングに渡しました。ジョンはノーヴーで警察署長をしていた人でした。私は、長きにわたり受け継がれてきた忠実な末日聖徒の伝統の中に生まれたことをうれしく思います。

私は、亡くなる前に遺言を書き残して欲ってくれた両親に感謝しています。それは普通期待されるような物質的な内容のものではありません。彼らは持たざる者だったからです。しかしその代わりに、遺言として、彼らの最も貴い財産であるイエス・キリストの福音に対する証を書き残して欲ってくれました。「汝、死にゆく我らの信頼を裏切らば、我ら休む^{あた}能わず。たとえケシの花が、フランダースの丘に咲こうとも」(ジョン・マックレー「フランダースの野にて」)という詩の一節を思い出します。

私たちは信頼を裏切ることとは決してしません。この世代は希望と信仰と熱意の世代であり、世界中にいる若い女性の指導者として私たちは、神のみ手を心に感じ、行動や態度、行ないに示せるよう、また神権の力と導きに敏感になり、それに応えられるようにと祈ってやみません。悪魔の力は今日その存在を非常にはっきりと示しており、その巧妙な偽りはイエス・キリスト



の福音がもたらす約束や祝福から私たちを
そらそうとしています。

教会の若い女性の皆さんに、また、きよ
う私に近寄ってきて、「私は12歳で、ピーハ
イブです」と握手をしてくれたかわいらし
い少女に、教会のいたる所にいらっしやる
すべての若い女性たちに私は申しあげます。
「私たちは皆さんを愛しています。必要と
しています。心にかけています。信頼して
います。永遠の生命という目標は、手の届
かないところにあるわけではないのです」
と。

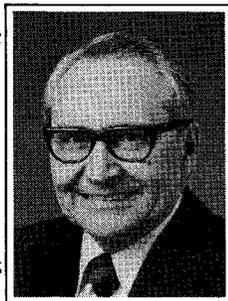
教会の評議会にあつて、この末日にこの
偉大な業を導いておられる兄弟たちの権能
と力について知ることができるのは私の特
権です。私たちはその偉大な業の一部を担
っています。私たちは、世界中の教会の若

い女性が皆、雄々しく忠実な生活をし、決
意し献身することができるよう働くつもり
でおります。母親の皆さん、どうかしっか
りと立ってください。父親の皆さん、強
くなるための勇気を持ってください。指導者
の皆さん、このすばらしい親御さんたちを
助けてください。一致団結して、主の賞賛
を受けるにふさわしい世代を育てましょう。
そうしたならば、主が戻られたときに、家
はふさわしい会員で一杯になっていること
でしょう。

この厳粛で神聖な責任に対し、私は全精
力と努力を注ぐ決意でいます。この偉大な
業の一翼を担う機会が与えられたことをう
れしく思います。イエス・キリストのみ名
により証いたします。アーメン。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を教えよ」

十二使徒定員会会員 L・トム・ペリー



準 備した話に入る前に、長年にわたり献身的に奉仕してこられたおふたりの姉妹に感謝したいと思います。スミス姉妹とキャノン姉妹は、荒れ狂う海に投げかけられた灯台の光のように、教会の姉妹を初め、実に多くの女性たちを安全な港へと導いてこられました。おふたりの上にもこれからの神の祝福がありますように、そしておふたりの靈感あふれる言葉と励ましが、世界中の女性の心にいつまでも残りますように。

救い主は、ご自身がこの世での導きと教えの業を終えられた後に、その業を代わって行なう人々を備えなければなりませんでしたが、その時間は限られていました。おそらく大変に切迫した思いでおられたことでしょう。ですからその頃の主の教えは、私の心に特別な響きをもって迫ってきます。これから主の業を担うよう責任を与えられた人々への主の最後の教えなのです。

救い主は、導きと教えを施しておられた間、ご自分がなさったことを行なうようお勧めになりました。最後の晩餐で^{すざこし}過越の祝いをされた後、主は弟子たち一人一人の足もとにひざまずいて、その足をお洗いになりました。そしてその後で次のように教えておられます。「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を

洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」(ヨハネ13:14-15)

このことから、主が仕えるならば私たちも仕えるべきであるということがわかります。また主が教えられたのであれば私たちも教え、主が祈られたのであれば私たちが祈るべきです。主は、もし私たちが主の伝道^{ミツカ}の精神をつかんだならば、身も心も私たちが受けたものであふればかりになり、それをほかの人に分かち、共に仕え、教え、祈らないでは満足できなくなることをご存じでした。

マタイはその福音書を終えるにあたって、主が弟子たちに向けて語られた次の教えを記録しています。

「さて、11人の弟子たちはガリラヤに行つて、イエスが彼らに行くように命じられた山に登った。そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。イエスは彼らに近づいてきて言われた、『わたしは、天においても地においても、いっさいの權威を授けられた。』

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを

守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28：16-20)

聖典には、福音の光によって身と霊を貫かれた人々にどのようなことが起こるかが、いたる所に記されています。その例をふたつだけ取りあげてみましょう。まず新約聖書からです。ヨハネ伝に、バプテスマのヨハネに従ったふたりの弟子のことが出ています。こう書かれています。

「その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、『見よ、神の子羊。』そのふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行った。イエスはふり向き、彼らがついてくるのを見て言われた、『何か願があるのか。』彼らは言った、『ラビ……どこにおとまりなのですか。』イエスは彼らに言われた、『きてごらんなさい。そうしたらわかるだろう。』そこで彼らはついて行って、イエスの泊まっておられる所を見た。そして、その日はイエスのところに泊まった。時は午後四時ごろであった。ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、『わたしたちはメシヤ(訳せば、キリスト)にいま出会った。』(ヨハネ1：35-41)

今まで得たこともない特別なものを得たアンデレは、それをぜひ兄弟にも分け与えたいと思いました。そして彼に会って主にまみえたことを話すまでは眠ることができませんでした。

モルモン経には、アルマとモーサヤ王の息子たちの偉大な例があります。彼らは教会を滅ぼそうとする者たちの仲間であり、

言葉巧みに人々をあらゆる悪事へと誘っていました。父アルマの嘆願の後、主はそれに応えてアルマに悔い改めをするようお求めになりました。

福音の光を受けた後、アルマの身の上になどどのようなことが起こったかは非常に興味あるところです。モルモン経にはこうあります。

「これから後アルマは天使が現われた時一しよに居た者たちと共に、民に教えを伝えはじめ、全国を廻って歩いて自分の見たこと聞いたことを一人のこらずの国人に証をし、多くの艱難^{かんなん}があるにもかかわらず神の道を宣べ、無信者から大いに迫害を受けまたその多くの者から打たれた。」

またモーサヤ王の4人の息子については、聖典にこう記されています。

「かれらはゼラヘムラの全国とモーサヤ王の治めているすべての民の間をめぐって、自分らが前に教会に加えたすべての害を除くために一生けんめい全力をつくし、一切の罪を告白し、自分たちの見たすべての事を諸人の前で証し、彼らの言葉を聞きたいと言ったすべての人々にいろいろな予言と聖文とを説明した。このようにして、かれらは神の御手に使われて多くの人に真理とかれらの贖い主の事を知らせたのである。ああ、かれらはいかにも幸福ではないか。かれらは平和を布き、善の良い音信^{おとづ}をつたえ、主が治めたもうことを民に告げたからである。」(モーサヤ27：32, 35-37)

このように、改宗の後にはその喜びを人に伝えたいという気持ちが強くなるのです。もちろん、福音を分かち合う責任は神権者の上にかかってくるわけですが、そういった義務感からではなく、心からの愛と自分が受けたものへの感謝の気持ちからそれが

強くなるのです。そのような「高価な真珠」(マタイ13:46)が生活の中に入り込むと、自分で喜んでいるだけでは満足できません。「ほかの人にも教えたい、喜びと幸福がここにあるのだから」と思うのです。

私は長年の間ステーキ部やワード部で奉仕の業を続けてきたご夫婦が、宣教師としていくばくかの時間を主のために捧げようとしておられるのを見ると、特に感銘を受けます。このような方々は世界のいたる所におられます。おそらく、その果たしておられることから考えれば、私が出た人の中で最も幸福な方々と言えましょう。

この偉大な特権を得た方からの手紙の一部をここでご紹介いたしましょう。ご紹介するのは、いくつかの手紙をひとつにまとめたものです。いずれも伝道の半ばに伝道部長夫妻にあてて書かれたものです。

「私たちは宣教師に召してくれるよう頼んだことはありませんでした。ふさわしくないと感じていたからです。夫は正式な教育を4年しか受けていませんし、そのこと

をととも気にしていました。しかし読書家で、仕事は実にやり手でした。人を引きつける何かを持っているんですね。私たちは知り合いのご夫婦が何組か伝道に出るのを見て、すばらしいと思いました。ところが監督が私たちをオフィスに招いて、2週間祈り続けた結果、主が私たちに伝道に出よう望んでおられるとおっしゃるのです。晴天の霹靂(へきれき)でした。でも、主からの召しであることがわかっていましたのでお受けしました。

当時夫は腰痛で苦しんでいました。そこで、少し時間をいただいて医者に見てもらい、何とか治してからと思ったのですが、医者は痛みにただ慣れるしかないと言うのです。宣教師として任命されたとき、夫は健康が増進されるという約束を受けました。そしてその約束が文字通り成就したのです。

私たちは宣教師訓練センターに入りました。そこでの数週間は私たちにとても特別なものでした。レッスンプランはむずかしかったですが、主との特別なつながりをそ



こで見つけたのです。主は、一生懸命頑張っている私たちを見て、祝福してくださいました。私たちは、できることをすべて行なったあとは主にすべてをお任せしなければならぬことを知りました。

宣教師訓練センターには、ほかでは見つけることのできない愛と心のつながりがありました。毎週神殿に行きました。そして、宣教師訓練センターは、この地上で天父と御子イエス・キリストに最も近い場所として、神殿に次ぐものであることがわかったのです。

夫婦共に専任宣教師として働ける特権は、私たちの人生において最高の祝福です。共に勉強し祈ることによって私たちはより親密になることができました。また、互いに信頼し合うということがどういうことか、もっとよくわかるようになりましたし、お互いの長所に気づいて大喜びしたこともありました。そして互いの弱さを克服できるような機会を見つけては助け合いました。人生の晩年であって、伝道の期間は実りであり、ふたりの絆を強くする期間でした。このすばらしい経験は、体力的にまた経済的に可能であればどのご夫婦にもできるのです。

もし経済的に大変であれば、家族の方の援助を仰げば逆に家族の方が大きな祝福を得ます。ハワイやヨーロッパへの旅行をプレゼントするよりずっといいと思います。」

あるご夫婦は、伝道地での最後の証会の模様を書いてくれました。その会である人が立ってこう証したそうです。「愛する長老と姉妹、あなた方がいらっしゃる前に私たちがどんなみじめな生活をしてきたか、想像できないと思います。」

そうしたすばらしい経験のあとは、当然のことながらその地を離れるのがつらくな

ります。クリスマスの直前、私はひとりの兄弟がモルモン手工芸品店から出て来るのに出会いました。その店で奥さんにクリスマスプレゼントを買っていたのです。その兄弟は通りを歩いている私にかけ寄ってきてこう言いました。「私を覚えていらっしゃいますか。」すぐには思い出せませんでした。私たちが会ったのはフィリピンの伝道地で、その生活状態はアメリカとは似ても似つかないものでした。しかし一日共にいて、そのご夫婦の働きを目のあたりにする機会を得た私は、ふたりの顔が輝いているのを見てとったものでした。

私はこう言いました。「アメリカはやはりいいでしょう。」ところが彼はちょっと間をおいてこう答えたのです。「こちらでの生活に慣れるのが大変なんですよ。フィリピンの聖徒たちの所へ帰りたい気持ちです。みんな私たちを必要としてくれました。でもここではあまり出番もなくて。もう一度私たちを伝道に出してくれませんか。」

伝道部長に「私に何かできることがありますか」と尋ねると、いつも同じ答えが返ってきます。「夫婦の宣教師をもっとたくさん送ってください。」

さて、きょう私の話を聞いておられるすばらしいご夫婦の皆さん、皆さんに特に次のことをお話したいと思います。皆さんは今まで人生を頑張って生きてこられました。今の安定した生活は、皆さんの勤勉な働きの結果です。いろいろと苦勞しながら子供を育て、この人生の円熟期に生活をエンジョイできるように貯えもしてこられたことと思います。でも、ただ座っていたのでは皆さんが本当に望んでおられるものは得られません。この黄金時代を、福音への全時間にわたる奉仕という実りある仕事で飾

ていただきたいのです。

私には、皆さんが立って、伴侶や福音への愛を証されるのが聞こえます。もしそれが本当に心からのものであるならば、アンデレやアルマのように、イエス・キリストの福音の中で見つけた実りを宣教師となってほかの人々に伝えるまでは決して満足できないでしょう。

ヒーバー・J・グラント大管長はこう言いました。

「私は宣教師にもたらされる甘美な喜びを経験することのなかった男女のことを気の毒に思う。宣教師はイエス・キリストの福音を宣べ伝え、正直な人々に真理の知識をもたらし、その働きにより永遠の生命について理解した人々から、心からの賛辞と感謝の言葉を受けるのである。

同じように、困っている人々に援助の手を差し伸べることから得られる甘美な喜びを経験していない人々を、気の毒に思う。確かに、得ることよりも与えることから大きな祝福がもたらされる。このことに私は一点の疑いも持っていない。

同じことが伝道についても言える。単に私たちの教会の真理を知って会員となり、家において日常の生活を普通に行ない、使うとなくなるこの世の富を集めるだけの人よりも、イエス・キリストの福音を宣べ伝えて人々の救いのために働く人々の方が大きな祝福を得るのである。ひとつの大きな障害は、私たちが行なうことの中で最も大切なことは何か、見失ってしまうことである。この伝道の業こそ、天父が最もお喜びになる業なのである。」(「福音の標準」p.104)

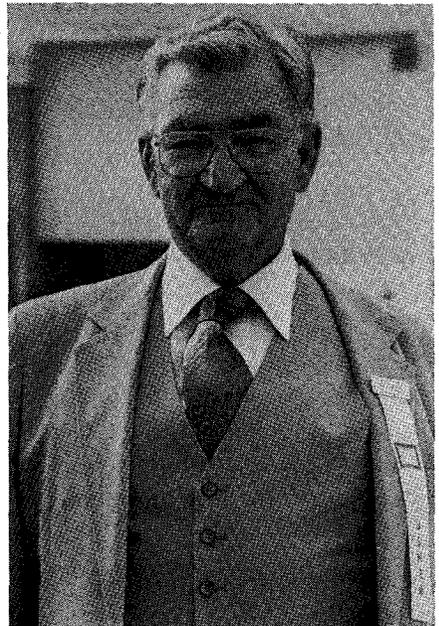
監督の皆さん、定年退職された、またはもうすぐ退職される健康なご夫婦に、伝道のことを検討するよう、さらに勧めてくだ

さい。自分からなかなか頼みに行けなくて、あなたの呼びかけを待っている人が多いのです。この急速に成長している教会にあって、彼らの分別と知恵と経験が、どんなに必要とされていることでしょう。

監督の皆さん、こうした方々の心に、このすばらしい奉仕に必要な望みと自信とを植えつけてください。もちろん彼らは、若い宣教師たちと同じプログラムに従うようには求められていません。これまでの進歩と成長の半生を通して得た人生経験を、この業にそのまま役立ててほしいのです。

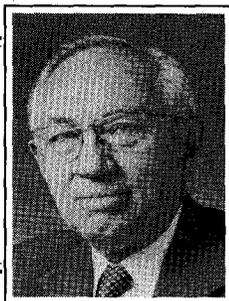
教会にあって分別に満ちた立派なご夫婦の皆さんに主の祝福があって、熱心に主に仕えたいという心からの望みを持つことができますように。

この偉大なみ業が真実のものであることを証し、イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。



小さな行ないが重大な結果を招く

第二副管長 ゴードン・B・ヒンクレー



兄 弟姉妹の皆さん、先程ベンソン会長が誤ってキンボール大管長のお話をうかがうと申しあげましたが、そのようにできたらと心から願っています。主の予言者としてキンボール大管長にぜひともここに立っていただいて、お話していただきたいところでです。

ご存じのように、大管長は90歳を迎えようとしておられます。大管長の人生は豊かで実りの多いものであり、私たちは彼の偉大で献身的な指導により多くの恩恵を受けてきました。

少し前になりますが、きょうのような大きな集いに臨んだとき、私はキンボール大管長にこう申しあげました。「キンボール大管長、この人たちは皆大管長を愛しています。」するとキンボール大管長は、「私もこの人たちを愛しています」と言われました。この総大会を終えるにあたって、私は、皆さんがこの言葉を大管長のお話として受け入れてくださればと願っています。

このたびの大会は、いくつかの点で非常にすばらしいものがありました。十二使徒評議員会の会員として一度にふたりの兄弟が召されたのは、久し振りのことです。40年前にキンボール大管長とベンソン会長が召されて以来のことだと思えます。

同様に、七十人第一定員会にも、この世の試しの中で強い信仰と指導力を培われた

方々が新たに召されました。彼らはこの業を大いに促進してくれることでしょう。彼ら一人一人にもお話をうかがいたいところです。また新しく5つの神殿を建設することも発表されました。これで、最近完成したものと建築中のものを合わせると、新しく25の神殿ができることとなります。教会史上にも、世界史上にもこのようなことはかつて一度もありませんでした。

キンボール大管長はこの説教壇に立ってお話することはできませんが、ときどき私たちと会って話し合うことはできます。このたびの件についても承認してくださいました。それがなければ、今回のことは進められなかったことでしょう。

私たちはこれから家路につくわけですが、これまで幹部の方々から教えを受けて、信仰を強められました。皆さんがお帰りになる前に、私は人生のささいなことにも気をつけることの大切さを強調したいと思いません。農場には大きな開き戸のついた門があります。それを開けたり閉めたりするとき、蝶番ちょうつがいはほんのわずかしき動いていないように見えますが、戸は大きく動きます。

1831年に、主は予言者ジョセフ・スミスに次のように言われました。「小なる事より偉大なる事起る。」(教義と聖約64:33) 兄弟姉妹の皆さん、善や悪についても同じこ

とが言えます。ささやかな善い行ないが、大きな善行団体に発展していくこともあるのです。ボーイスカウトの運動はその例です。この偉大な組織の歴史をご存じの方ならおわかりでしょう。悪いことについても同様です。わずかな不正直、ちょっとした不道徳な行ない、小さな怒りが、重大な恐ろしい結果を招くことになりかねません。

この建物が建つ前、かつてこの場所には、貧しかった当時の聖徒たちが集った、あずまや風の粗末な集会所がありました。1857年の9月、ある日曜日の午後、その集会所で悲劇のドラマの終幕とも言うべきことが起こったのです。

その日曜日、集会の司会をしていたブリガム・ヤング大管長はそこに集っていた人人に、年老いてよぼよぼになり、人生に疲れ果てたような男の人を紹介しました。

ブリガム・ヤング大管長は集った人々に

言いました。

「以前十二使徒定員会の会長をしておられたトーマス・B・マーシュ兄弟が、19年振りに私たちのところに来られました。きょうここに来ておられます。そして、皆さんにご挨拶を申し上げたいと言っておられます。……

マーシュ兄弟は私の事務所に来られて、私が彼と和解できるかどうか、また彼と生ける神の教会との間で和解ができるかどうか知りたがっておられました。マーシュ兄弟はしばらく考えてから、こう言われました。『私が教会と和解することはできても、教会が私と和解してくれるでしょうか。』

ご本人がここにおられますので、お話をうかがいたいと思います。……兄弟姉妹の皆さん、マーシュ兄弟をご紹介します。初めて十二使徒定員会が組織されたとき、マーシュ兄弟はその会長に任命された人で



す。」

マーシュ兄弟は説教壇に立ちました。彼は十二使徒定員会の初代会長として召され、教義と聖約112章にあるように(ぜひ読んでいただきたいのですが)、主から驚くべき方法で言葉をかけられた人です。その彼が、人々にこう言いました。

「ここにお集いの大勢の方々すべてに、私がこれから話すことをご理解いただけるかどうかわかりません。私の声はもともとあまり大きくありませんでしたが、このところエホバの苦難のむちによりますます弱っています。主は私を愛しておられるので、むち打たずにはおかれませんでした。私は、今まで受けてきた懲らしめの中に主のみ手を見ることができます。それが主の愛であることを私はこの目で見届けてきました。なぜなら、もし主が私のことをまったく気にかけておられないのであれば、私の手を取ってそのような懲らしめにあわせるようなことはされなかったと思うからです。

もしこの民の中で、私がしたと同じように背教をしようと思う人がいたら、そして主に愛されているならば、背中をむち打たれることを覚悟してください。しかし、私の忠告を聞いていただけのでしたら、皆さんは幹部の方々と共に歩むことでしょう。しかし主のもとを去れば、私と同じようにむち打たれるでしょう。

私は多くの人からこう言われました。『あなたのように、教義と聖約の書に名前が載るほど神の啓示を熟知しておられる方が教会を去るのはどういうことなのか。』私はこう言いました。『自分は大丈夫だということであんまり安心しきっていると危ないですよ。私の場合、人がこの教えから外れるなどということは一度も考えたことがありませんで

したからね。』

かつて属していた十二使徒定員会について申しあげれば、私は信仰に関してほかのだれからも遅れをとっていないと考えていました。おそらく私以外の十二使徒たちもそれは認めてくださっていたと思います。しかし、だれであっても自分は大丈夫だと思いついてはなりません。なぜなら、そう考えるときには必ず道をそれてしまっているからです。皆さんはそのときに、自分はキリストのみたまを失うかも知れないとは考えません。またそう感じもしません。それは、背教への道をたどるときに、人は闇に屈服するからです。」「(説教集」5：206)

聞きとれないような声で、しかもまだ57歳だというのに老人のような姿で、彼はグレートソルトレークへの道を歩み出すまでの自分の苦しみを語りました。そして、バプテスマを受けてもう一度教会に戻ることを願い出たのです。

かくも悲哀に満ちたこの話を讀んだとき、私はなぜ彼がこうした悲しむべき状態に陥ったのか不思議に思いました。そのわけは説教集に載っていました。マーシュ兄弟が教会に戻るちょうど1年前に、この同じ場所ジョージ・A・スミスが聖徒たちに語った話の中に出ていたのです。ささいなことがとんでもない結果を招くことについて、注意を促してくれるこの話は、今でも紹介するに値すると思います。

ジョージ・A・スミスの話によれば、それは聖徒たちがミズーリ州ファーウェストにいた頃のことでした。「当時、十二使徒会長であったトーマス・B・マーシュの妻とハリス姉妹は、お互いにできるだけ大きなチーズが作れるように牛乳を交換することにした。公平にするため、ふたりはクリー



ムだけを事前にとらないこと、牛乳とクリームを一緒しておくことを約束した。

……

ハリス夫人は約束を忠実に守り、マーシュ夫人に牛乳とクリームを渡したが、マーシュ夫人は良質のチーズを余分に作りたいと考え、牛1頭につき1パイント(約0.5リットル)ずつクリームを先取りしてしまったのである。」

もめ事が起こって、問題がホームティーチャーのところに持ち込まれました。ホームティーチャーは、約束を守らなかったことでマーシュ夫人を罪ありと判定しました。マーシュ夫妻はこれに不服でした。マーシュ側は「監督に控訴、正式な教会法廷が開かれた。ところが判決はやはりマーシュ夫人が約束を破り、クリームを不当に搾取したことを認めるものであった。マーシュ会長はこの決定を正当性を欠くものだと考え、

ただちに高等評議員会に控訴した。

高等評議員会は忍耐に忍耐を重ねてこの問題を調査した。私(ジョージ・A・スミス)は、彼らがこの問題について真剣に検討を重ねたことを確言する。マーシュは妻の面目を保つためにわらをもつかむ思いであった。……しかし、マーシュの必死の弁護にもかかわらず、高等評議員は監督の決定を支持した。

これに承服できなかった彼は、今度は大管長会に控訴した。そこで予言者ジョセフと2名の副管長がその件について再審理を行ない高等評議員会の裁定を支持した。

あなた方は、このようなささいな出来事が非常に多くの困難な事態を生み、トマス・B・マーシュをして『そのために地獄へ行かなければならなくなっても』妻の人格を支持すると言わしめる結果となったことに気づくであろう。

十二使徒の会長として正義を行ない、家族のだれであれ犯した間違いを改めるよう率先して努めなければならない人がそのような立場を取ったのである。次に彼は何をしただろうか。彼は治安判事のところへ行き、『モルモン』はミズーリ州に敵対していると宣誓したのである。

やがてミズーリ政府から撲滅令が出され、約1万5千名の聖徒たちが家を追われた。またその中の数千名が、この事件により受けた苦難のために命を失った。」「(『説教集』3:283-84)これがジョージ・A・スミスのお話です。

何と小さな、ささいなことでしょう。わずかなクリームのごとでのふたりの女性のもめ事です。しかしそれが、少なくとも発端となってボグズ知事の撲滅令が出され、聖徒たちはミズーリ州から追われて大勢の人々が死に、また大変な苦難を味わうこととなったのです。この小さなもめ事を治めなければならない人が、逆に大きくし、教会の役員を煩わせ、大管長会にまで控訴し、文字通りそのために地獄に落ちたのです。彼は教会員としての地位を失い、福音に対する証を失いました。そして19年の間、病氣と孤独に満ちた、貧困と暗黒と辛酸の道を歩んだのです。そうした苦痛から、実際の年齢よりも老けて見えました。そして、救い主のたとえ話に出てくる放蕩息子のよう(ルカ15:11-32参照)、自分の愚かさを認め、這うようにしてこの地にたどり着き、ブリガム・ヤングに赦しと教会への再加入のバプテスマを求めたのです。彼はこの神権時代の十二使徒評議員会の初代会長でした。そして、カートランド時代やファーウェストの初期の時代には、人々に愛され、尊敬されていました。それが今、でき

ることなら執事に聖任され、主の宮居の門番でもいいからさせてくれるようにと言っているのです。

私たちは皆これまで、これと同じようなケースを見てきました。私はこのことを老婆心から申しあげますが、この偉大でみたまのあふれる大会からお帰りにするときには、ぜひこのことを決心してお帰りいただきたいと思います。福音に生きること、忠実、誠実であること、議論やもめ事に発展しそうなささいな事柄にも気を配ること、互いに赦し合うこと、そして神の命に従って生きる(アルマ37:47参照)ことです。

つまりきは簡単に起こります。ささいな事柄にかつとなったときに、声を上げないでいることは、ときとしてとてもむずかしいことです。

いつも自分が神の息子、娘であることを思い起こすようにしてください。神からの生得権を持って生まれた子供であり、イエス・キリストの栄光あふれる福音をいただく者、息子、娘を祝福するために全能者によって回復された神権の恵みを受ける者であることを忘れないでください。兄弟姉妹の皆さん、ほかの人々との交わりにおいて、あらゆることに高潔かつ正直に生活しましょう。どんな高慢や高ぶりも抑え、神の前にへりくだる心と同胞への感謝と敬愛をもって道を歩みましょう。

愛する兄弟姉妹の皆さん、主の祝福が皆さんの上にありますように。主の平安が皆さんの家庭にあり、主への愛が心にあふれますように。この業が神の業であり、真実の業であることを証し、イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。またお会いするときまで、主が皆さんと共におられますように。

総大会で発表された 主な変更事項

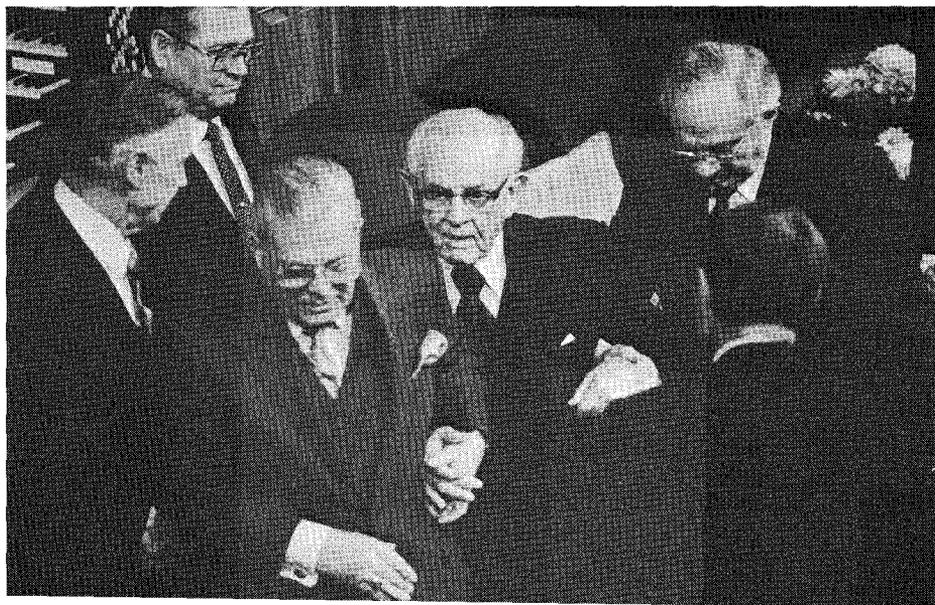
19 84年4月7、8の両日、ユタ州ソルトレーク・シティで催された第154回年次総大会のハイライトの数々には、新しく召されたふたりの十二使徒定員会会員および6人の七十人第一定員会会員、中央扶助協会および中央若い女性補助組織の指導者の異動、5つの新しい神殿の建設発表などがありました。

国際的に著名な心臓外科医ラッセル・M・ネルソン博士と、ユタ最高裁判所判事ダリン・H・オークス博士が、リグランド・リチャーズ長老とマーク・E・ピーターセン長老の逝去により生じた空席を埋めるよ

う召されました。

ネルソン長老は、教会幹部の召しを受ける以前、8年間務めた中央日曜学校会長を初めとして、あらゆる教会の召しを行ってきました。その一方では、心臓外科医、医学研究者、講演者として全米および65カ国において名声を得ています。(今年彼には、中国で1カ月間講演を行なうスケジュールがありますが、教会幹部として専任の働きをする前に行なう最後の仕事のひとつとなっています)

ネルソン長老の仕事はユタ大学、マサチューセッツ州ボストンのマサチューセッツ



総合病院，ミネソタ大学においての研究および調査にも及んでいます。新たな召しを受けた時点では，外科研究教授，ユタ大学胸部外科インターン指導主任，十二使徒定員会地区代表の任にありました。また彼は，医学の分野で数多くの表彰を受けました。また地域社会においても様々な形で貢献してきました。（「聖徒の道」1983年4月号「心臓外科医ラッセル・M・ネルソンと従順」参照）

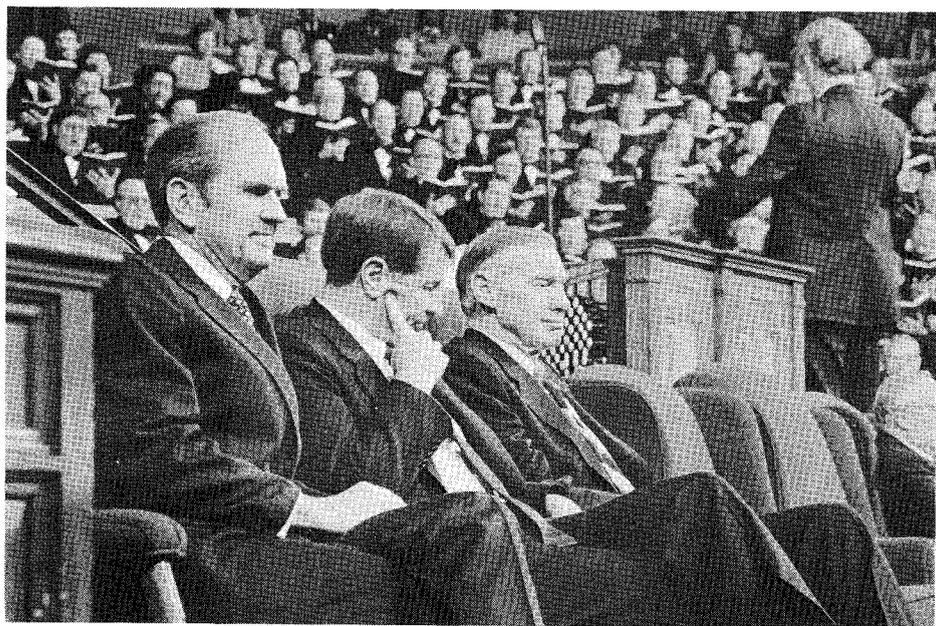
元判事，オクス長老はブリガム・ヤング大学の第8代学長を9年間務めた後，1981年ユタ最高裁判所で，判事の任務に就きました。彼は1954年，ブリガム・ヤング大学を優秀な成績で卒業し，その後イリノイ州にあるシカゴ大学の法学大学院に進みました。オクス長老の法律関係の経歴は，合衆国最高裁判所長官アール・ウォーレンの事務官に始まります。その後シカゴで3

年間弁護士として働き，シカゴ大学で法学の準教授となりました。1970年にはアメリカ弁護士協会の会長に選ばれました。このアメリカ弁護士協会は法律に関する調査を目的とした組織で，アメリカ弁護士連合と提携しています。

オクス長老の法律関係の活動の中には，特別委員会で働いたり，州や連邦政府機関で進められている主要な法律調査を指導したりすることも含まれます。またそのほかにも全国ネットワークの公共放送機関に長い間貢献し，1980年には局長に任命されました。オクス長老が十二使徒の召しを受けたときは，十二使徒定員会の地区代表として働いていました。

七十人第一定員会

七十人第一定員会に新たに召された会員は，現在アイダホ・ボイス伝道部の伝道部



長であるカリフォルニア州ロサンゼルス
のジョン・K・カーマック長老、現在ソルト
レーク神殿の評議員であるソルトレーク・
シティーのスペンサー・H・オズボーン長
老、現在地区代表であるユタ州ファーマ
ントンのロバート・B・ハーバートソン長
老、現在アイダホフォールズ神殿の神殿長
であるアイダホ州アイダホフォールズのデ
ビア・ハリス長老、ともに地区代表の経
験を持つコロラド州デンバーのラッセル・
C・テイラー長老とソルトレーク・シ
ティーのフィリップ・T・ソントッグ長
老の6人の方々です。

大管長会は、この七十人第一定員会に
新しく召された会員には教会幹部の持
つすべての責任および権能が与えら
れるものの、3年ないし5年の任期
があることを発表しています。そう
することにより多くの人に機会が
与えられ、教会を管理する評議会に
力と活気を取り入れることができ
るといふ理由からです。

これで現在七十人第一定員会は、
46名の会員から構成されること
になりました。

中央扶助協会会長

今度、10年間その召しを果たした
バーバラ・B・スミス姉妹に代わ
って、ソルトレーク・シティーの
バーバラ・W・ウインダー姉妹が
中央扶助協会会長に支持されまし
た。スミス姉妹と同時に、副会
長のマリアン・R・ボイヤー姉妹
とアン・スタグード・リース姉妹
も解任になりました。召しを受
けたとき、ウインダー姉妹は、
サンディエゴの伝道部長をして
いるご主人と共にカリフォルニ
アに召されていました。1982年
に彼女とご主人が伝道の召しを
受けるまでは、1977年以来扶
助協会中央管理会の一員とし

て働いていました。それ以前にも、
若い女性中央管理会会員として
3年間、ワード部の若い女性と
初等協会の会長、そのほか教
会の補助組織で、教師や音楽
指揮者を歴任しています。

中央若い女性会長

新しく中央若い女性会長に召
されたユタ州バウンテフルの
アーデス・G・カップ姉妹は、
1972年から1978年にかけて
中央若い女性会長の一員とし
て召されていました。そのほか
彼女は青少年コーディネーション
委員会や総合教科課程委員
会の会員の経歴があります。召
しを受けた時点で、彼女はワ
ード部日曜学校の教師でした。
カップ姉妹の前任者はイレ
イン・A・キャノン姉妹で、
彼女は中央若い女性会長を
過去6年間務めました。

キャノン姉妹と同時に、副
会長のアーリー・B・ダー
ガー姉妹とノーマ・B・ス
ミス姉妹も解任されました。

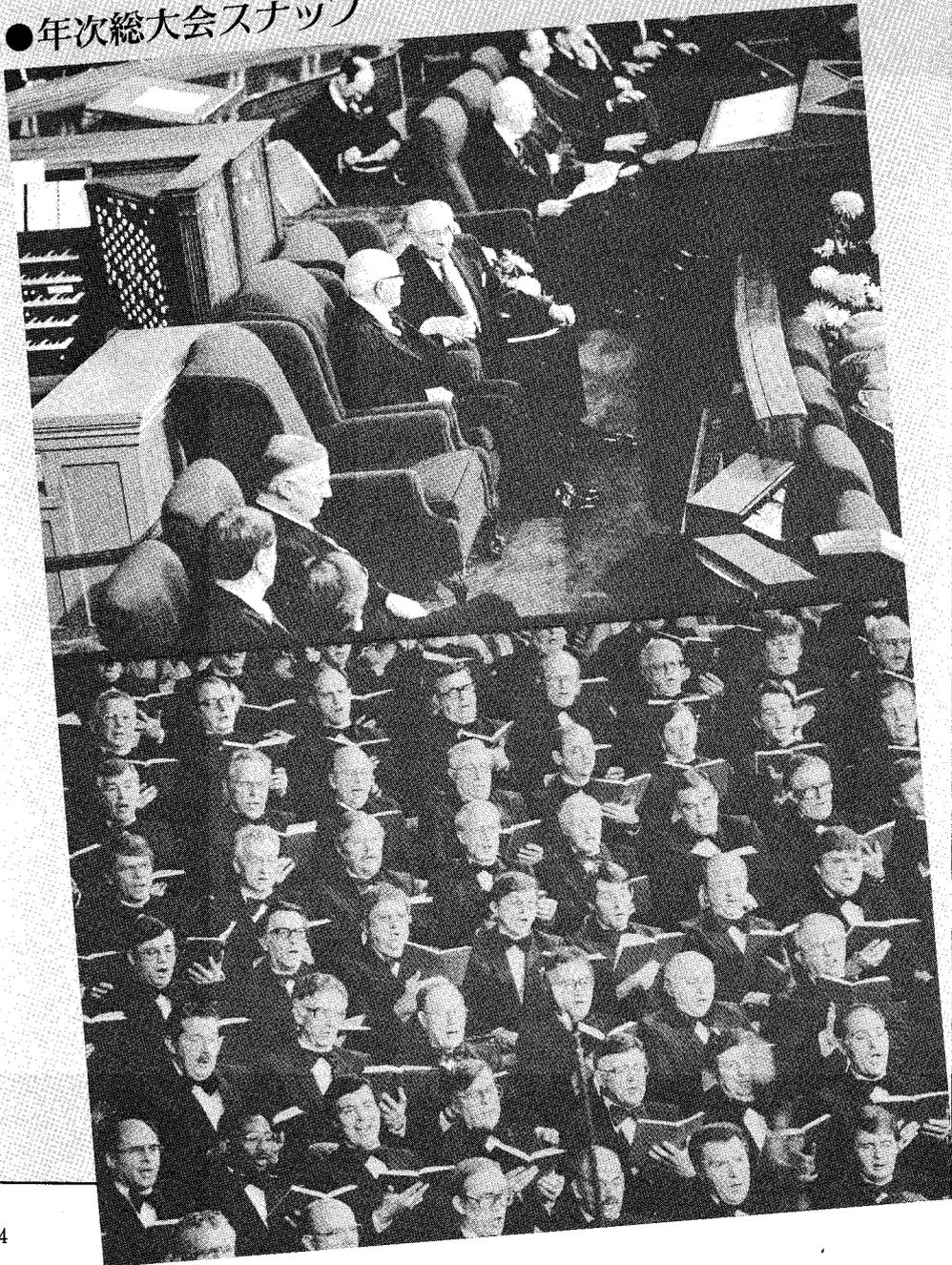
大管長会によると、副会
長の召しは日を改めて行な
われるとのことでした。

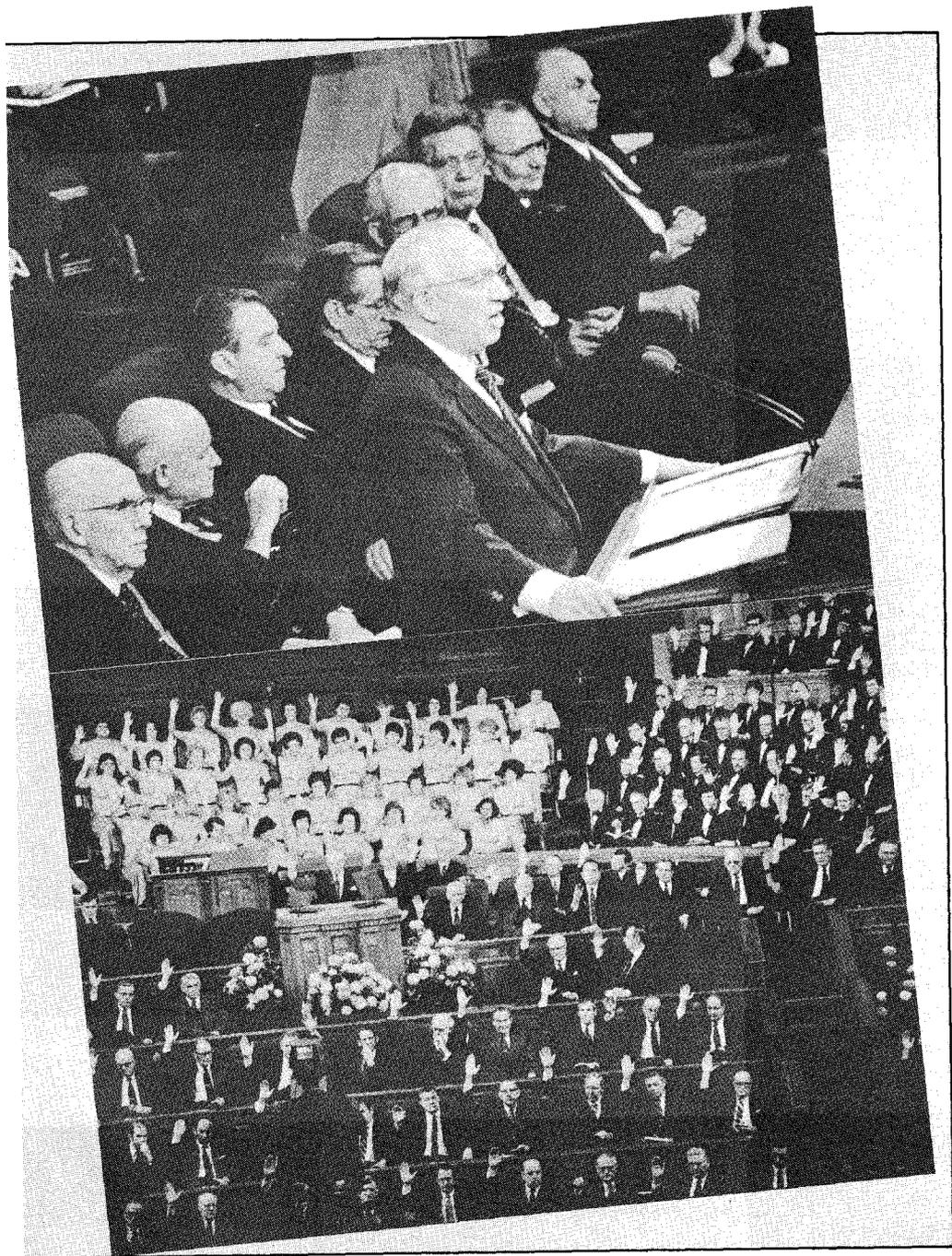
5つの新しい神殿

大管長会は、総大会の中で、
コロンビアのボゴタ、カナ
ダのオンタリオ州トロント、
ネバダ州ラスベガス、カリ
フォルニア州サンディエゴ、
オレゴン州ポートランドの
5つの場所に、神殿が建設
される計画を発表しました。

この5つの神殿の建設により、
現在教会は儀式を行なっている
神殿、閉鎖中の神殿、建設
中の神殿、そのほかあらゆる
段階にある神殿を合計して、
47の神殿を所有すること
になります。

●年次総大会スナップ





●6月に3年の任期を終えるふたりの伝道部長（井上龍一伝道部長＝日本東京南伝道部、サム・K・島袋伝道部長＝日本仙台伝道部）に代わる新伝道部長が大管長会によって発表された。7月1日から着任となる。

日本東京南伝道部長 ロバート・D・グッドウィン



ロバート・D・グッドウィン伝道部長（50歳）は、今までブリガム・ヤング大学ハワイ校の英語学の教師を務め、またブリガム・ヤング大学ハワイ校第二ステーク部第一副ステーク部長の任にあった。

グッドウィン伝道部長はブリガム・ヤング大学で学士号と博士号を、ロサンゼルス州立大学では修士号を取得している。教会においては高等評議員、支部長、副監督を歴任している。また1954年から1957年にかけては、日本において専任宣教師として伝道した。

グッドウィン伝道部長はコロラド州ラマーにおいて、ポール・クリントンとルース・ナオミ・イトン・グッドウィンの間に生まれ、1961年にリンダ・ルー・ミラーとロサンゼルス神殿で結婚、現在6人の子供がいる。

グッドウィン姉妹は、ソルトレーク・シティーにおいて、アルバート・グレンとアイオーニ・エリザベス・ベイリー・ミラーの間に生まれた。召しを受けたときは、ハワイハウウラワード部の家庭訪問教師であった。またこれまでに、ステーク部扶助協会副会長、ワード部初等協会会長、ワード部初等協会および扶助協会教師を歴任している。

日本仙台伝道部長に召され た青柳弘一ステーク部長



東京西ステーク部のステーク部長の任にある青柳弘一兄弟（39歳）が、日本仙台伝道部長に召された。青柳兄弟は1945年、長野県松本市に生まれ、1962年に松本支部で改宗。1965年から2年間、建築宣教師に召され、1968年から1970年にかけては北部極東伝道部専任宣教師として伝道した。

これまで地方部長、副監督、高等評議員、副伝道部長の責任を歴任し、1980年に町田ステーク部のステーク部長に召された。その後1982年3月に行なわれたステーク部分割によって新たに組織された東京西ステーク部のステーク部長として召され采配を振るった。

神奈川大学貿易科を中退。日本産業株式会社に入社し、4年間貿易業務に携わる一方、日本不動産専門学校で「土地・建物取引主任」の資格を取得。その後教会管理本部に転職し、不動産管理課長として現在に至っている。

同じく松本市出身の城子姉妹（旧姓・百瀬）

とは1970年にソルトレーク神殿で結婚。現在4歳から13歳まで4人の子供に恵まれている。城子姉妹はこれまでワード部扶助協会副会長、ステーキ部初等協会副会長、またワード部初等協会会長を2回、初等協会教師などを歴任している。



JMTC
第58, 59期生

「この教会の偉大な宣教師のひとりであったリグランド・リチャーズ長老はこう言いました。『多くの方が、教会での一番の経験は何でしたかと聞きます。私は躊躇なく、最初の伝道です、と言います。主と主の教会を心から愛し、主の王国の建設のために働こうという望みを抱いたのがそのときだったからです。』（エズラ・タフト・ベンソン『福音を全世界に宣べ伝える責任』本号 p.83）

- （写真上）3月に召された日本人宣教師17名
- （写真下）4月に召された日本人宣教師23名

「フォーエヴァー」ファミリー コンサートに800人が入場

—札幌伝道部—



●札幌教育文化会館大ホールで行なわれたコンサート。特別ゲストとして松下みほと姉妹ら四人も加わりプログラムに彩りを添えた

→ 家族でファミリーデートしてみませんか」をキャッチフレーズに、4月13日（金）札幌教育文化会館大ホールで札幌伝道部主催による「フォーエヴァー」ファミリーコンサートが開かれました。800名近い観客が入り、会場は熱気にあふれていました。

このグループ「フォーエヴァー」は札幌伝道部の宣教師6人で構成されており、それぞれが伝道前に身につけ、伸ばしてきた才能を結集、結成数カ月のグループとは思えない演奏を披露しました。

曲目はサイモンとガーファンクル、ビートルズなどの曲目も交え「スカボロ・フェア」「アレ」（メンバーのオリジナル曲）「メイプルリーフ・ラグ」「ジョセフ」「イフ」「愛を教えて」「もしも明日が」「トランペット吹きの休日」「イエスタデイ」「家庭の中に」など。また演奏に加えて「家族は永遠に」のスライド上映やダンス、コントなどでプログラムに彩りを添えました。



●コンサート用ちらし

集まった求道者や友達、教会員すべての人々がコンサートを楽しんでくださり、「ずっと歌い続けてほしい」という要望がたくさん寄せられました。「フォーエヴァー」のメンバーは、「私たちのメッセージは永遠です」と、家族の大切さ、すばらしさを歌で結び、それぞれが伝道活動へ戻っています。

この「フォーエヴァー」によるメロディーは旭川、札幌での公演に加えてNHK・FM放送でも取りあげられ、ラジオを通して広く一般の方々にも紹介されました。（レポーター：札幌伝道部専任宣教師・大石徹長老）

「フォーエヴァー」コンサートの経験 —NHK・FM放送にも出演した宣教師たち—

レポーター：
浪平啓三長老
(札幌伝道部専任宣教師)

今年(1984年)の1月頃でした。北海道の旭川で伝道している4人の長老たちが皆たまたま楽器を弾けることを知り、小さなコンサートをやってみようかと話し合いました。もちろん目的は伝道です。教会は堅苦しい所という一般の先入観を払拭し、明るく楽しい所としての教会のイメージを求道者や教会員に感じ取ってもらえたらと考え、100人から200人ぐらいの1回だけのコンサートを開く計画を立てました。旭川の教会員が全面的にバックアップしてくださったお陰で良い楽器も集まり、雰囲気作りも上々でした。

コンサートを準備するにあたり、不思議な経験をたくさんしました。楽器を含め、いろいろ必要な物がありましたが、戸別訪問で伝道していると必ずそれらを持っている人にめぐり会い、初めて会ったにもかかわらず彼らは私たちが必要としていた物を快く貸してくださいました。そのうえ福音にもよく耳をかたむけてくれたのです。奇跡としか言いようがありません。そのようにしながらみんなで練習を始めました。もちろん大切な伝道時間は避けて準備の日や早朝を練習に充てました。

そんなある日、私たちのある求道者から誘われてNHK・FMラジオの公開放送の音楽番組と一緒に見に行きました。私たちが見ていると私の同僚が外人ということもあってアナウンサーの人といろいろ話す機会がありました。数日後にそのアナウンサーの人から電話があり、ラジオ番組にぜひ出演してほしいと依頼を受けました。期せずしてまったく偶然にすばらしいことが重なってきました。私たちの音楽と歌声は



●旭川と札幌で行なわれたコンサートに出演した宣教師たち。写真中央が浪平啓三長老

電波に乗って遠くにいる人たちにも伝わり、また、教会の名前や教会で行なうコンサートについてもラジオで紹介することができました。

3月10日の当日、会場となった旭川ワード部の教会堂には100人から200人くらいと見込んでいた予想をはるかに越える300人近くの方々が押しかけ、求道者や教会員の友達、またラジオを聞いて来てくださった人々で一杯になりました。大成功のうちに幕を閉じました。

この1回きりのコンサートで私たちのバンド「フォーエヴァー」を解散する予定でしたが、周りの人たちから今度はもっと大きな会場で本格的にやろうとの話が持ち込まれました。保喜伝道部長もコンサートを応援してください、話はトントン拍子に進みました。4月13日に1,300人収容の札幌教育文化会館大ホールが会場として与えられました。しかしその間に転勤があり、「フォーエヴァー」のメンバーの4人は札幌市内にバラバラに転勤しました。本番前の2

日間だけの練習となりましたが、約1カ月のブランクものともせず、短期集中練習で成果をあげました。

札幌のコンサートも前回以上に多くの方々の助けがあり、旭川で行なったときの約3倍近くの方々が見に来てくださいました。特にうれしかったことは汽車で何時間もかかる遠方からはるばる来てくださった教会員や求道者の方々がたくさんいたことです。またこのコンサートを見に来てくださった何人かはパプテスマを受けの準備をしています。

札幌のコンサートを終えて間もなく、旭川で出演したラジオ番組のアナウンサーの方から再

度、出演依頼を受け、それをお受けしました。前は5曲ほどの演奏でしたが、今回は10数曲ラジオのスタジオで演奏しました。ラジオ局の人々も宣教師であることをよく理解してくださり、いろいろと無理も聞いてくださったことを感謝します。

今回の一連の活動から多くのすばらしい経験をさせていただきました。このような形で音楽のタレントを生かした多面的な伝道活動をする機会が与えられようとは以前に想像もしていませんでした。ハードなスケジュールでしたが私たちの健康を祝福し導いてくださった主に深く感謝しています。(なみひら・けいぞう)

エアロビクス体操と伝道プログラム

—東京南伝道部—

エアロビクス体操で汗を流す参加者
(東京ステーキ部センターで)

●東京南伝道部では昨年の11月に、ある姉妹宣教師が試みに始めたエアロビクス体操のプログラムが、今や都内のあちこちの教会で行なわれるようになり、注目されている。従来の英会話プログラムに加えて、流行の先端をいくエアロビクス体操は、多くの人々を教会に導く誘発剤となっており、伝道プログラムの一環として今後増えていきそうな気配である。アメリカの宣教師トレーニングセンターで行なわれている女性のための体力増進プログラムが日本の地でも効果的に応用されていて興味深い。新鮮な空気を肺の奥まで取り入れながら身体を動かすこの体操は見た目より激しい運動で、またたく間に汗が流れる。心の緊張が取れて、和気あいあい、



すぐに心を通わせ合うことができるので、福音を分かち合うのが容易になったとある姉妹宣教師は語っている。

●シェイプ・アップ伝道

東京ステーキ部センターでは、東京南伝道部の専任宣教師の指導により、週に3回エアロビクス体操をしています。火曜日と木曜日

は朝10時から11時までの時間帯ですから、教会の近所に住んでおられるご夫婦とか、主婦の方が来られます。みんな非教会員の方です。月曜日は夜の7時から8時30分までで、会員、非教会員合わせて30人ほどが参加しています。

エアロビクスを始めた理由は、教会員でない方々にも、教会での活動を通して教会について知っていただきたいと考えたからです。

最近エアロビクス体操はとても人気があるようで、案内のチラシを配っていても興味を示してくださる方がたくさんいます。私たちが行なっているエアロビクス体操は、宣教師が日本に来る前にMTC（宣教師トレーニングセンター）で毎朝行なわれていたプログラムを少しアレンジしたものです。また月曜日は若い方々が多く来られますので、最後の30分は同僚のジェイコブス姉妹の創作によるダンスをしています。彼女は伝道に出る前、特別な体操の学校で教師をしていましたので教え方がとても上手です。毎回とても楽しく行なっています。

上手な人もそうでない人も、気持ちのよい汗をかいて、お互いにすぐ友達になることができますし、福音を一層紹介しやすくなりました。私たち宣教師にとってもよい運動になり、シェイプ・アップされるよい機会です。体力や持久力、忍耐力も少しずつ増し加えられ、全身に活力がみなぎってきます。それによってより一層伝道の業に献身できますので感謝しています。

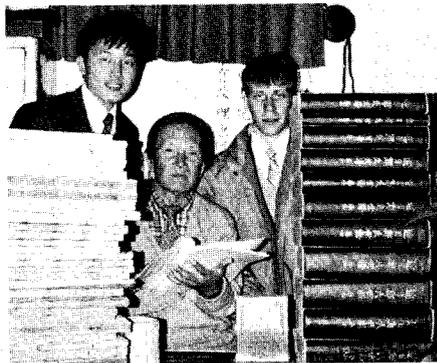
（レポーター：東京南伝道部専任宣教師・飯田紀代美）

●飯田紀代美姉妹とリサ・ジェイコブス姉妹



36代20万人の系図を 韓国の神殿へ

—韓国ソウル西伝道部—



●系図資料を手にする鄭佑永兄弟（写真中央）と宣教師

ソウル神殿ははまだ建設中であるが、主は韓国の民を着々と備えておられる。韓国ソウル西伝道部の崔俊榮長老とベネット・トンブソン長老は近ごろ、真理と神殿の業に備えられた73歳の老人に福音を伝え、彼を改宗に導いた。

この鄭佑永兄弟は、実際の年齢よりも20歳は若い活力を具えている。それは、福音を知らなかったにもかかわらず、生涯にわたって知恵の言葉の原則を生活に適用してきたからである。

彼の心をとらえたものに、教会の系図探求プログラムがある。鄭兄弟はこれまでの生涯のほとんどを、先祖の系図を調べることに費やしてきた。現在、彼の系図は紀元1096年の高麗朝時代にまでさかのぼり、36代、20万人以上の名前がわかっている。鄭兄弟は神殿に提出するため縦書きだった系図表を横書きに書きなおす作業にとりかかっている。彼の手元にある資料の

中には、韓国を襲った戦争とその後の混乱の中、360年以上にわたって保存されていたものもある。鄭兄弟の改宗についての崔俊榮長老の次の証は、最も的を得たものであると言えるだろう。

「鄭兄弟を教えていた間、まるで彼の先祖が何千人も一緒に出席して私たちの話を聞いているように感じられてなりませんでした。」(韓国版国際機関誌ローカルニュースから)



5周年を迎えたボーイスカウト中野第12団

—東京北ステーキ部中野ワード部—

約 6年前、東京都江戸川第6団の指導と協力を得て、当時、東京北ステーキ部東京第8ワード部(現中野ワード部)を中心に近隣の地域でボーイスカウト運動が始められました。この活動が行なわれるようになったきっかけは、井上正年監督が青少年の健全育成を思い、さらに近隣の方々にボーイスカウト活動を通して教会を紹介したいとの願いからでした。

創始者ベアテン・パウエルのスカウト精神は、当教会の信条と合致することから、スカウト活動に一層期待が寄せられました。スカウトとして訓練を受けることにより、子供たちは身体を強くし、勇敢で礼儀正しく、親切で誠実な態度、さらに規律正しい行動がとれるようになっていきます。また歌やゲーム、自然観察、技能訓練などの活動を通して、やがては社会で奉仕でき

るようになります。

日本ボーイスカウト運動の先駆者後藤新平初代総長は「他人のお世話にならぬよう、人のお世話をするように、そして報いを求めぬよう」にと自立の精神を説かれました。スカウトはこれを常に心がけ「日々の善行」をモットーに励んでいます。

1979年4月30日に中野第12団として教会で発団式を行なったときには17名のカブ隊のみでした。現在はカブスカウト31名、ボーイスカウト24名、シニアスカウト2名(その内教会員は6名)が活動に参加しています。土曜日の午後の活動が楽しみで、学校から帰るとそそくさと教会へ向かう子供たちの様子をご両親から聞くことがあります。

4月29日(日)、中野ワード部の聖餐会に招待された35名のスカウトは、「永遠のスカウト」を



● 5周年記念式で「わたしは神の子」を手話で歌うカブスカウト

● 「わが旗をかざして」を歌うボーイスカウト

歌い、教会のスカウト指導者より霊的な話を聞きました。

翌4月30日は中野第12団の5周年記念式典が行なわれ、ボーイスカウト中野地区役員列席と祝辞があり、カブスカウトは手話の歌「わたしは神の子」を演じました。またエリア協議会よりメッセージと「弥栄」が贈られました。また杉澤ステークス部長はアメリカでのスカウト活動に触れ、国を愛し両親を敬うことなどスカウト精神を強調されました。最後に、お祝いの記念品と文集「5年のAYUMI」を受け取り、散会しました。

後日、ボーイスカウト中野地区より、スカウト運動に熱心に奉仕されている方へ感謝状が贈られ、以下の方々が地区表彰を受けました。団委員長・児玉榮治、副団委員長・杉澤廣行、カブ隊隊長・井上正年、カブ隊副長・橋田芳子、カブ隊副長・紺谷順子、ボーイ隊隊長・山口貞夫（日本連盟より隊長特別年功章も授与されます）

なお山口隊長、井上隊長はボーイスカウト中野地区の役員として、またコミッショナーとしても働いておられます。（レポーター：中野第12団副委員長・児玉榮治）

大切なあなたへ

岡元 美穂子

あなたはもう一度戻ろうとするのですか
あの混沌とした所へ……
そこには確かに楽しいこともありました
また時には悲しいこともありました
あなたがその場所で
楽しむだけ楽しんで
泣くだけ泣いたとき
あなたは気づきましたね
何かが違う
何か心が満たされないことを
何か虚しいことを
そしてあなたは知ったのです
人生の目的を
永遠の計画を
もはやあなたは道に迷うこともない
こんなにすばらしい喜びを知ったのだから
だから
この喜びを捨てないで持っていました
もう一度戻る所は天の家のなだから

「聖徒の道」が届けられるのをいつも楽しみにしています。胸をわくわくさせ、感動しながら読んでいます。「聖徒の道」には不思議な力があって、私がバプテスマの許可を両親から頂くきっかけとなったのも、「聖徒の道」のお陰でした。

私は改宗して一年半ほどになりますが、その間、いつも順境の内に生活できたわけではなく、ほかの兄弟姉妹のように、いくつもの試練がありました。

試練に遭うとき私の心は弱くなり、霊的にも落ち込むことも何度かありました。そのようなときに、自分に対して書いたのが左の詩です。書き終えてから、この詩が私のように、霊的に弱くなっている方々を、少しでも元気づけるお役に立てばと思い、投稿しました。いつも「聖徒の道」を読むことによって、その時々私に必要の導きと与えられ、勇気づけられることを心から感謝しています。

（おかもと・みほこ 1963年生まれ、札幌西ステークス部藻岩ワード部）



「とても強い光と何か言いしれない喜びを感じました」

三重県伊勢市 中西 祐子

いつも素晴らしい「聖徒の道」をありがとうございます。教会員でない私にとって「聖徒の道」がただひとつ、末日聖徒とのつながりとなっていて、いつも楽しみに、また満たされた気持ちで読ませていただいています。私はまだ教会員ではありませんのでこのように筆を持って良いものか否か迷いました。しかしながら主に祈り求めて、私の証を書いてみたくな筆をとりました。

私は3歳のとき、父から「イエス・キリスト」の本を与えられました。外で遊ぶことより家の中にいることの好きだった私は何度も何度もその本を読み、涙を流した記憶があります。幼な心にもキリストの生涯がそれほどすばらしく、心に深く刻まれ、神様を信じていました。

ところがその本をくれた父は私が9歳のとき自ら生命を断ってしまったのです。母は「子供さえいなければ私も一緒にいきたい」と言って泣きました。そんな母の姿を見て、私は母のために何ができるだろうかと考えました。母に優しくしてあげること、そしていつも母のそばにいて手伝いをするのだと思いました。たとえ私が友達と遊ばなくて寂しい思いをしてもいいと思いました。

ある日、いつものように私は母の畑仕事を手伝いました。ところがどうしてもその日の内にしなければいけない田んぼの収穫ができそうにないのです。疲れていましたし、とても苦しく、悲しくなり、母と私は涙を流しました。突然私は母に「お母さん、神様がいますよ、祈ろう」と

言いました。びっくりしている母にかまわず私は大きな声で祈り始めました。「神様、祈り方は知りません。でも心から祈ります。私と母は力の限り一生懸命仕事をしています。でもふたりできょう中にしなければならぬ仕事ができそうにないです。神様、もしあなた様がいらっしゃるなら助けてください。」何度も何度も祈りました。祈りながら仕事をしました。

ふと気がつくとも母も祈りながら仕事をしていました。神様はこのとき証をくださったのです。疲れることもなくいつもより信じられないほど早く仕事が片づいたのです。母と私は心から、本当に心から感謝しました。まだ祈り方も知らない、信仰の心という言葉さえも聞いたことのない10歳の私に神様は素晴らしい愛と証をくださいました。そのときから私は、いつも神様は私のそばにいてくださることを知り、最善を尽くし、心を尽くして祈れば、ひとすじの光と大きな愛とでいつも包んでくださる神様を心から思うことができるようになりました。

昨年の4月26日、とても素晴らしい人たちの訪問を受けました。クリス長老とダクシー長老とおっしゃる宣教師の方々です。彼らが家に来てくれた夜、私はとても強い光と何か言いしれない喜びを感じました。とても不思議な経験で、確かに光を見たのです。主人の許可のもとに家族と一緒にレッスンを受けるようになりました。

福音を学ぶに従って末日聖徒イエス・キリスト教会は確かに私が小さいときから大切にしてきた心そのものであり、その教えが真実である

とわかりました。また霊の世界のことを知るにつけ、私が以前に経験していた不思議な体験と一致することから、一層確信を深めました。教会員ではありませんが、系図を調べて教会に提出し、先祖のために身代わりの儀式を施してもらいました。

昨年の7月、私はどうしてもバプテスマを受けたくて主人に話しました。ところがレッスンを共に聞いた主人ではありませんでしたがとても反対しました。主人が長男であり、両親や親類とのいろいろながらみがあったからです。そして、離婚するか信仰を捨てるかどちらかの道を選ぶよう言われました。信仰を捨てる証としてモルモン経の本を燃やすように言われました。とても主人の口から出る言葉だとは信じられませんでした。私はどうしたらいいのか、私の取るべき道を尋ねました。一晚中祈り、私はモルモン経を焼くことにしました。家族と別れることはとてもできないからです。主人の心が和らいで、バプテスマの許しを与えられる日がくるのを信じてモルモン経を焼きました。たとえ本は焼けても、宣教師がもたらしてくれた福音が真実であることの確信と信仰心を変えることはできませんでした。

それからいろいろなことがありました。主人には信仰を捨てる証をした私ですが、それと反比例して、神様によい思いが向いていきました。宣教師に私だけ黙ってレッスンを受けさせてほしいと頼みました。あるときは教会であるときは家で受けました。うれしいことにふたりの宣教師の方は、私の主人と、もう一度友達として主人の勤めている学校へスポーツをしに行くことになり、よい関係を築いてくださいました。また主人はふたりの宣教師を愛してくれました。

やがて私たちを教えてくれたダクシー長老の

転任を予知していた私は、彼の転任に先がけてそのことを伝え、望んでいたバプテスマを受けられなかった寂しさをお話しました。

アパートの屋上で話していたそのとき、突然強い雨が降ってきて、またたく間にずぶぬれになったのです。ふたりの宣教師は「中西姉妹、これは天がくださった清い水のバプテスマですね」と言われ、将来正しい権能のもとに施してくれるバプテスマの先がけとして、私に清い、聖なる思いを与えてくださいました。またこの経験から宣教師の愛が深く心に刻まれ、より信仰を深めることとなりました。もうアメリカに帰られたふたりの宣教師のことは生涯忘れられないでしょう。

今はまだ主人の理解が得られなくても、それほど遠くないうちに必ずこの教えを受け入れ、家族でバプテスマを受けられる日がくると思います。

私は教会が好きです。教会に行くと光と主の愛を強く感じられるからです。教会の方々を励ましに深く感謝しています。私は心から父なる神と御子イエス・キリストを信じています。主人の心が開かれて、家族で共に主の道を歩めるように毎日祈り求めています。(なかにし・ゆうこ 39歳)

〈原稿を募集しています〉

- ローカルページに各地の身近な話題や行事、日々の信仰生活から得ている証など、原稿をお送りください。9月号掲載分の締切は7月9日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。
- あて先：〒160 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室。☎03-440-2351(代)



「モルモンもキリスト教です」

—日本基督教会(長老派)からの改宗—

仙台ステーキ部米沢支部 落越 米子

私

は1919年山形県米沢市の大変熱心な仏教徒の家に生まれました。しかし日本基督教会(長老派)の信者だった兄の影響もあって、幼い頃から日曜学校に通い、女学校3年のときにバプテスマを受け、教会員となりました。

やがて仙台の宮城女学校専攻部音楽科(現宮城学院大学)を卒業すると、横浜のミッションスクールで3年間音楽の先生をし、いわゆるクリスチャンとしての生活をしていました。その間に第二次世界大戦がぼつ発し、私は陸軍法務官と結婚しました。夫は8カ月後に出征し、戦死してしまいました。そうしてひとりの男の子が生まれました。戦死した夫は、非常に厳しい反クリスチャンであり、出征時の遺言もあって私は教会に行くこともできず、終戦を迎えました。生計を立てるために故郷の女学校に勤めましたが、教会にも行かず、聖書も読まず、戦後の動乱の中で悪魔の誘惑の多い14、5年間を過ごしてしまいました。その間、昭和27年に現在の夫と再婚しました。彼もクリスチャンではありませんが、キリスト教に反対はしませんでした。

私は教会には行きませんでした。教会がなつかしく、夜など目が覚めて、自分は死んだらどこへ行くのだろうかなど恐ろしく思うことたびたびでした。

そんなある日、私の母教会に新しい牧師さんが来ることになり、「礼拝でオルガンを弾いてください」と呼び出されました。私は主人の許し

を得て、喜んでその日本基督教会で毎日曜、オルガンを弾くようになりました。牧師先生は60歳の大変立派な方で、私は一生懸命にいろいろと協力しました。

私は、神様の愛や、主キリストの贖罪についてもよくわかっていると思っていましたが、何かもうひとつ確かさがほしいと思っていました。たとえば使徒行伝19章1節から7節でパウロが語っている聖霊についての記述もよくわからないし、パウロがあてた手紙には理解できないところがいろいろあって、その不確かさのゆえに息子を牧師にしたいとは思いませんでした。

ところが私が大変尊敬していたその牧師が70歳も越されて重い病気になられ、約2年間の入院の後、全快されましたが、教会の役員会に辞表を出されたのです。4人の役員の中のひとりがそれを受理したい意向で、留任を希望するほかの3人と対立しました。教会は総会を開いて全会員で協議することになりました。その結果、ひとりを除いて全員が牧師の留任を願い、そのひとりの役員だけが、強い口調で辞表を受理したいと主張しました。そうして、留任を願う最も熱心な人々のひとりであった私は激しい言葉で反ばくしてしまったのです。牧師は留任と決まりましたが、その役員は私の言葉に深く傷ついたと言って教会を去り、ほかの長老派の教会へ移ってしまわれました。私は驚いて心からおおびをし、教会に帰ってくださるように再三再四お願いしましたが、どうしても聞き入れてもらえませんでした。

2年間、私はそのために大変苦しみました、3年目になったその日にひとつの決心をしました。今の牧師が老齢などでこの教会を去られるとき、私はそのときここの教会を去ってどこか別の教会へ行こうと思いました。そうすれば教会を去られたあの役員の方もお帰りくださると考えたのです。

やがて老齢の牧師は必死に講壇を守りながら、ついに倒れて入院され、1年半以上いろいろの牧師が毎週かわるがわるお説教をしてくださりました。

私はいよいよ行くべき別の教会を探さなければならず、ある教会を考えていました。そして私はその教会の経営する英語学院に週に二夜通っていましたが、そこへモルモンの宣教師が教師として招かれてきました。それは1978年10月のことでした。私たちは友達になり、毎週私の家へ遊びに来るようになったのです。彼らにとって私は求道者のひとりだったでしょうが、私は長老派の固い信仰を持っていると思っていましたから、モルモニズムの話は、あまり熱心には聞きませんでした。しかし彼らは皆とても素晴らしい人々で、私はだんだんその教会に心が引かれていくのを覚えました。

1979-80年に、日本基督教団東北教区からアメリカへ短期海外伝道団として数名ずつグループを組んでたくさんの人々が渡米しましたが、私も応募し、3週間の予定で出発したのです。それに先だち、私は宣教師と約束しました。「もしもアメリカのプロテスタントの教会をたくさん回ってみて、そこで本当に霊的な喜びを与えられたら、私はやっぱり長老派にとどまります。もしもアメリカで満足が得られなかったら、帰国してから一生懸命モルモニズムを勉強しましょう」と。

アメリカのクリスチャンの友情はそれはそれ

はすばらしくて、私はとても楽しい旅行をしました。けれどもどうしても霊的には満足できず、宣教師たちに勉強を始めることを宣言しました。モルモン経を謙遜な心になって読んでみますと、それはすばらしい聖典でした。「基督イエス」そして「奇しきみわざ」と読み進んだとき、私は改宗を決心していました。さらに「教義と聖約」に移って、神様は旧約の時代、さらに新約の使徒の時代とまったく同じように、現代も予言者を起し、啓示によって導いておられるのを知り、本当にびっくりしました。それを素直に信じていることができたのは、まったく聖霊の助けによるものと、感謝の念で一杯です。まことの教会はこれ以外にはなく、私が幼いときから心に描いて求めていた教会はこれだったのだと思いました。

私の尊敬していた、そしてたくさんのご恩を受けた老牧師は再起不能であってもまだ病院に入院中です。私はどうしたらよいか迷いました。彼はモルモンが大嫌いでした。しかも彼は私をかわいがって、私が病院に見舞うのをそれはそれは楽しみに待っていてくださるのです。私は3つの対応策を考えました。①秘密のうちにバプテスマを受けようか。②牧師先生の召天まで3年でも4年でもひそかに待っていようか。③牧師先生にすべてをお話し、この教会のメッセージをお伝えしようか。ナイチンゲール長老とハックヴェイル長老は、私と一緒に断食して祈ってくださり、その結果、宣教師も私も③の方法を示されたのです。

1980年7月に後任の牧師が来られることになり、いよいよその教会を去るときが来ました。6月30日、断食をして病院に出かけ、別の教会に移られたあの役員の方のために、新しい牧師先生が来られるときが私の去るときと決心していたことをお話ししました。もちろん先生は、そ

の配慮は無用のことであり、「長老派で育ったあなたがおほかの教会へ行ってもはならない」と言われました。

そこで私は心を落ちつけて、1年半にわたってモルモン教会について勉強した結果、旧約、新約を通して現わされていた神の啓示がジョセフ・スミスを通して回復されたことや、聖書の啓示を信じることができるのと同じ信仰でジョセフ・スミス以来の啓示を信じることができることなどを証しました。

先生は長い沈黙の後、「若い牧師を助けてくださいよ」とポツンと言われましたが、どんなにか寂しかったことでしょうか。でも先生は私が引き続いて病院に見舞うことを許され、危篤のときは27日間も病院に泊まりました。夜中に私が「祈らせて頂いてもよいですか」とお聞きしますと「どうぞ」と言われ、最後に出ない声をふりしぼって「アーメン」とおっしゃってくださいることも何度もありました。それを聞いて、先生は私を許して下さっていると感じて涙が流れました。

私は何度もためらった後、「基督イエス」を持って行っておそろおそろ「これはモルモン教会の方で出版された本ですが、お読み頂けますか」と差し出しますと「拝見しましょう」と受け取って下さいました。大分日がたって「拝見しました。これは私どもと同じイエス伝ですよ」とそれだけ言われました。後半50ページにわたる背教の部分をどうお感じになったかともお聞きする勇気がありませんでした。

1981年12月、年も押し迫って先生は召天され、翌年の1月3日、盛大な葬儀が営まれました。私はオルガニストを引き受けて最後の奉仕をしました。その後一緒にアメリカに行った牧師先生から、「亡くなられた老先生は、私に病院で、モルモンもキリスト教だと話していらいっし

やいましたから、心配しないで頑張りなさい」とお手紙をいただき、とてもうれしくて涙があふれました。

さて、話は戻って、1980年7月2日、バプテスマを受けました。初めて教会に出席し、今までのような礼拝の荘厳さもない不思議な教会でしたが、緋のような罪が赦されて雪のように白くなり末日聖徒になれた私はうれしくてうれしくてたまりませんでした。

ところがそれからが大変でした。いろいろな教派の牧師が家に来られ、また反モルモンの本や、手紙で私を責めました。私は、この教会が真実の教会だと信じてゆるぎませんでしたが、まだ知識が足りず、牧師さんたちにやりこめられて憂うつになっていました。宣教師たちはサタンの攻撃が非常に強いものだから頑張れと、すでに転動した宣教師たちも一緒になって励ましてくれました。私は何度か坂井伝道部長に電話をしてアドバイスを受け、やっとのことでそれらの圧迫から逃れることができました。

もう3年10カ月、いまだに元の長老派の教会は、「あなたは帰るべきだ」を繰り返しています。どうして私はこんなすばらしいまことの教会を離れることができるのでしょうか。

毎日毎日の勉強で、今まで知らなかった（聖書だけでは知り得なかった）真理が少しずつ新たに教えられて感激の毎日です。この喜びを多くの人に伝え、昇栄への道を共に歩みたいと祈り、励んでいるこの頃です。ここまで導いてくださった神様や多くの宣教師たちの愛に、そして教会の兄弟姉妹に感謝の念で一杯です。（おちこし・よねこ 1919年生まれ、米沢支部オルガニスト）





「あなたが18歳になった ときに…」

岡山伝道部専任宣教師
志摩 一誠

●右からふたり
目が志摩長老。
両端は吉沢伝道
部長夫妻。

私が幼いときに父が蒸発し、家庭の複雑な事情から何度も転校しなければなりませんでしたが、それでもいろいろな人と出会う喜びを学んでいきました。ただ貧しい鍵っ子というだけでいじめられ、つらい思いをしたこともしばしばありました。それでも私は耐えるんだという決意を持っていました。

そのような生活を送っていたある日、私の人生の方向づけをしてくれるすばらしい人と出会いました。その人は私に日記をつける習慣や読書に親しむことを教えてくれました。しかし、私が尊敬し、師とまで仰いでいたその人にまで厳しくせっかんされ、もうこれ以上生きていくことができなと思いました。そしてガス栓をひねりました。しかし結局私には死ぬ勇気はありませんでした。小学校4年生だった私は、そのとき心にささやくある声を聞きました。「あなたが18歳になったとき、何かがあなたを待っています。」それが一体何なのか私にはわかりませんでしたが、ただ強い確信のようなものを感じました。

妹と弟は仙台の養護施設に預けられ、私と母は東京で生活しておりましたが、ある理由によ

って母とも別れるようになり、私は千葉県の勝山にある施設に入りました。周りの人々の目はとても厳しいものでしたが、私はどんなにつらくとも明るく振る舞おうと決めました。その施設の中で逆境の苦しさに負けて非行に走った人を多く見ました。私はそのような人々を見るたびに、いつしか私もそのようになってしまうのではないだろうかとの不安にかられ、もしそのようになるくらいなら、命を断った方が世の中のためになるのではないかとまで思いました。けれども、そんな私をいつも支えてくれたのは、あの「18歳になったら何かがある」という言葉だったのです。

それから私を取り巻く状況は厳しさを増す一方でした。やがて父と祖母の消息がわかり、共に住むようになりましたが、反省して私を施設に迎えに来てくれたはずの父がまた暴力を振るようになったのです。高校3年のとき、祖母の目が不自由になりました。私は祖母を酒ぐせの悪い父に任せておくことができず、小さい頃からの目標だった大学進学をあきらめてアルバイトをしながら祖母の看病をしました。

そんな中で英会話を通して末日聖徒イエス・キリスト教会を知るようになり、宣教師の方々の導きですばらしい神様の愛を強く感じた私は、1980年9月6日にバプテスマを受けました。神様は私の祈りに答えてくださいました。祖母の両目は見えるようになり、まったく不可能と思っていた町営住宅にも、町会議員の方の助けで入ることができました。「18歳のときに何かがあ

る。」あの声はまさにこのことだったのです。

その後、体の具合が悪くなり祖母は亡くなりましたが、生前から教会に対して理解の気持ちを示していた祖母は、霊界で福音を受け入れていることと思います。神殿で、祖母の身代わりのバプテスマの儀式をすることもできました。

そのうえ、最近になって神様はもうひとつすばらしい祝福をくださいました。消息がわからずにいた母の居所がわかったのです。母は再婚し、幸せに暮らしています。それは私がずっと願っていたことでした。

今、母はモルモン経を読んでいます。この福音は人類にとって、すべての人々にとって救いに欠かせないものであることを証します。

この現世での生涯を終わるとき、「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつ

くし、信仰を守りとおした」(IIテモテ4:7)と記したパウロのように、最後まで完走したいと思います。また宣教師として、すべての人々に福音をもたらす恵みをお伝えし、私のような者をも愛してくださる神様にお返しをしたいと望んでいます。

私の人生は苦難の連続でした。しかしいつも、何かが私を支えてくれました。それは神様以外の何者でもないと思っています。私にとって、今までの困難はすべて、昇栄するための大切な段階であったように思います。どんなにつらくても、決して自分の置かれている環境に負けてしまってはなりません。どんな状態でも必ず救いの道があります。困難の後にこそ、祝福があるのです。(しま・いっせい 1962年生まれ、仙台ステークス部長町ワード部出身)

完成した釧路地方部帯広支部教会堂

皆様の食卓に十勝のジャガイモやタマネギ、豆類、牛乳などは上がっていません。北海道・十勝は酪農、畑作など第一次産業の中心地として栄え発展してきました。狩勝^{かりかちとうげ} 峠から十勝平野を見おろすとヤング大管長がソルトレーク盆地に立ったときの言葉を思い出します。

その十勝平野の中心地、帯広市に釧路地方部ふたつ目の教会堂が完成しました。1970年8月にふたりの宣教師が伝道を開始してから、これまで4つの建物を転々と移動し、現在の建物に落ち着きました。

伝道部長より「もっと良い所を探すように」との勧告をしばしば受けましたが、なかなか教会に似つかわしい所が見つからず、見すばらしい建物で耐えること13年間、教会堂新築の念願はつるばかりでした。畳部屋でのレッスン中に突然の雨もりでもバケツの列、トイレの凍結に

よる使用禁止など、これらは全部懐しい思い出となりました。「主への礼拝は借り物でなく堂々と気兼ねなく」を目標に頑張ってきました。

恵まれて昨年12月末、教会堂が完成し、1月1日より使用させていただいております。以前はカーテンの仕切りで教室が分けられていたために隣の声にじゃまされて聞き取れないこともしばしばありました。呼びかう教師の声についていくのがやっとで、主の細い声をなかなか聞き取れないもどかしさを身をもって体験してきた私たちにとって、念願の独立した教室で学べる喜びは、ひととき大きなものがあります。

この地にまかれた種が多くの実を結んで、聖徒の明るい讃美歌が十勝平野のあちこちでこだまするように帯広支部の教会員は宣教師と共に主の業に励んでいます。(河田利夫・釧路地方部評議員、帯広支部所属)

釧路地方部

帯広支部教会堂

1983年12月27日完成

北海道帯広市東2条南11丁目9-1

TEL 0155-22-6982

◇敷地面積：675.31㎡

◇建築面積：253.56㎡

◇延床面積：472.28㎡



志民憲邦支部長

末日聖徒
ス・キリスト教



●帯広支部の教会員

